

男女共同参画に関する県民意識調査 報 告 書

令和 6 年 度
石 川 県

目 次

§ 1 調査の概要

この報告書のみかた	5
1 調査の目的	7
2 調査の項目	7
3 調査の設計	7
4 標本構成	7
5 回収結果	8
6 回答者の属性	9

§ 2 調査結果の要約

I 男女の地位の平等	13
II 家庭生活等	13
III 職業	15
IV 女性の社会参画	17
V ドメスティック・バイオレンス(DV)等	18
VI 男女共同参画社会の実現について	22

§ 3 調査結果の詳細

I 男女の地位の平等	25
1 男女平等についての現在の状況	25
II 家庭生活等	37
1 「男は仕事、女は家庭」という考え方	37
2 「男は仕事、女は家庭」という考え方に賛成する理由	40
3 「男は仕事、女は家庭」という考え方に反対する理由	41
4 男性が家事・育児を行うことのイメージ	42
5 男性が家事、子育て、介護、地域活動に参加するため必要なこと ..	44
6 親の介護における役割分担	46

Ⅲ 職業	50
1 職場での男女平等について	50
2 女性が管理職に昇進することについて	52
3 管理職・議員等への就任・立候補を打診された場合の意欲.....	53
4 打診を断る理由	56
5 女性のリーダーを増やす上での障害	62
6 女性が働き続ける上での障害	64
7 女性の再就職に必要なこと	66
8 男女が共に仕事と家庭を両立していくために必要なこと.....	68
Ⅳ 女性の社会参画	70
1 女性のリーダーが増えるとどのような影響があると思うか	70
2 女性が方針決定の場に参画するために必要なこと	72
3 性別に配慮した防災・災害対応・復興対策のために必要なこと.....	74
Ⅴ ドメスティック・バイオレンス(DV)等	76
1 配偶者や交際相手などからの暴力と認識される行為	76
2 配偶者からの被害経験の有無	78
3 配偶者からの暴力についての相談経験の有無・相談先.....	86
4 配偶者からの暴力について相談しなかった理由	91
5 交際相手からの被害経験の有無	92
6 交際相手からの暴力についての相談経験の有無・相談先.....	102
7 交際相手からの暴力について相談しなかった理由	106
8 性暴力被害に関するイメージ	107
9 相談機関・関係者の周知状況	109
10 DVや性暴力等の暴力を防止するために必要なこと	111
Ⅵ 男女共同参画社会の実現について	113
1 用語の周知度	113
2 性別による無意識の思い込み	116
3 男女共同参画社会の実現のために行政に対して望むこと	120
§ 4 調査票及び単純集計結果	121

§ 1 調査の概要

この報告書のみかた

- (1) 比率は、原則として各設問の無回答を含む集計対象総数(副設問では設問該当対象者数)に対する百分比(%)を表している。1人の対象に2つ以上の回答を求める設問では、百分比(%)の合計は100%を超える。
- (2) 百分比(%)は、小数第2位を四捨五入し、小数第1位までを表示した。四捨五入の結果、個々の比率の合計と全体を示す数値とが一致しないことがある。
- (3) 分類別の表中の百分比(%)は、すべて各分類項目ごとの該当対象者数を100%として算出した。
- (4) 本文中の結果の数値は、小数第1位までを%で表示したが、他の数値との比較で大小関係を示す場合は、整数値で「…ポイントの差」という表現をとった。

1. 調査目的

この調査は、男女共同参画についての県民の意識を把握し、今後の男女共同参画行政を推進するための基礎資料とすることを目的とする。なお、一部の設問において昭和55年、60年、平成2年、7年、12年、17年、22年、27年、令和2年に実施した「男女共同参画に関する県民意識調査」の調査結果との経年比較を行った。

2. 調査の項目

- | | |
|--------------|-------------------------|
| (1) 男女の地位の平等 | (4) 女性の社会参画 |
| (2) 家庭生活等 | (5) ドメスティック・バイオレンス(DV)等 |
| (3) 職業 | (6) 男女共同参画社会の実現に向けて |

3. 調査の設計

- (1) 調査地域：石川県全域
- (2) 調査対象：石川県に居住する満18歳以上の男女
- (3) 標本数：2,500人
- (4) 抽出方法：層化二段無作為抽出法
- (5) 調査方法：郵送法（配布：郵送、回収：郵送またはインターネット回答）
- (6) 抽出台帳：住民基本台帳
- (7) 調査時期：令和7年1月29日～令和7年2月17日

4. 標本構成

(1) 層化区分

○地域

各地域の市町は、首都圏など大都市圏と異なり、人口的に大きな差がないため、市郡規模での層化は行わず、市町を第一層、各市町内の町を第二層として層化抽出を行った。

(2) 抽出の方法

- a) 第1次抽出単位となる調査地点として、現行市町を使用した。
- b) 調査地点の抽出数については、1調査地点あたりの標本数が6程度になるように、標本数より算出し、決定した。
- c) 調査地点の抽出は、層内での抽出地点数が2地点以上割り当てられた層については、等間隔（層内の該当調査区の人口数合計を調査地点数で除すことにより算出）抽出法によって行った。
- d) 各調査地点における対象者の抽出は、調査地点の範囲内（町・丁目・街区・番地等を指定）より、住民基本台帳から等間隔抽出法によって抽出した。

(3) 標本数の配分

各地域、市町規模の層における指定母集団数（令和5年10月1日現在の満18歳以上の人口数）より、2,500の標本を比例配分した。

地域区分	市町名	抽出地点数	対象者数
能登北部	輪島市	9	54
	珠洲市	5	30
	穴水町	3	18
	能登町	6	36
能登中部	七尾市	18	108
	羽咋市	8	48
	志賀町	7	42
	宝達志水町	5	30
	中能登町	6	36
石川中央	金沢市	168	1,006
	かほく市	13	78
	白山市	41	246
	野々市市	21	126
	津幡町	14	84
	内灘町	10	60
南加賀	小松市	39	234
	加賀市	24	144
	能美市	18	108
	川北町	2	12
計		417	2,500

5. 回収結果

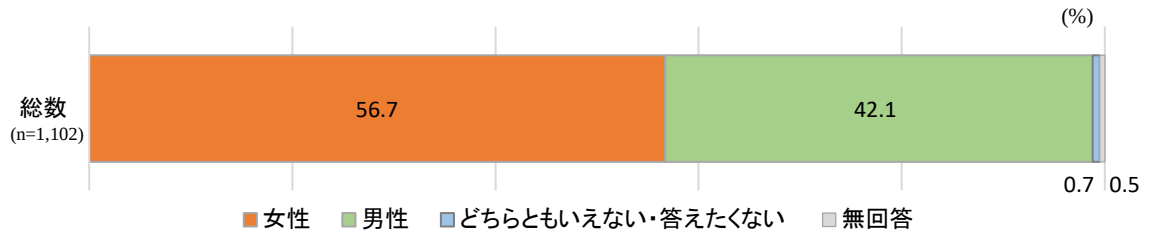
有効回収数は1,102票（44.1％）であった。各地域別の回収数（率）は次の通り。

地域	対象数	有効回収数（率）
能登北部	138	53（38.4％）
能登中部	264	124（47.0％）
石川中央	1,600	704（44.0％）
南加賀	498	216（43.4％）
地域不明		5（－％）
合計	2,500	1,102（44.1％）

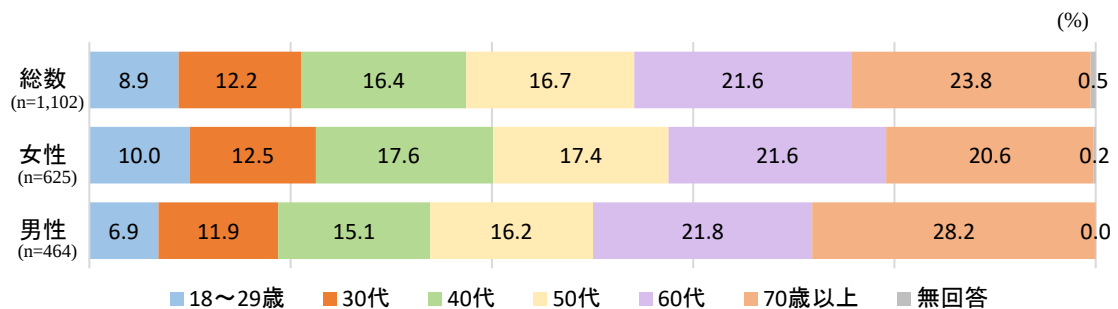
6. 回答者の属性

本調査の回答者（有効回収標本）1,102人の基本属性は次の通りである。

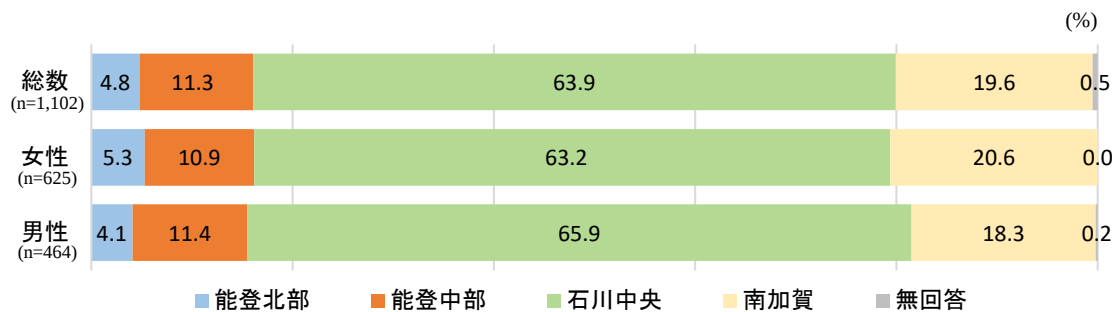
（１）性 別



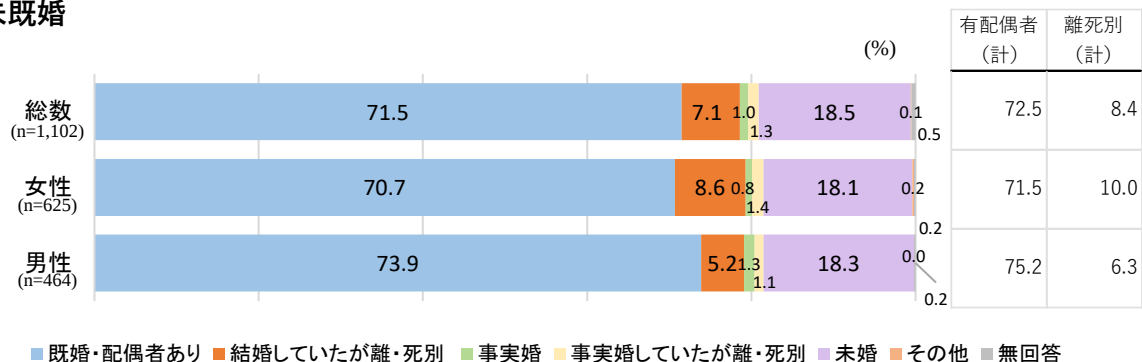
（２）年 齢



（３）地 域

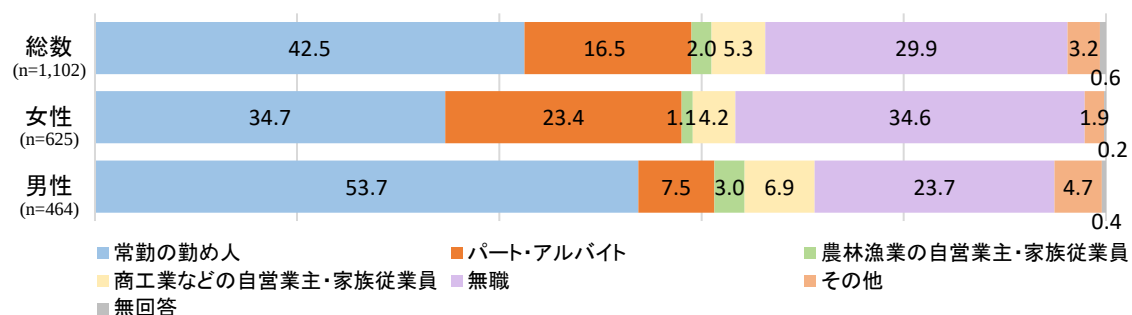


（４）未既婚

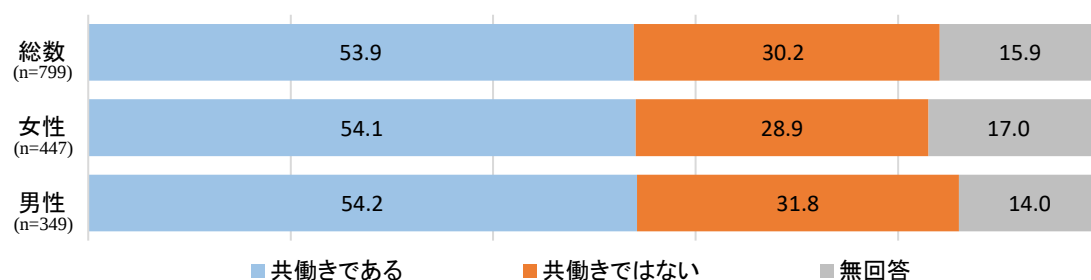


有配偶者 (計)	離死別 (計)
72.5	8.4
71.5	10.0
75.2	6.3

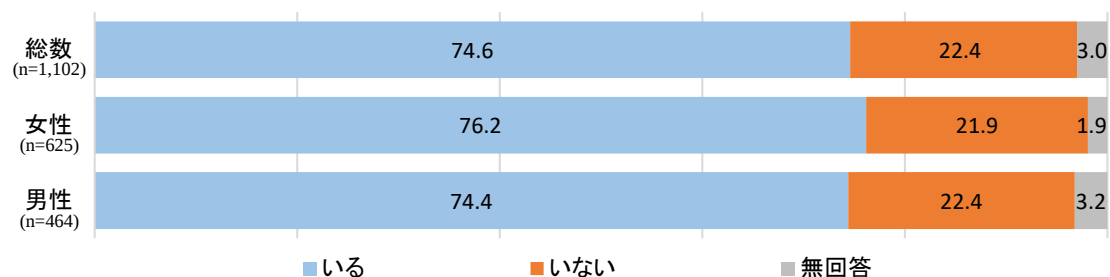
(5) 本人の職業



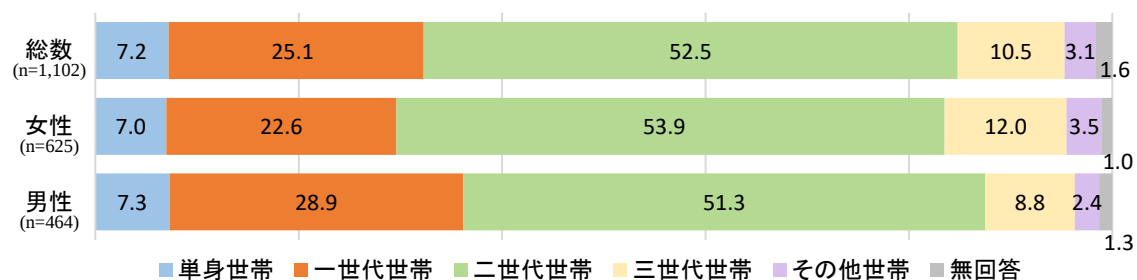
(6) 共働きの有無



(7) 子どもの有無



(8) 家族構成



§ 2 調査結果の要約

I 男女の地位の平等

1 男女平等についての現在の状況（問1 25ページ）

男女の地位が「平等である」分野は、男女とも「学校教育の場」と考える人が最も多い

全体では「平等である」が、“(d)学校教育の場では”（43.1%）、“(a)家庭の中では”（33.2%）、“(b)職場の中では”（25.7%）、“(c)地域活動の中では”（24.4%）の順に多くなっている。「平等である」が最も少ないのは“(e)政治の場では”（7.9%）である。

女性では、“(g)社会全体では”（6.1%）、“(e)政治の場では”（3.2%）で、「平等である」が1割未満になっており、また、すべての項目で男性よりも「平等である」が少なくなっている。

男性では、“(g)社会全体では”（17.5%）、“(e)政治の場では”（14.4%）が1割台となっているが、すべての項目で女性よりも、「平等である」が多くなっている。特に差が大きいのは、“(f)法律や制度の上では”（33.8%）で、男性が女性を19.1ポイント上回っている。

II 家庭生活等

1 「男は仕事、女は家庭」という考え方（問2 37ページ）

男女とも反対派が上回る。女性では男性よりも反対派が上回る

全体では、「賛成」（2.4%）、「やや賛成」（11.3%）を合わせて『賛成である（計）』は13.7%となっている。一方、「あまり賛成しない」（25.0%）、「賛成しない」（29.9%）を合わせた『賛成しない（計）』は54.9%となり、『賛成しない（計）』が『賛成である（計）』を41.2ポイント上回っている。「どちらともいえない」は28.0%となっている。

女性では、『賛成である（計）』は9.6%、『賛成しない（計）』は58.5%となり、『賛成しない（計）』が『賛成である（計）』を48.9ポイント上回った。

男性では、『賛成である（計）』は19.2%、『賛成しない（計）』は50.7%となり、『賛成しない（計）』が『賛成である（計）』を31.5ポイント上回っている。

2 「男は仕事、女は家庭」という考え方に賛成する理由（問2-1 40ページ）

「家事・育児・介護と両立しながら、女性（妻）が働き続けることは大変」で男女に差

「家事・育児・介護と両立しながら、女性（妻）が働き続けることは大変だから」では、男性（40.4%）より女性（71.7%）の方が31.3ポイント多くなっている。

3 「男は仕事、女は家庭」という考え方に反対する理由（問2-2 41ページ）

「固定的な男性（夫）と女性（妻）の役割分担の意識を押しつけるべきではないから」が最多

「固定的な男性（夫）と女性（妻）の役割分担の意識を押しつけるべきではないから」が女性（77.6%）、男性（59.1%）とともに最も多く、女性の方が18.5ポイント多くなっており、男女の差としても最も大きい。

また次に男女の差が大きいのは、「男性（夫）も女性（妻）も働いた方が、多くの収入を得られるから」で、女性（38.0%）、男性（47.7%）と男性の方が9.7ポイント多くなっている。

4 男性が家事・育児を行うことのイメージ（問3 42ページ）

男女の差が大きいものとして、「子どもに良い影響を与える」は女性が20.7ポイント上回る

全体では、「男性も家事・育児を行うことは、当然である」(65.5%)が最も多く、次いで「子どもに良い影響を与える」(56.4%)が続いている。他は半数を下回っている。

男女とも「男性も家事・育児を行うことは、当然である」(女性69.9%、男性60.3%)が最も多く、次いで「子どもに良い影響を与える」(女性65.3%、男性44.6%)が続いている。

男女の差が大きいものとしては、「子どもに良い影響を与える」(20.7ポイント差)、「家事・育児を行う男性は、時間の使い方が効率的で、仕事もできる」(10.0ポイント差)が女性のポイントが高い一方で、「家事・育児は、男性よりも女性の方が向いている」(10.7ポイント差)は男性のポイントが高くなっている。

5 男性が家事、子育て、介護、地域活動に参加するために必要なこと（問4 44ページ）

全体では、「育児・介護のための休暇を取得しやすい職場環境が整備されること」が最多

全体では、「育児・介護のための休暇を取得しやすい職場環境が整備されること」(63.2%)が最も多く、次いで、「夫婦や家族間で家事・育児などの分担について、十分に話し合うこと」(59.7%)、「男性が家事・育児などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」(57.5%)が続いている。

男女の差は「年配者やまわりの人が、夫婦の役割分担などについての当事者の考え方を尊重すること」が最も大きく、女性の方が20.8ポイント多くなっている。

6 親の介護における役割分担

(a) 自分の親の介護（問5(a) 46ページ）

女性は「自分の方が配偶者より多く分担」、男性は「配偶者と半分ずつ分担」が最多

全体では、「外部サービスを利用しながら、自分の方が配偶者より多く分担」(37.1%)が最も多くなっている。

「外部サービスを利用しながら、自分の方が配偶者より多く分担」(女性44.0%、男性27.8%)が女性で最も多く、「外部サービスを利用しながら、自分と配偶者で半分ずつ分担」(女性19.7%、男性36.4%)が男性で最も多い。

(b) 配偶者の親の介護（問5(b) 48ページ）

女性は「配偶者と半分ずつ分担」、男性は「配偶者の方が自分より多く分担」が最多

全体では、「外部サービスを利用しながら、自分と配偶者で半分ずつ分担」(33.4%)が最も多くなっている。

「外部サービスを利用しながら、自分と配偶者で半分ずつ分担」(女性36.3%、男性29.7%)が女性で最も多く、「外部サービスを利用しながら、配偶者の方が自分より多く分担」(女性24.5%、男性30.2%)が男性で最も多い。

Ⅲ 職業

1 職場での男女平等について（問6 50ページ）

男女ともに「平等である」は「教育や研修制度」で最も多く、「昇進・昇格」で最も少ない

男女とも「平等である」と回答した人が最も多いのは、“（d）教育や研修制度は”（女性58.1%、男性60.3%）となっている。

一方、最も少ないのは、女性では“（b）昇進・昇格は”（34.6%）、男性では“（b）昇進・昇格は”と“（f）仕事の内容は”（ともに39.1%）となっている。

『男性が優遇されている』については、男女とも“（b）昇進・昇格は”（女性36.1%、男性33.6%）が最も多い。『女性が優遇されている』については、男女とも“（f）仕事の内容は”（女性9.9%、男性15.5%）が最も多い。

2 女性が管理職に昇進することについて（問7 52ページ）

男女ともに賛成派が7割を超えている

男女とも『賛成である（計）』（女性84.4%、男性73.3%）が『賛成しない（計）』（女性2.3%、男性3.9%）を上回っている。

『賛成である（計）』は女性の方が男性より11.1ポイント多く、『賛成しない（計）』は男性の方が女性より1.6ポイント多くなっている。

3 管理職・議員等への就任・立候補を打診された場合の意欲

自治会長・町内会長、議員や首長を打診された際は「断る」が男女とも最も多い

（a）職場の管理職や役員（問8 53ページ）

女性では「断る」（39.4%）が最も多く、男性では「依頼されたら受ける」（52.1%）が最も多い。

（b）自治会長、町内会長（問8 54ページ）

男女とも「断る」（女性69.9%、男性53.0%）が最も多い。

（c）議員や自治体の首長（問8 55ページ）

男女とも「断る」（女性79.3%、男性65.2%）が最も多い。

4 打診を断る理由

いずれのケースも「責任が重いから」が断る理由の最多を占めている

（a）職場の管理職や役員（問8-1 56ページ）

全体では、「責任が重いから」（47.5%）が最も多く、次いで、「知識や能力の面で不安があるから」（38.7%）、「人間関係がわずらわしいから」（21.8%）が続いている。

男女の差は「人間関係がわずらわしいから」が最も大きく、男性の方が22.2ポイント多くなっている。

(b) 自治会長、町内会長（問8-1 58ページ）

全体では、「責任が重いから」（38.8%）が最も多く、次いで、「時間的な余裕がないから」（35.5%）、「知識や能力の面で不安があるから」（33.8%）が続いている。

男女の差は「人間関係がわずらわしいから」が最も大きく、男性の方が14.0ポイント多くなっている。

(c) 議員や自治体の首長（問8-1 60ページ）

全体では、「責任が重いから」（43.9%）が最も多く、次いで、「知識や能力の面で不安があるから」（39.8%）「時間的な余裕がないから」（27.8%）が続いている。

男女の差は「人間関係がわずらわしいから」が最も大きく、男性の方が10.2ポイント多くなっている。

5 女性のリーダーを増やす上での障害（問9 62ページ）

男女とも「家事・育児・介護などにおける家庭内の相互の協力が十分ではないこと」が最多

男女とも「家事・育児・介護などにおける家庭内の相互の協力が十分ではないこと」（女性 62.4%、男性43.0%）が最も多くなっている。

男女差では、「家事・育児・介護などにおける家庭内の相互の協力が十分ではないこと」（19.4ポイント差）で女性が男性のポイントを大きく上回っており、「現時点では、必要な知識や経験などを持つ女性が少ないこと」（5.2ポイント差）で男性が女性のポイントを上回っている。

6 女性が働き続ける上での障害（問10 64ページ）

男女とも「家事・育児・介護などにおける家庭内の相互の協力が十分ではないこと」が最多

男女とも「家事・育児・介護などにおける家庭内の相互の協力が十分ではないこと」（女性 71.5%、男性57.5%）が最も多く、次いで、男性は「結婚や出産の際、退職しなければならない慣行が今でも残っていること」（37.5%）、女性は「給与、昇進・昇格の機会が男女間格差があること」（34.4%）の順となっている。

男女の差が大きいものとして、「家事・育児・介護などにおける家庭内の相互の協力が十分ではないこと」（14.0ポイント差）で女性が男性のポイントを上回っており、「結婚や出産の際、退職しなければならない慣行が今でも残っていること」（6.5ポイント差）で男性が女性のポイントを上回っている。

7 女性の再就職に必要なこと（問11 66ページ）

男女とも「保育・介護サービスの充実」と「家事・育児・介護など家庭内の相互の協力」が上位

男女とも「保育・介護サービスの充実(施設の充実、時間の延長など)」（女性70.4%、男性63.8%）と「家事・育児・介護などにおける家庭内の相互の協力」（女性69.0%、男性59.3%）の2項目が多くなっている。

「家事・育児・介護などにおける家庭内の相互の協力」（9.7ポイント差）、「再就職のための自己啓発セミナーや技術、技能の習得機会の充実」（7.7ポイント差）は女性が男性を上回り、男性の方が女性を大きく上回る項目は見られない。

8 男女が共に仕事と家庭を両立していくために必要なこと（問12 68ページ）

男女とも「育児・介護休業制度を利用しやすい職場環境づくり」が最多

男女とも、「育児休業・介護休業制度を利用しやすい職場環境づくり」（女性67.5%、男性56.0%）が最も高くなっている。次いで「労働時間の短縮や休暇制度の充実」（女性57.6%、男性51.5%）、「保育・介護サービスの充実」（女性43.4%、男性35.3%）となっている。

上位3項目とも、女性が男性を5ポイント以上上回っている。

IV 女性の社会参画

1 女性のリーダーが増えるとどのような影響があると思うか（問13 70ページ）

男女とも「男女問わず優秀な人材が活躍できるようになる」が最多

全体では、男女ともに、「男女問わず優秀な人材が活躍できるようになる」（女性69.6%、男性65.7%）が最も多く、次いで、女性では「女性が持つ意見や発想が反映される」（63.7%）、男性では「多様な視点が加わることにより、新たな価値や商品・サービスが創造される」（58.6%）の順となった。

男女の差が大きいものとして、「男女問わず仕事と家庭の両方を優先しやすい社会になる」では女性（44.5%）が男性（33.0%）を11.5ポイント上回っている。

2 女性が方針決定の場に参画するために必要なこと（問14 72ページ）

女性では「活動時間帯の工夫」、男性では「性別による役割分担意識を改めること」が最多

女性では、「さまざまな立場の人が参加しやすいよう活動時間帯を工夫すること」（57.1%）が最も多く、次いで「地域活動のリーダーは男性が務めるという性別による役割分担意識を改めること」（37.8%）となっている。

男性では、「地域活動のリーダーは男性が務めるという性別による役割分担意識を改めること」（53.0%）が最も多く、次いで「さまざまな立場の人が参加しやすいよう活動時間帯を工夫すること」（44.6%）となっている。

3 性別に配慮した防災・災害対応・復興対策のために必要なこと（問15 74ページ）

男女とも「性別に配慮した避難所運営を行う」が最多

男女とも「更衣室やプライバシーの確保など、性別に配慮した避難所運営を行う」（女性63.0%、男性51.3%）が最も多く、次いで、「避難所の設置・運営について、物事を決める際には男女を交えた話し合いをする」（女性58.4%、男性48.9%）となっている。

V ドメスティック・バイオレンス（DV）等

1 配偶者や交際相手などからの暴力と認識される行為（問16 76ページ）

「性的行為の強要」が9割を超える

「暴力にあたる」と思うと答えた人を多い順に見ていくと、
“(k)嫌がっているのに、性的な行為を強要する”(全体93.6%)
“(i)「誰のおかげで生活できるんだ」や「甲斐性なし」などと言う”(〃 84.3%)
“(l)避妊に協力しない”(〃 83.7%)
“(j)家計に必要な生活費を渡さない”(〃 82.2%)
“(g)職場に行くことを妨害したり、外出先を制限する”(〃 81.2%)
“(a)なぐるふりをしておどす”(〃 73.6%)
“(h)何を言っても長期間無視し続ける”(〃 73.3%)
“(e)家族や友人との関わりを持たせない”(〃 71.0%)
“(f)交友関係や行き先、電話・メールなどを細かく監視する”(〃 68.1%)
“(b)大声でどなる”(〃 67.9%)
“(c)馬鹿にしたり、見下したような言動をする”(〃 66.6%)
“(d)他の異性や親しい人との会話を許さない”(〃 55.5%)
の順となった。

2 配偶者からの被害経験の有無（問17 78ページ）

男女とも「身体的暴行」と「心理的攻撃」で割合が高い

“(a) 身体的暴行”では、「何度もあった」（女性5.7%、男性2.4%）、「1、2度あった」（女性18.2%、男性15.3%）となり、その合計では女性が男性を6.2ポイント上回った。
“(b) 心理的攻撃”では、「何度もあった」（女性10.2%、男性5.8%）、「1、2度あった」（女性12.9%、男性18.8%）となり、その合計では大きな差は見られない。
“(c) 経済的圧迫”では、「何度もあった」（女性5.7%、男性0.8%）、「1、2度あった」（女性6.1%、男性2.9%）となり、その合計では女性が男性を8.1ポイント上回った。
“(d) 性的強要”では、「何度もあった」（女性4.5%、男性0.8%）、「1、2度あった」（女性12.2%、男性3.4%）で、その合計では女性が男性を12.5ポイント上回った。

3 配偶者からの暴力についての相談経験の有無・相談先（問17-1 86ページ）

「どこ（だれ）にも相談しなかった」は、女性48.0%、男性63.8%

配偶者から被害を受けたことが「これまでにあった」と答えた人に、どこ（だれ）かに打ち明けたり、相談したことがあるかをたずねたところ、「相談した」と答えた人は36.9%、「相談しなかった」は53.6%で、「相談しなかった」方が16.7ポイント多かった。
性別で見ると、「相談しなかった」は男性（63.8%）が女性（48.0%）より15.8ポイント多くなっている。

相談した人のうち、どこ（だれ）に相談したかを見ると、女性では「家族や親戚」（28.5%）、次いで「知人、友人」（24.5%）の順で、その他は3%未満となっている。男性では「家族や親戚」（12.1%）、次いで「知人、友人」（10.3%）の順で、その他は4%未満となっている。

4 配偶者からの暴力について相談しなかった理由（問17-2 91ページ）

男女ともに「相談するほどのことではないと思ったから」が最多

配偶者から被害を受けながら「相談しなかった」と答えた人に、その理由をたずねたところ、男女ともに最も多かったのが「相談するほどのことではないと思ったから」（女性47.9%、男性68.9%）であった。

次いで、女性では「自分さえ我慢すれば、このままやっていけると思ったから」（34.4%）「相談してもむだだと思ったから」（30.2%）、「自分にも悪いところがあると思ったから」（24.0%）と続く。

男性では「自分にも悪いところがあると思ったから」（36.5%）、「自分さえがまんすれば、このままやっていけると思ったから」（24.3%）、「別れるつもりがなかったから」（24.3%）と続く。

男女の違いで特徴的なのは、「相談してもむだだと思ったから」では女性の方が16.7ポイント多くなっている。「相談するほどのことではないと思ったから」では男性の方が21.0ポイント多くなっている。

5 交際相手からの被害経験の有無（問18 92ページ）

男女とも「心理的攻撃」で最も比率が高い

“（a）身体的暴行”は「10歳代にあった」が2.6%、「20歳代にあった」が3.4%、「30歳代以上にあった」が0.8%となっている。

“（b）心理的攻撃”は「10歳代にあった」が4.3%、「20歳代にあった」が7.0%、「30歳代以上にあった」が2.6%となっている。

“（c）経済的圧迫”は「10歳代にあった」が1.2%、「20歳代にあった」が2.8%、「30歳代以上にあった」が1.5%となっている。

“（d）性的強要”は「10歳代にあった」が2.7%、「20歳代にあった」が4.7%、「30歳代以上にあった」が0.9%となっている。

6 交際相手からの暴力についての相談経験の有無・相談先（問18-1 102ページ）

「どこ（だれ）にも相談しなかった」は、女性52.1%、男性72.1%

交際相手から被害を受けたことが「これまでにあった」と答えた人に、どこ（だれ）かに打ち明けたり、相談したことがあるかをたずねたところ、「相談した」と答えた人は39.8%、「相談しなかった」は58.0%で、「相談しなかった」方が18.2ポイント多かった。

性別で見ると、「相談しなかった」は男性（72.1%）が女性（52.1%）より20.0ポイント多くなっている。

相談した人のうち、どこ（だれ）に相談したかを見ると、女性では「友人、知人」（35.1%）、次いで、「家族や親戚」（11.7%）、「職場・アルバイトの関係者」（4.3%）の順で、それ以外は4%未満となっている。

男性では「友人、知人」（18.6%）、次いで、「家族や親戚」（7.0%）の順で、それ以外は3%未満となっている。

7 交際相手からの暴力について相談しなかった理由（問18-2 106ページ）

男女とも「相談するほどのことではない」が最多

交際相手から被害を受けながら「相談しなかった」と答えた人に、その理由をたずねたところ、男女とも最も多かったのは「相談するほどのことではないと思ったから」（女性40.8%、男性58.1%）であった。

女性では、次いで「恥ずかしくて誰にも言えなかったから」（26.5%）、「相談してもむだだと思ったから」（24.5%）が続く。男性では、次いで「自分にも悪いところがあると思ったから」（29.0%）、「相談してもむだだと思ったから」（25.8%）が続く。

女性の方が男性より多くなったのは、「恥ずかしくて誰にも言えなかったから」、「どこ（だれ）に相談してよいのかわからなかったから」、「他人を巻き込みたくなかったから」、「自分が受けている行為がDVとは認識していなかったから」などがある。男性の方が女性より多くなったのは、「相談するほどのことではないと思ったから」、「自分にも悪いところがあると思ったから」などであった。

8 性暴力被害に関するイメージ（問19 107ページ）

女性では「被害にあうのはたいてい暗い夜道やひと気の少ない場所である」が最多

「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の合計が多かったのは、女性では、

- “（c）被害にあうのはたいてい暗い夜道やひと気の少ない場所である”（52.0%）
- “（a）性暴力にあうのは、若い女性である”（50.1%）
- “（g）性暴力は、加害者の性欲が強すぎて、コントロールできずに起こっている”（41.6%）

男性では、

- “（g）性暴力は、加害者の性欲が強すぎて、コントロールできずに起こっている”（53.9%）
- “（a）性暴力にあうのは、若い女性である”（52.6%）
- “（c）被害にあうのはたいてい暗い夜道やひと気の少ない場所である”（51.0%）

男女とも「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」の合計が最も多かったのは、

- “（d）本気で抵抗すれば被害は防げる”（女性75.9%、男性66.2%）であった。

男女で「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の合計の差が大きいものとしては、

- “（g）性暴力は、加害者の性欲が強すぎて、コントロールできずに起こっている”（12.3ポイント差）と“（d）本気で抵抗すれば被害は防げる”（9.3ポイント差）であり、ともに男性が上回っている。

9 相談機関・関係者の周知状況（問20 109ページ）

男女とも最も多かったのは「警察」

男女とも最も多かったのは「警察」（女性80.3%、男性83.6%）であった。

次いで、女性では「石川県女性相談支援センター（配偶者暴力相談支援センター）」（23.5%）、「市役所、町役場に設置されている女性相談支援室など」（17.6%）の順となった。

男性では「法テラス（日本司法支援センター）、弁護士会」（17.0%）、「市役所、町役場に設置されている女性相談支援室など」（15.7%）の順となった。

10 DVや性暴力等の暴力を防止するために必要なこと（問21 111ページ）

男女とも「被害者が早期に相談できるよう、相談窓口や保護施設を充実させる」が最多

全体では、「被害者が早期に相談できるよう、相談窓口や保護施設を充実させる」（女性 70.6%、男性66.2%、全体68.3%）が最も多く、次いで「学校または大学で、児童・生徒・学生に対し、暴力の被害者にも加害者にもならないよう教育を行う」（女性60.6%、男性60.1%、全体60.4%）、「加害者への罰則を強化する」（女性57.1%、男性58.8%、全体57.8%）の順となった。

男女の差が大きいものは、「暴力を振るったことのある者に対し、繰り返さないための教育を行う」（6.6ポイント差）と「暴力を助長するおそれのある情報（雑誌、インターネットなど）を取り締まる」（6.2ポイント差）で、どちらも女性のポイントが多くなっている。

VI 男女共同参画社会の実現について

1 用語の周知度（問22 113ページ）

全体では「DV」で9割超、「男女雇用機会均等法」「マタニティ・ハラスメント」「ジェンダー」「性的少数者」で8割を超える

全体で周知度が高い順に、

- “（k）DV（配偶者や交際相手からの暴力）”（93.6%）
 - “（h）男女雇用機会均等法”（88.2%）
 - “（m）マタニティ・ハラスメント”（87.5%）
 - “（f）ジェンダー（社会的・文化的につくられた性別）”（86.3%）
 - “（n）性的少数者（LGBTなど）”（81.3%）
 - “（a）男女共同参画社会”（75.8%）
 - “（j）仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）”（66.2%）
- 上記用語で、周知度が6割を超えている。

2 性別による無意識の思い込み（問23 116ページ）

男女とも「女性には女性らしい感性があるものだ」が最多

- 「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の合計が多かったのは、男女とも同様に、
- “（k）女性には女性らしい感性があるものだ”（女性73.5%、男性81.2%）
 - “（a）男性は仕事をして家計を支えるべきだ”（女性70.7%、男性76.0%）

男女とも「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」の合計が最も多かったのは、“（j）同程度の実力なら、まず男性から昇進させたり管理職に登用するものだ”（女性88.6%、男性83.2%）であった。

男女で「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の合計の差が大きいものとしては、“（c）自治会や町内会の重要な役職は男性が担うべきだ”（13.7ポイント差）は女性が、“（d）デートや食事のお金は男性が負担すべきだ”（23.8ポイント差）と“（g）男性は人前で泣くべきではない”（17.6ポイント差）は男性が上回っている。

3 男女共同参画社会の実現のために行政に対して望むこと（問24 120ページ）

男女とも「保育の施設・サービスや、高齢者・病人の施設、介護サービスを充実する」が最多

全体では「保育の施設・サービスや、高齢者・病人の施設、介護サービスを充実する」（52.0%）が最も多く、次いで「条例や制度の面で見直しを行い、性別による差別につながるものを改める」（39.6%）が続いている。

女性で最も多かったのは「保育の施設・サービスや、高齢者・病人の施設、介護サービスを充実する」（57.3%）、次いで「労働時間の短縮や在宅勤務の普及など、男女共に働き方の見直しを進める」（44.6%）となっている。

男性では「保育の施設・サービスや、高齢者・病人の施設、介護サービスを充実する」（45.3%）が最も多く、次いで「条例や制度の面で見直しを行い、性別による差別につながるものを改める」（42.5%）となっている。

男女の差があるものとしては、「労働時間の短縮や在宅勤務の普及など、男女共に働き方の見直しを進める」（15.3ポイント差）、「保育の施設・サービスや、高齢者・病人の施設、介護サービスを充実する」（12.0ポイント差）で女性が多くなっている。

§ 3 調査結果の詳細

I 男女の地位の平等

1 男女平等についての現在の状況

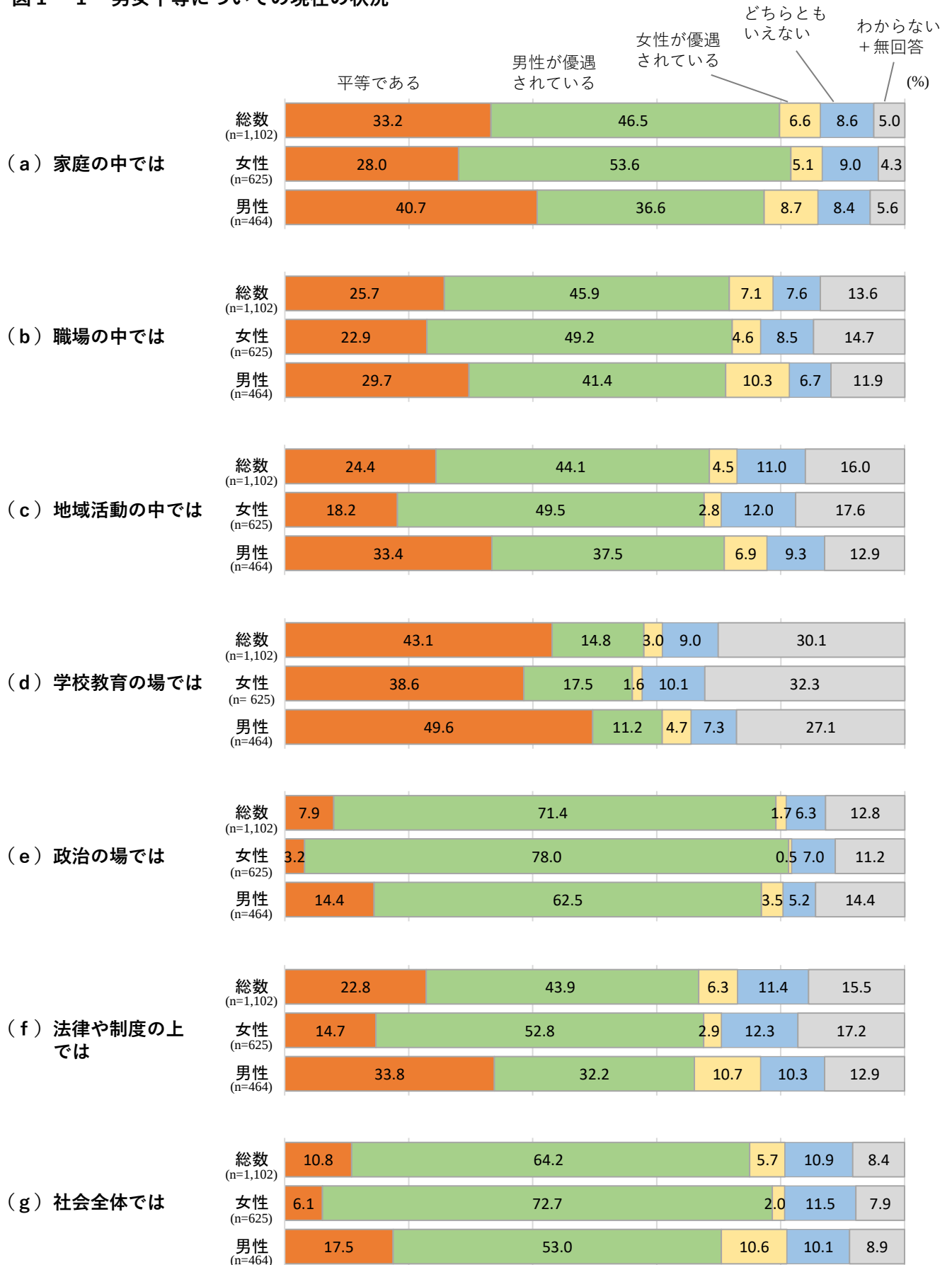
問1 現在の日本の社会において、次にあげる分野で、男女の地位は平等になっていると思いますか。(a)～(g)の各分野について、あなたの考えに近いものの番号に1つずつ○をつけてください。(○はそれぞれ1つ)

全体では「平等である」が、“(d)学校教育の中では”(43.1%)、“(a)家庭の中では”(33.2%)、“(b)職場の中では”(25.7%)、“(c)地域活動の中では”(24.4%)の順に多くなっている。「平等である」が最も少ないのは“(e)政治の中では”(7.9%)である。

女性では、“(g)社会全体では”(6.1%)、“(e)政治の中では”(3.2%)で、「平等である」が1割未満になっており、また、すべての項目で男性よりも「平等である」が少なくなっている。

男性では、“(g)社会全体では”(17.5%)、“(e)政治の中では”(14.4%)が1割台となっているが、すべての項目で女性よりも、「平等である」が多くなっている。特に差が大きいのは、“(f)法律や制度の上では”(33.8%)で、男性が女性を19.1ポイント上回っている。

図1－1 男女平等についての現在の状況



※『男性が優遇されている』は、調査票選択肢の「男性が優遇されている」と「どちらかといえば男性が優遇されている」を合計したもの。
『女性が優遇されている』は、調査票選択肢の「女性が優遇されている」と「どちらかといえば女性が優遇されている」を合計したもの。
以降のページも同様。

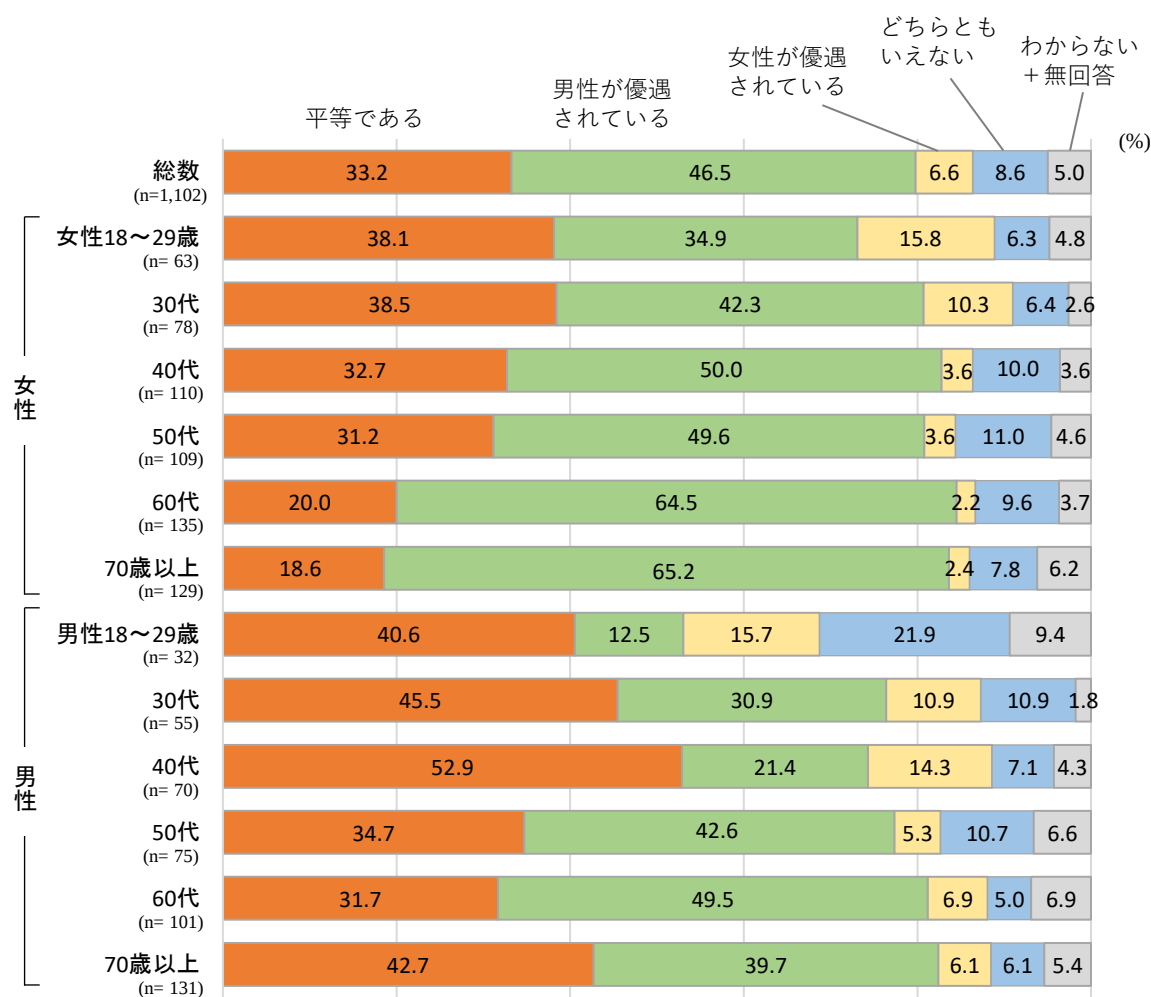
1 男女平等についての現在の状況

(a) 家庭の中では

女性では、「平等である」は18～29歳（38.1%）と30代（38.5%）で多くなったが、60代は20.0%、70歳以上では18.6%にとどまり、年代が高くなるにつれ少なくなる傾向がみられる。また、『男性が優遇されている』は18～29歳（34.9%）で最も少なく、70歳以上（65.2%）で最も多くなった。

男性では、「平等である」が40代（52.9%）で最も多くなった。『男性が優遇されている』は60代（49.5%）で半数近くを占めている。

図1－2 男女平等についての現在の状況 (a) 家庭の中では（性×年代別）

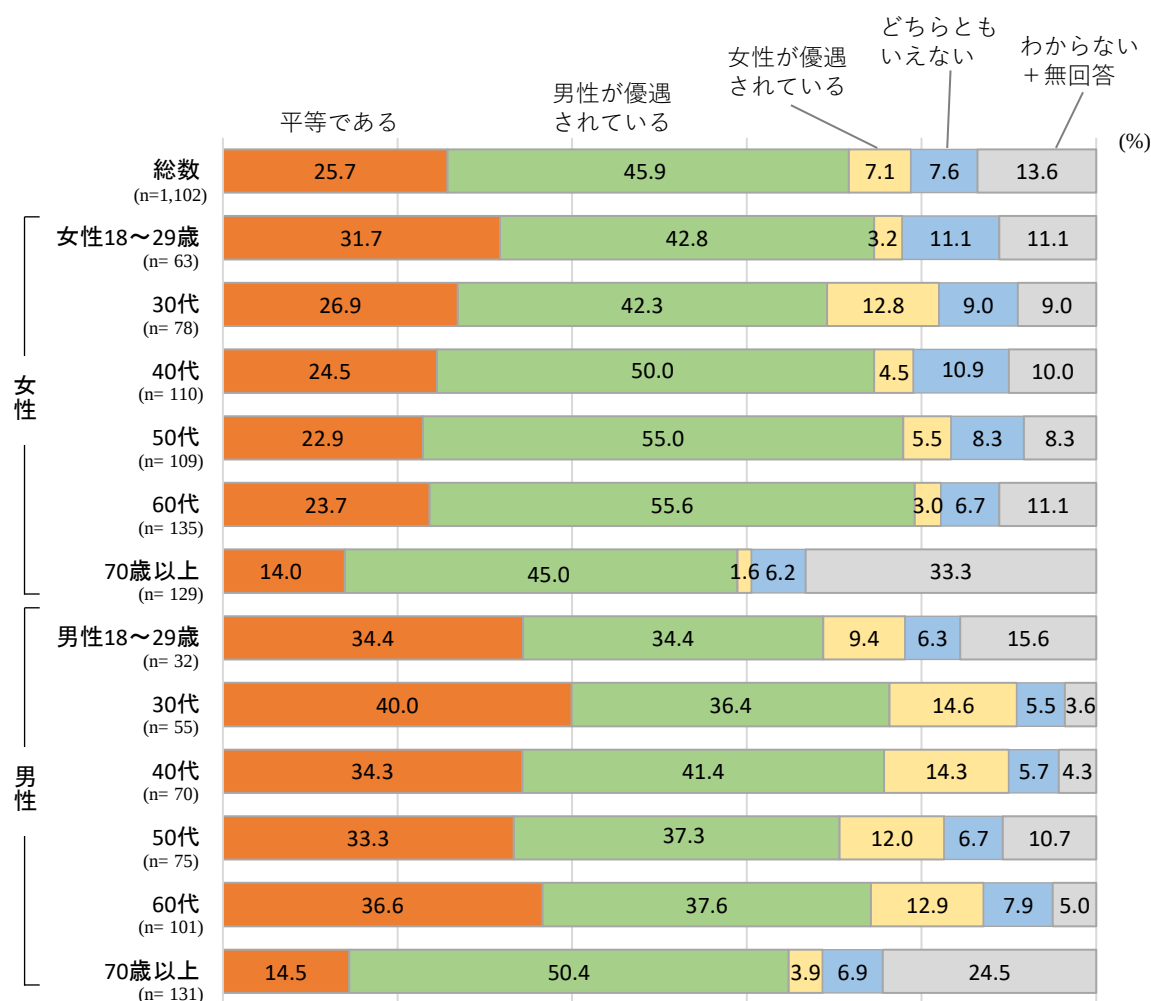


1 男女平等についての現在の状況

(b) 職場の中では

女性では、「平等である」が18～29歳（31.7%）で最も多く、70歳以上（14.0%）で最も少ない。『男性が優遇されている』は、40代から60代で50%以上となっている。
男性では、「平等である」が30代（40.0%）で最も多く、『男性が優遇されている』は70歳以上（50.4%）で最も多くなっている。

図1－3 男女平等についての現在の状況 (b) 職場の中では（性×年代別）



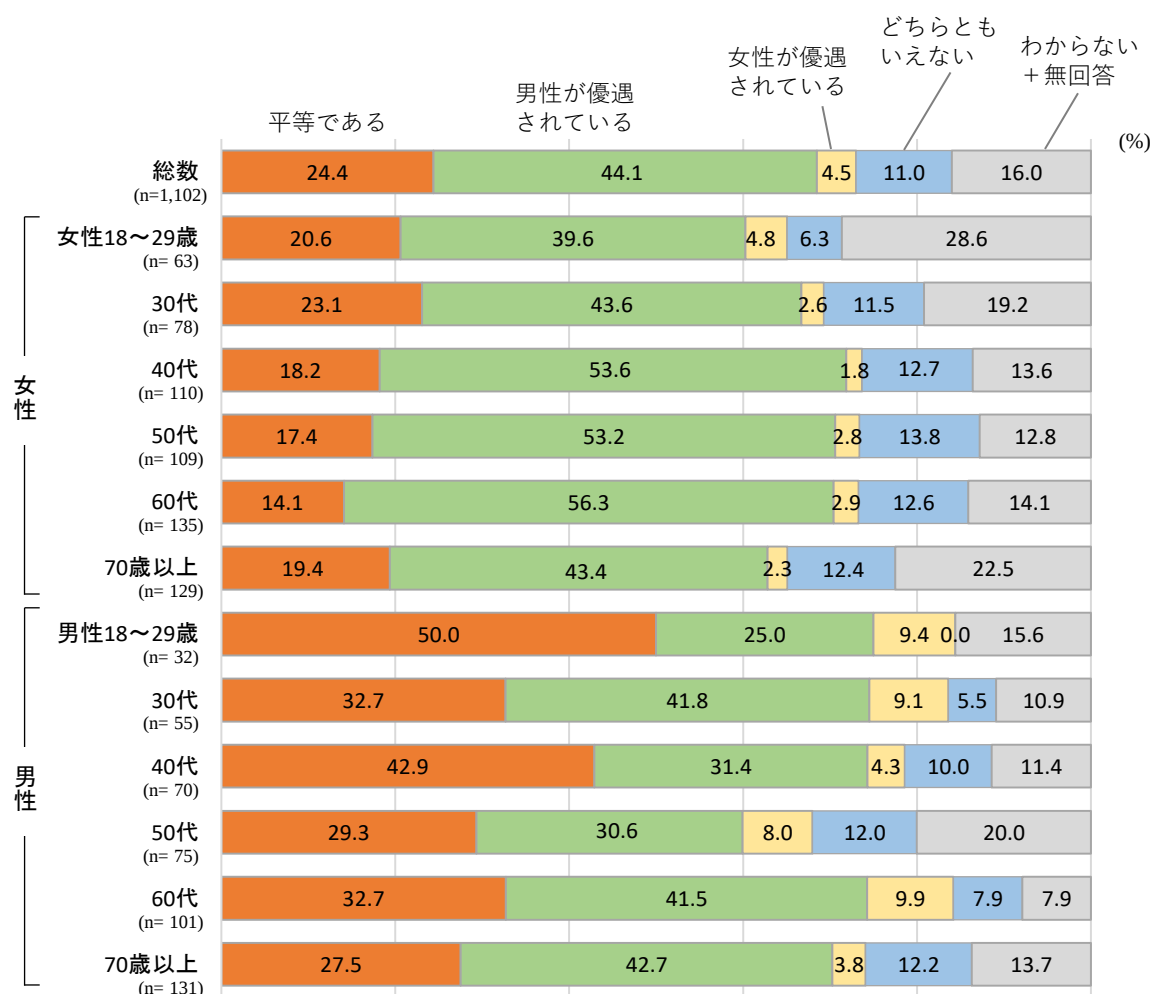
1 男女平等についての現在の状況

(c) 地域活動の中では

女性では、「平等である」が30代（23.1%）で最も多く、60代（14.1%）が最も少ない。『男性が優遇されている』は40代から60代で50%以上となっている。

男性では、「平等である」が18～29歳（50.0%）で最も多く、70歳以上（27.5%）で最も少ない。『男性が優遇されている』は70歳以上（42.7%）、30代（41.8%）、60代（41.5%）で4割を超えている。

図1－4 男女平等についての現在の状況 (c) 地域活動の中では（性×年代別）

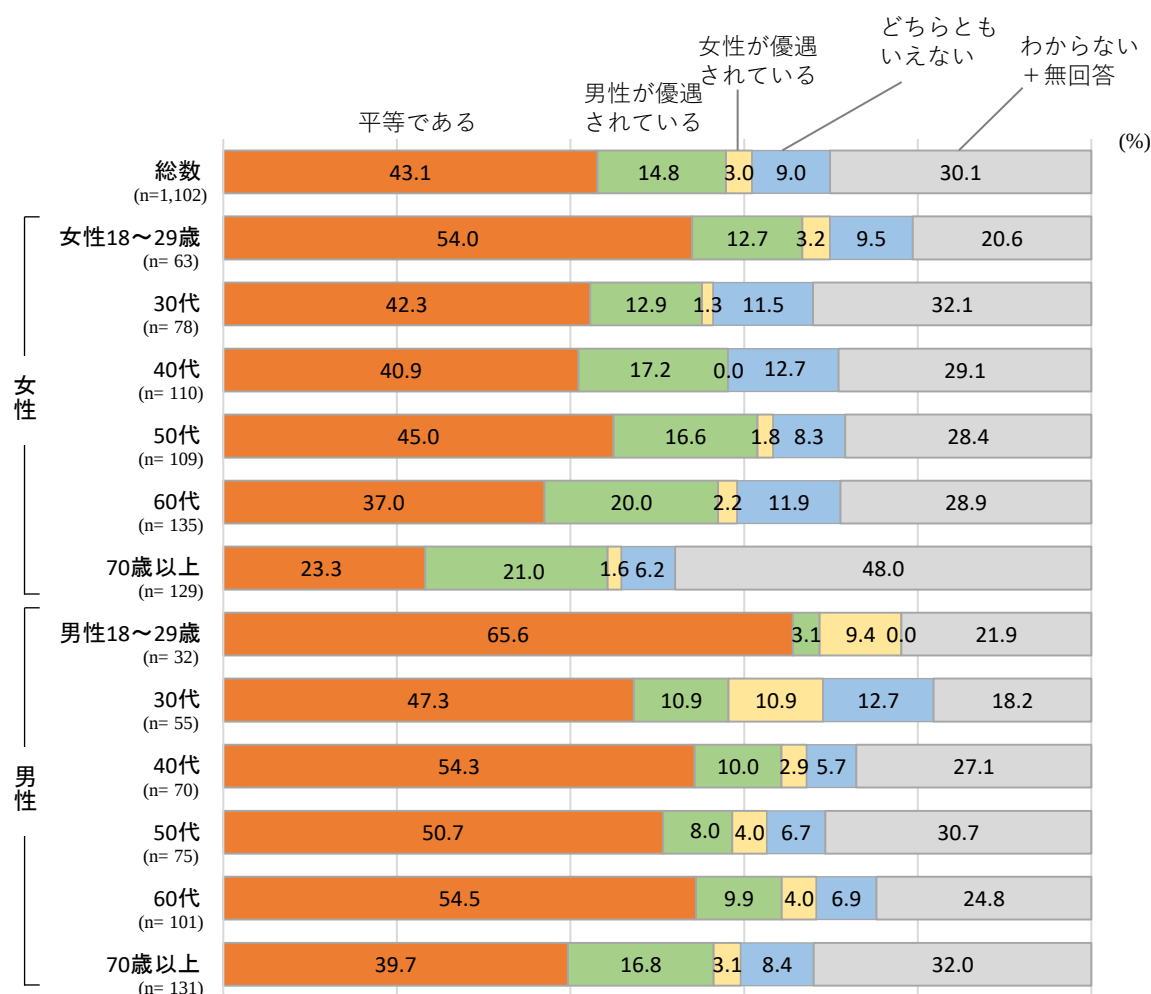


1 男女平等についての現在の状況

(d) 学校教育の中では

女性では、「平等である」が18～29歳（54.0%）で最も多く、70歳以上（23.3%）で最も少なくなっている。『男性が優遇されている』は70歳以上（21.0%）で最も多い。
男性では、「平等である」が18～29歳（65.6%）で最も多く、70歳以上（39.7%）で最も少なくなっている。『男性が優遇されている』は、70歳以上（16.8%）で最も多くなっている。

図1－5 男女平等についての現在の状況 (d) 学校教育の中では（性×年代別）

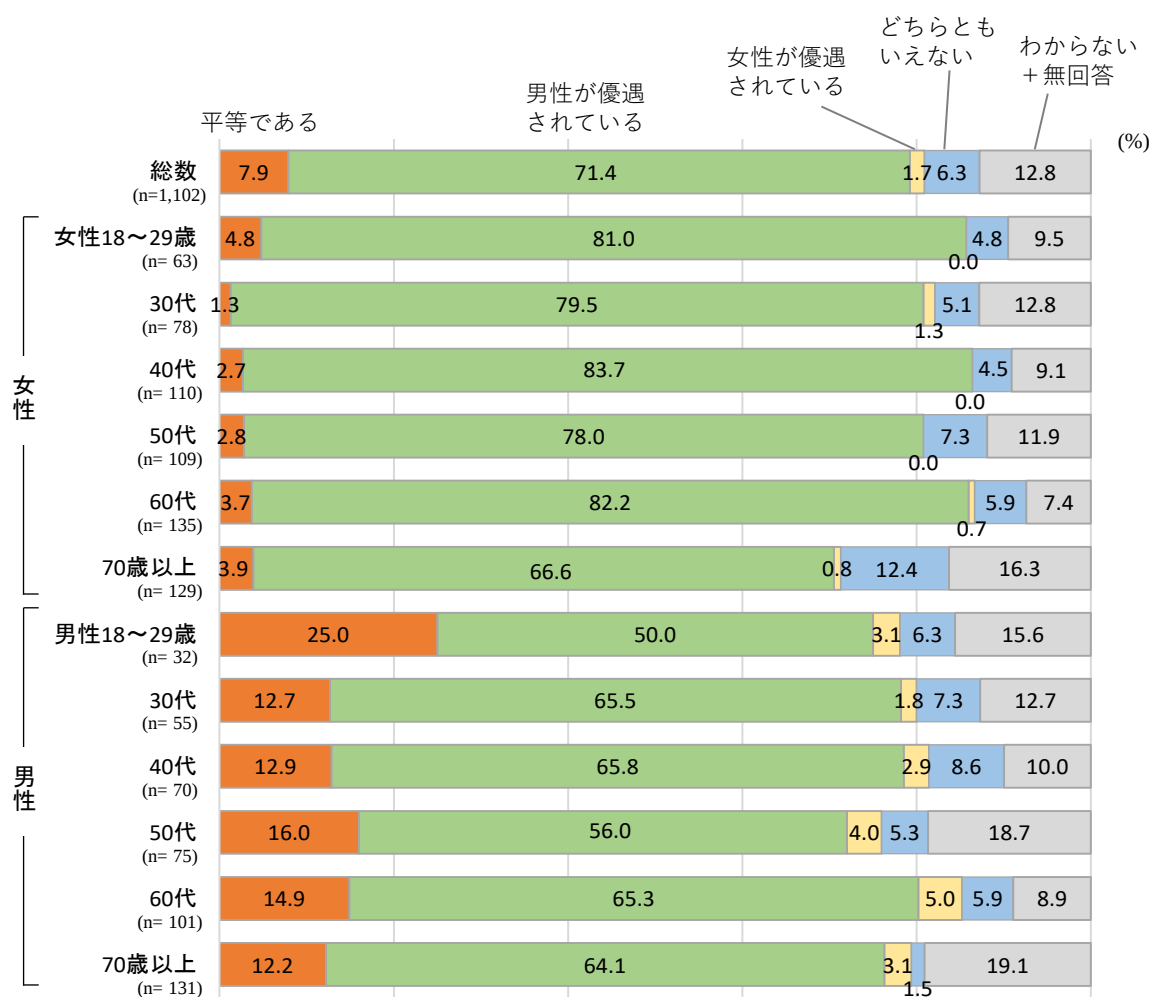


1 男女平等についての現在の状況

(e) 政治の場では

女性では、「平等である」がいずれの年代でも1割以下となっている。『男性が優遇されている』は40代（83.7%）、60代（82.2%）と18～29歳（81.0%）で8割を超えている。
男性では、「平等である」は18～29歳（25.0%）で最も多く、70歳以上（12.2%）で最も少ない。『男性が優遇されている』は18～29歳（50.0%）で最も少ない。

図1－6 男女平等についての現在の状況 (e) 政治の場では(性×年代別)



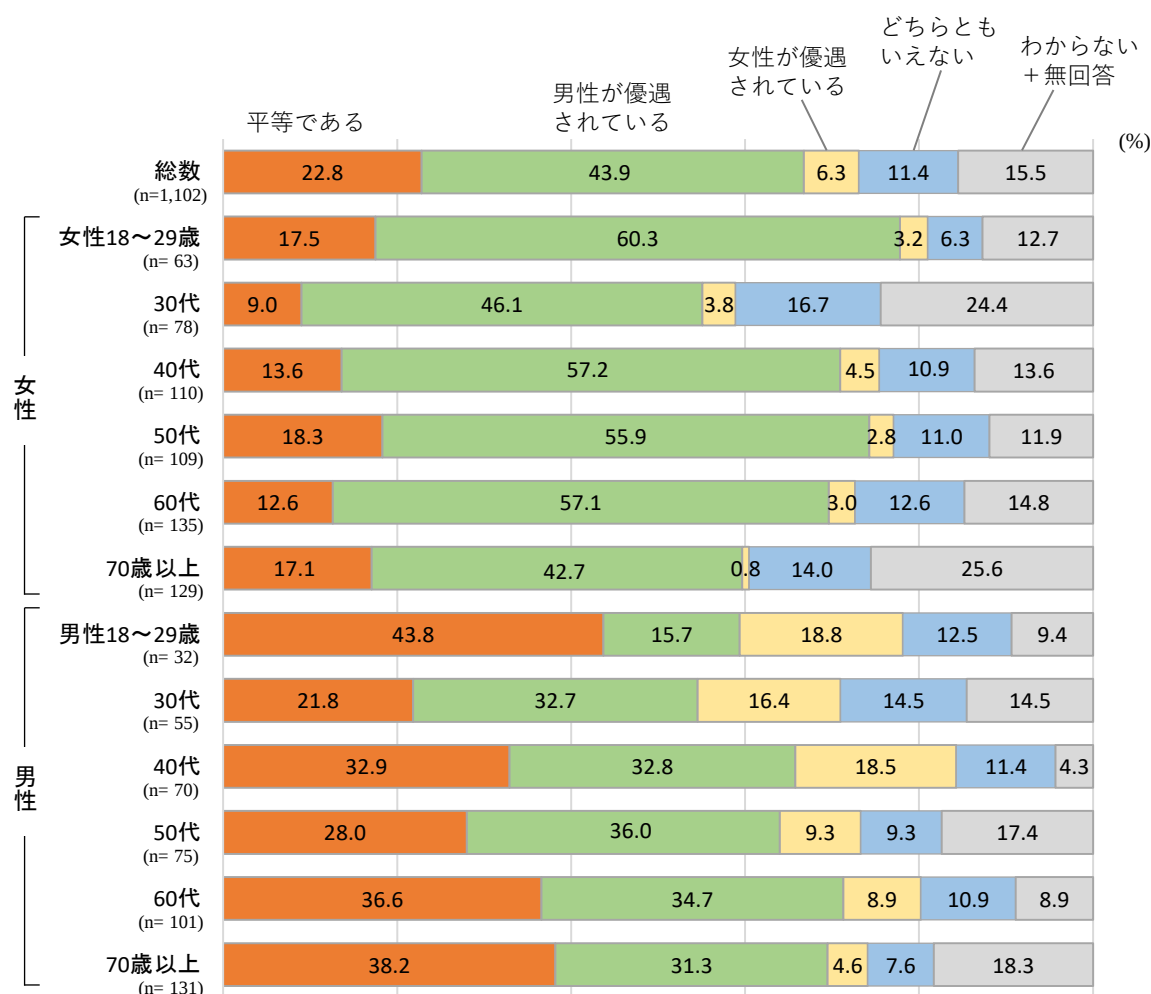
1 男女平等についての現在の状況

(f) 法律や制度の上では

女性では、「平等である」が50代（18.3%）で最も多く、30代（9.0%）で最も少ない。
『男性が優遇されている』は18～29歳（60.3%）で最も多く、70歳以上（42.7%）で最も少なくなった。

男性では、「平等である」が18～29歳（43.8%）で最も多く、30代（21.8%）で最も少ない。
『男性が優遇されている』は50代（36.0%）で最も多く、18～29歳（15.7%）で最も少ない。

図1－7 男女平等についての現在の状況 (f) 法律や制度の上では(性×年代別)



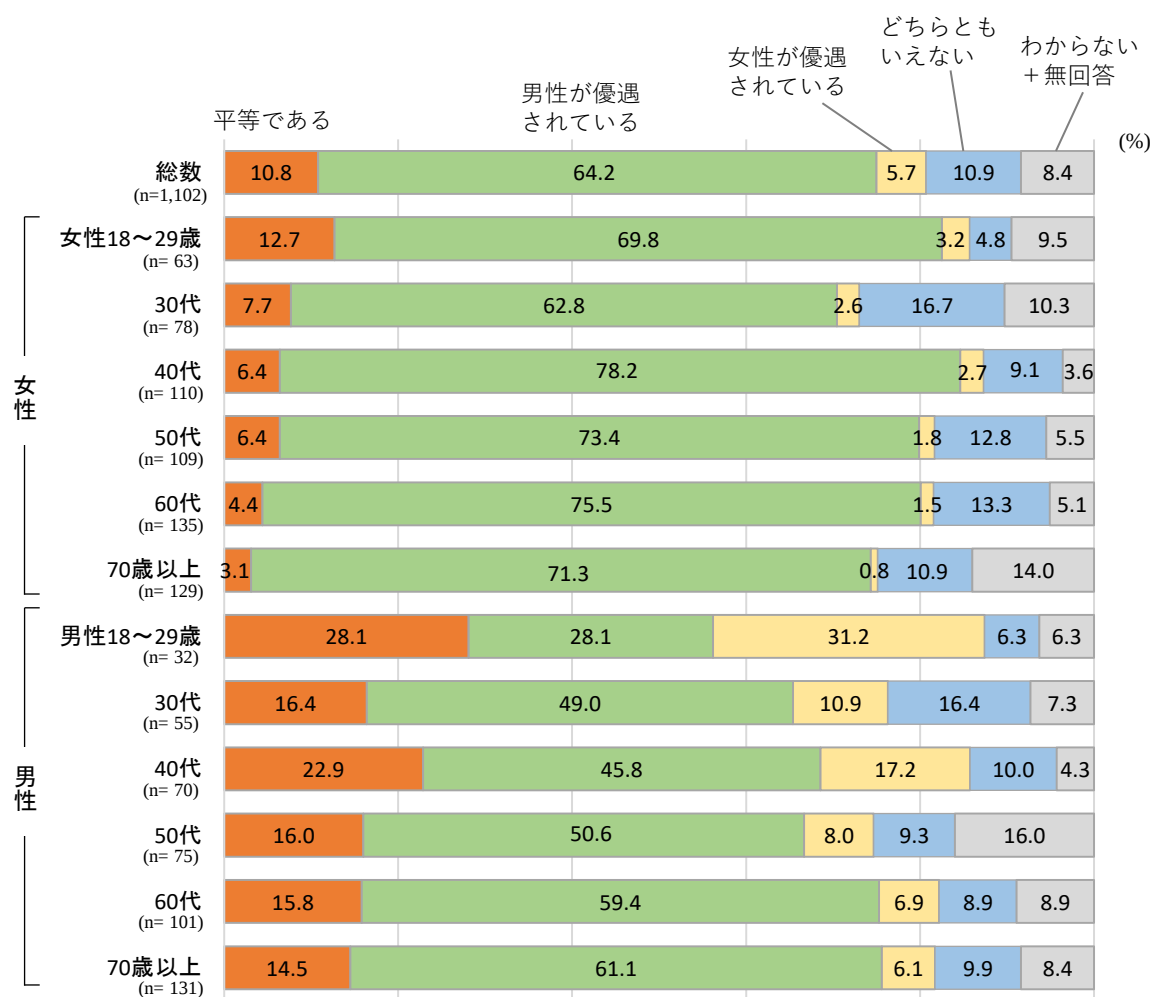
1 男女平等についての現在の状況

(g) 社会全体では

女性では、「平等である」が18～29歳（12.7％）で最も多く、70歳以上（3.1％）が最も少なく、年代が高くなるにつれて少なくなる傾向がみられる。『男性が優遇されている』は40代（78.2％）で最も多くなった。

男性では、「平等である」が18～29歳（28.1％）で最も多く、70歳以上（14.5％）が最も少ない。『男性が優遇されている』は70歳以上（61.1％）が最も多くなった。

図1－8 男女平等についての現在の状況 (g) 社会全体では(性×年代別)



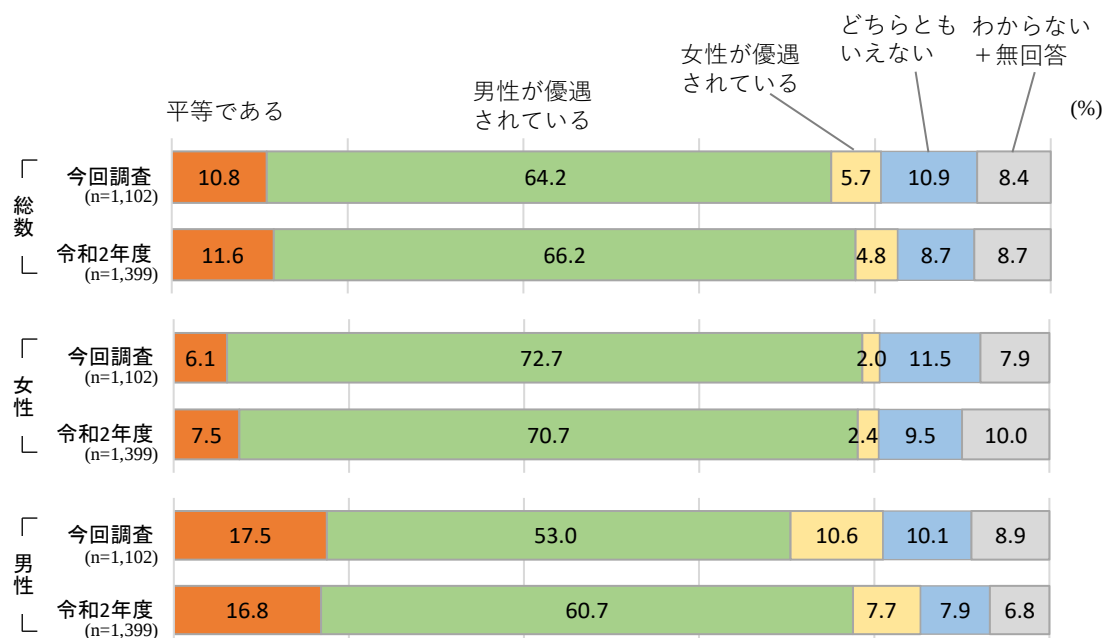
1 男女平等についての現在の状況

(g) 社会全体では 【令和2年度調査との比較】

前回調査と全体の傾向は大きくは変わっていない。

前回調査に引き続き、「平等である」と感じている割合は男性の方が多く、今回の調査でも0.7ポイント増加した。一方で、「平等である」と感じる女性の割合は今回調査では1.4ポイント減少した。

図1-9 (g) 社会全体では 【令和2年度調査との比較】



1 男女平等についての現在の状況

【令和6年度内閣府調査との比較】

内閣府が令和6年度に実施した「男女共同参画社会に関する世論調査」の結果と傾向を比較する。（但し、内閣府調査は、質問文が異なること、設問項目で一致しないものがあること、回答選択肢が「男性の方が非常に優遇されている」「どちらかといえば男性の方が優遇されている」「平等」「わからない」「どちらかといえば女性の方が優遇されている」「女性の方が非常に優遇されている」の6つであること等から厳密な比較はできない。）

“（a）家庭の中では”と“（b）職場の中では”を除き、「平等である」が総数、女性、男性ともに全国の方が比率が高い傾向にある。

図1-10 男女平等についての現在の状況 【令和6年度内閣府調査との比較】

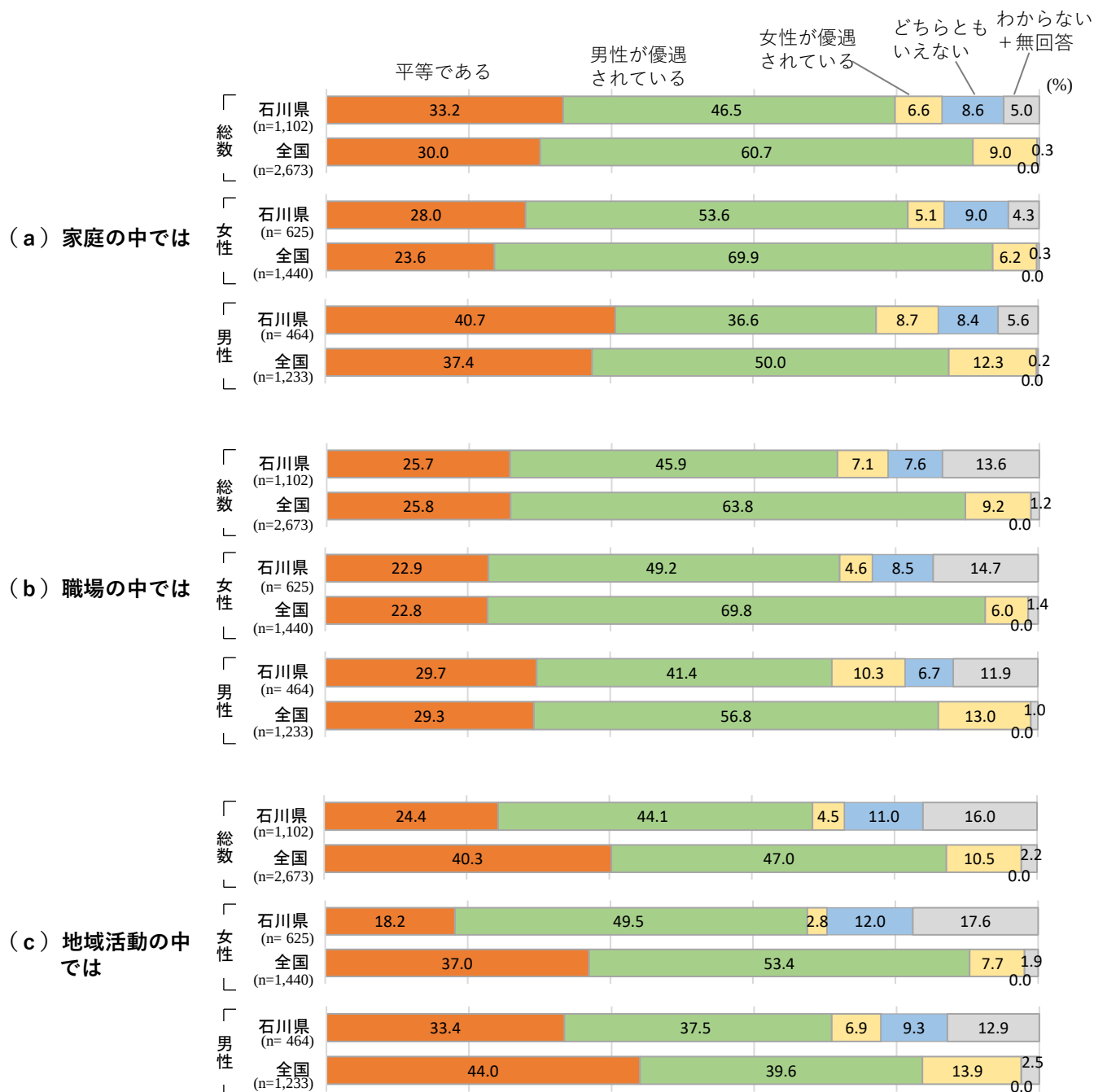
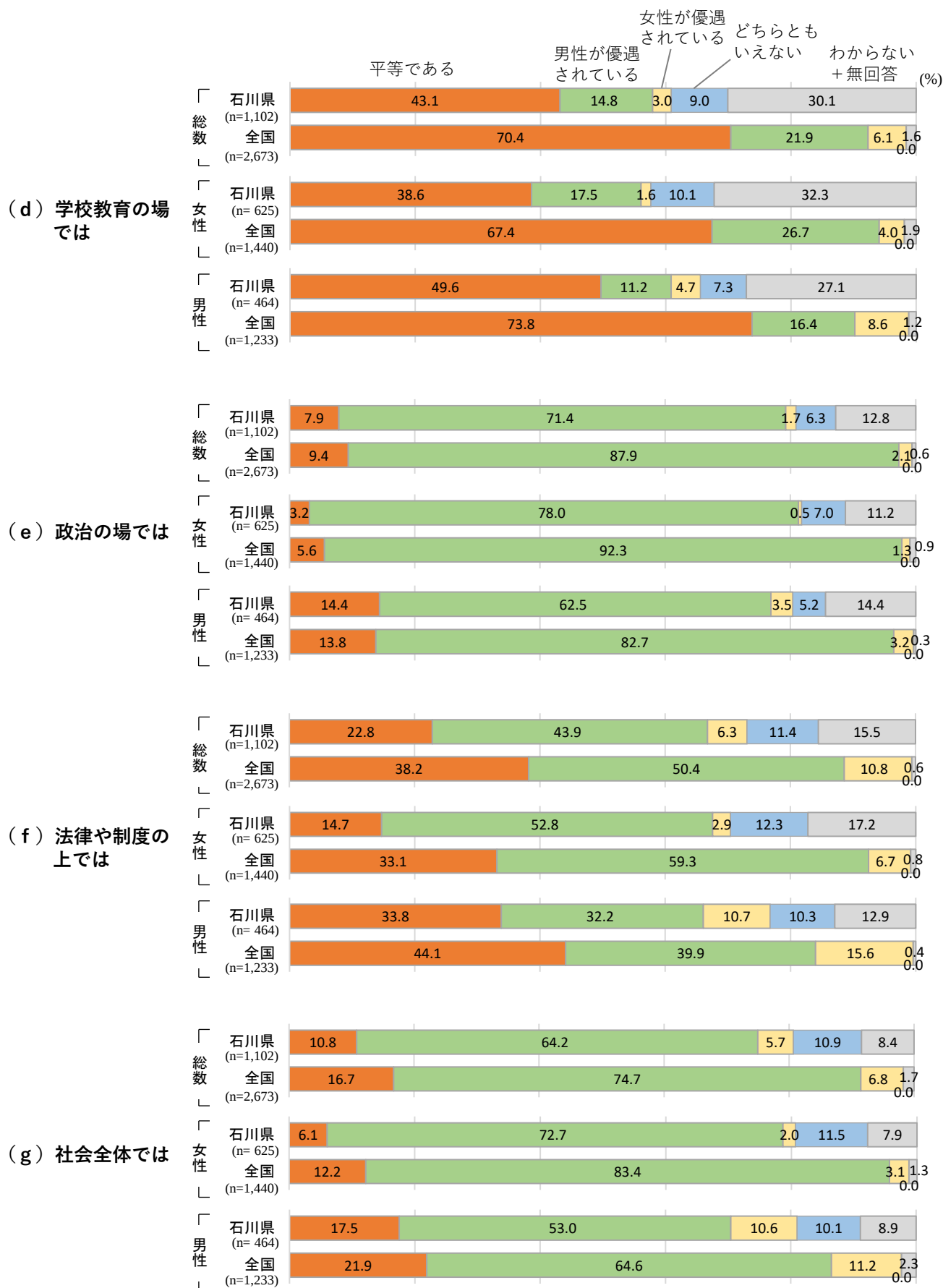


図 1－10 男女平等についての現在の状況 【令和 6 年度内閣府調査との比較】



Ⅱ 家庭生活等

1 「男は仕事、女は家庭」という考え方

問2 「男は仕事、女は家庭」という考え方について、どう思いますか。（○は1つだけ）

全体では、「賛成」（2.4%）、「やや賛成」（11.3%）を合わせて『賛成である（計）』は13.7%となっている。一方、「あまり賛成しない」（25.0%）、「賛成しない」（29.9%）を合わせた『賛成しない（計）』は54.9%となり、『賛成しない（計）』が『賛成である（計）』を41.2ポイント上回っている。「どちらともいえない」は28.0%となっている。

女性では、『賛成である（計）』は9.6%、『賛成しない（計）』は58.5%となり、『賛成しない（計）』が『賛成である（計）』を48.9ポイント上回った。

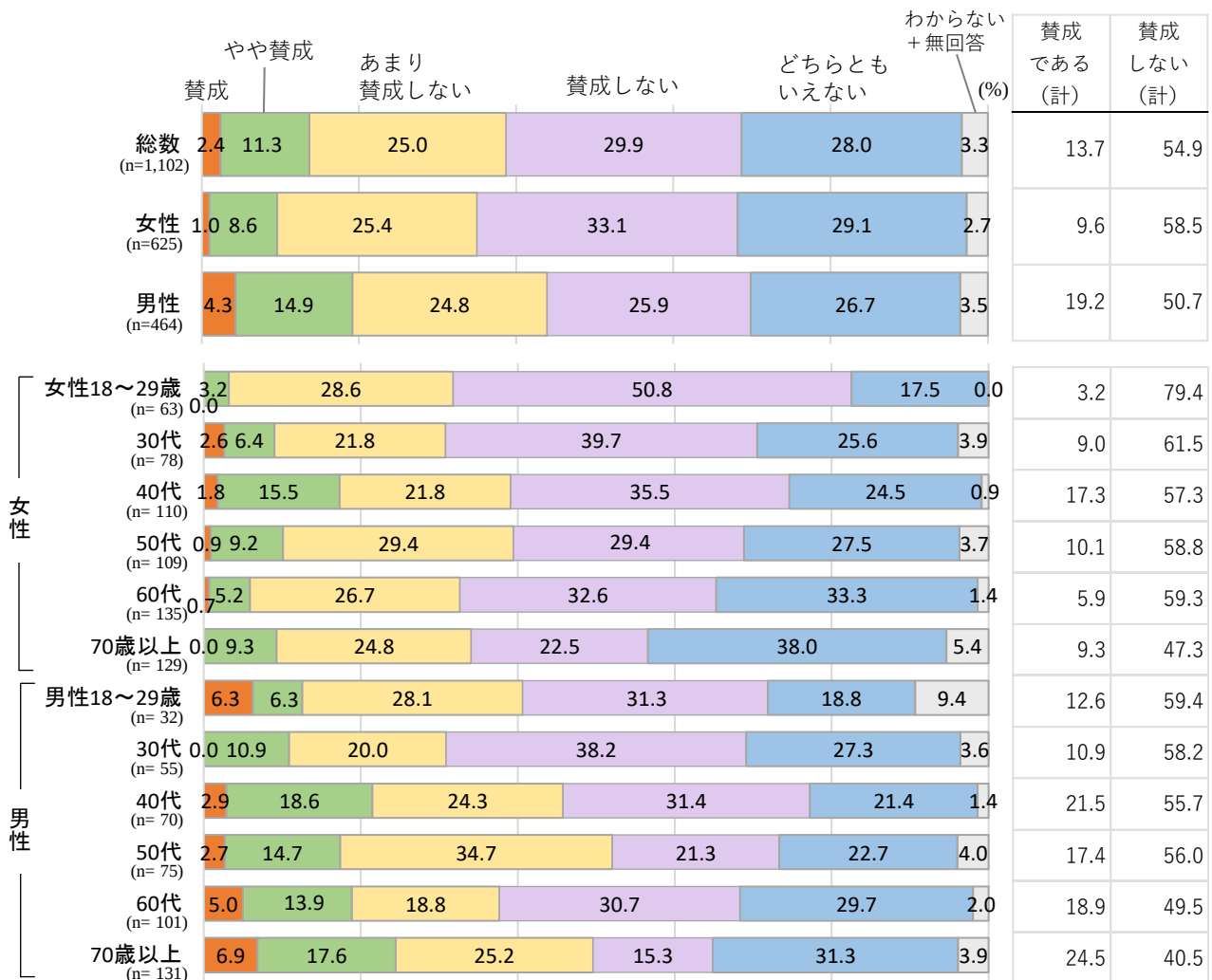
男性では、『賛成である（計）』は19.2%、『賛成しない（計）』は50.7%となり、『賛成しない（計）』が『賛成である（計）』を31.5ポイント上回っている。

【性×年代別】

女性では、全ての年代で『賛成しない（計）』が『賛成である（計）』を上回っている。18～29歳で『賛成しない（計）』（79.4%）が『賛成である（計）』（3.2%）を76.2ポイント上回っている。『賛成しない（計）』は70歳以上（47.3%）が最も少ない。

男性でも、全ての年代で『賛成しない（計）』が『賛成である（計）』を上回っている。30代で最も『賛成しない（計）』が『賛成である（計）』を大きく上回っており、47.3ポイント差となっている。

図2-1 「男は仕事、女は家庭」という考え方（性別、性×年代別）

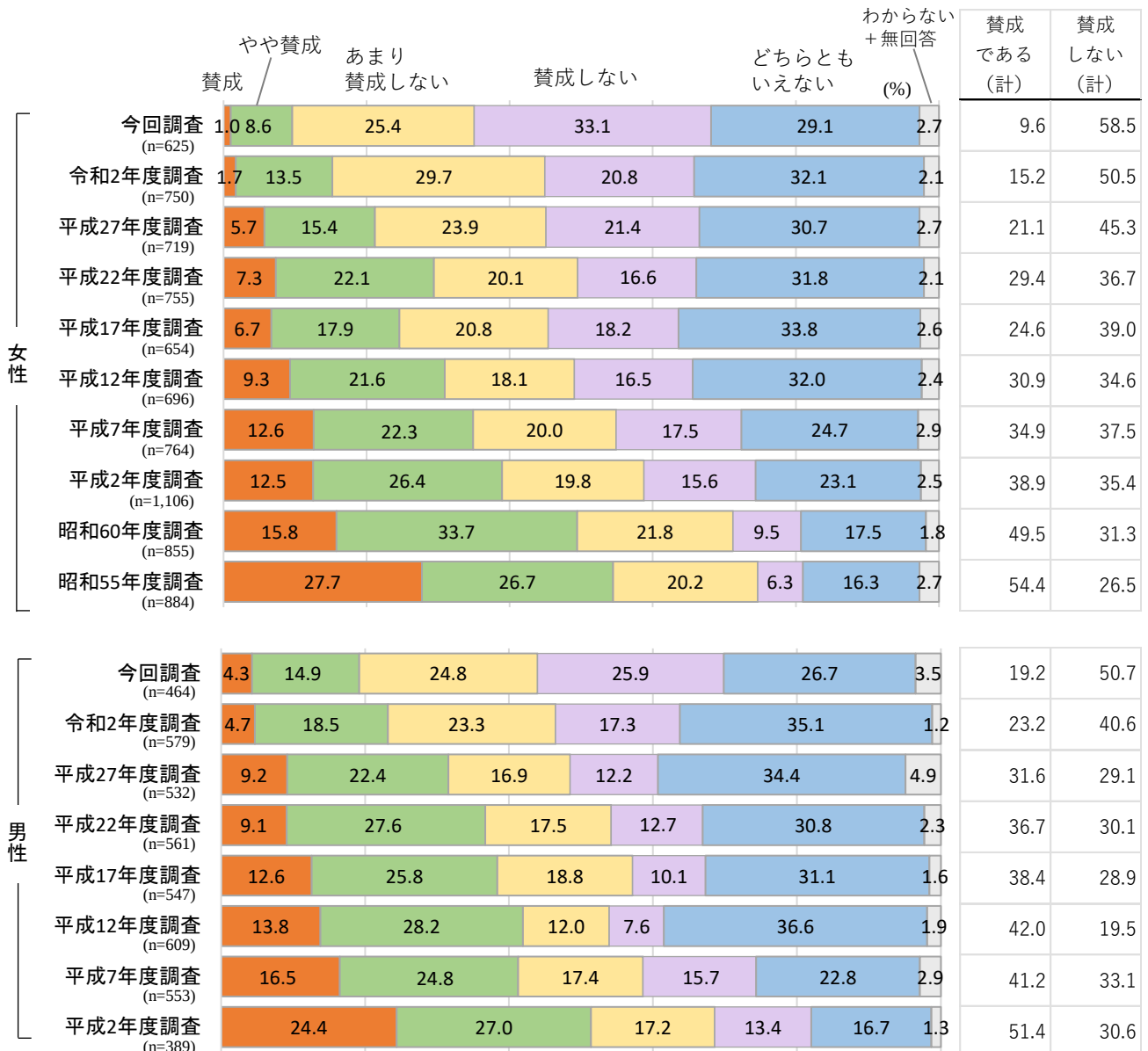


【経年比較】

過去の調査結果と比較すると、女性では、『賛成である（計）』は昭和55年度から減少傾向にあり、今回調査でも引き続き減少している。平成2年度までは、『賛成である（計）』が『賛成しない（計）』を上回っていたが、平成7年度以降は『賛成しない（計）』が『賛成である（計）』を上回り、その差は今回調査で48.9ポイントと最も大きくなった。

男性でも、『賛成である（計）』は平成12年度以降減少を続け、令和2年度調査で、初めて『賛成しない（計）』が『賛成である（計）』を上回り、その差は今回調査で31.5ポイントとさらに大きくなった。

図2-2 「男は仕事、女は家庭」という考え方 【経年比較】

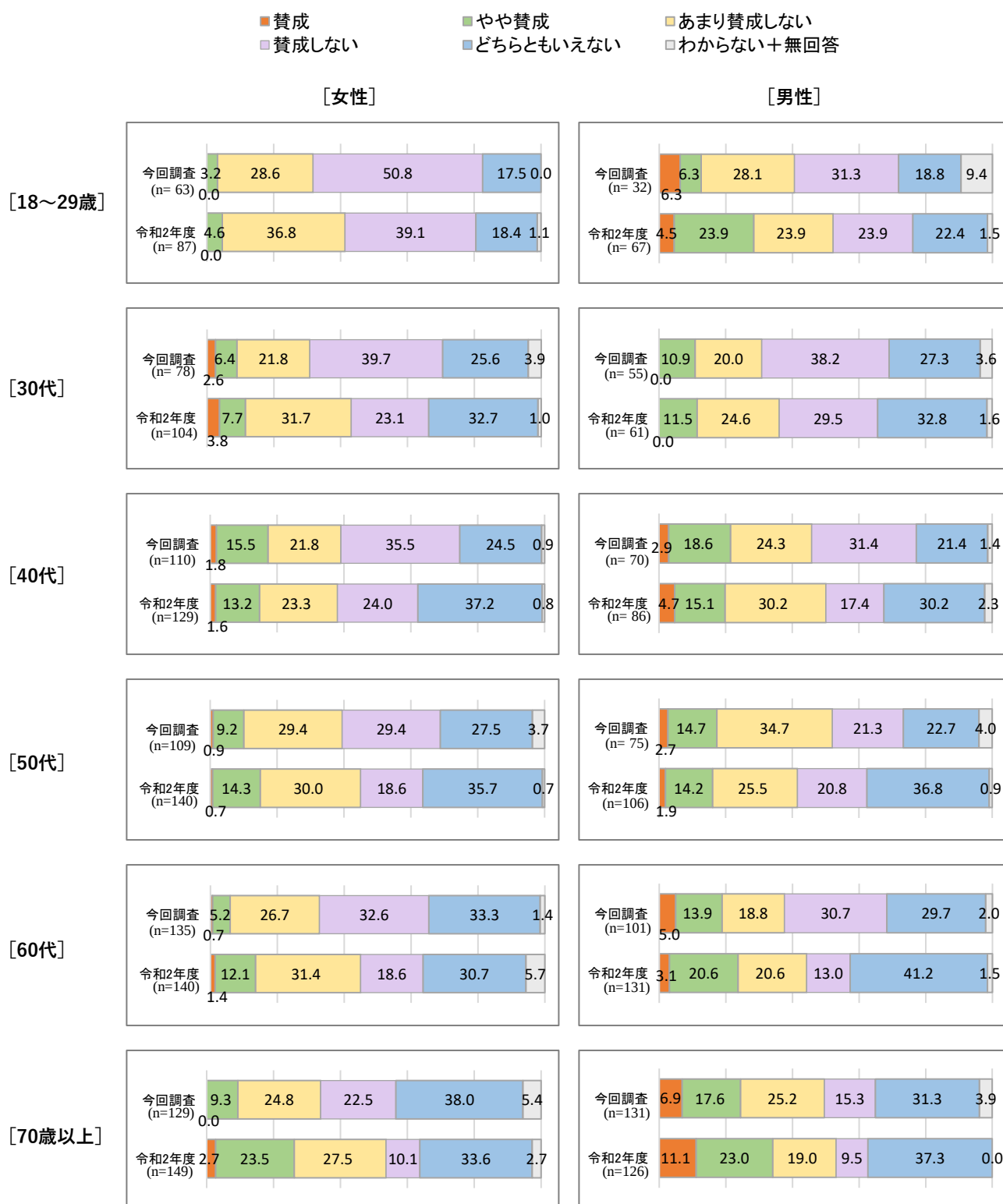


【令和２年度調査との年代別比較】

年代別に比較すると、女性では、全ての年代で『賛成しない（計）』が増加し、50代（10.2ポイント）と40代（10.0ポイント）で10ポイント以上増加した。

男性でも、全ての年代で『賛成しない（計）』が増加し、60代（15.9ポイント）、70歳以上（12.0ポイント）、18～29歳（11.6ポイント）で10ポイント以上増加した。

図２－３ 「男は仕事、女は家庭」という考え方 【令和２年度調査との性×年代別比較】



2 「男は仕事、女は家庭」という考え方に賛成する理由

問2-1 【問2で「1. 賛成」「2. やや賛成」と答えた方にお聞きます。】
 そう思うのはなぜですか。（○はいくつでも）

【性別】

「家事・育児・介護と両立しながら、女性（妻）が働き続けることは大変だから」では、男性（40.4%）より女性（71.7%）の方が31.3ポイント多くなっている。

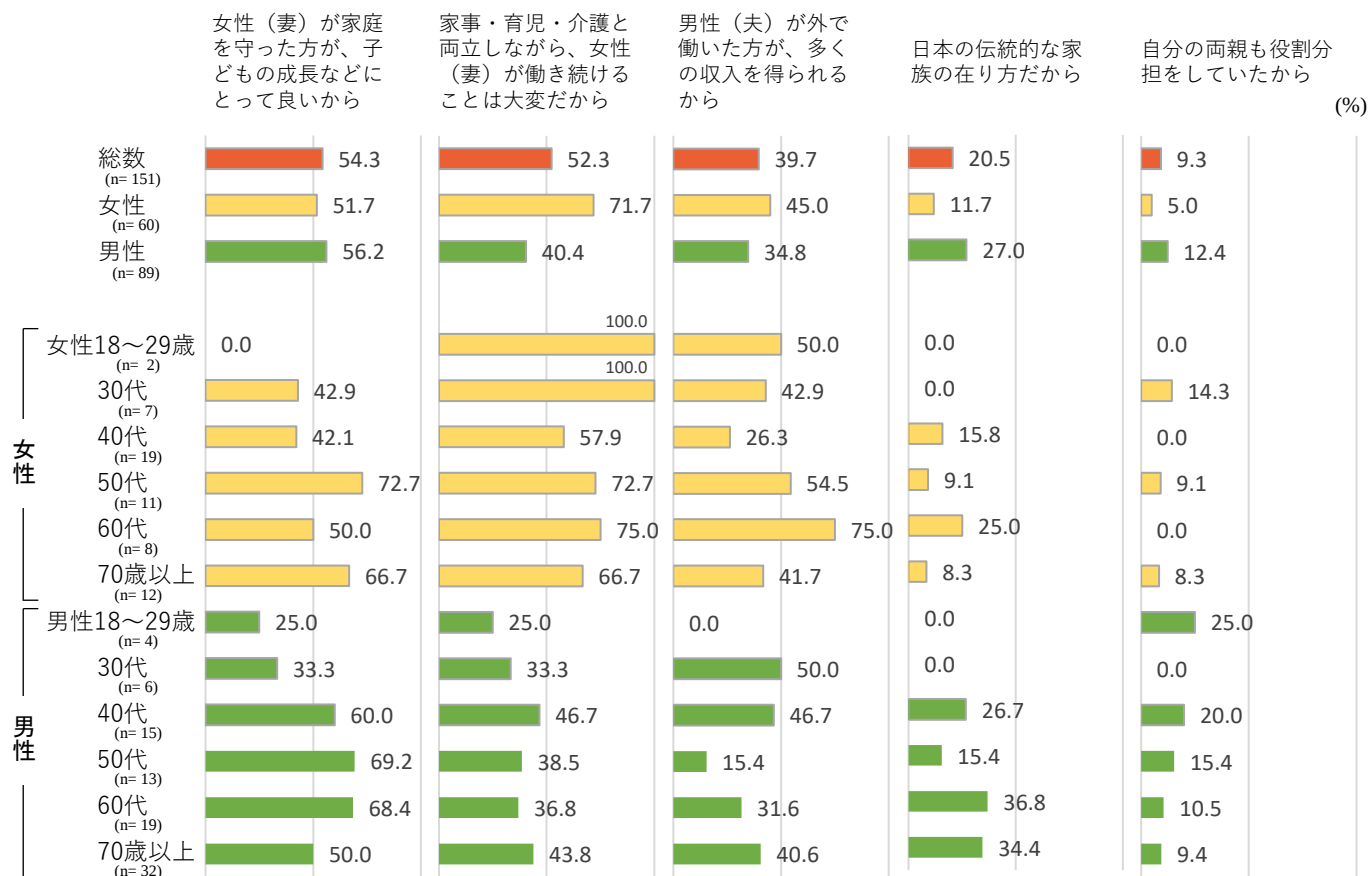
【性×年代別】

女性については、母数が10名未満の年代が多く含まれるため、年代別の傾向はコメントしない。

男性について、「女性（妻）が家庭を守った方が、子どもの成長などにとって良いから」は40代から60代で60%を超えている。

※男女の18～29歳、30代および女性の60代については、サンプル数が少ないため、参考掲載とする。

図2-1-1 「男は仕事、女は家庭」という考え方に賛成する理由（性別、性×年代別）



3 「男は仕事、女は家庭」という考え方に反対する理由

問2-2 【問2で「4. あまり賛成しない」「5. 賛成しない」と答えた方にお聞きます。】
 そう思うのはなぜですか。（○はいくつでも）

【性別】

「固定的な男性（夫）と女性（妻）の役割分担の意識を押しつけるべきではないから」が女性（77.6%）、男性（59.1%）とともに最も多く、女性の方が18.5ポイント多くなっており、男女の差としても最も大きい。

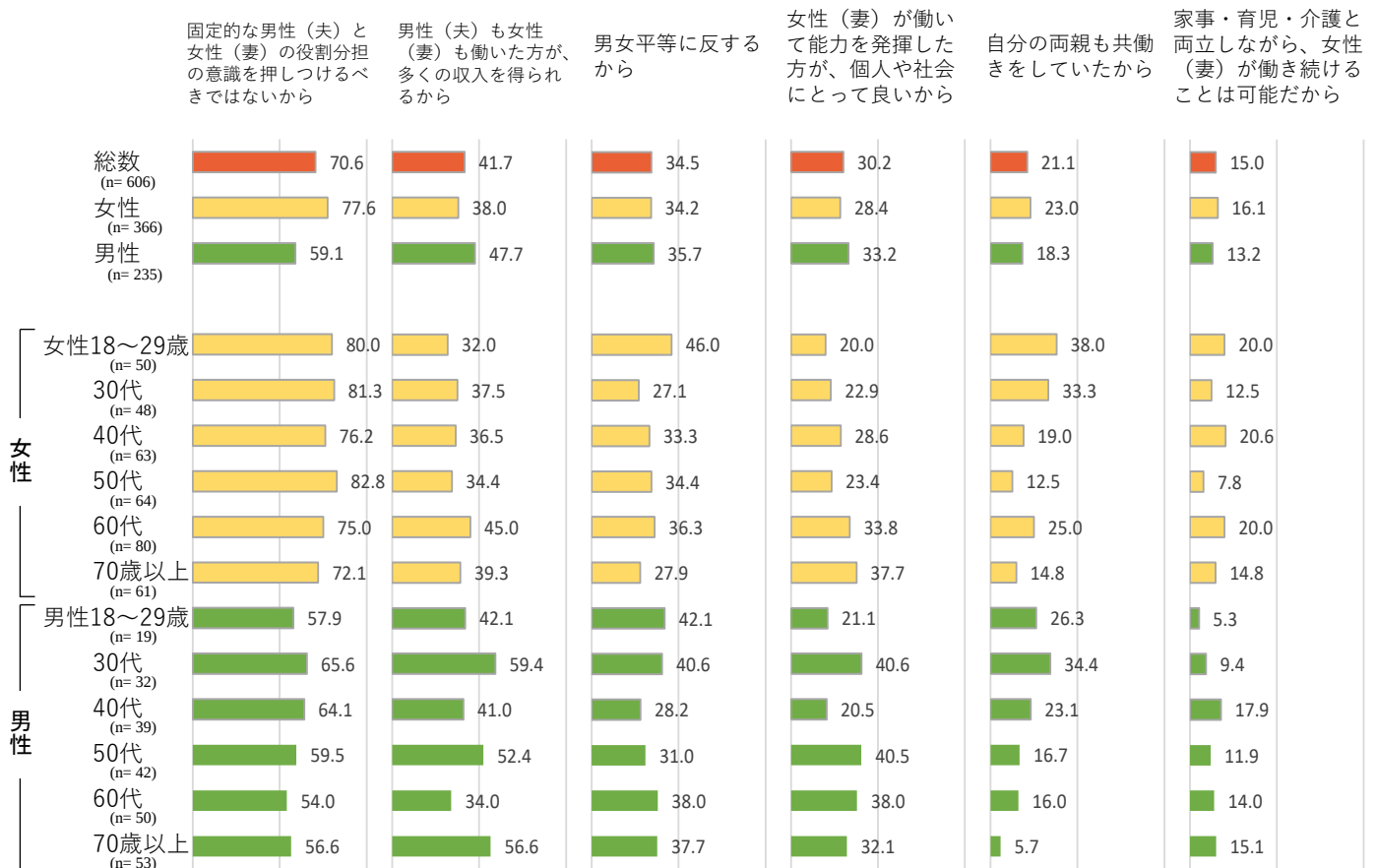
また次に男女の差が大きいのは、「男性（夫）も女性（妻）も働いた方が、多くの収入を得られるから」で、女性（38.0%）、男性（47.7%）と男性の方が9.7ポイント多くなっている。

【性×年代別】

女性では、全ての年代で「固定的な男性（夫）と女性（妻）の役割分担の意識を押しつけるべきではないから」が最も多かった。18～29歳で「男女平等に反するから」（46.0%）が他の年代より多くなっている。

男性においても、全ての年代で「固定的な男性（夫）と女性（妻）の役割分担の意識を押しつけるべきではないから」が最も多かった。18～29歳と30代で「男女平等に反するから」が4割を超え、他の年代より多くなっている。

図2-1-2 「男は仕事、女は家庭」という考え方に反対する理由（性別、性×年代別） (%)



4 男性が家事・育児を行うことのイメージ

問3 あなたは、男性が家事・育児を行うことについて、どのようなイメージをお持ちですか。
(○はいくつでも)

全体では、「男性も家事・育児を行うことは、当然である」(65.5%)が最も多く、次いで「子どもに良い影響を与える」(56.4%)が続いている。他は半数を下回っている。

男女とも「男性も家事・育児を行うことは、当然である」(女性69.9%、男性60.3%)が最も多く、次いで「子どもに良い影響を与える」(女性65.3%、男性44.6%)が続いている。

男女の差が大きいものとしては、「子どもに良い影響を与える」(20.7ポイント差)、「家事・育児を行う男性は、時間の使い方が効率的で、仕事もできる」(10.0ポイント差)が女性のポイントが高い一方で、「家事・育児は、男性よりも女性の方が向いている」(10.7ポイント差)は男性のポイントが高くなっている。

【性×年代別】

女性では、「男性も家事・育児を行うことは、当然である」は18～29歳(87.3%)、30代(78.2%)、50代(74.3%)で最も多く、「子どもに良い影響を与える」は60代(71.9%)、70歳以上(61.2%)で最も多い。(40代は同率68.2%で最も多い)

男性では、「男性も家事・育児を行うことは、当然である」がいずれの年代でも最も多くなっている。

図3-1 男性が家事・育児を行うことのイメージ 項目別一覧(性別)

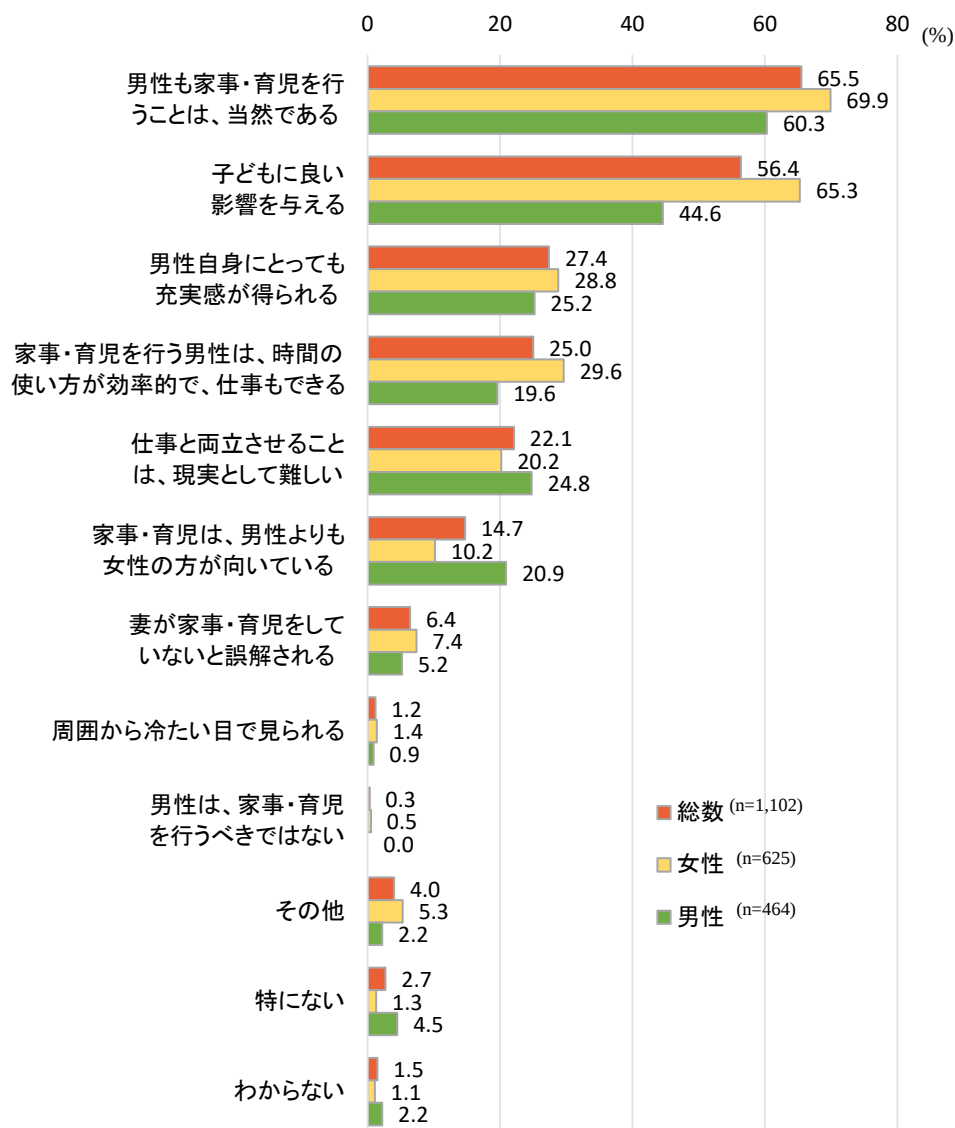
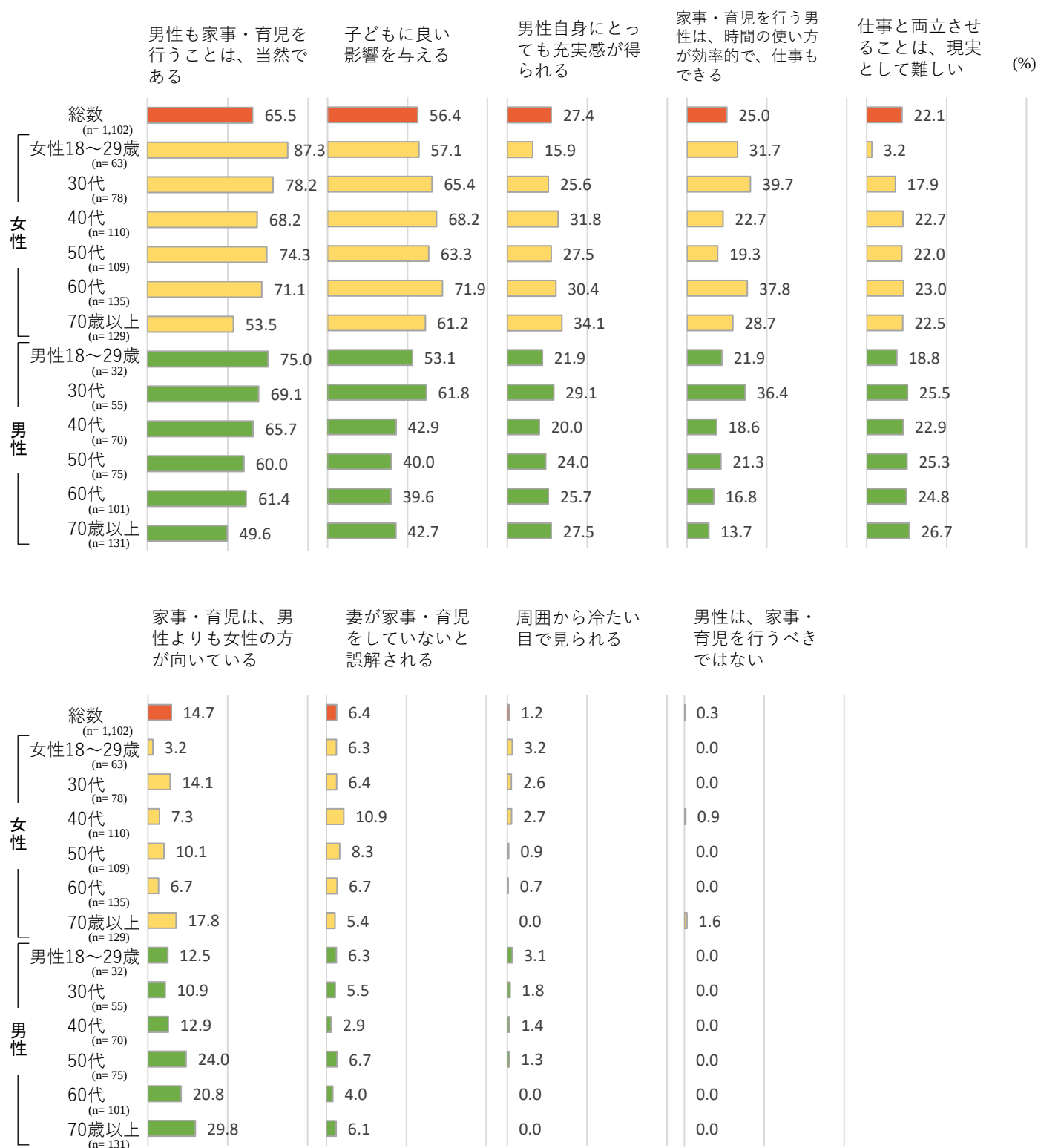


図3-2 男性が家事・育児を行うことのイメージ 項目別一覧（性×年代別）



5 男性が家事、子育て、介護、地域活動に参加するために必要なこと

問4 今後、男性が家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくためにはどのようなことが必要だと思いますか。（〇はいくつでも）

全体では、「育児・介護のための休暇を取得しやすい職場環境が整備されること」（63.2%）が最も多く、次いで、「夫婦や家族間で家事・育児などの分担について、十分に話し合うこと」（59.7%）、「男性が家事・育児などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」（57.5%）が続いている。

男女の差は「年配者やまわりの人が、夫婦の役割分担などについての当事者の考え方を尊重すること」が最も大きく、女性の方が20.8ポイント多くなっている。

【性×年代別】

女性では、「育児・介護のための休暇を取得しやすい職場環境が整備されること」は50代を除き、すべての年代で最も多い。50代では「男性が家事・育児などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」が最も多い。

男性では、「育児・介護のための休暇を取得しやすい職場環境が整備されること」は40代（61.4%）、70歳以上（60.3%）、18～29歳（59.4%）で最も多く、「夫婦や家族間で家事・育児などの分担について、十分に話し合うこと」は60代（60.4%）、30代（54.5%）、50代（49.3%）で最も多い。

図4－1 男性が家事、子育て、介護、地域活動に参加するために必要なこと 項目別一覧（性別）

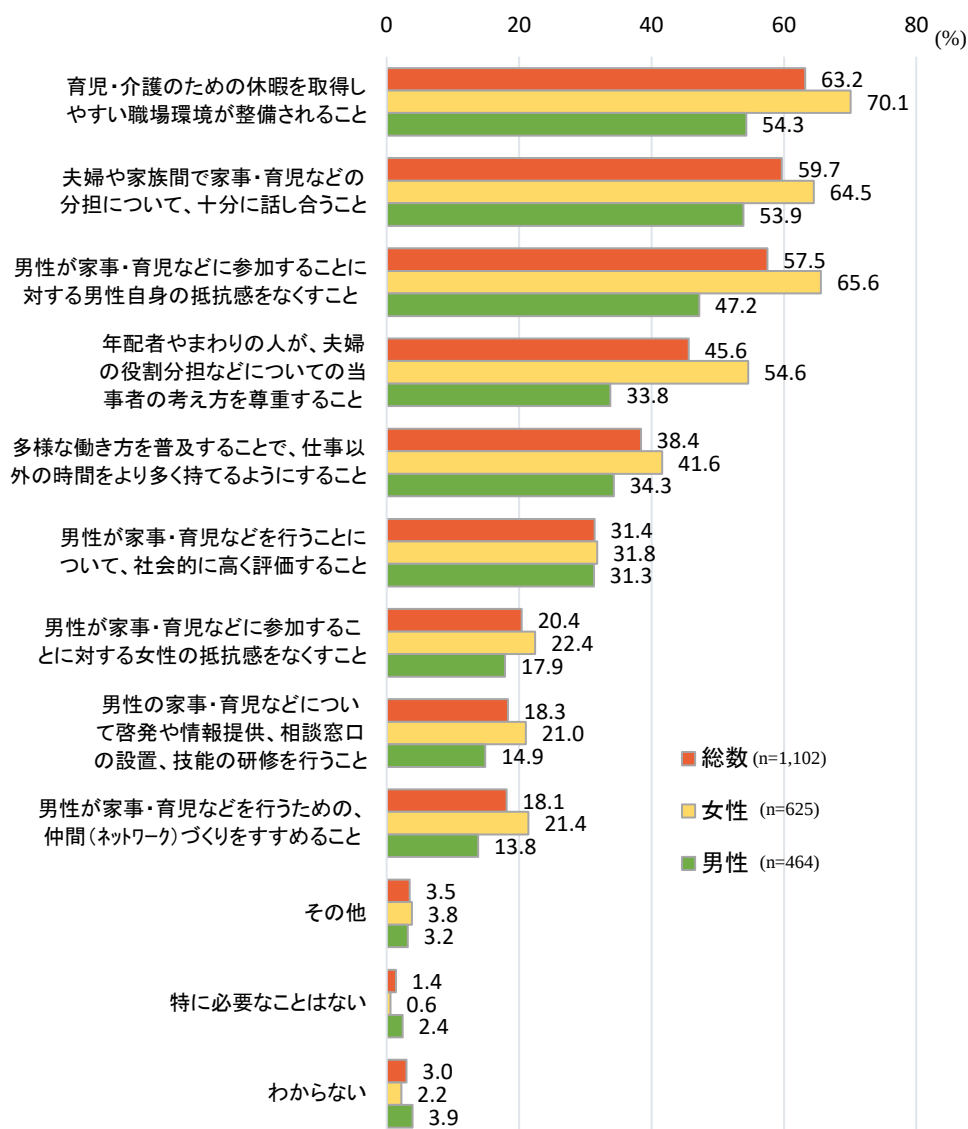
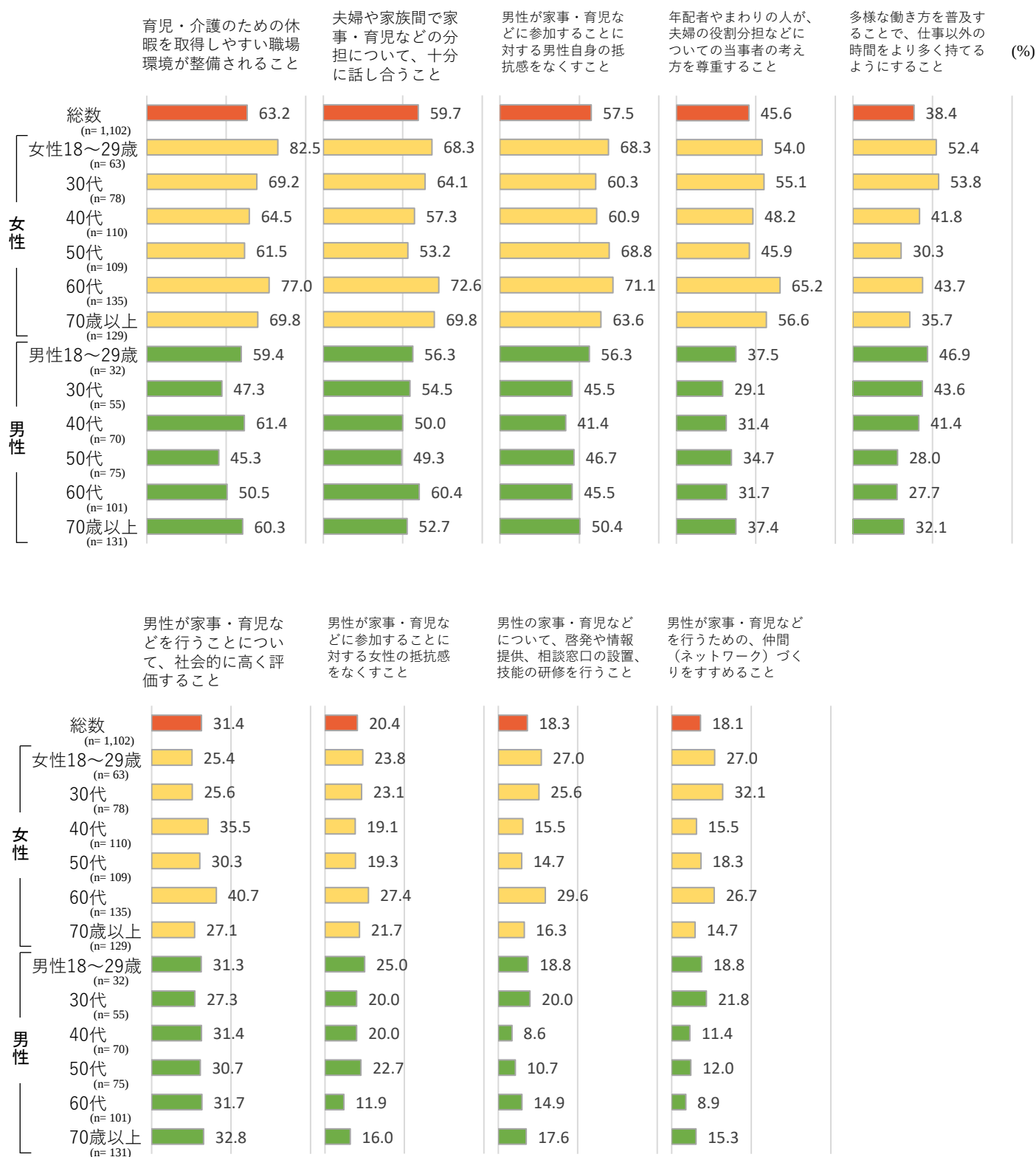


図4-2 男性が家事、子育て、介護、地域活動に参加するために必要なこと 項目別一覧（性×年代別）



6 親の介護における役割分担

問5 あなたは、親が介護を要する状態となった場合、あなたと配偶者でどのように分担したい（したかった）と思いますか。訪問介護など外部サービスの利用も含め、自分の親の介護、配偶者の親の介護、それぞれについて、あなたの考えに最も近いものの番号に1つつ〇をつけてください。なお、配偶者のいない方も、配偶者がいることを想定してお答えください。（〇はそれぞれ1つ）

（a）自分の親の介護

全体では、「外部サービスを利用しながら、自分の方が配偶者より多く分担」（37.1%）が最も多くなっている。

「外部サービスを利用しながら、自分の方が配偶者より多く分担」（女性44.0%、男性27.8%）が女性で最も多く、「外部サービスを利用しながら、自分と配偶者で半分ずつ分担」（女性19.7%、男性36.4%）が男性で最も多い。

【性×年代別】

女性では、「外部サービスを利用しながら、自分の方が配偶者より多く分担」は全ての年代で最も多くなっており、50代（56.9%）で5割を超えている。

男性では、「外部サービスを利用しながら、自分と配偶者で半分ずつ分担」が40代より上の年代で、30代以下の年代では「外部サービスを利用しながら、自分の方が配偶者より多く分担」が最も多い。

図5－1 親の介護における役割分担 （a）自分の親の介護（性別）

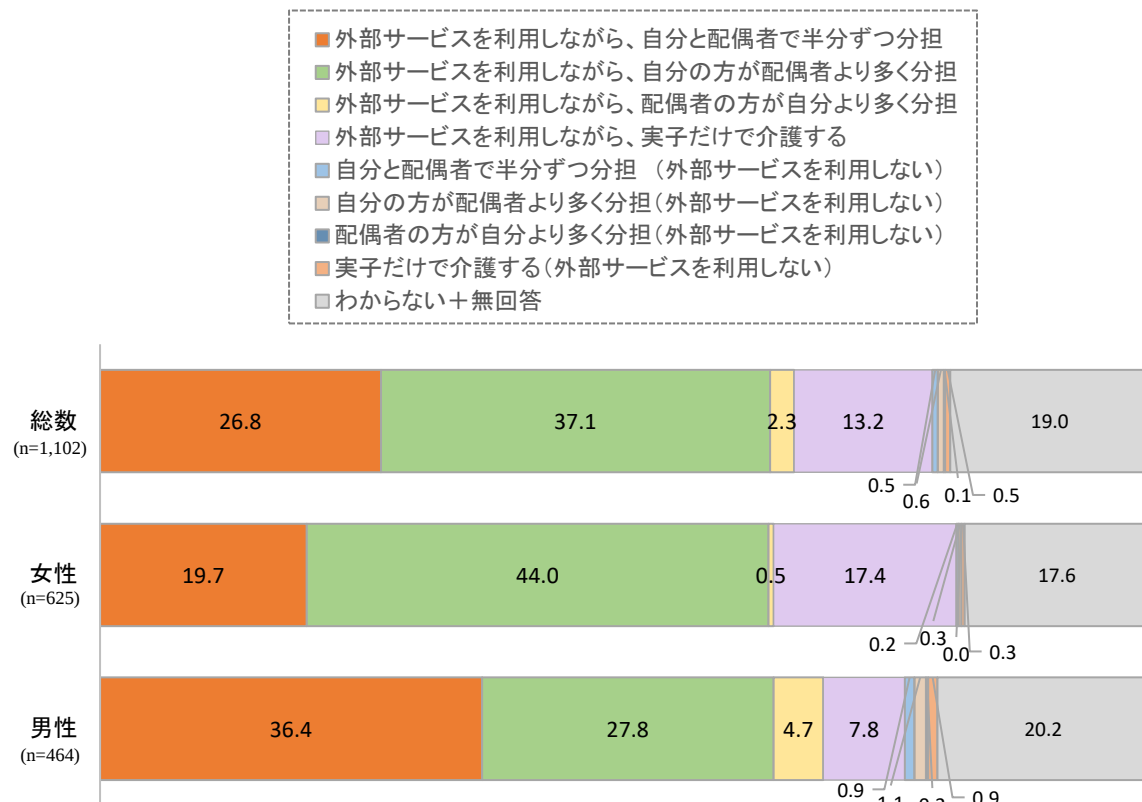
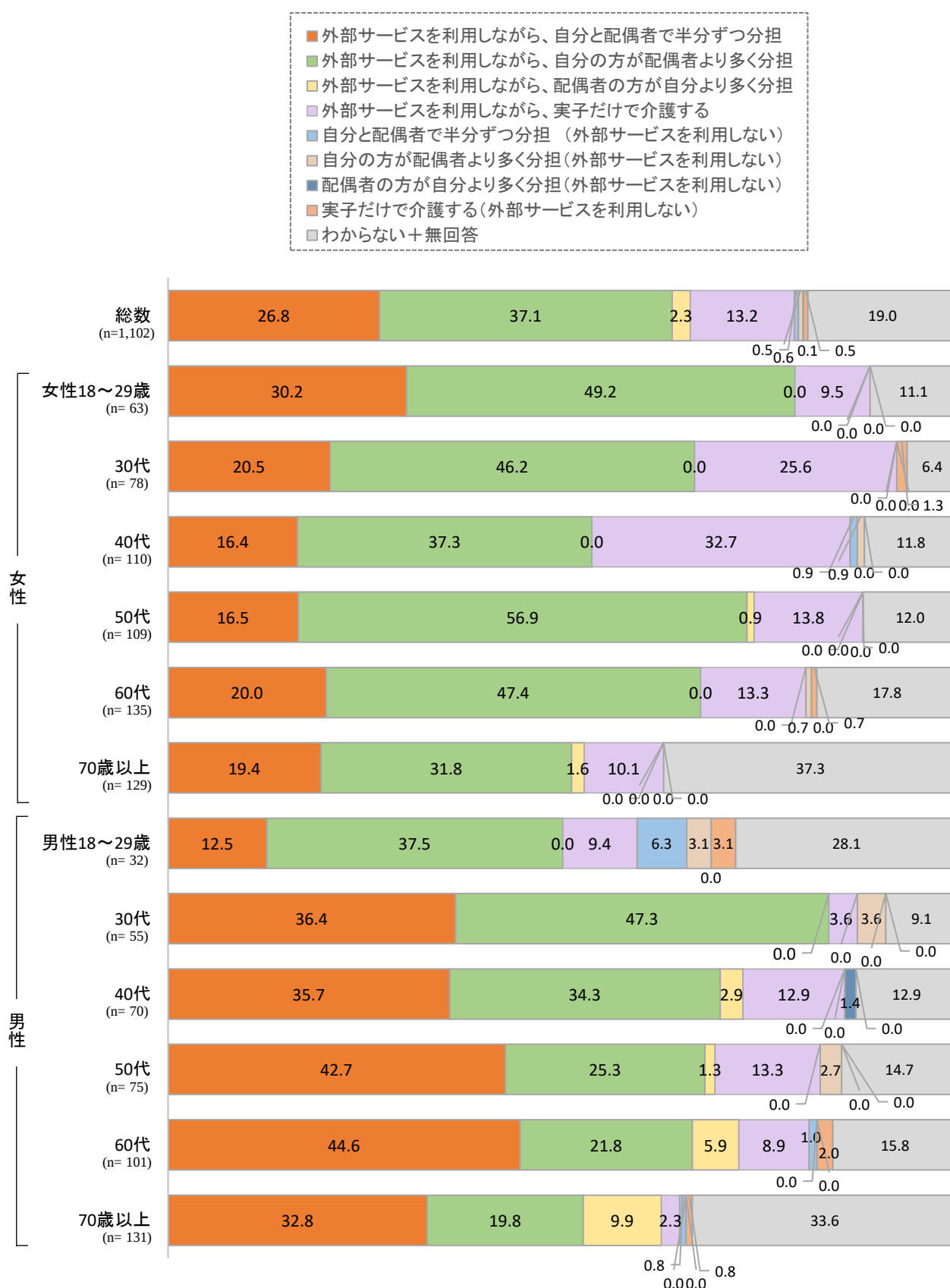


図5-2 親の介護における役割分担 (a) 自分の親の介護(性×年代別)



(b) 配偶者の親の介護

全体では、「外部サービスを利用しながら、自分と配偶者で半分ずつ分担」(33.4%)が最も多くなっている。

「外部サービスを利用しながら、自分と配偶者で半分ずつ分担」(女性36.3%、男性29.7%)が女性で最も多く、「外部サービスを利用しながら、配偶者の方が自分より多く分担」(女性24.5%、男性30.2%)が男性で最も多い。

【性×年代別】

女性では、「外部サービスを利用しながら、自分と配偶者で半分ずつ分担」は全ての年代でも最も多くなっている。

男性では、「外部サービスを利用しながら、配偶者の方が自分より多く分担」は18~29歳、40代、60代、70歳以上で、「外部サービスを利用しながら、自分と配偶者で半分ずつ分担」は30代と50代で最も多くなっている。

図5-3 親の介護における役割分担 (b) 配偶者の親の介護(性別)

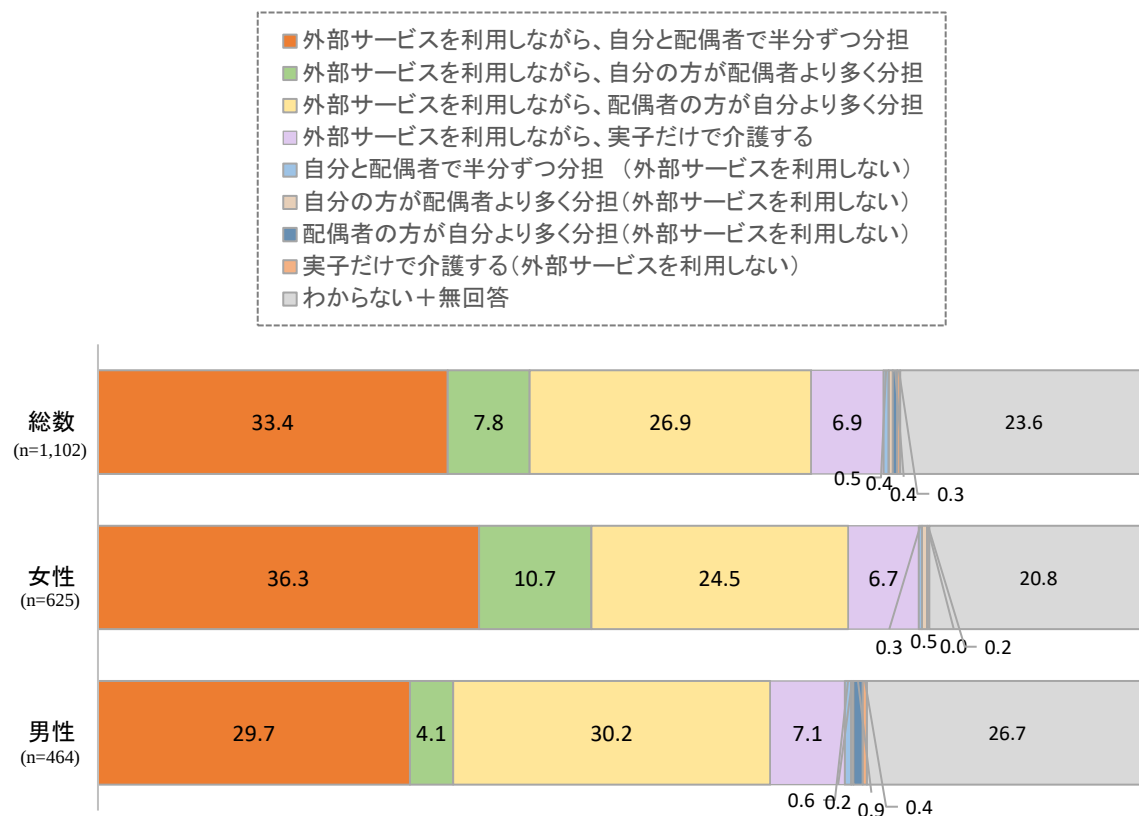
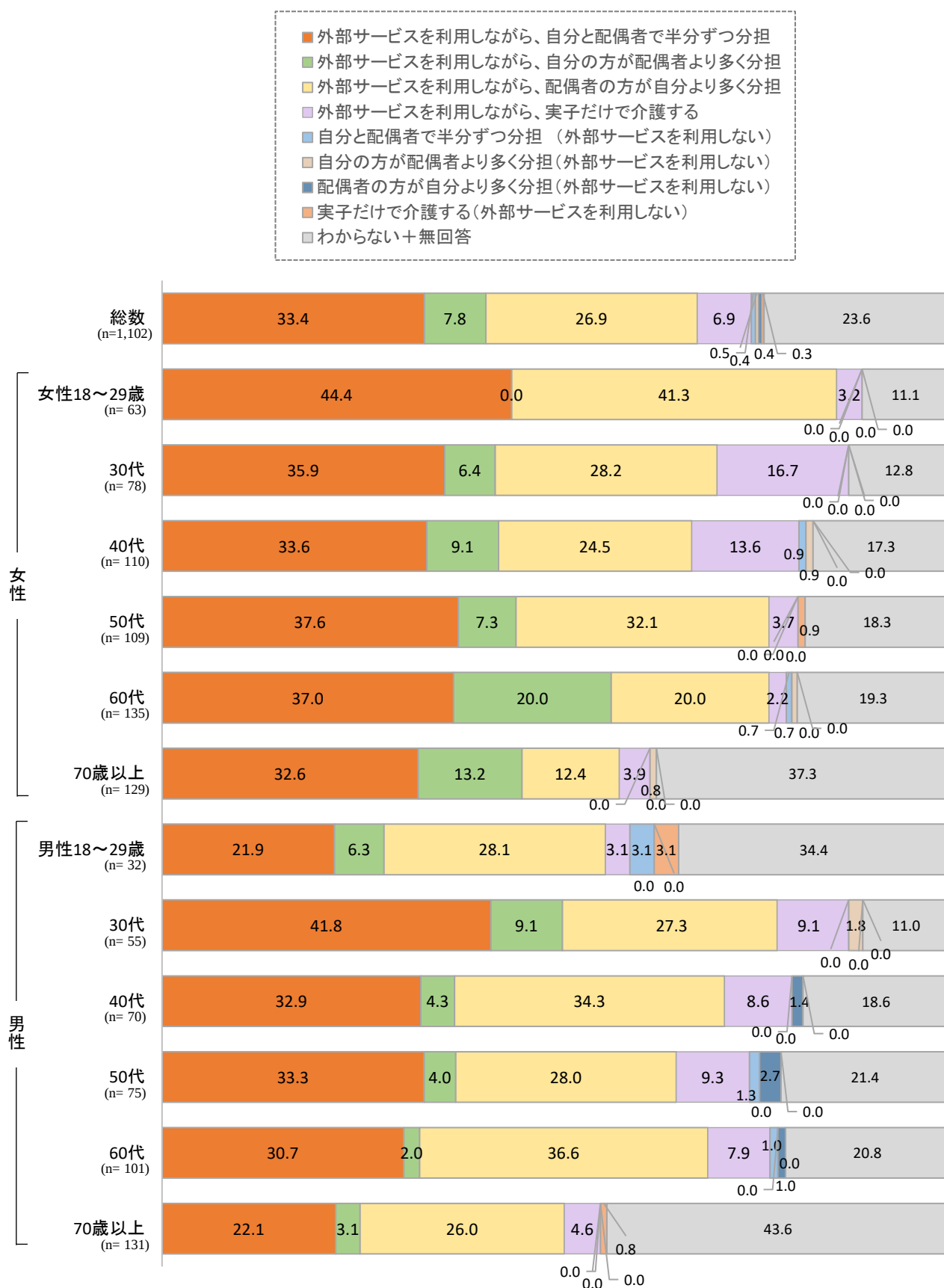


図5－4 親の介護における役割分担 (b) 配偶者の親の介護 (性×年代別)



Ⅲ 職業

1 職場での男女平等について

（現在、仕事〔収入を得る仕事〕をしている方にお聞きします。）

問 6 あなたの職場では、次にあげる(a)～(f)それぞれの面で男女平等になっていると思いますか。
あなたの考えに近いものの番号に1つずつ○をつけてください。(○はそれぞれ1つ)

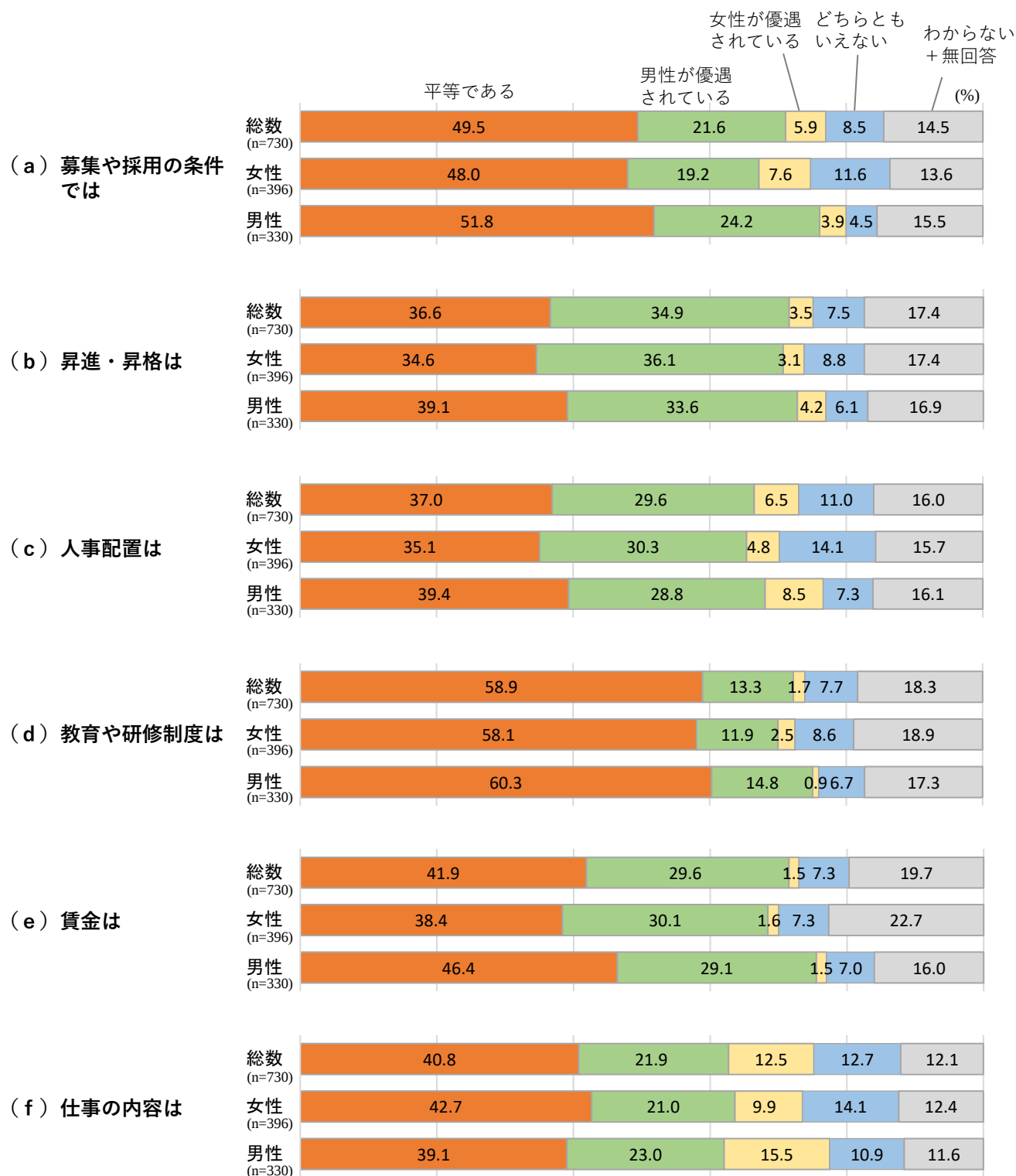
男女とも「平等である」と回答した人が最も多いのは、“(d) 教育や研修制度は”（女性 58.1%、男性60.3%）となっている。

一方、最も少ないのは、女性では“(b) 昇進・昇格は”（34.6%）、男性では“(b) 昇進・昇格は”と“(f) 仕事の内容は”（ともに39.1%）となっている。

『男性が優遇されている』については、男女とも“(b) 昇進・昇格は”（女性36.1%、男性33.6%）が最も多い。

『女性が優遇されている』については、男女とも“(f) 仕事の内容は”（女性9.9%、男性15.5%）が最も多い。

図 6 - 1 職場での男女平等について（性別）



※『男性が優遇されている』は、調査票選択肢の「男性が優遇されている」と「どちらかといえば男性が優遇されている」を合計したもの。
『女性が優遇されている』は、調査票選択肢の「女性が優遇されている」と「どちらかといえば女性が優遇されている」を合計したもの。

2 女性が管理職に昇進することについて

問7 女性が管理職に昇進することについて、どう思いますか。（○は1つだけ）

男女とも『賛成である（計）』（女性84.4%、男性73.3%）が『賛成しない（計）』（女性2.3%、男性3.9%）を上回っている。

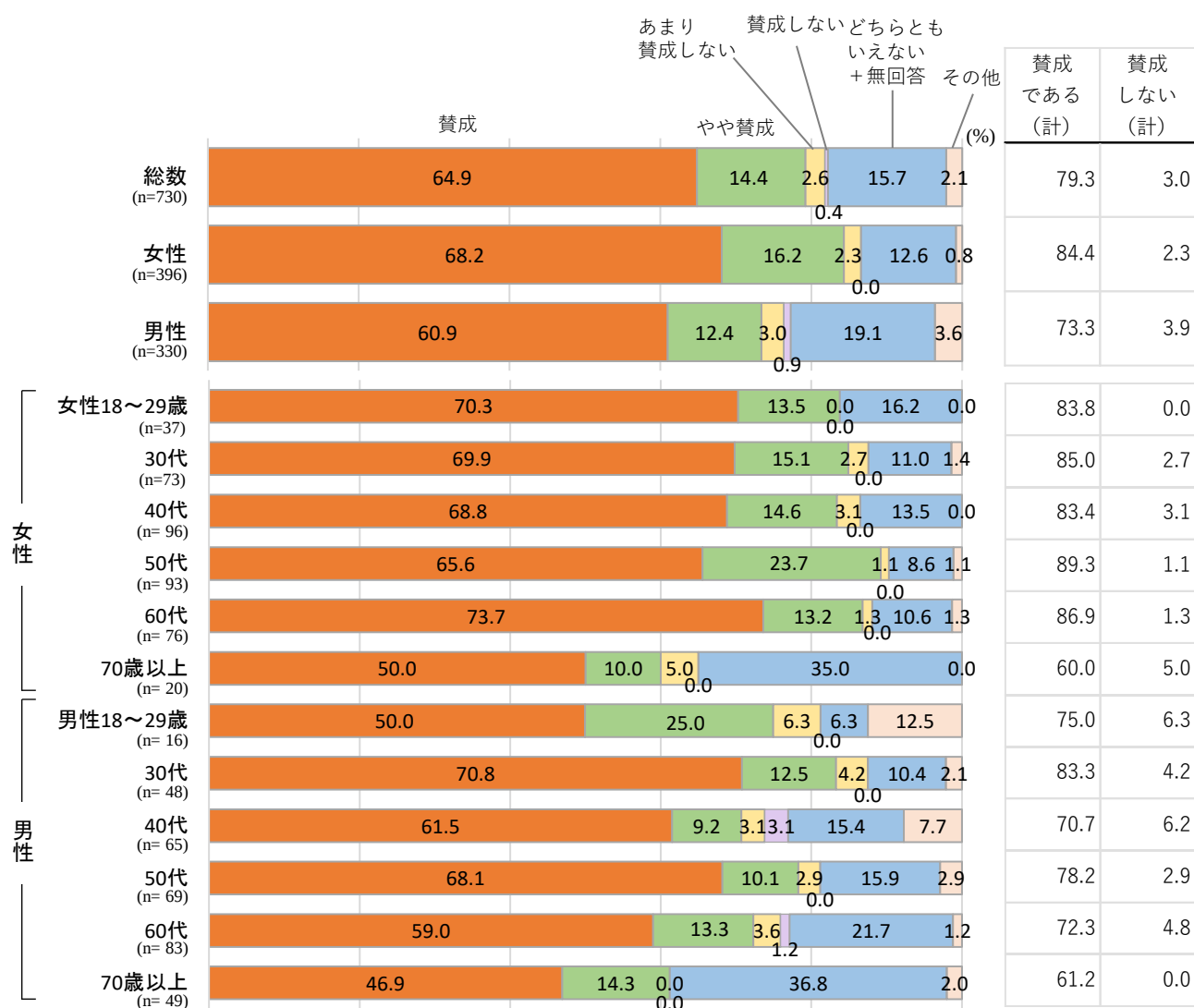
『賛成である（計）』は女性の方が男性より11.1ポイント多く、『賛成しない（計）』は男性の方が女性より1.6ポイント多くなっている。

【性×年代別】

女性で『賛成である（計）』が最も多いのは、50代（89.3%）で、次いで60代（86.9%）と続き、70歳以上（60.0%）が最も少ない。

男性で『賛成である（計）』が最も多いのは、30代（83.3%）で、次いで50代（78.2%）と続き、70歳以上（61.2%）が最も少ない。

図7-1 女性が管理職に昇進することについて（性別、性×年代別）



※『賛成である（計）』は調査票選択肢の「賛成」と「やや賛成」を合計したもの。
『賛成しない（計）』は「賛成しない」と「あまり賛成しない」を合計したもの。

3 管理職・議員等への就任・立候補を打診された場合の意欲

問8 あなたは、次の(a)～(c)の役職について就任を打診された場合、引き受けますか。

(a) 職場の管理職や役員

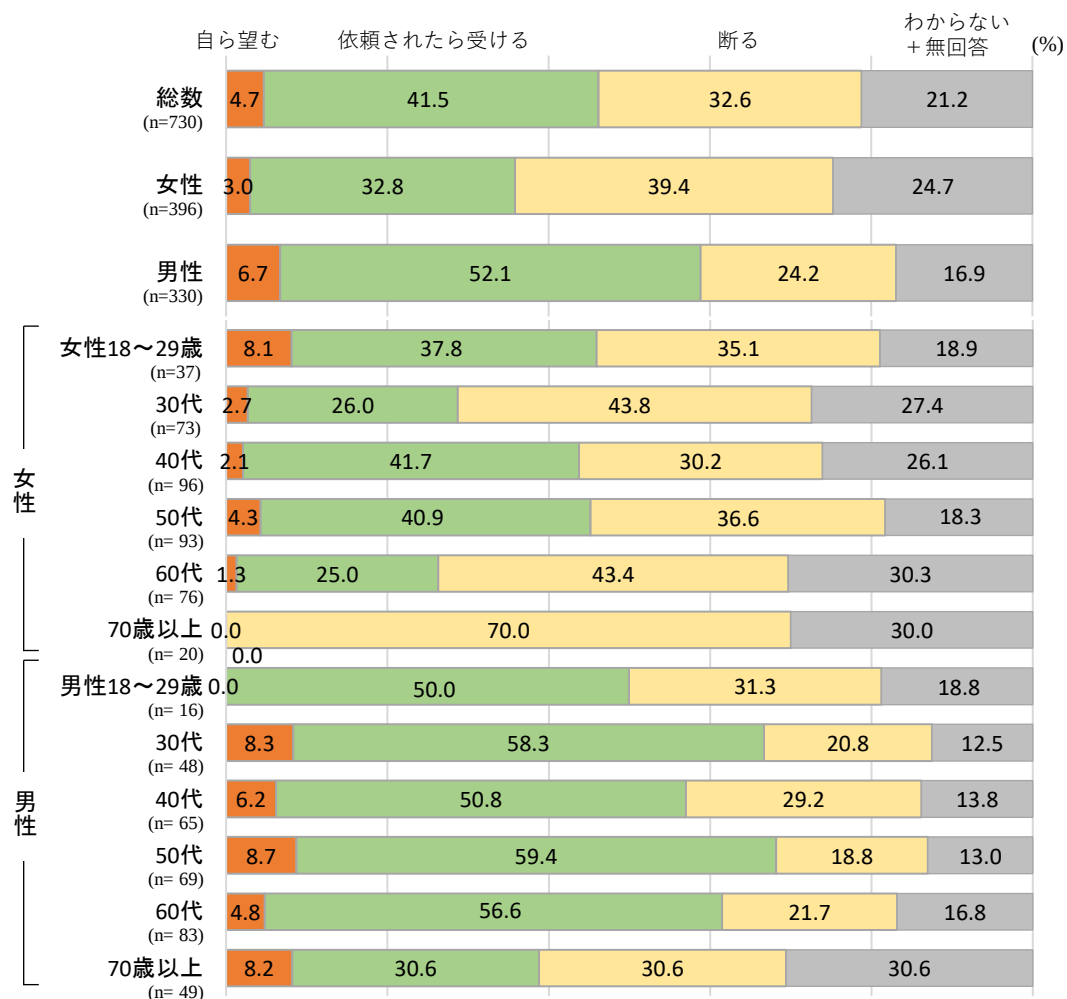
女性では「断る」(39.4%)が最も多く、男性では「依頼されたら受ける」(52.1%)が最も多い。

【性×年代別】

女性で「断る」と回答した割合が最も多いのは、70歳以上(70.0%)、次いで30代(43.8%)、60代(43.4%)と続き、40代(30.2%)が最も少ない。

男性で「断る」と回答した割合が最も多いのは、18～29歳(31.3%)で、次いで、70歳以上(30.6%)、40代(29.2%)と続き、50代(18.8%)が最も少ない。

図8-1 打診された場合の意欲 (a) 職場の管理職や役員(性別、性×年代別)



(b) 自治会長、町内会長

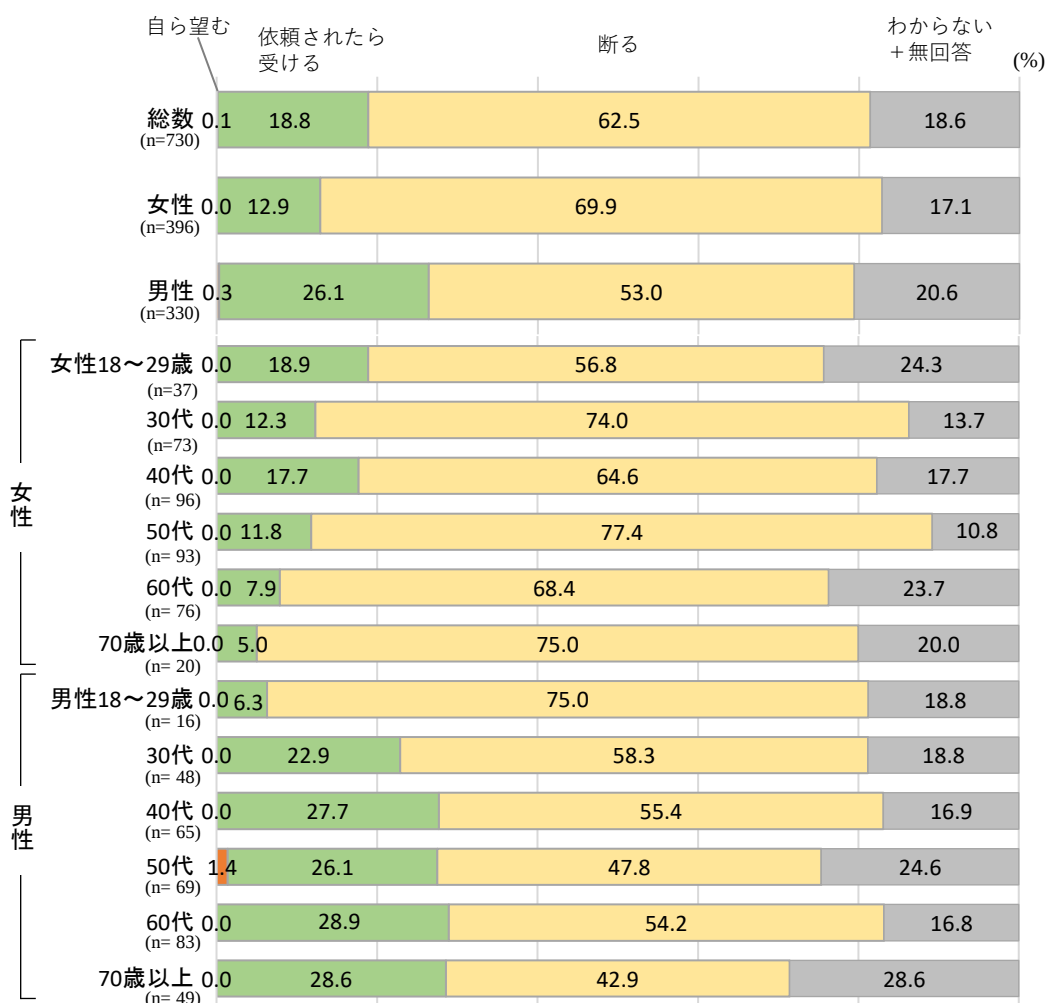
男女とも「断る」（女性69.9%、男性53.0%）が最も多い。

【性×年代別】

女性で「断る」と回答した割合が最も多いのは、50代（77.4%）、次いで70歳以上（75.0%）、30代（74.0%）と続き、18～29歳（56.8%）が最も少ない。

男性で「断る」と回答した割合が最も多いのは、18～29歳（75.0%）、次いで30代（58.3%）、40代（55.4%）と続き、70歳以上（42.9%）が最も少ない。

図8-2 打診された場合の意欲 (b) 自治会長、町内会長（性別、性×年代別）



(c) 議員や自治体の首長

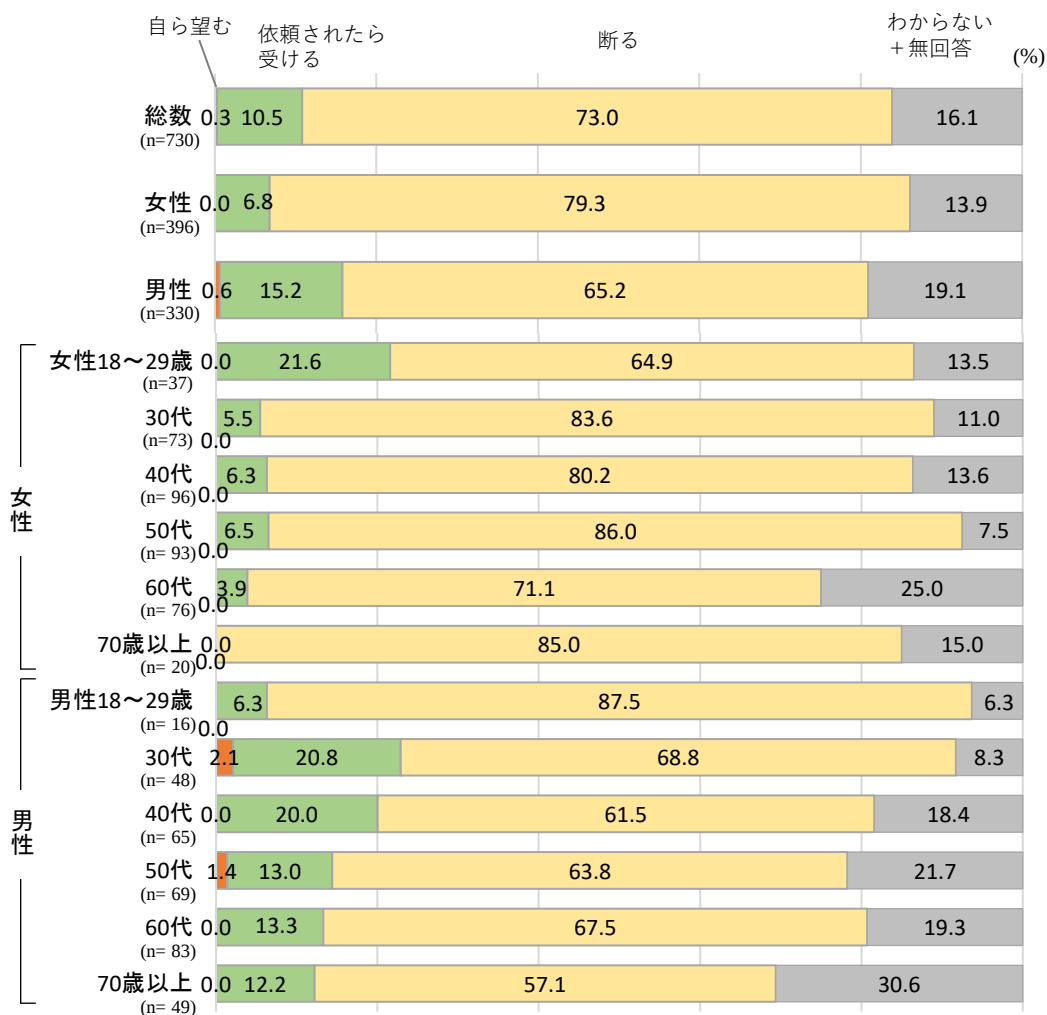
男女とも「断る」(女性79.3%、男性65.2%)が最も多い。

【性×年代別】

女性で「断る」と回答した割合が最も多いのは、50代(86.0%)、次いで70歳以上(85.0%)、30代(83.6%)と続き、18～29歳(64.9%)が最も少ない。

男性で「断る」と回答した割合が最も多いのは、18～29歳(87.5%)で、次いで30代(68.8%)、60代(67.5%)と続き、70歳以上(57.1%)が最も少ない。

図8-3 打診された場合の意欲 (c) 議員や自治体の首長(性別、性×年代別)



4 打診を断る理由

問8-1 【問8の(a)～(c)のいずれかで「3. 断る」と答えた方にお尋ねします】

断る理由は何ですか。(a)～(c)について当てはまる項目の番号を記入してください。
(それぞれ3つまで)

(a) 職場の管理職や役員

全体では、「責任が重いから」(47.5%)が最も多く、次いで、「知識や能力の面で不安があるから」(38.7%)、「人間関係がわずらわしいから」(21.8%)が続いている。

男女の差は「人間関係がわずらわしいから」が最も大きく、男性の方が22.2ポイント多くなっている。

【性×年代別】

女性では、「責任が重いから」が18～29歳、30代で6割を超え、50代では5割を超えている。また、「知識や能力の面で不安があるから」は40代と50代で最も多い。(60代は上位2項目が同率1位)

男性では、「責任が重いから」が40代と50代を除く年代で最も多くなっている。40代では「知識や能力の面で不安があるから」が、50代では「人間関係がわずらわしいから」が最も多くなっている。

※男性の18～29歳については、サンプル数が少ないため、参考掲載とする。

図8-1-1 打診を断る理由 (a) 職場の管理職や役員 (性別)

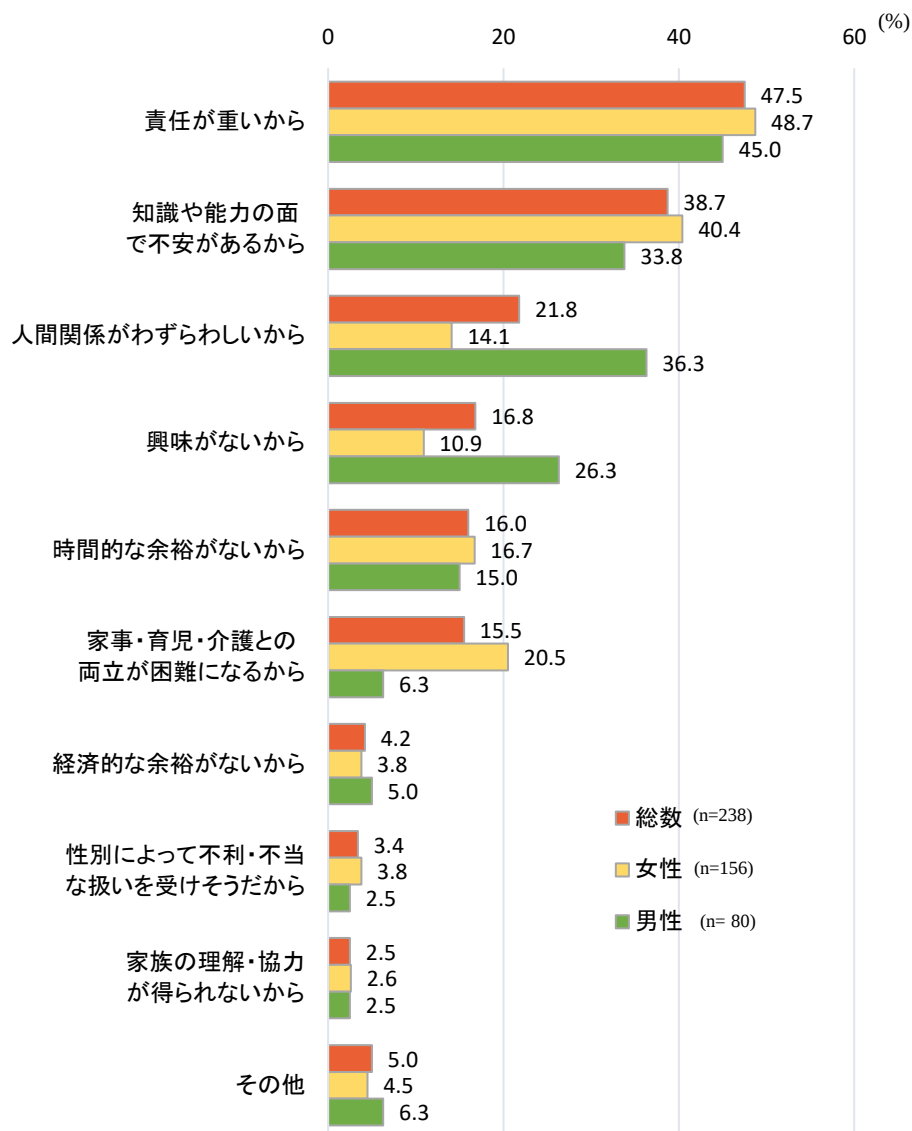
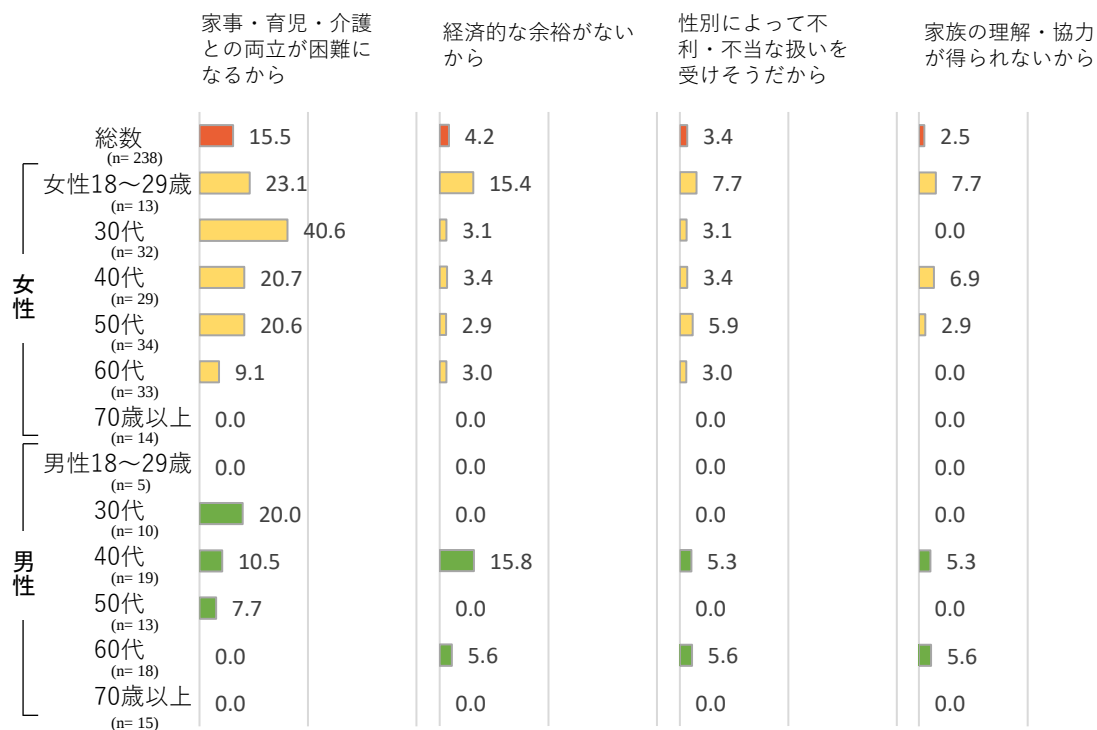
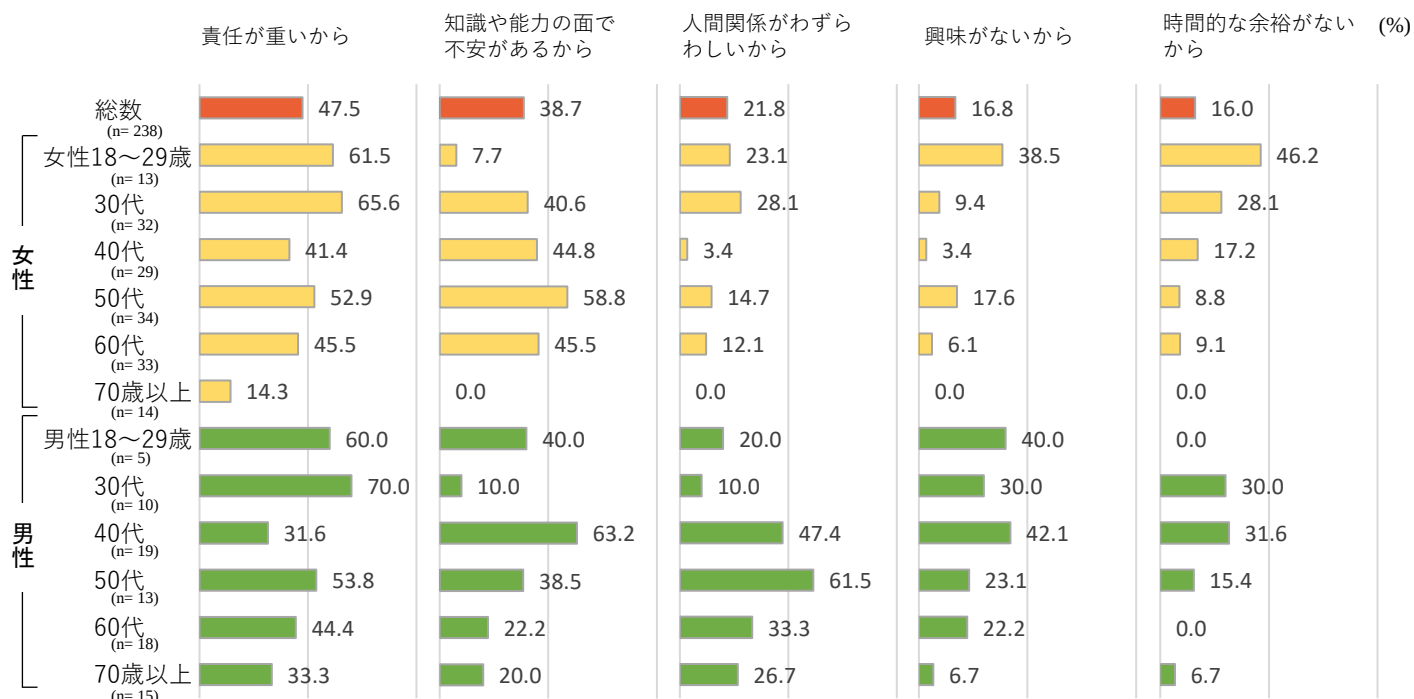


図8-1-2 打診を断る理由 (a) 職場の管理職や役員(性×年代別)



(b) 自治会長、町内会長

全体では、「責任が重いから」(38.8%)が最も多く、次いで、「時間的な余裕がないから」(35.5%)、「知識や能力の面で不安があるから」(33.8%)が続いている。

男女の差は「人間関係がわずらわしいから」が最も大きく、男性の方が14.0ポイント多くなっている。

【性×年代別】

女性では、「責任が重いから」が18～29歳、40代・50代で最も多く、「知識や能力の面で不安があるから」は30代と60代で最も多い。

男性では、「興味がないから」は18～29歳で、「時間的な余裕がないから」は30代から50代で、「人間関係がわずらわしいから」は30代・40代と60代で最も多くなっている。(60代では、「責任が重いから」も同率で最も多くなっている。)

図8-1-3 打診を断る理由 (b) 自治会長、町内会長(性別)

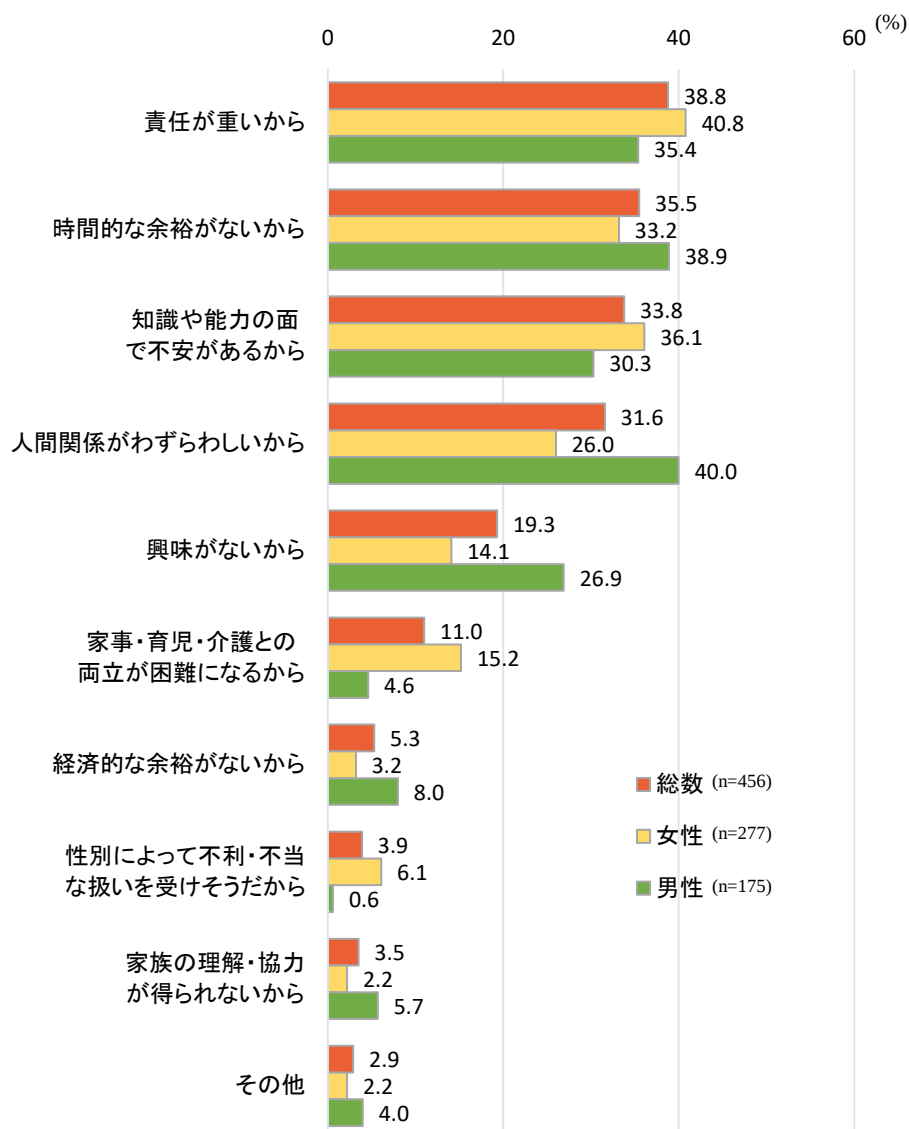
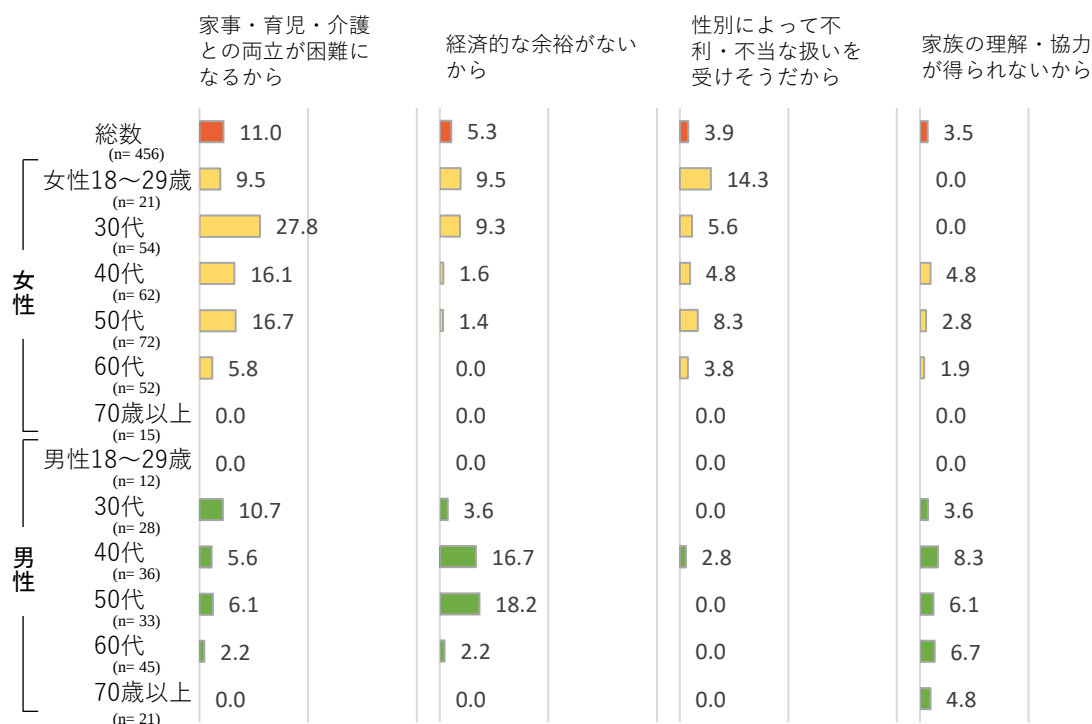
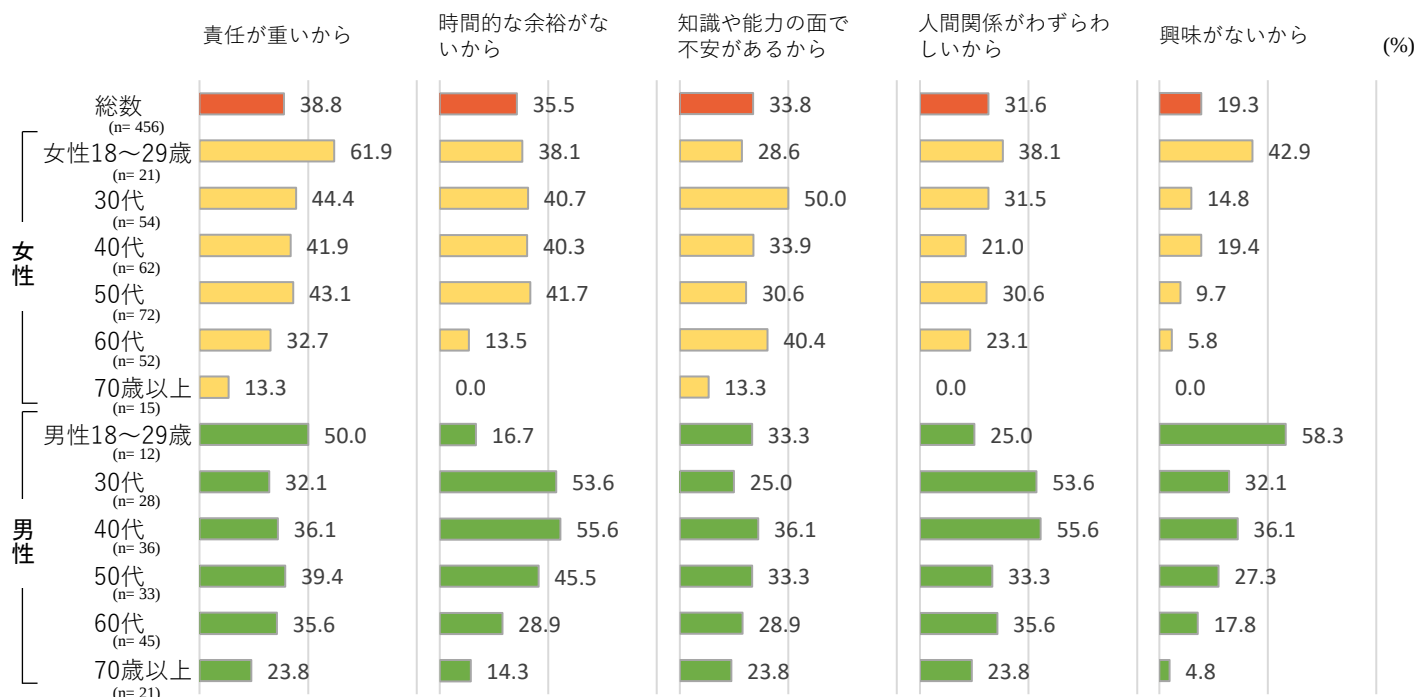


図8-1-4 打診を断る理由 (b) 自治会長、町内会長(性×年代別)



(c) 議員や自治体の首長

全体では、「責任が重いから」(43.9%)が最も多く、次いで、「知識や能力の面で不安があるから」(39.8%)「時間的な余裕がないから」(27.8%)が続いている。

男女の差は「人間関係がわずらわしいから」が最も大きく、男性の方が10.2ポイント多くなっている。

【性×年代別】

女性では、「責任が重いから」が18～29歳、40代・50代・70歳以上で最も多く、「知識や能力の面で不安があるから」は30代と60代で最も多い。

男性では、「責任が重いから」は18～29歳、40代・50代・70歳以上で、「知識や能力の面で不安があるから」は60代で最も多くなっている。(40代では「興味がないから」も同率で最も多くなっている。)30代では、「時間的な余裕がないから」、「興味がないから」、「人間関係がわずらわしいから」の3つが同率で最も多くなっている。

図8-1-5 打診を断る理由 (c) 議員や自治体の首長(性別)

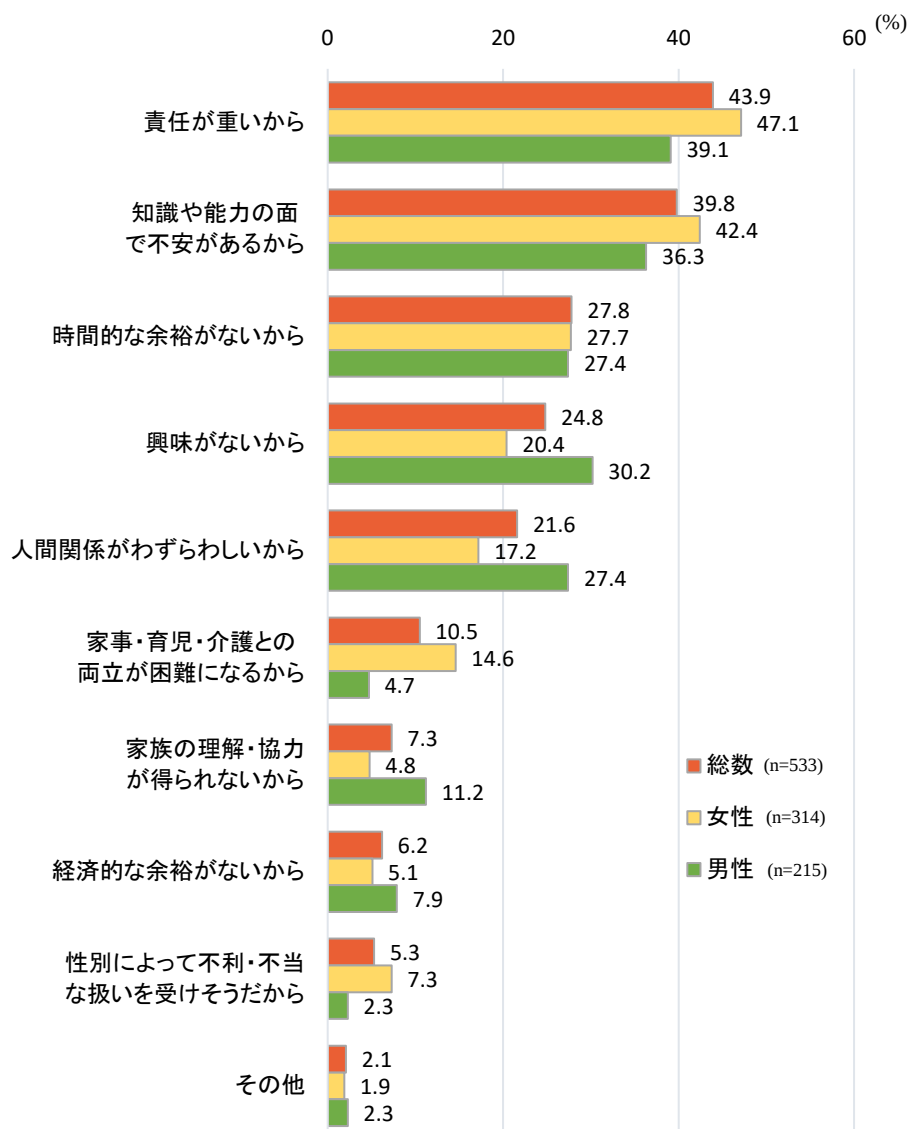
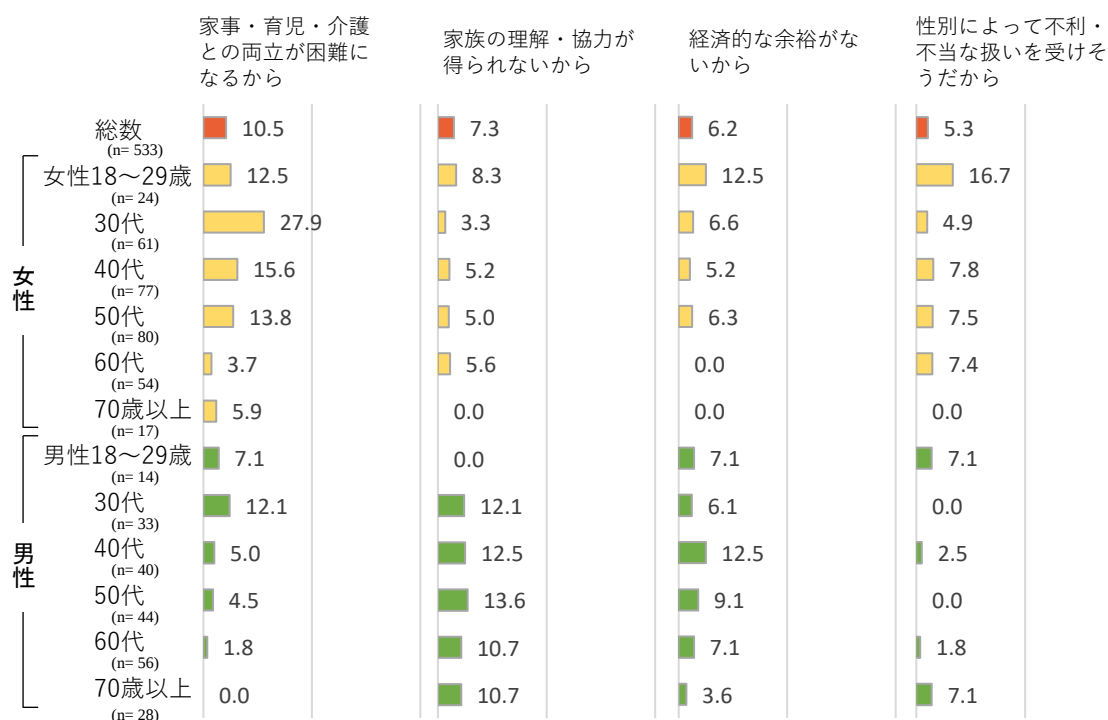
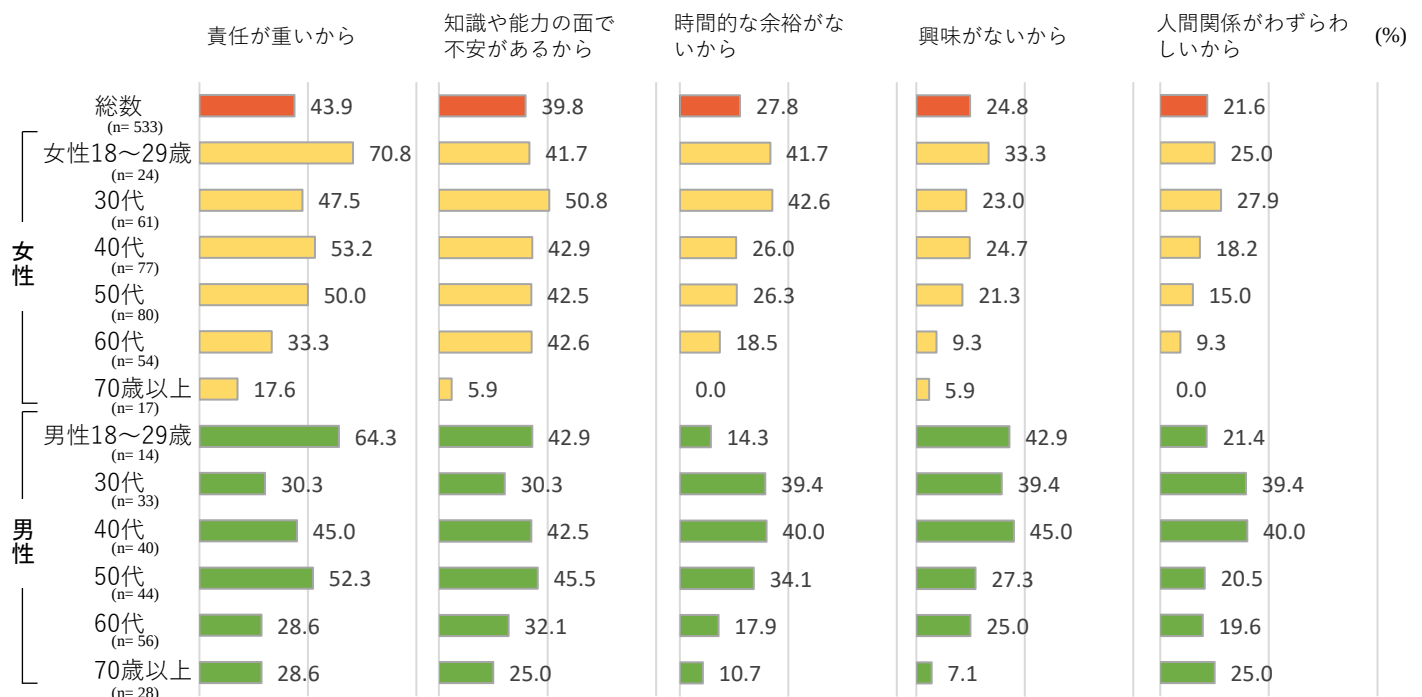


図 8 - 1 - 6 打診を断る理由 (c) 議員や自治体の首長 (性×年代別)



5 女性のリーダーを増やす上での障害

問9 あなたは、就業分野で女性のリーダーを増やすときに障害となるものは何だと思いますか。
(○はいくつでも)

男女とも「家事・育児・介護などにおける家庭内の相互の協力が十分ではないこと」（女性62.4%、男性43.0%）が最も多くなっている。

男女差では、「家事・育児・介護などにおける家庭内の相互の協力が十分ではないこと」（19.4ポイント差）で女性が男性のポイントを大きく上回っており、「現時点では、必要な知識や経験などを持つ女性が少ないこと」（5.2ポイント差）で男性が女性のポイントを上回っている。

【性×年代別】

女性では、「家事・育児・介護などにおける家庭内の相互の協力が十分ではないこと」はどの年代でも最も多く、30代以上で6割を超えている。

男性では、「家事・育児・介護などにおける家庭内の相互の協力が十分ではないこと」は18歳以上から50代までで最も多く、60代と70歳以上では「長時間労働の改善が十分ではないこと」が最も多くなっている。

図9-1 女性のリーダーを増やす上での障害（性別）

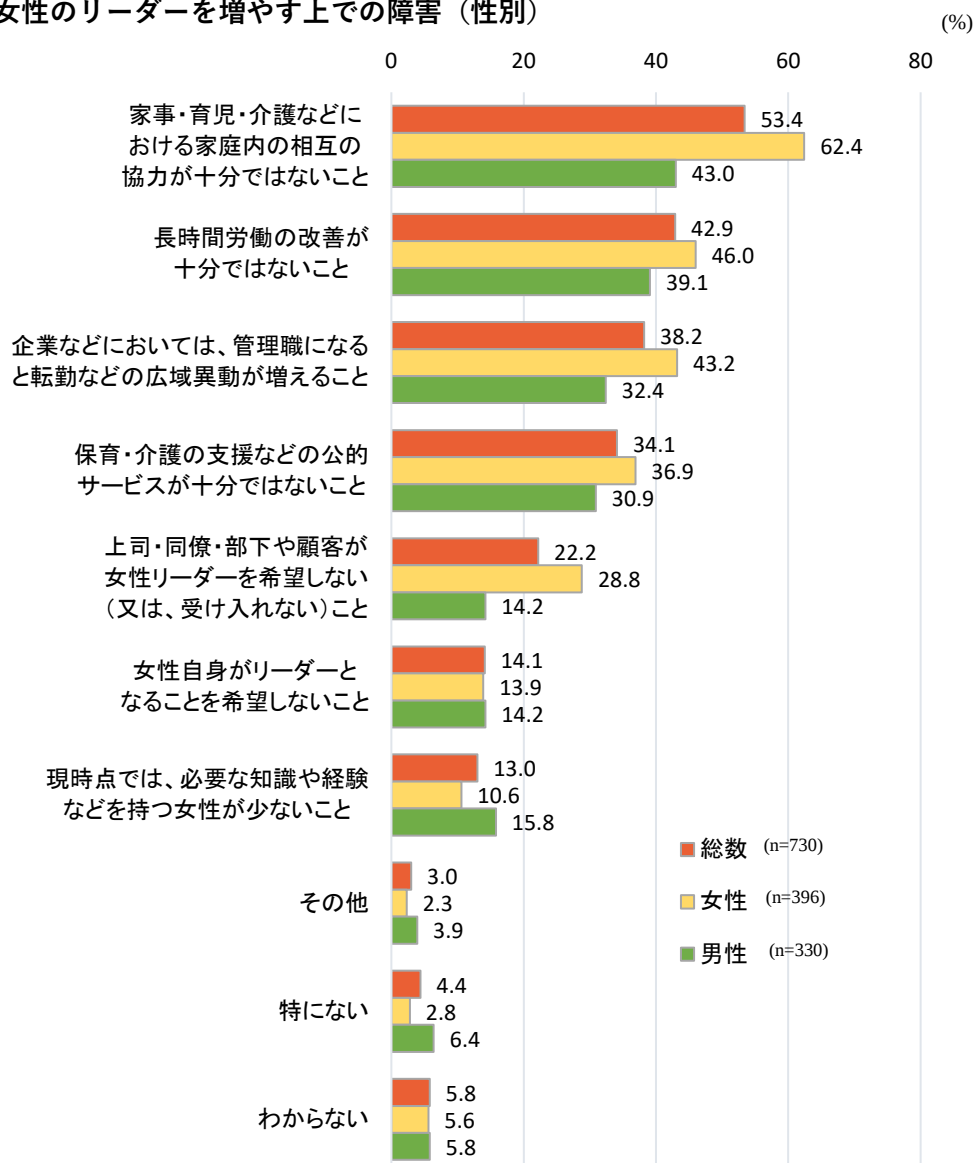
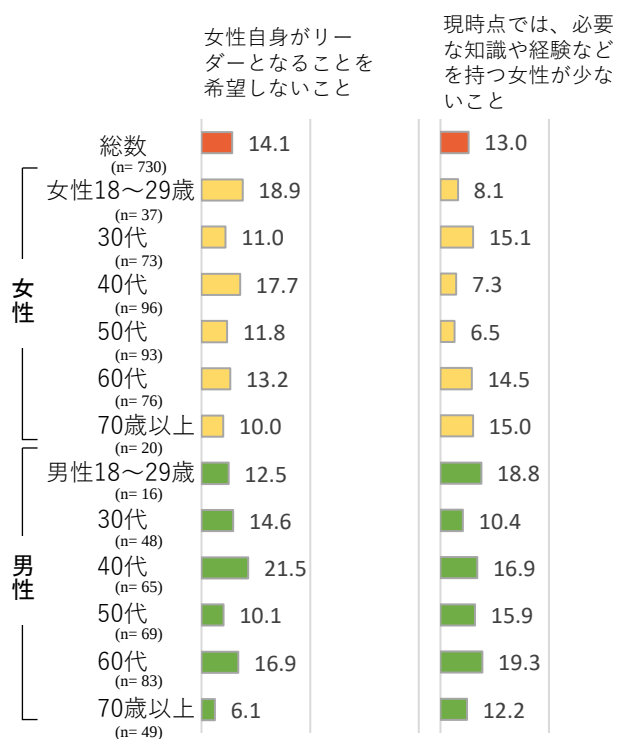
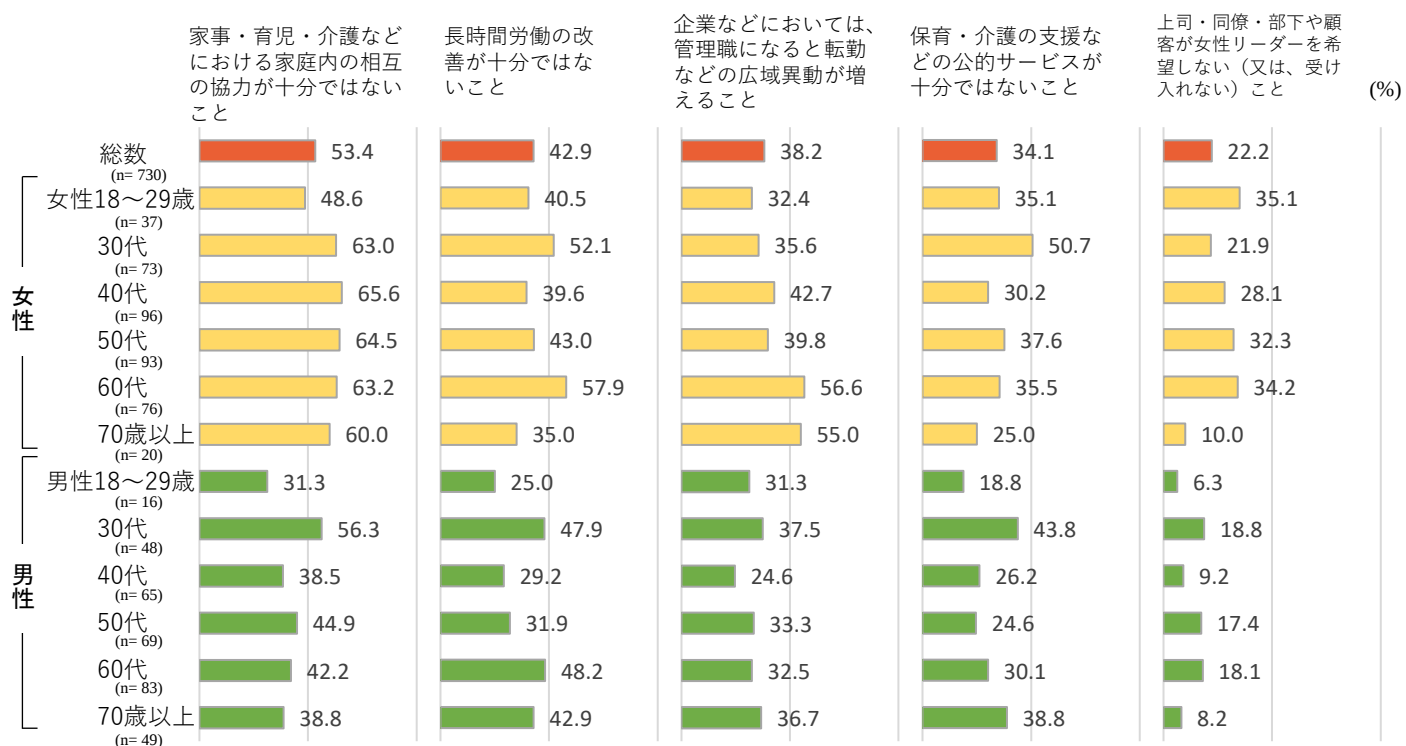


図 9 - 2 女性のリーダーを増やす上での障害（性×年代別）



6 女性が働き続ける上での障害

問10 女性が職業を続けていく上では、どんな障害があると思いますか。（○は3つまで）

男女とも「家事・育児・介護などにおける家庭内の相互の協力が十分ではないこと」（女性71.5%、男性57.5%）が最も多く、次いで、男性は「結婚や出産の際、退職しなければならない慣行が今でも残っていること」（37.5%）、女性は「給与・昇進・昇格の機会に男女間格差があること」（34.4%）の順となっている。

男女の差が大きいものとして、「家事・育児・介護などにおける家庭内の相互の協力が十分ではないこと」（14.0ポイント差）で女性が男性のポイントを上回っており、「結婚や出産の際、退職しなければならない慣行が今でも残っていること」（6.5ポイント差）で男性が女性のポイントを上回っている。

【性×年代別】

女性では、「家事・育児・介護などにおける家庭内の相互の協力が十分ではないこと」は全ての年代で最も多く、6～7割となっている。

男性においても、「家事・育児・介護などにおける家庭内の相互の協力が十分ではないこと」は全ての年代で5割を超え、最も多くなっている。

図10－1 女性が働き続ける上での障害（性別）

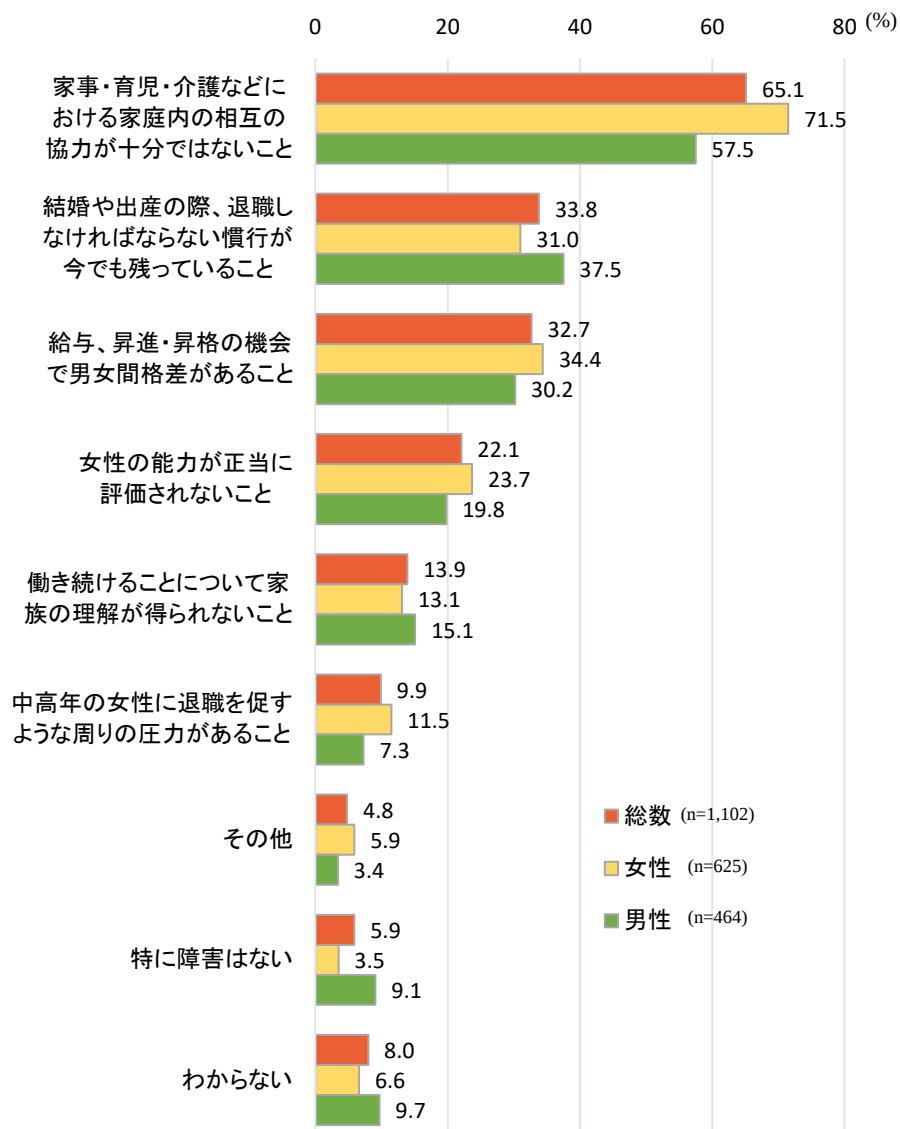
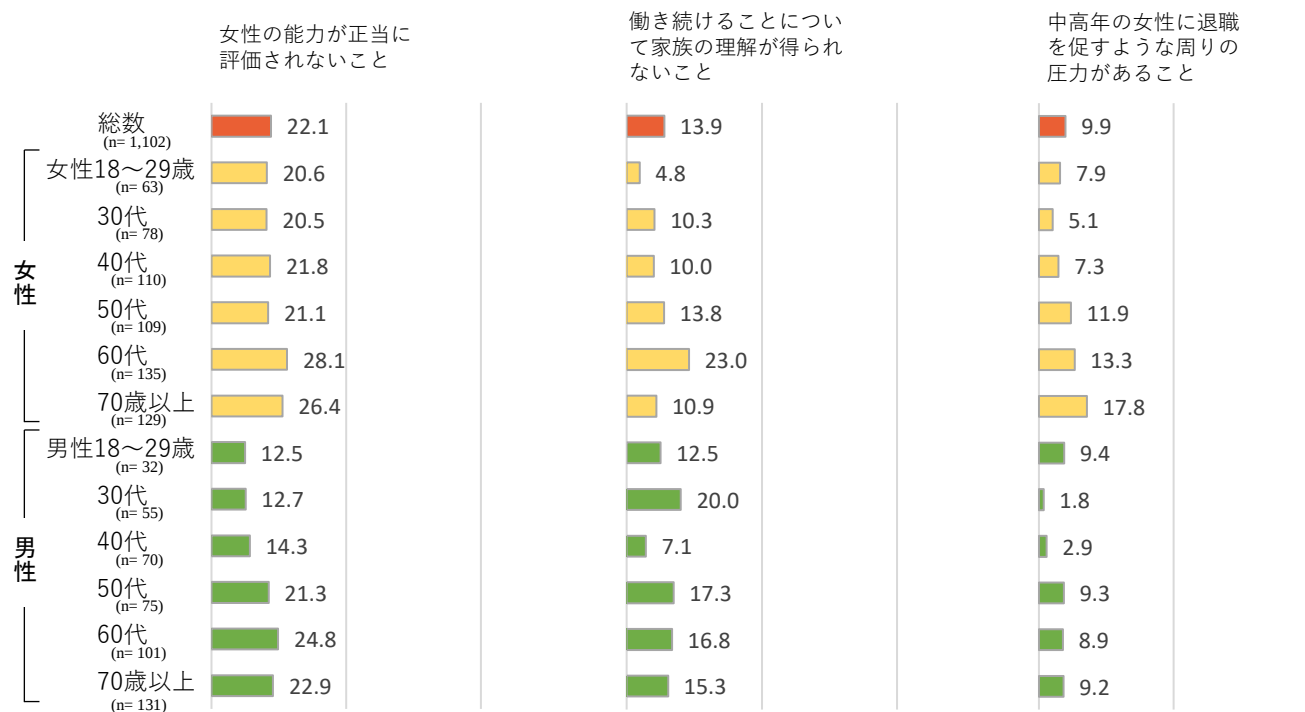
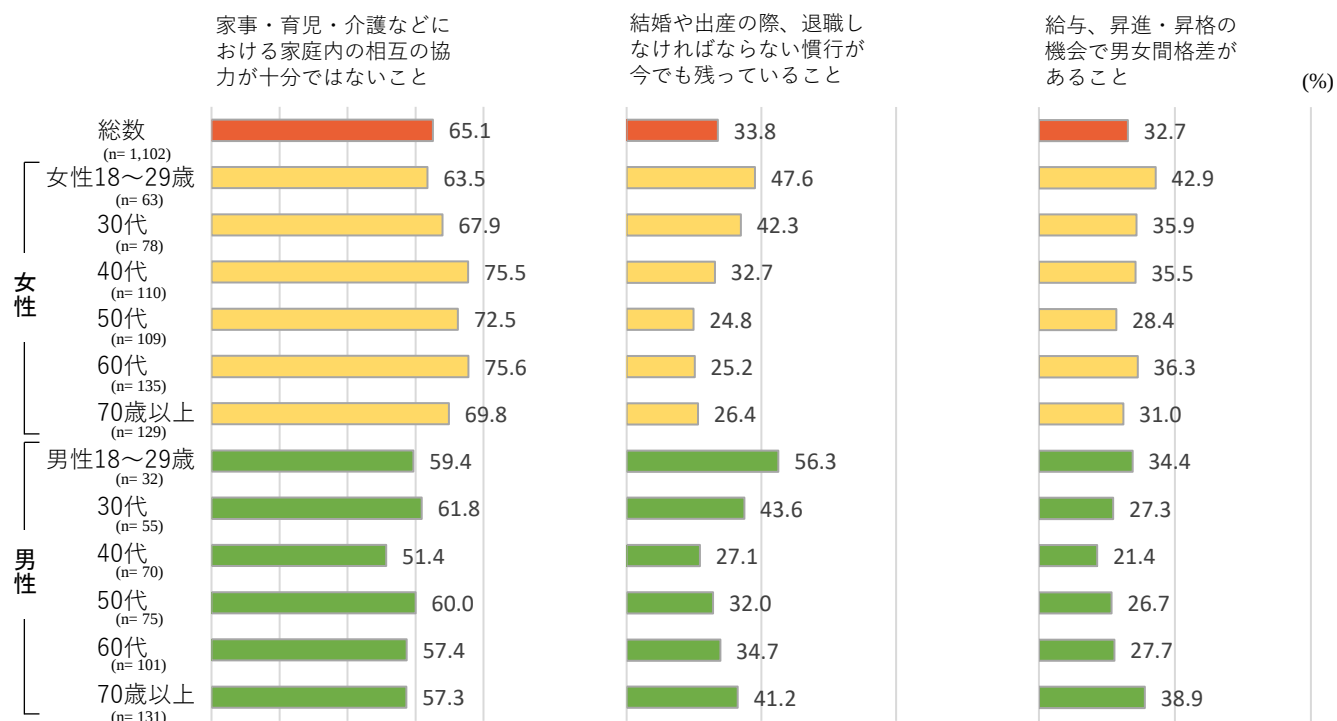


図10－2 女性が働き続ける上での障害（性×年代別）



7 女性の再就職に必要なこと

問11 出産や育児、介護などで仕事から遠ざかっていた女性が再就職しやすくするには、どのようなことが必要だと思いますか。（○は3つまで）

男女とも「保育・介護サービスの充実(施設の充実、時間の延長など)」(女性70.4%、男性63.8%)と「家事・育児・介護などにおける家庭内の相互の協力」(女性69.0%、男性59.3%)の2項目が多くなっている。

「家事・育児・介護などにおける家庭内の相互の協力」(9.7ポイント差)、「再就職のための自己啓発セミナーや技術、技能の習得機会の充実」(7.7ポイント差)は女性が男性を上回り、男性の方が女性を大きく上回る項目は見られない。

【性×年代別】

女性では、「保育・介護サービスの充実(施設の充実、時間の延長など)」は40代と70歳以上を除き最も多く、40代と70歳以上では「家事・育児・介護などにおける家庭内の相互の協力」が最も多くなっている。

男性では、40代を除き、「保育・介護サービスの充実(施設の充実、時間の延長など)」が最も多く(18～29歳では「家事・育児・介護などにおける家庭内の相互の協力」も同率で最も多い)、40代では「家事・育児・介護などにおける家庭内の相互の協力」が最も多い。

図11－1 女性の再就職に必要なこと（性別）

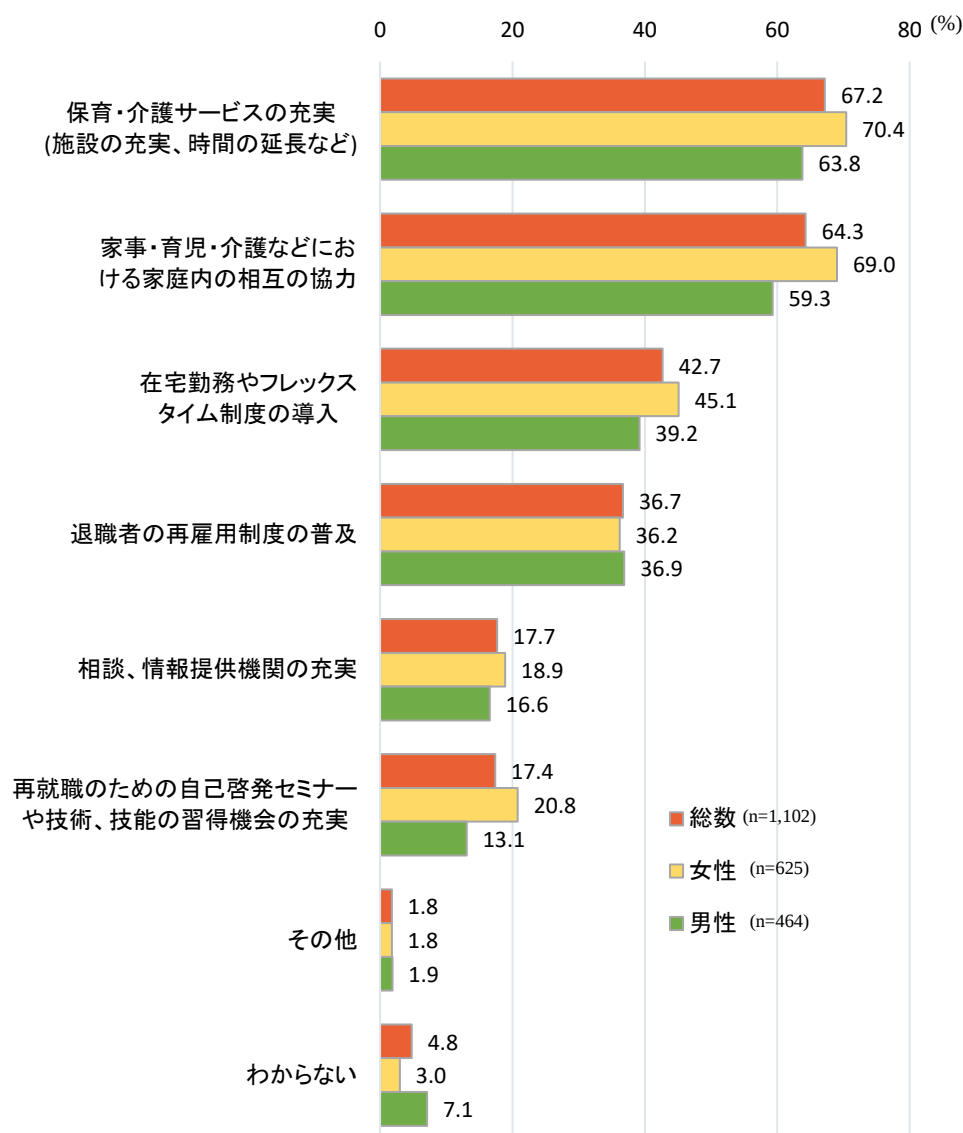
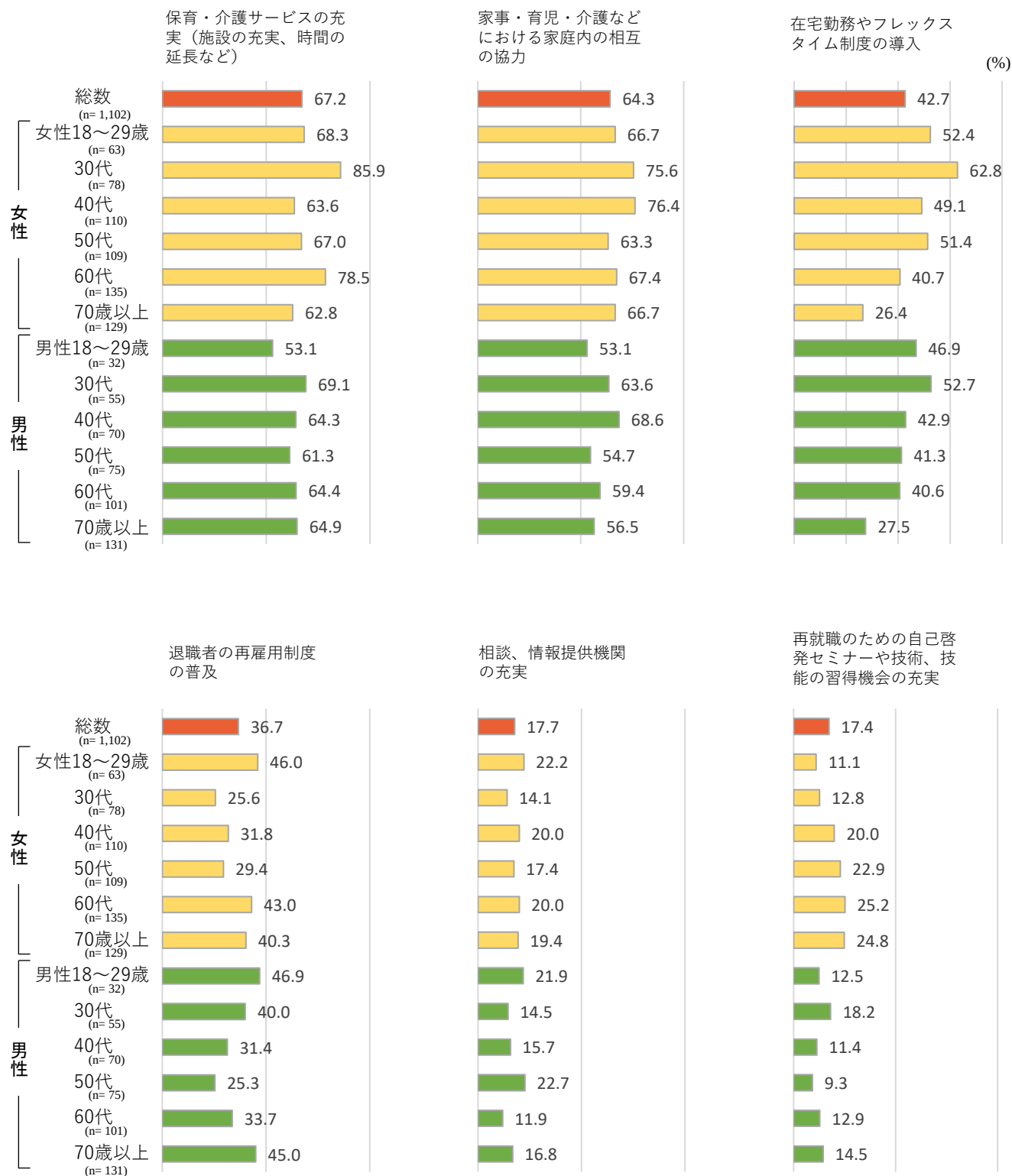


図11－2 女性の再就職に必要なこと（性×年代別）



8 男女が共に仕事と家庭を両立していくために必要なこと

問12 男性も女性も共に仕事と家庭の両立をしていくためには、どのようなことが必要だと思いますか。（○は3つまで）

男女とも、「育児休業・介護休業制度を利用しやすい職場環境づくり」（女性67.5%、男性56.0%）が最も高くなっている。次いで「労働時間の短縮や休暇制度の充実」（女性57.6%、男性51.5%）、「保育・介護サービスの充実」（女性43.4%、男性35.3%）となっている。

上位3項目とも、女性が男性を5ポイント以上上回っている。

【性×年代別】

女性では、「育児休業・介護休業制度を利用しやすい職場環境づくり」は30代と40代以外の層で最も多く、30代・40代では「労働時間の短縮や休暇制度の充実」が最も多くなっている。

男性では、「育児休業・介護休業制度を利用しやすい職場環境づくり」は30代と50代以外の層で最も多く、30代・50代では「労働時間の短縮や休暇制度の充実」が最も多くなっている。

図12-1 男女が共に仕事と家庭を両立していくために必要なこと（性別）

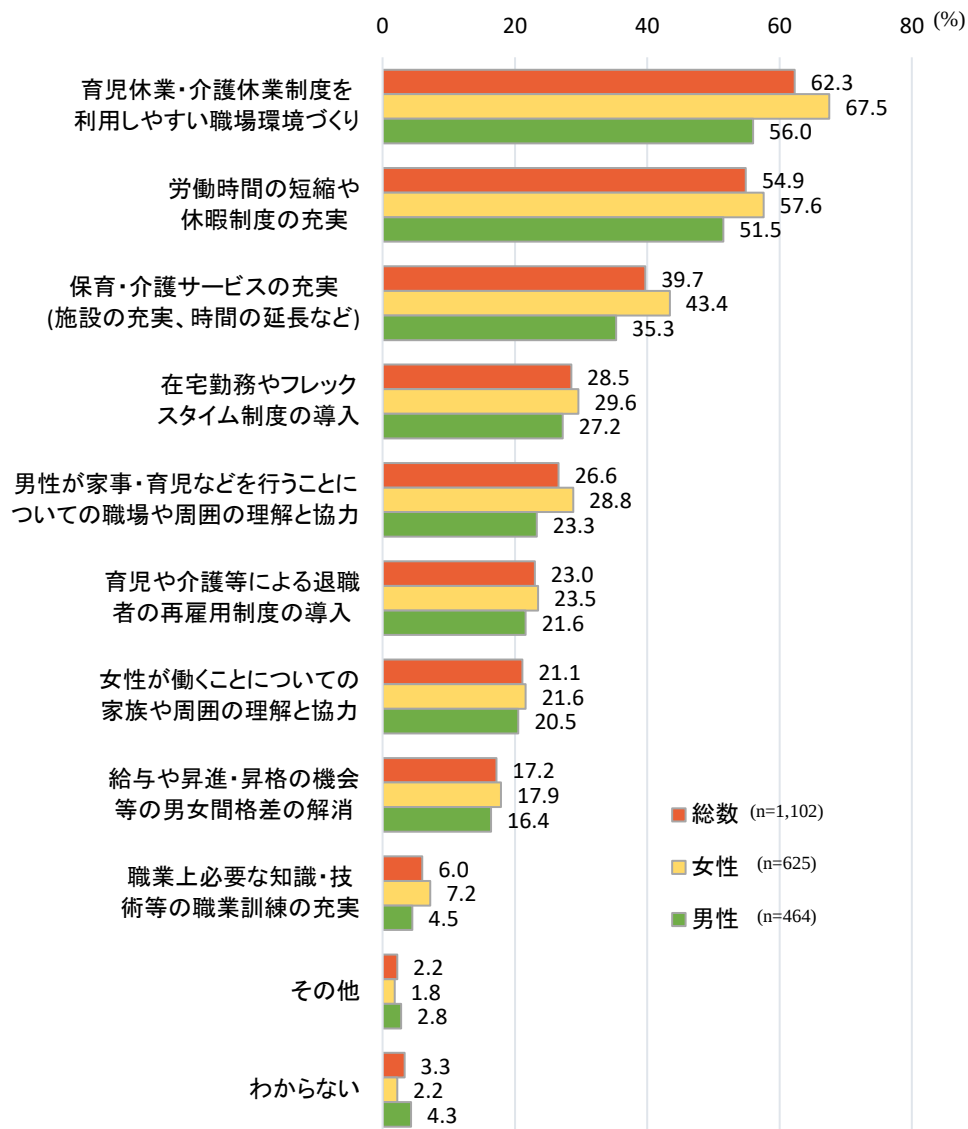
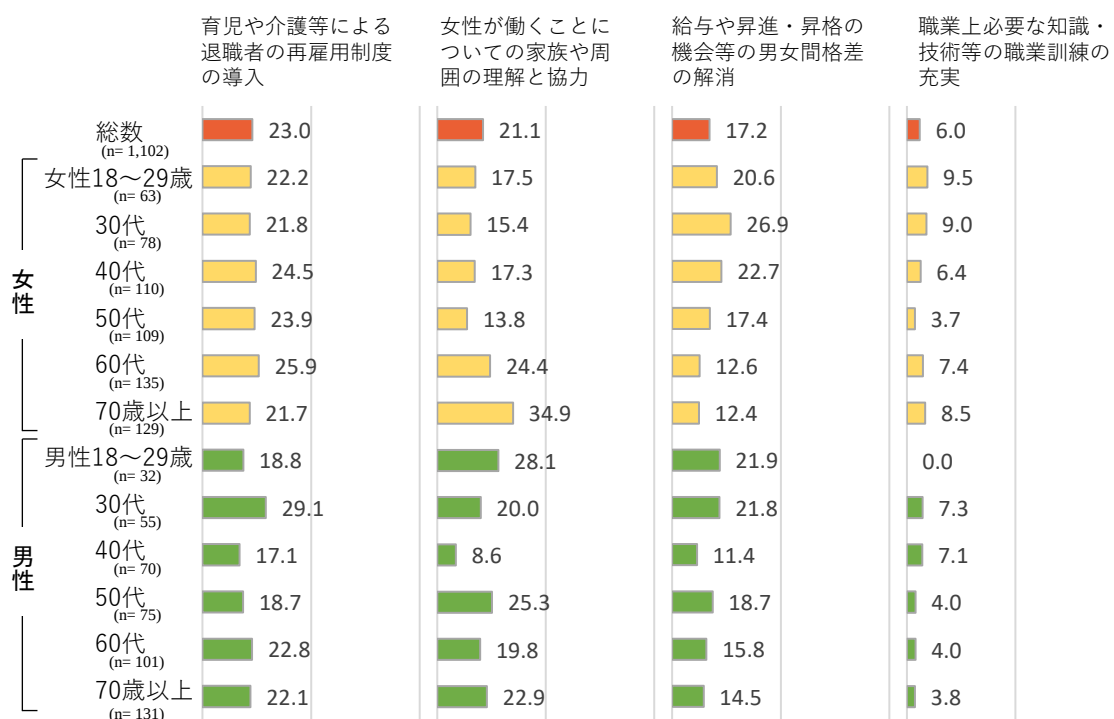
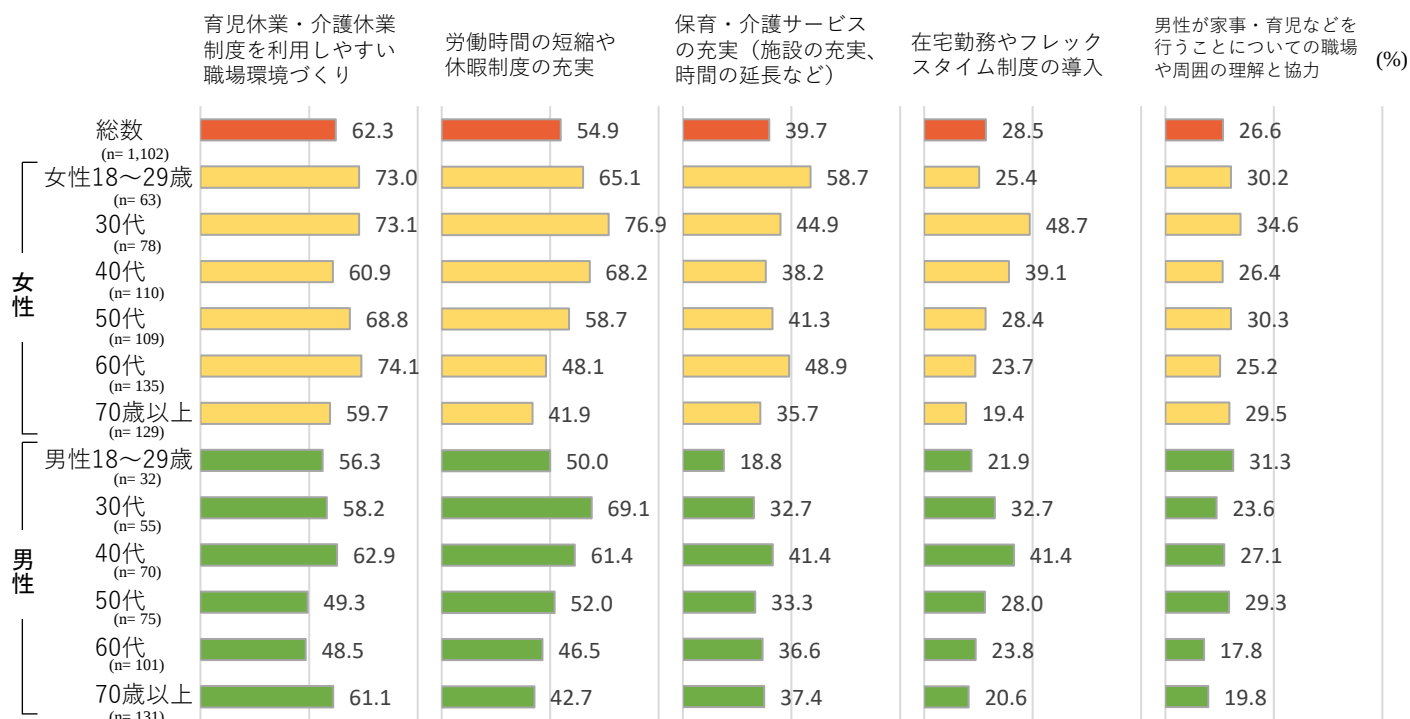


図12-2 男女が共に仕事と家庭を両立していくために必要なこと（性×年代別）



IV 女性の社会参画

1 女性のリーダーが増えるとどのような影響があると思うか

問13 あなたは、社会の各分野で、女性の参加が進み、女性のリーダーが増えるとどのような影響があると思いますか。（○はいくつでも）

全体では、男女ともに、「男女問わず優秀な人材が活躍できるようになる」（女性69.6%、男性65.7%）が最も多く、次いで、女性では「女性が持つ意見や発想が反映される」（63.7%）、男性では「多様な視点が加わることにより、新たな価値や商品・サービスが創造される」（58.6%）の順となった。

男女の差が大きいものとして、「男女問わず仕事と家庭の両方を優先しやすい社会になる」では女性（44.5%）が男性（33.0%）を11.5ポイント上回っている。

【性×年代別】

「男女問わず優秀な人材が活躍できるようになる」は女性では30代を除いて、男性では60歳以上で最も多くなっている。女性30代では「女性が持つ意見や発想が反映される」が最も多い。男性18～29歳・30代・40代では「多様な視点が加わることにより、新たな価値や商品・サービスが創造される」が最も多く、50代では「女性が持つ意見や発想が反映される」が最も多い。

図13-1 女性のリーダーが増えるとどのような影響があると思うか 項目別一覧（性別）

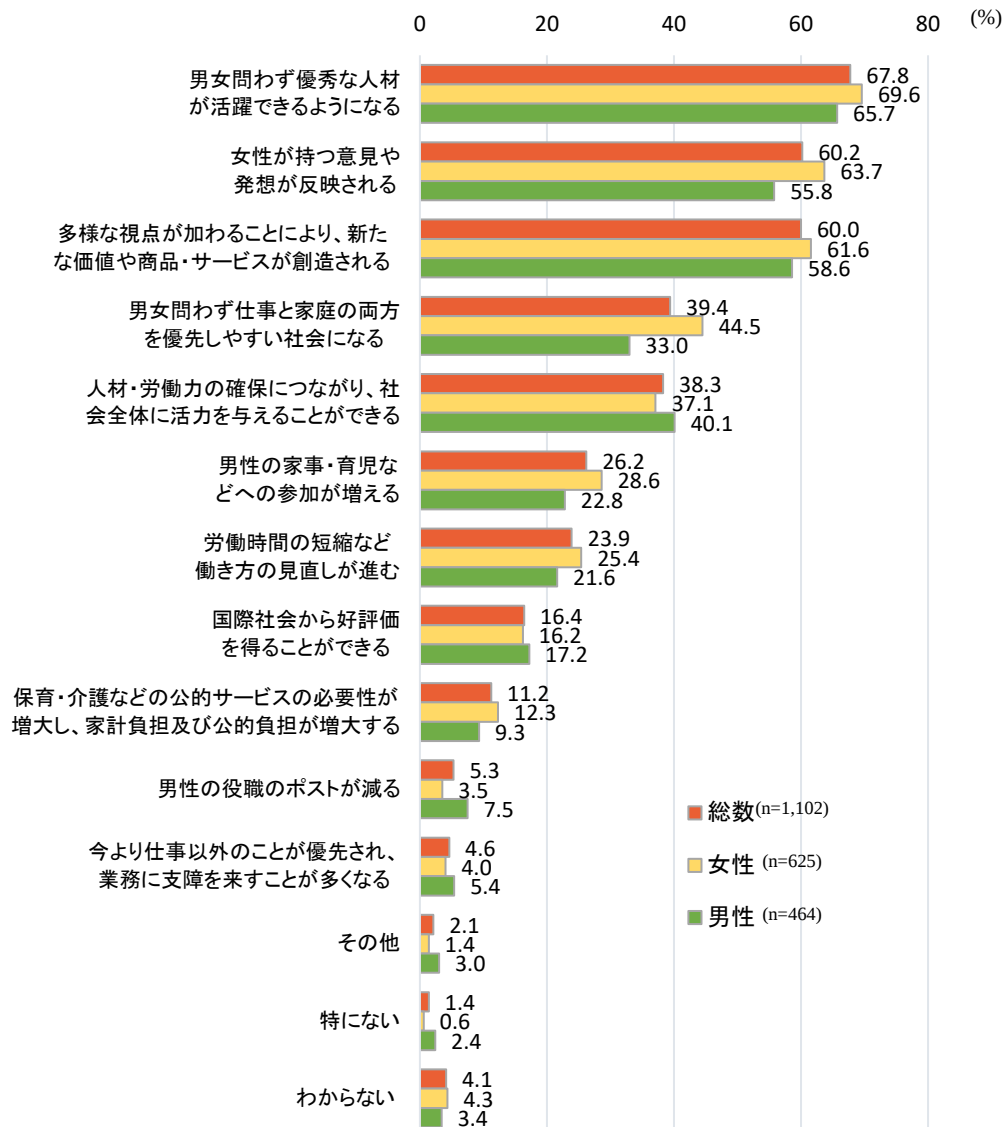
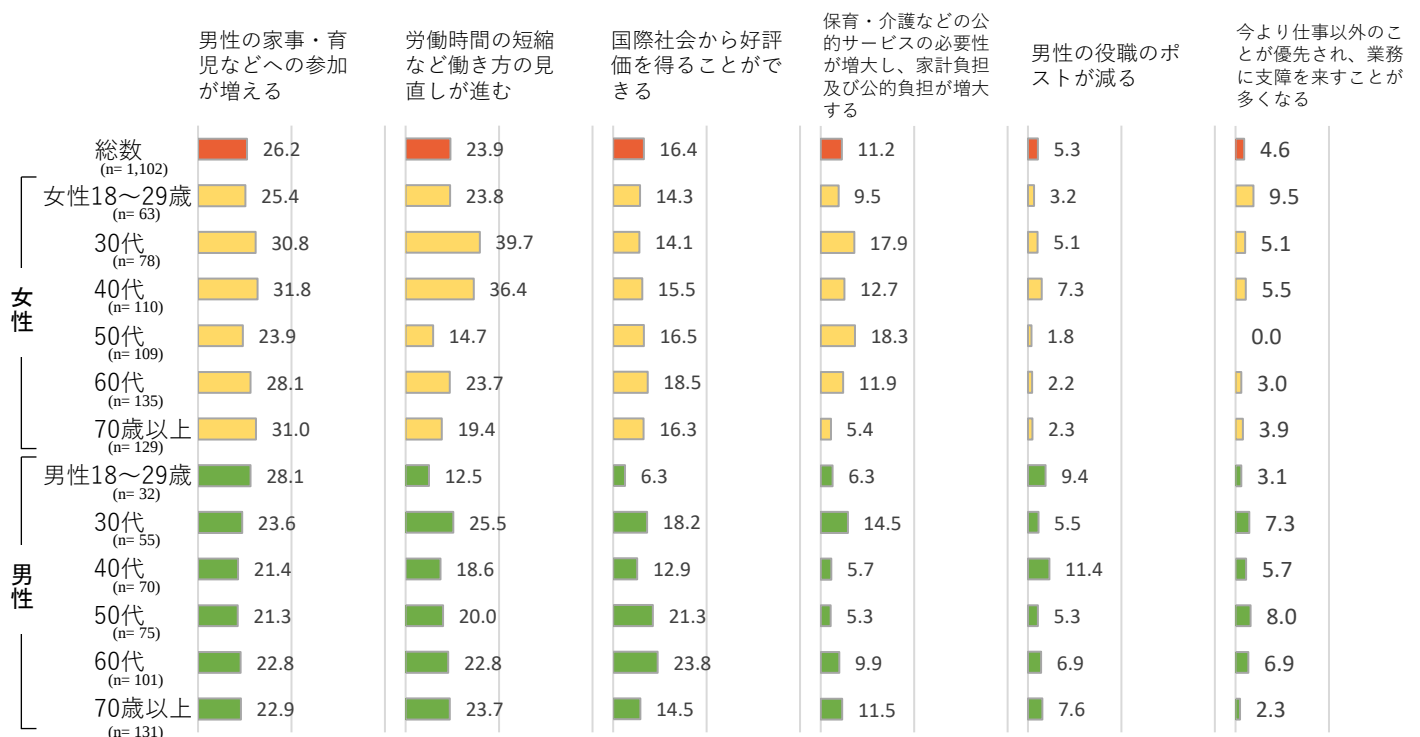
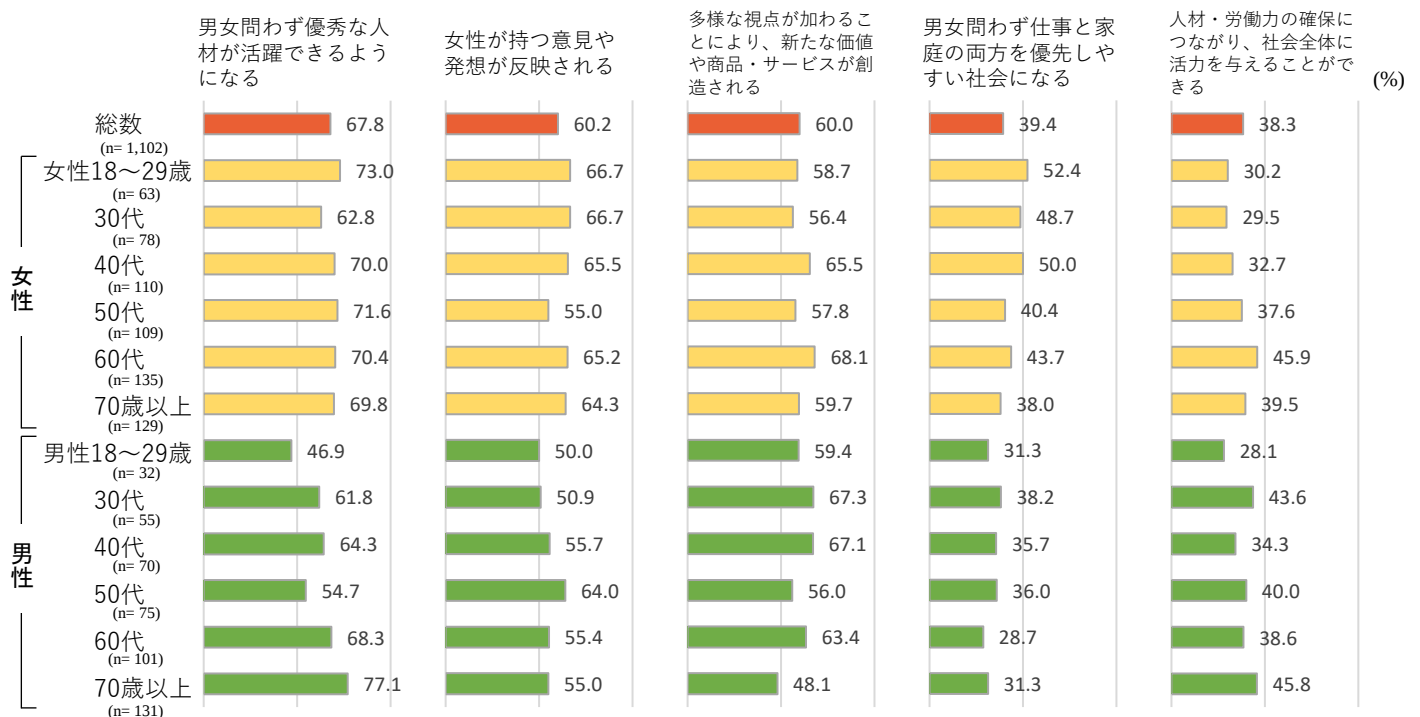


図13-2 女性のリーダーが増えるとどのような影響があると思うか 項目別一覧（年代別）



2 女性が方針決定の場に参画するために必要なこと

問14 あなたは、自治会やPTAなどの地域活動において、女性が方針決定の場に参画するためには、どのようなことが必要だと思いますか。（〇はいくつでも）

女性では、「さまざまな立場の人が参加しやすいよう活動時間帯を工夫すること」（57.1%）が最も多く、次いで「地域活動のリーダーは男性が務めるという性別による役割分担意識を改めること」（37.8%）となっている。

男性では、「地域活動のリーダーは男性が務めるという性別による役割分担意識を改めること」（53.0%）が最も多く、次いで「さまざまな立場の人が参加しやすいよう活動時間帯を工夫すること」（44.6%）となっている。

【性×年代別】

女性では全ての年代で「さまざまな立場の人が参加しやすいよう活動時間帯を工夫すること」が最も多く、男性では全ての年代で「地域活動のリーダーは男性が務めるという性別による役割分担意識を改めること」が最も多くなっている。

図14－1 女性が方針決定の場に参画するために必要なこと 項目別一覧（性別）

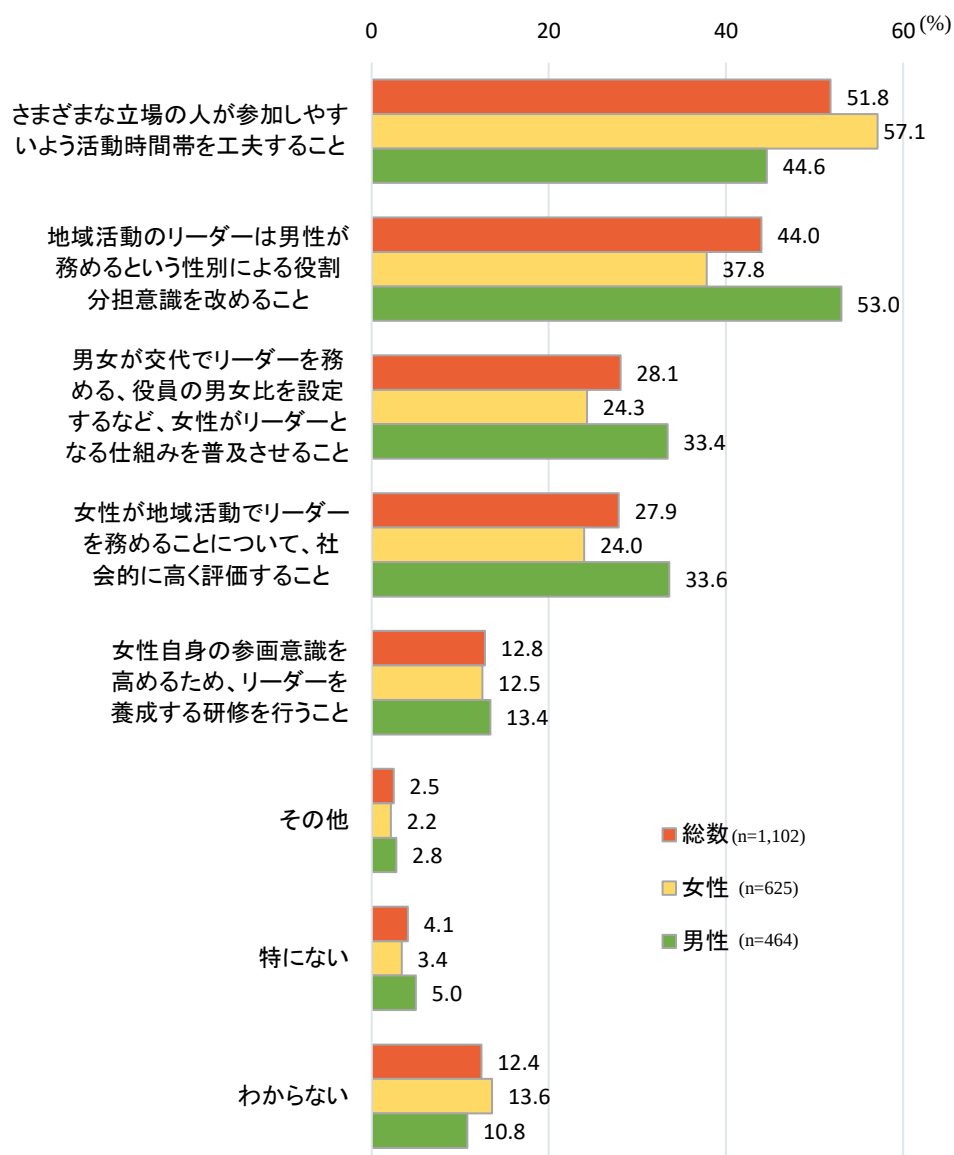
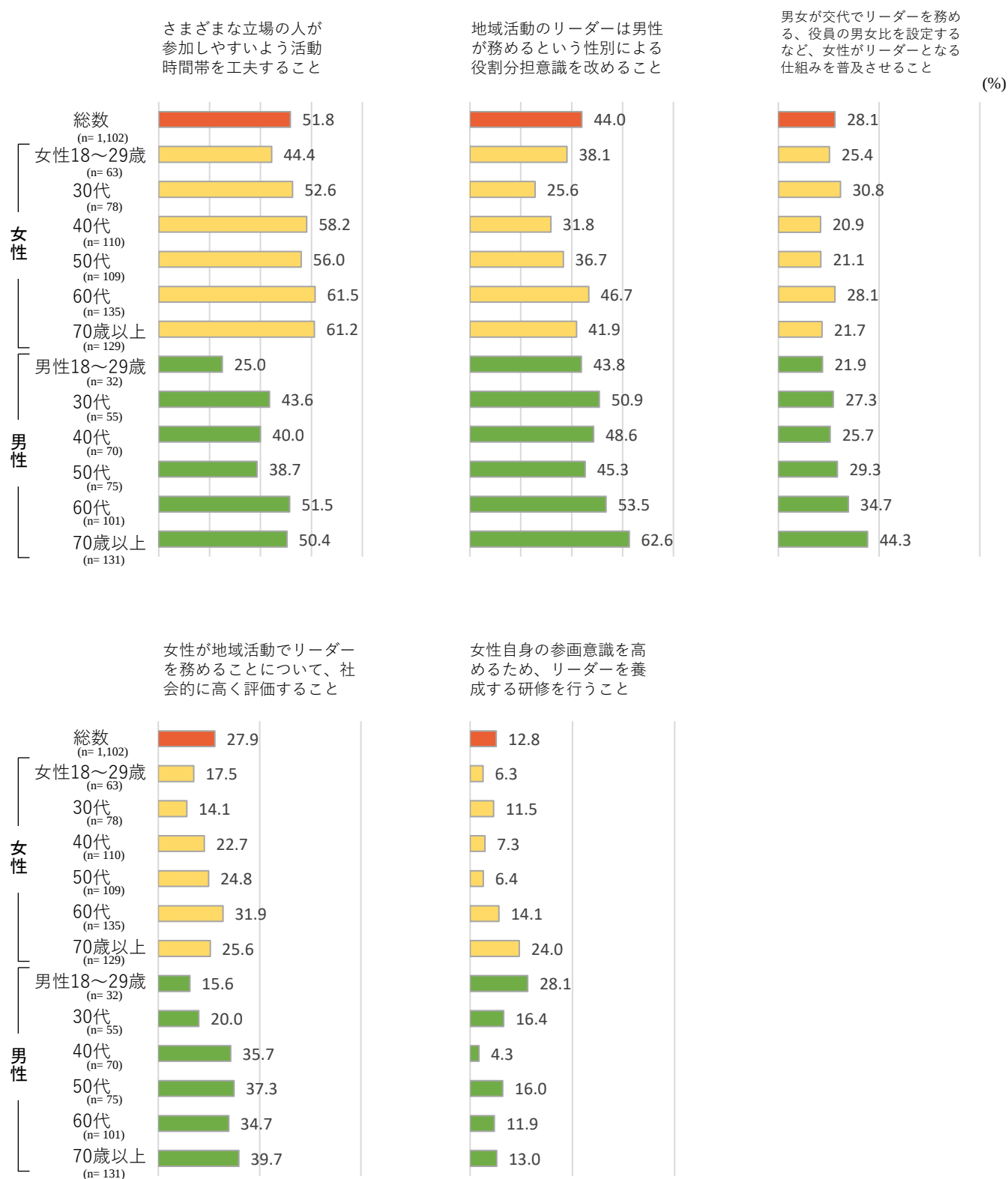


図14－2 女性が方針決定の場に参画するために必要なこと 項目別一覧（年代別）



3 性別に配慮した防災・災害対応・復興対策のために必要なこと

問15 あなたは、性別に配慮した防災・災害対応・復興対策のためには、どのようなことが必要だと思いますか。（○は3つまで）

男女とも「更衣室やプライバシーの確保など、性別に配慮した避難所運営を行う」（女性63.0%、男性51.3%）が最も多く、次いで、「避難所の設置・運営について、物事を決める際には男女を交えた話し合いをする」（女性58.4%、男性48.9%）となっている。

【性×年代別】

「更衣室やプライバシーの確保など、性別に配慮した避難所運営を行う」は、男女とも60代以下の層で最も多く（60代では「避難所の設置運営について、物事を決める際には男女を交えた話し合いをする」も同率で最も多い）、70歳以上では「避難所の設置・運営について、物事を決める際には男女を交えた話し合いをする」が最も多くなっている。

図15-1 性別に配慮した防災・災害対応・復興対策のために必要なこと 項目別一覧（性別）

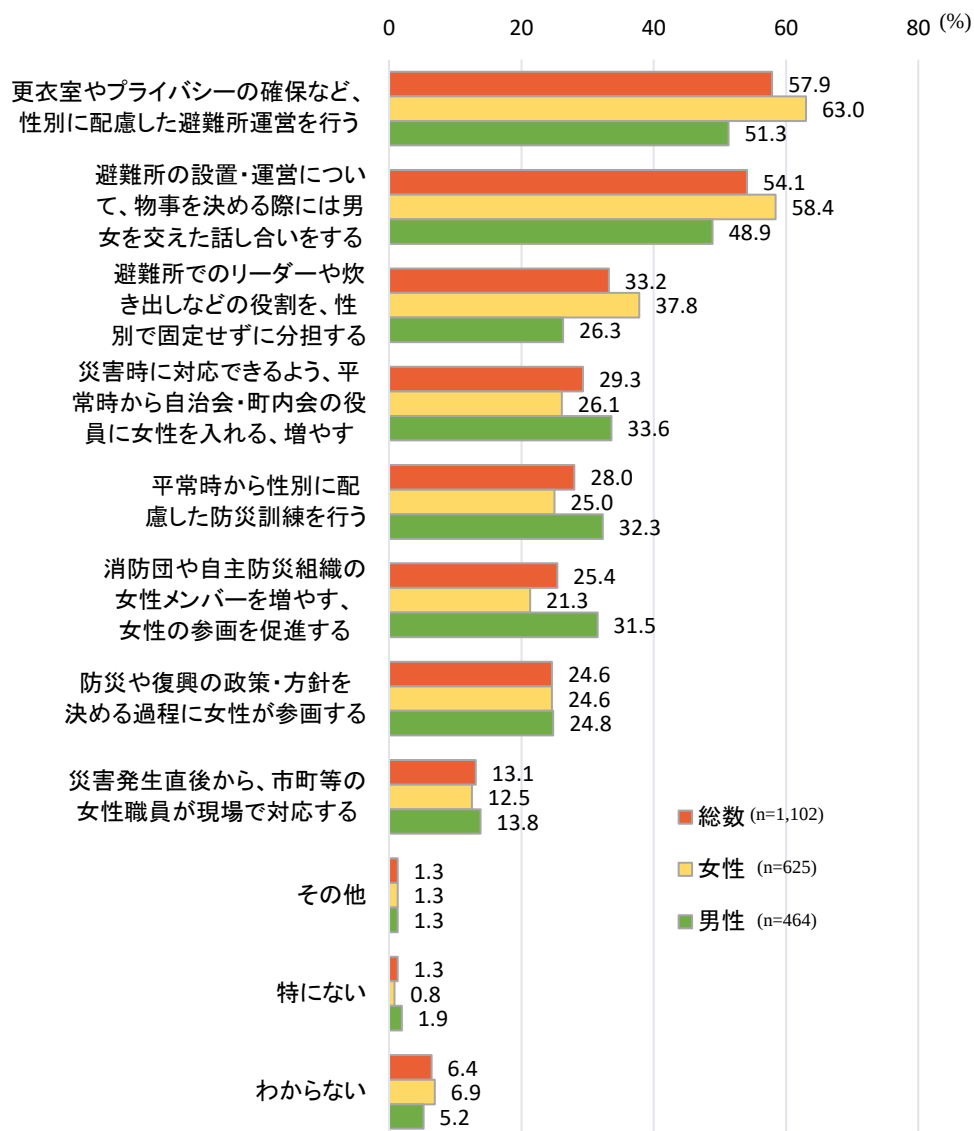
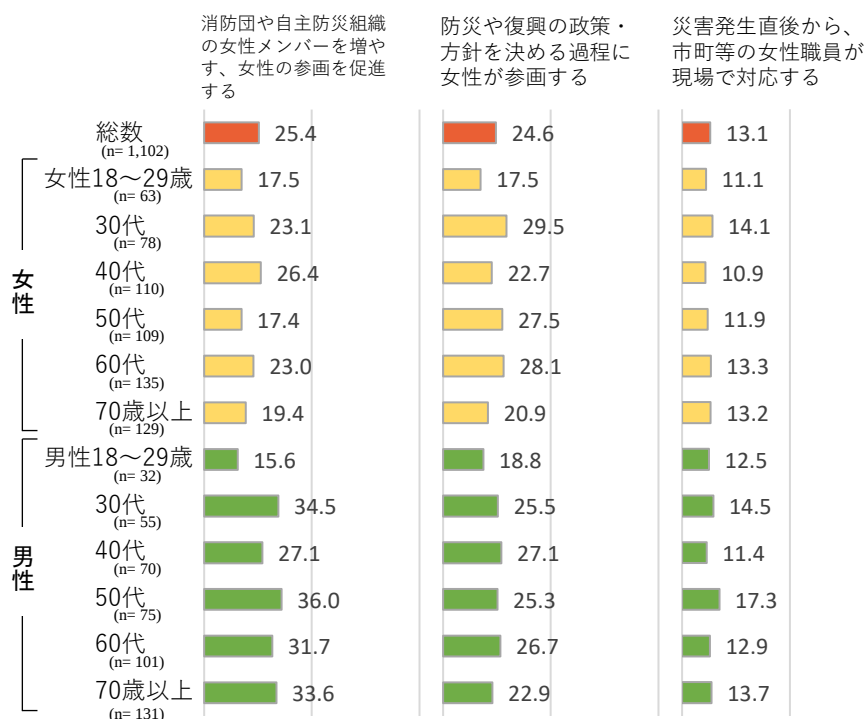
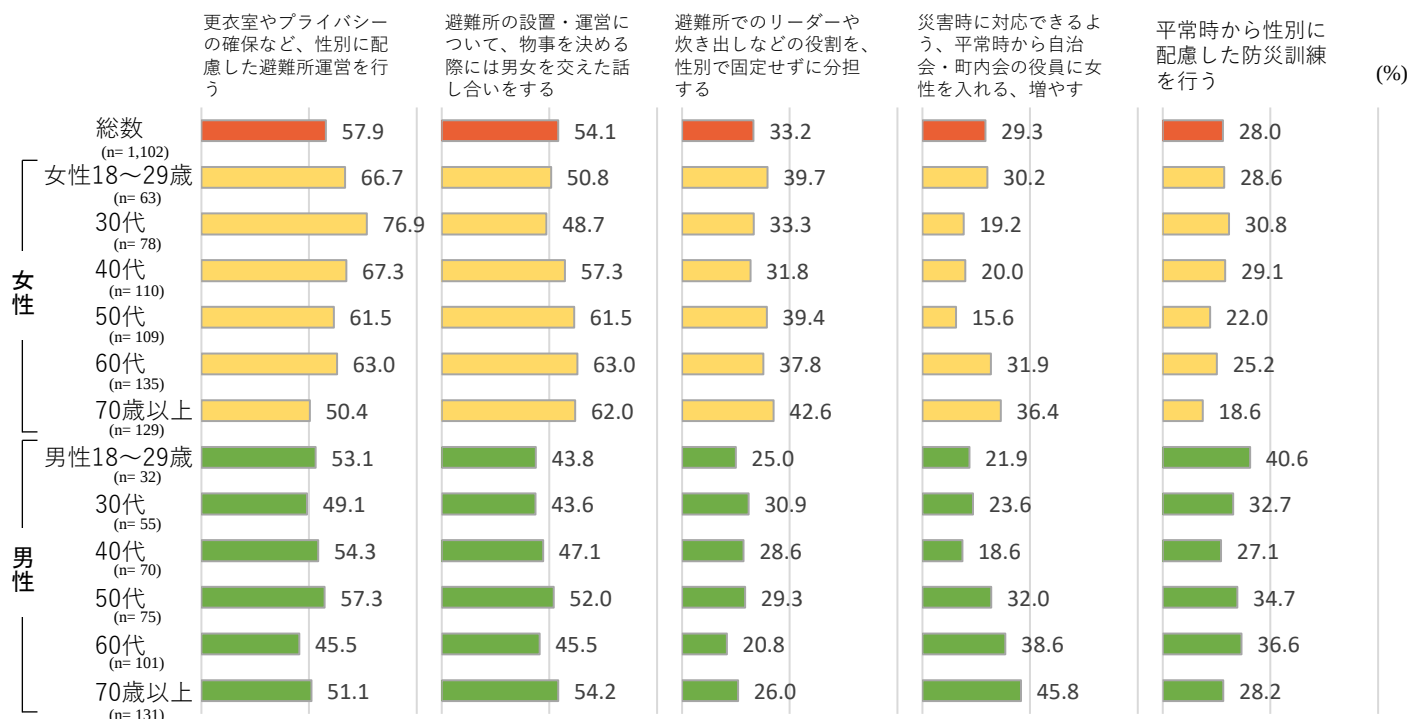


図15-2 性別に配慮した防災・災害対応・復興対策のために必要なこと 項目別一覧（年代別）



V ドメスティック・バイオレンス (DV) 等

1 配偶者や交際相手などからの暴力と認識される行為

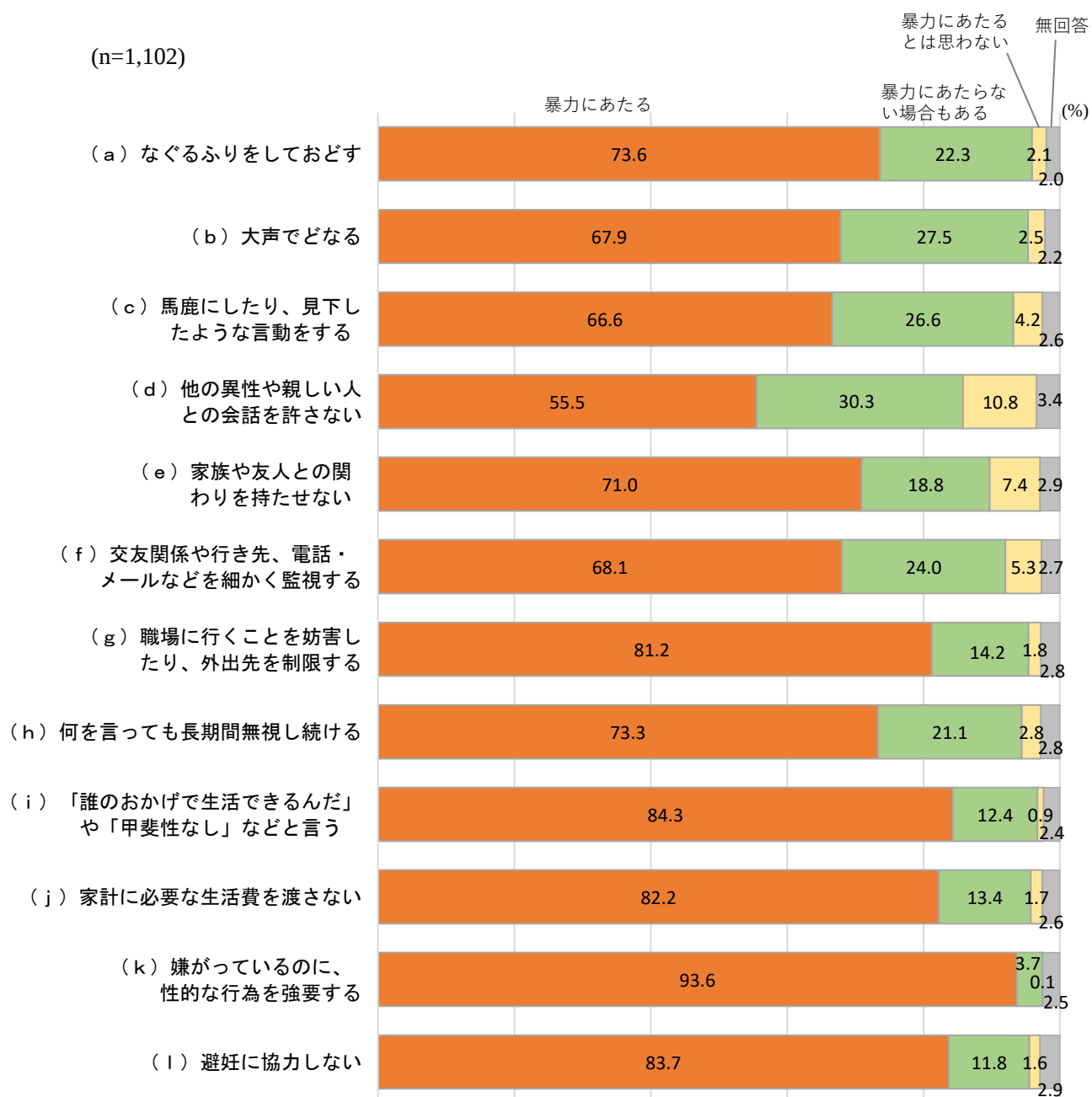
問16 次の(a)～(l)のようなことが配偶者や交際相手など、親密な関係にある者の間で行われた場合、それを暴力だと思いますか。(○はそれぞれ1つつ)

「暴力にあたる」と思うと答えた人を多い順に見ていくと、

- “(k)嫌がっているのに、性的な行為を強要する”(全体93.6%)
- “(i)「誰のおかげで生活できるんだ」や「甲斐性なし」などと言う”(〃 84.3%)
- “(l)避妊に協力しない”(〃 83.7%)
- “(j)家計に必要な生活費を渡さない”(〃 82.2%)
- “(g)職場に行くことを妨害したり、外出先を制限する”(〃 81.2%)
- “(a)なぐるふりをしておどす”(〃 73.6%)
- “(h)何を言っても長期間無視し続ける”(〃 73.3%)
- “(e)家族や友人との関わりを持たせない”(〃 71.0%)
- “(f)交友関係や行き先、電話・メールなどを細かく監視する”(〃 68.1%)
- “(b)大声でどなる”(〃 67.9%)
- “(c)馬鹿にしたり、見下したような言動をする”(〃 66.6%)
- “(d)他の異性や親しい人との会話を許さない”(〃 55.5%)

の順となった。

図16-1 配偶者や交際相手などからの暴力と認識される行為 項目別一覧（総数）



2 配偶者からの被害経験の有無

問17 あなたは、これまでにあなたの配偶者から次のようなことをされたことがありますか。
 (a)～(d)のそれぞれについて、あてはまる番号に○をつけてください。
 (○はそれぞれ1つずつ)

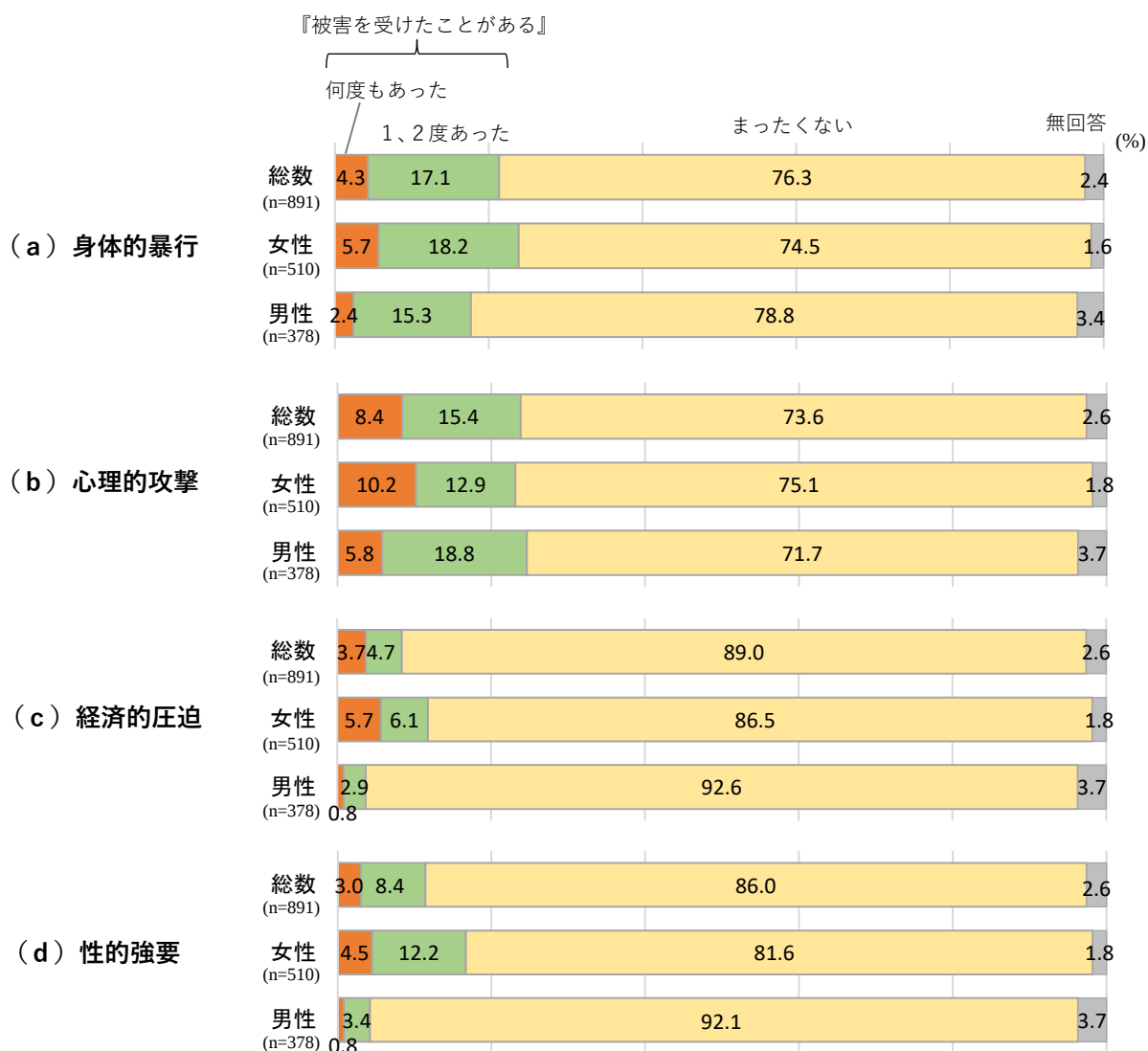
“（a）身体的暴行”では、「何度もあった」（女性5.7%、男性2.4%）、「1、2度あった」（女性18.2%、男性15.3%）となり、その合計では女性が男性を6.2ポイント上回った。

“（b）心理的攻撃”では、「何度もあった」（女性10.2%、男性5.8%）、「1、2度あった」（女性12.9%、男性18.8%）となり、その合計では大きな差は見られない。

“（c）経済的圧迫”では、「何度もあった」（女性5.7%、男性0.8%）、「1、2度あった」（女性6.1%、男性2.9%）となり、その合計では女性が男性を8.1ポイント上回った。

“（d）性的強要”では、「何度もあった」（女性4.5%、男性0.8%）、「1、2度あった」（女性12.2%、男性3.4%）で、その合計では女性が男性を12.5ポイント上回った。

図17-1 配偶者からの被害経験の有無 項目別一覧（性別）



2 配偶者からの被害経験の有無

(a) 身体的暴行

(例えば、なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなどの身体に対する暴行)

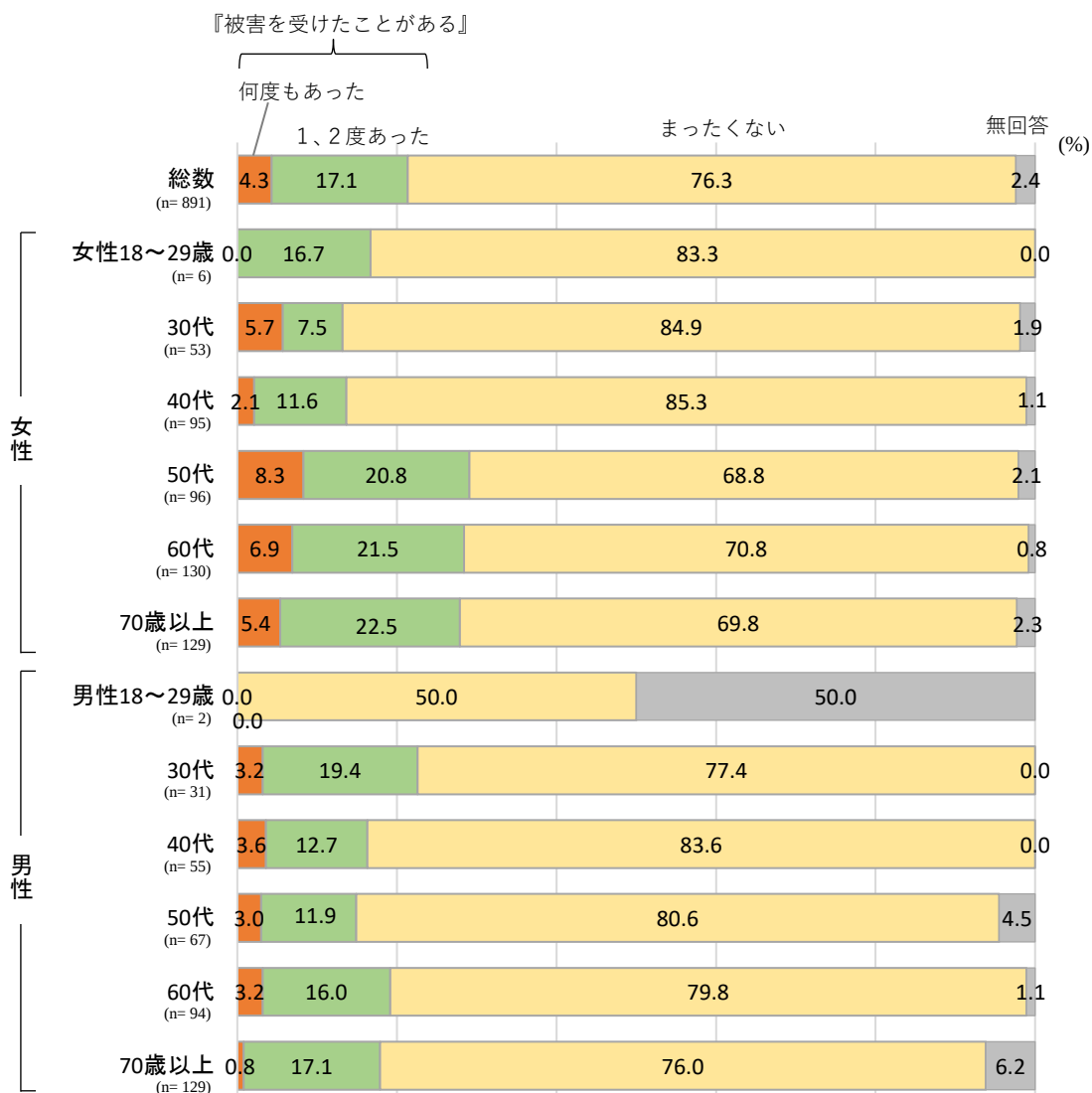
【性×年代別】

※男女とも18～29歳についてはサンプル数が少ないため参考掲載とする。

女性では、「何度もあった」と「1、2度あった」の合計は、50代以上で3割弱を占め、他の年代と比べ多くなっている。

男性では、「何度もあった」と「1、2度あった」の合計は30代以上でいずれも1割以上となっており、30代(22.6%)では2割を超えている。

図17-2 配偶者からの被害経験の有無 (a) 身体的暴行(年代別)



2 配偶者からの被害経験の有無

(b) 心理的攻撃

(例えば、人格を否定するような暴言、交友関係や行き先、電話・メールなどを細かく監視したり、長期間無視するなどの精神的な嫌がらせ、あるいは、自分もしくは自分の家族に危害が加えられるのではないかと恐怖を感じるような脅迫など)

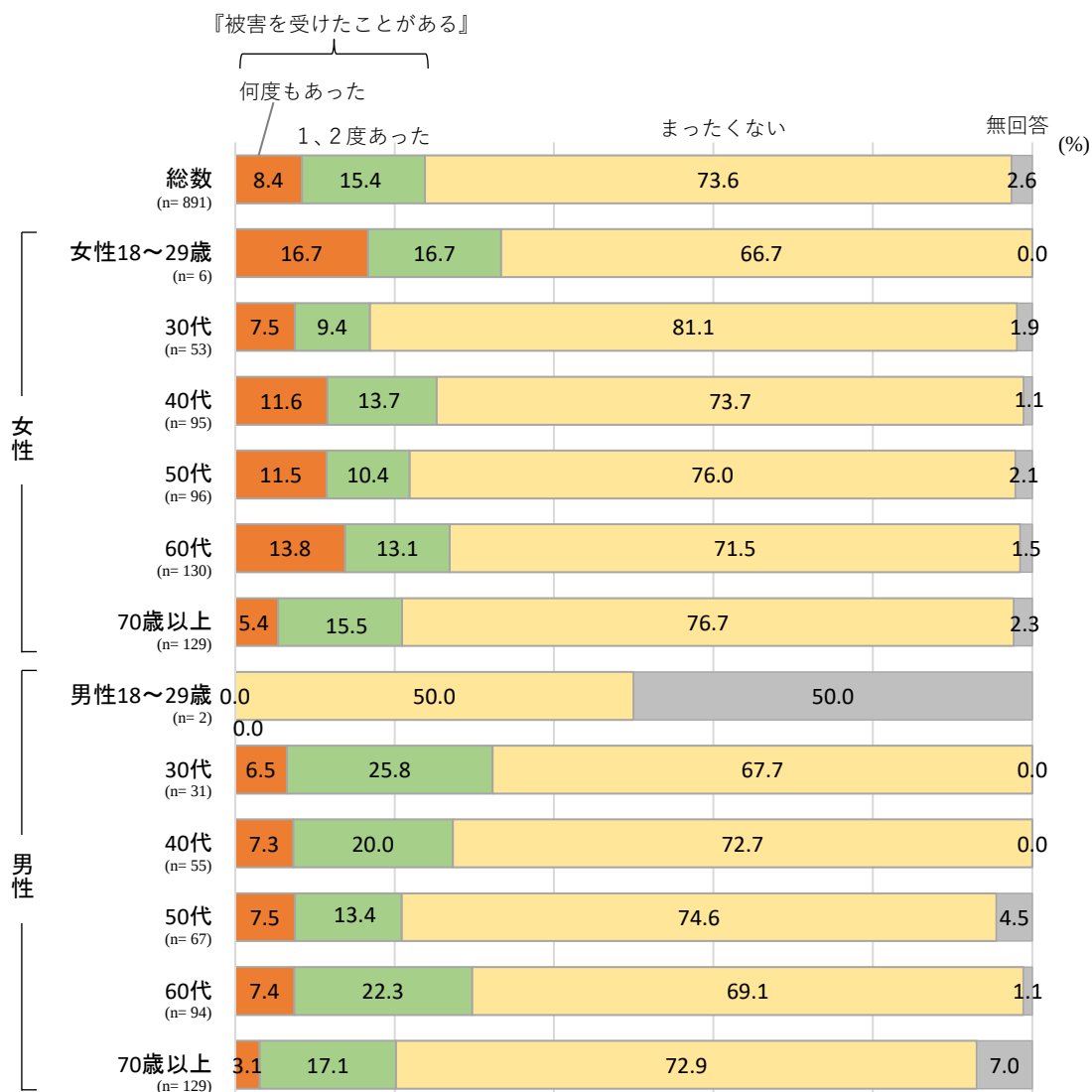
【性×年代別】

※男女とも18～29歳についてはサンプル数が少ないため参考掲載とする。

女性では、「何度もあった」と「1、2度あった」の合計が、40代（25.3%）と60代（26.9%）で多くなっている。

男性では、「何度もあった」と「1、2度あった」の合計が、30代（32.3%）で多くなっている。

図17-3 配偶者からの被害経験の有無 (b) 心理的攻撃（年代別）



2 配偶者からの被害経験の有無

(c) 経済的圧迫

(例えば、生活費を渡さない、貯金を勝手に使われる、外で働くことを妨害されるなど)

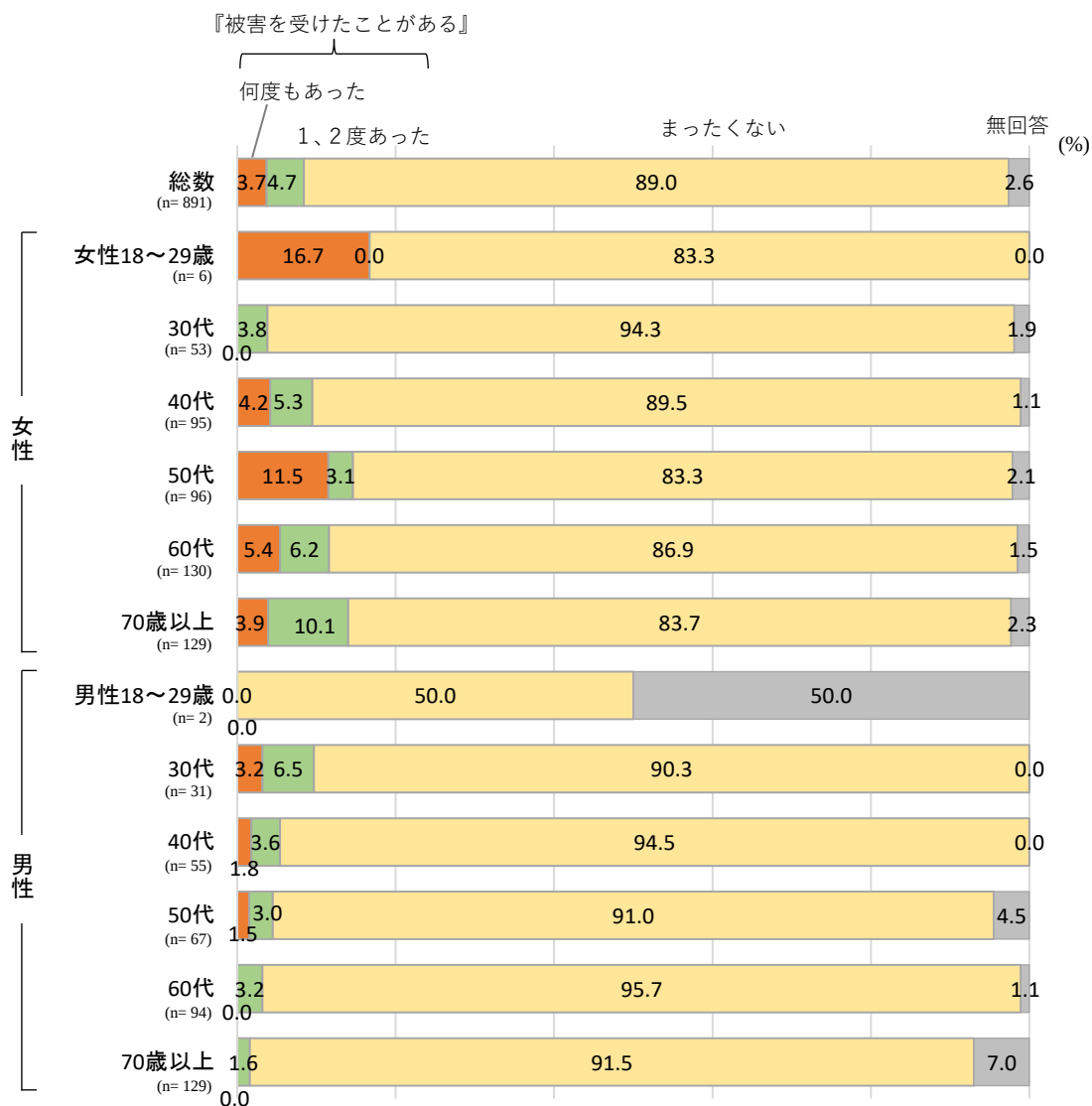
【性×年代別】

※男女とも18～29歳についてはサンプル数が少ないため参考掲載とする。

女性では、「何度もあった」と「1、2度あった」の合計は50代（14.6%）と70歳以上（14.0%）で多くなっている。

男性では、「何度もあった」と「1、2度あった」の合計は30代から70歳以上で1割を下回っている。

図17-4 配偶者からの被害経験の有無 (c) 経済的圧迫 (年代別)



2 配偶者からの被害経験の有無

(d) 性的強要

(例えば、嫌がっているのに性的な行為を強要される、見たくないポルノ映像等を見せられる、避妊に協力しないなど)

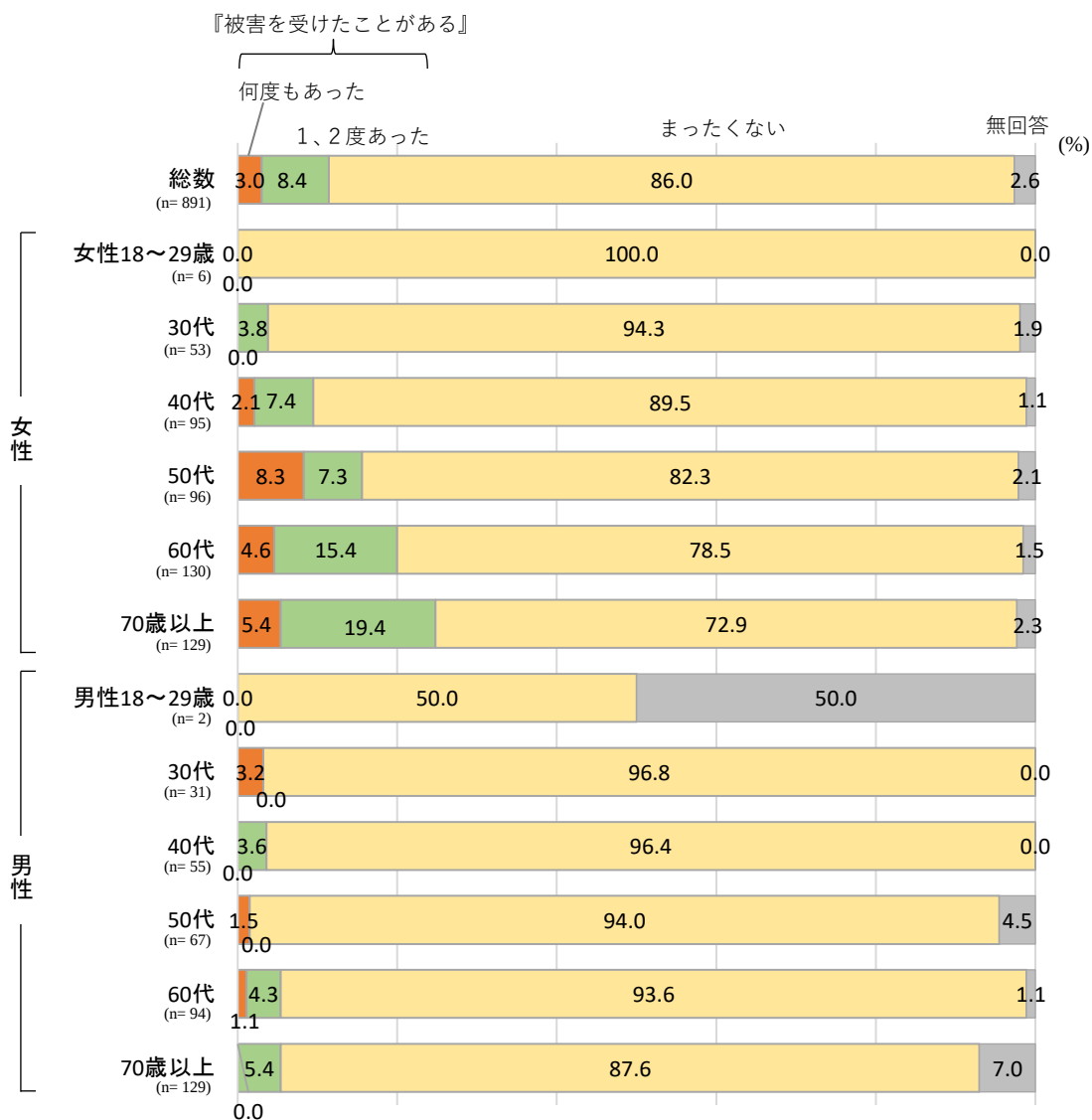
【性×年代別】

※男女とも18～29歳についてはサンプル数が少ないため参考掲載とする。

女性では、「何度もあった」と「1、2度あった」の合計は70歳以上（24.8%）で最も多く、年代が高いほど、被害を受けた割合が高くなっている。

男性では、「何度もあった」と「1、2度あった」の合計はいずれの年代も1割を下回っている。

図17-5 配偶者からの被害経験の有無 (d) 性的強要 (年代別)



2 配偶者からの被害経験の有無・まとめ

【令和2年度調査との比較】

女性では、「何度もあった」は1.6ポイント、「1、2度あった」は1.8ポイント、合計3.4ポイント多くなっている。

男性では、「何度もあった」は1.4ポイント、「1、2度あった」は4.6ポイント多く、合計で6.0ポイント多くなっている。

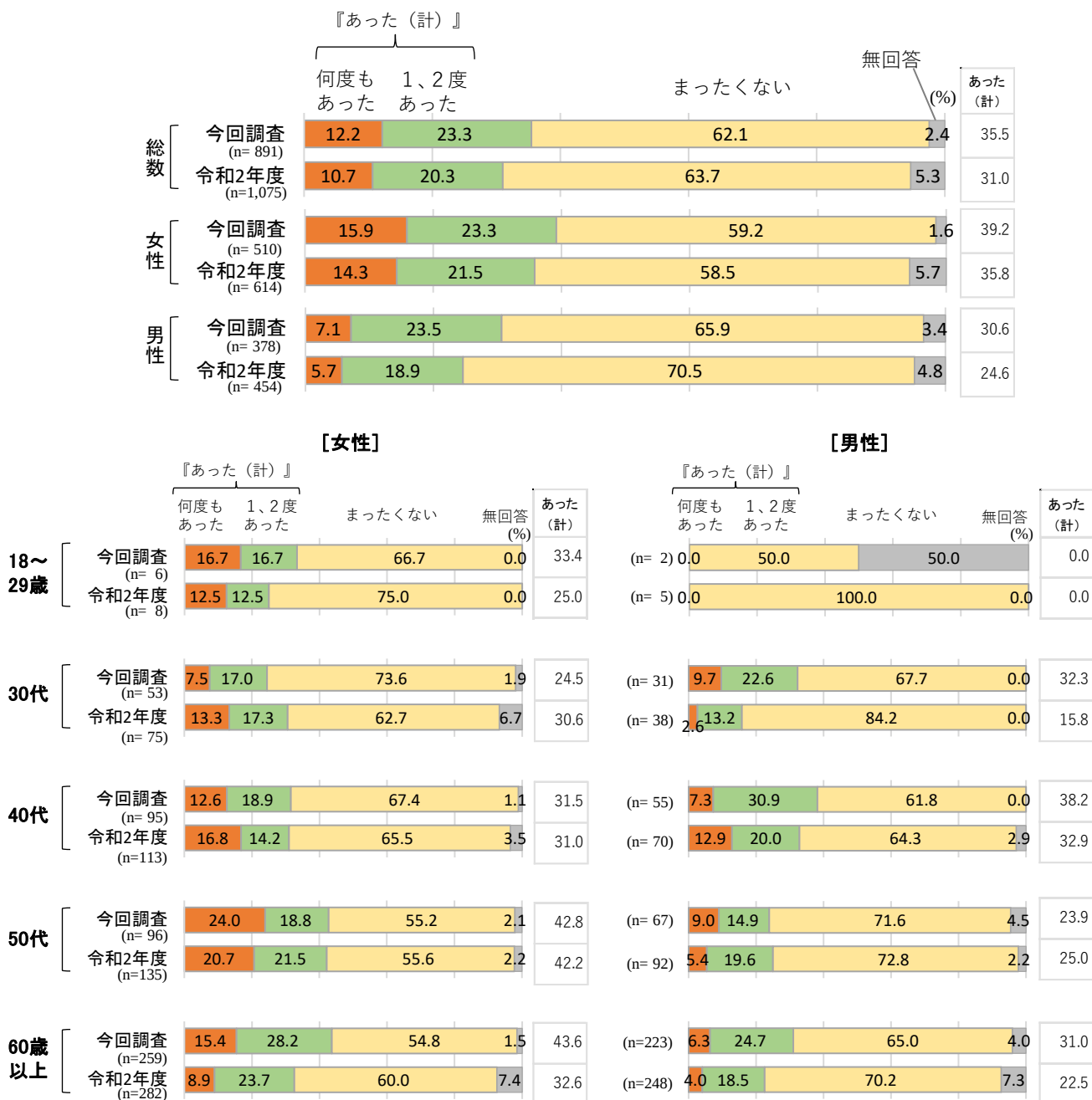
【性×年代別】

※男女とも18～29歳については、サンプル数が少ないため、参考掲載とする。

女性では、『あった（計）』は、60歳以上で11.0ポイント、令和2年度調査より多くなっている。

男性では、『あった（計）』は、30代で16.5ポイント、60歳以上で8.5ポイント、令和2年度調査より多くなっている。

図17-6 配偶者からの被害経験の有無 【令和2年度調査との比較】



2 配偶者からの被害経験の有無・まとめ

【令和5年度内閣府調査との比較】

女性では、「何度もあった」は2.7ポイント、「1、2度あった」は9.0ポイント、合計11.7ポイント多くなっている。

男性では、「何度もあった」は0.1ポイント少ないが、「1、2度あった」は8.8ポイント多く、合計で8.7ポイント多くなっている。

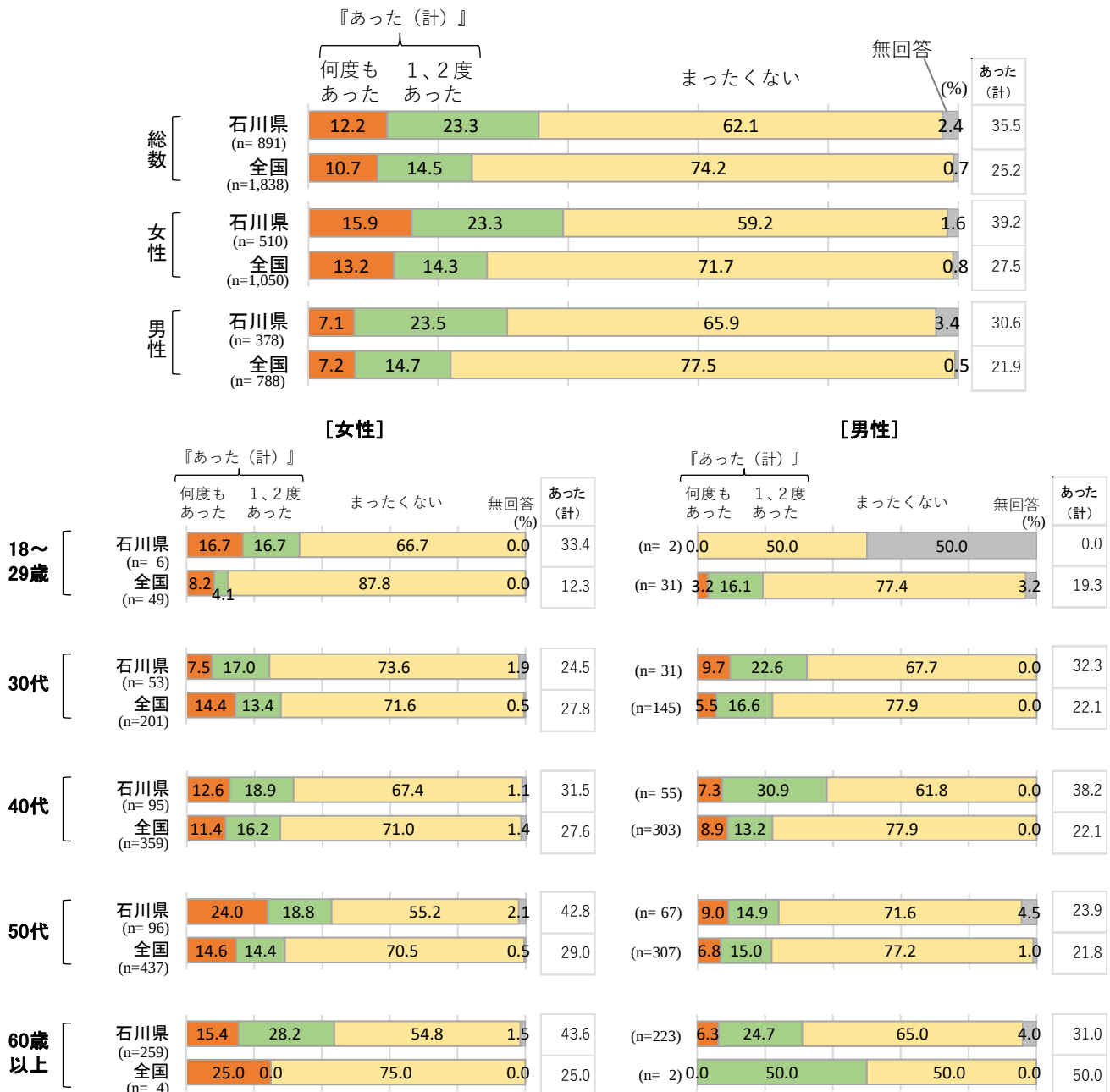
【性×年代別】

※男女とも石川県の18～29歳、全国の60歳以上については、サンプル数が少ないため、参考掲載とする。

女性では、『あった（計）』は、50代で13.8ポイント、内閣府調査より多くなっている。

男性では、『あった（計）』は、40代で16.1ポイント、30代で10.2ポイント、内閣府調査より多くなっている。

図17-7 配偶者からの被害経験の有無 【令和5年度内閣府調査との比較】
(内閣府が令和5年度に実施した「男女間における暴力に関する調査」の調査結果と比較をする。)



2 配偶者からの被害経験の有無 被害の内容

配偶者からの被害経験の有無について、被害の内容を見ると、女性では「身体的暴行のみ」（6.5%）が最も多く、次いで「身体的暴行と心理的攻撃」（5.3%）、「心理的攻撃のみ」（4.9%）、「身体的暴行・心理的攻撃・経済的圧迫・性的強要」（3.9%）と続き、被害の重複もみられる。

男性では、「心理的攻撃のみ」（10.1%）「身体的暴行と心理的攻撃」（8.5%）、「身体的暴行のみ」（4.8%）と続き、男女ともに被害の重複がみられる。

女性の方が「身体的暴行・心理的攻撃・経済的圧迫・性的強要」で男性よりも3.4ポイント多く、男性では、「心理的攻撃のみ」で女性より5.2ポイント多くなっている。

図17-8 配偶者からの被害経験の有無（性別）

(%)

		n	身体的 暴行のみ	心理的 攻撃のみ	経済的 圧迫のみ	性的 強要のみ	身体的 暴行と 心理的 攻撃	身体的 暴行と 経済的 圧迫	身体的 暴行と 性的 強要	心理的 攻撃と 経済的 圧迫	心理的 攻撃と 性的 強要	経済的 圧迫と 性的 強要	身体的 暴行・ 経済的 圧迫・ 心理的 攻撃・ 性的 強要	身体的 暴行・ 心理的 攻撃・ 性的 強要	身体的 暴行・ 経済的 圧迫・ 性的 強要	心理的 攻撃・ 経済的 圧迫・ 性的 強要	身体的 暴行・ 経済的 圧迫・ 性的 強要・ 心理的 攻撃	まったく ない	無回 答
総数		891	5.7	7.1	1.3	2.2	6.6	0.3	1.6	1.1	1.6	0.3	1.9	2.4	0.2	0.6	2.6	62.1	2.4
性別	女性	510	6.5	4.9	2.4	3.3	5.3	0.6	2.4	1.4	1.8	0.6	1.6	3.3	0.4	1.0	3.9	59.2	1.6
	男性	378	4.8	10.1	-	0.8	8.5	-	0.5	0.8	1.3	-	2.4	1.1	-	-	0.5	65.9	3.4

3 配偶者からの暴力についての相談経験の有無・相談先

【問17で(a)～(d)のうち1つでも「2. 1、2度あった」「3. 何度もあった」と答えた方にお聞きします。】

問17-1 あなたはこれまでに、あなたの配偶者から受けたそのような行為について、どこ（だれ）かに打ち明けたり、相談したりしましたか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。（○はいくつでも）

配偶者から被害を受けたことが「これまでにあった」と答えた人に、どこ（だれ）かに打ち明けたり、相談したことがあるかをたずねたところ、「相談した」と答えた人は36.9%、「相談しなかった」は53.6%で、「相談しなかった」方が16.7ポイント多かった。性別で見ると、「相談しなかった」は男性（63.8%）が女性（48.0%）より15.8ポイント多くなっている。

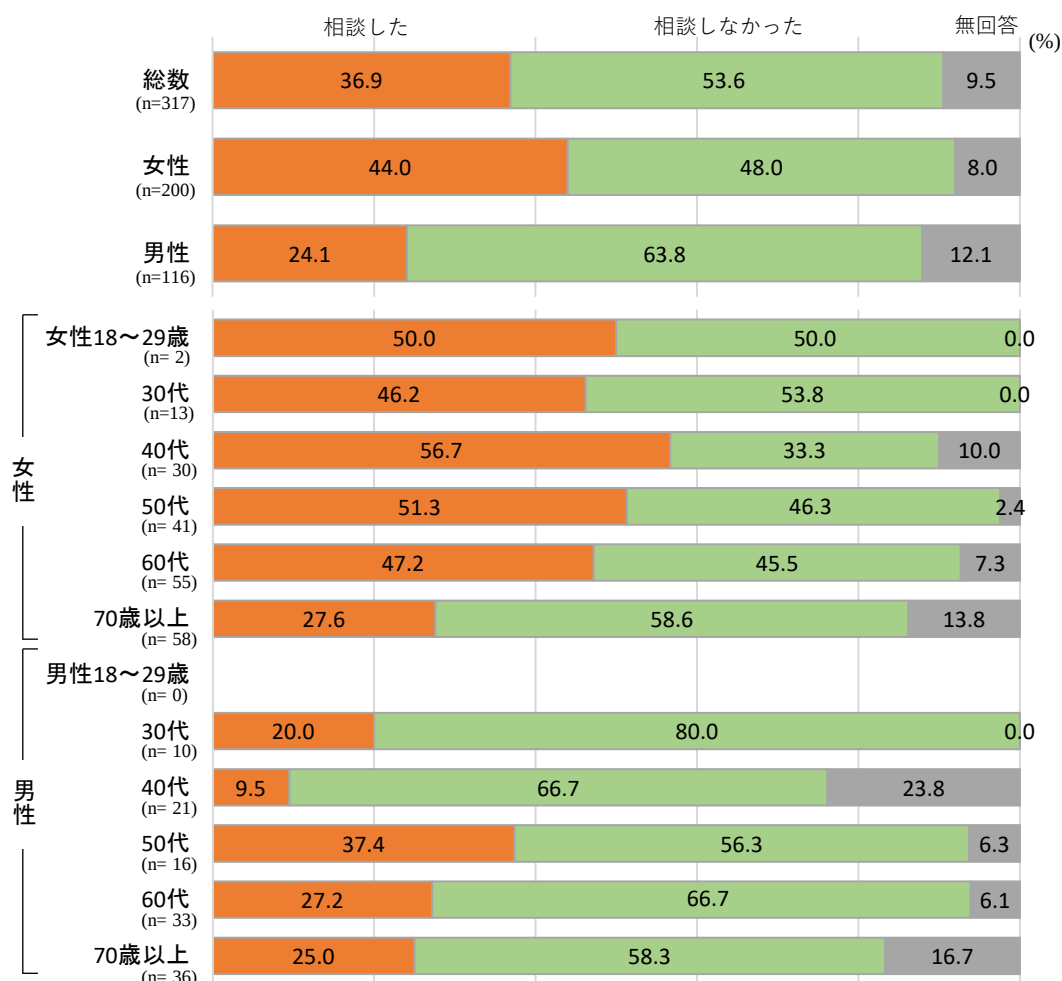
【性×年代別】

※男女とも18～29歳については、サンプル数が少ないため、参考掲載とする。

女性では、「相談した」が70歳以上を除き、4割を超えている。

男性では、「相談した」が40代を除き、2割を超えている。

図17-1-1 配偶者からの暴力についての相談経験の有無 項目別一覧（性別、性×年代別）



3 配偶者からの暴力についての相談経験の有無・相談先

相談した人のうち、どこ（だれ）に相談したかを見ると、女性では「家族や親戚」（28.5％）、次いで「知人、友人」（24.5％）の順で、それ以外は3％未満となっている。男性では「家族や親戚」（12.1％）、次いで「知人、友人」（10.3％）の順で、それ以外は4％未満となっている。

【性×年代別】

※男女とも18～29歳についてはサンプル数が少ないため、参考掲載とする。

女性では「家族や親戚」と「知人、友人」が総じて多い。

男性では「家族や親戚」、「知人、友人」以外に「医療関係者」もあがっている。

図17-1-2 配偶者からの暴力についての相談先 項目別一覧（性別）

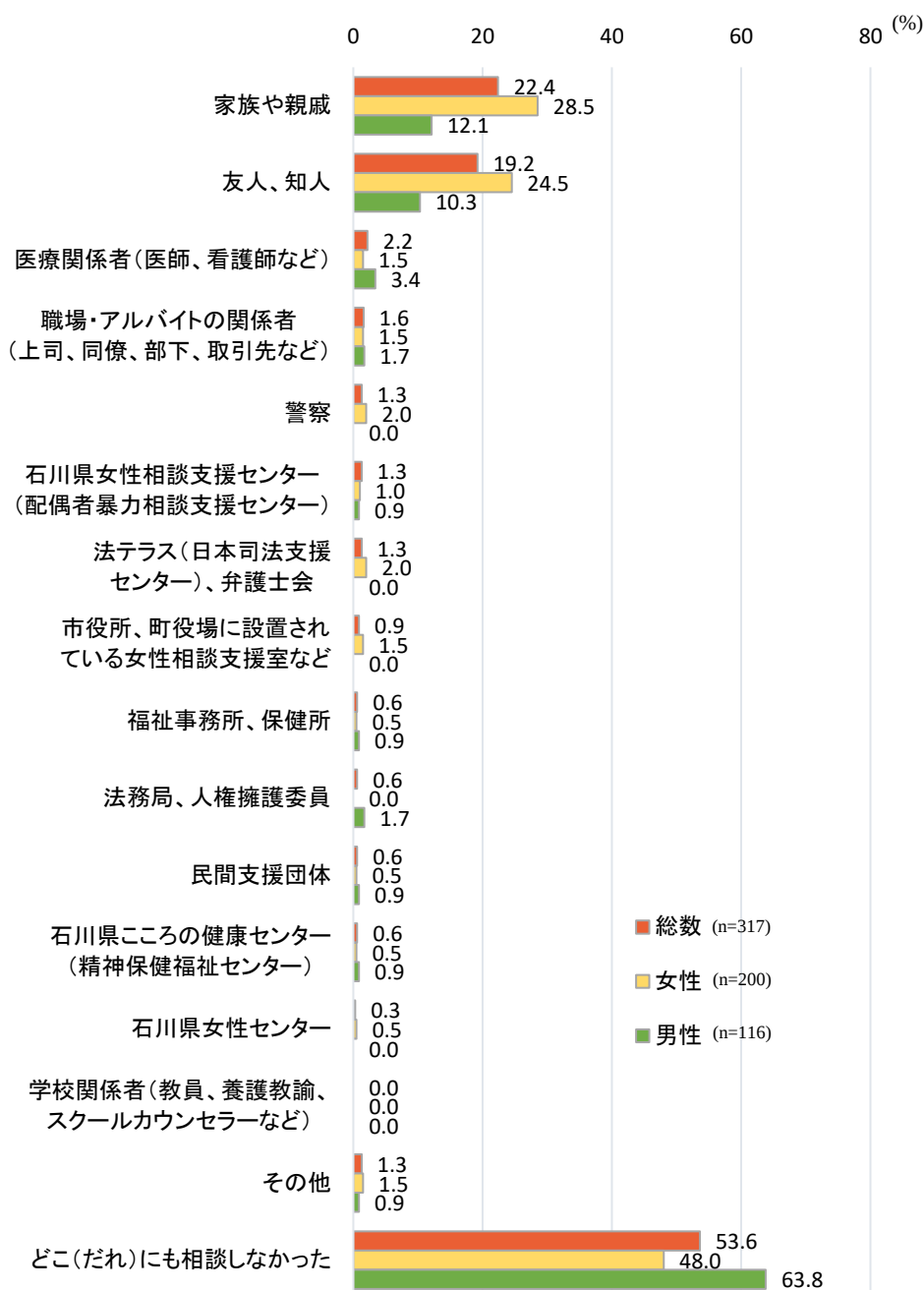
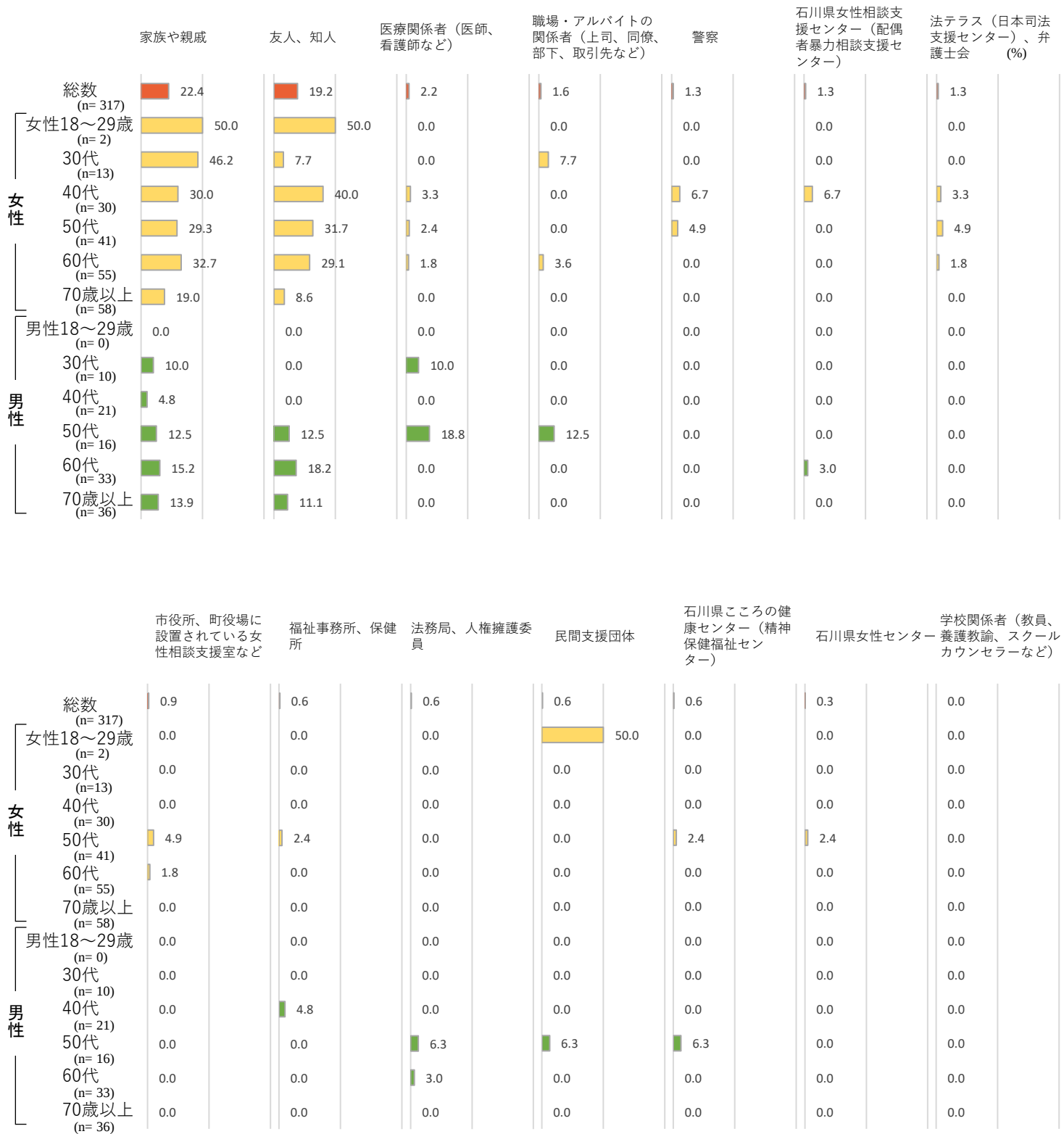


図17－１－３ 配偶者からの暴力についての相談先 項目別一覧（性×年代別）



3 配偶者からの暴力についての相談経験の有無・相談先

【令和2年度調査との比較】

「家族や親戚」は1.7ポイント増加したが、それ以外に1ポイント以上の増減は見られなかった。
「どこ（だれ）にも相談しなかった」は6.5ポイント増加している。

図17－1－4 配偶者からの暴力についての相談先 【令和2年度調査との比較】



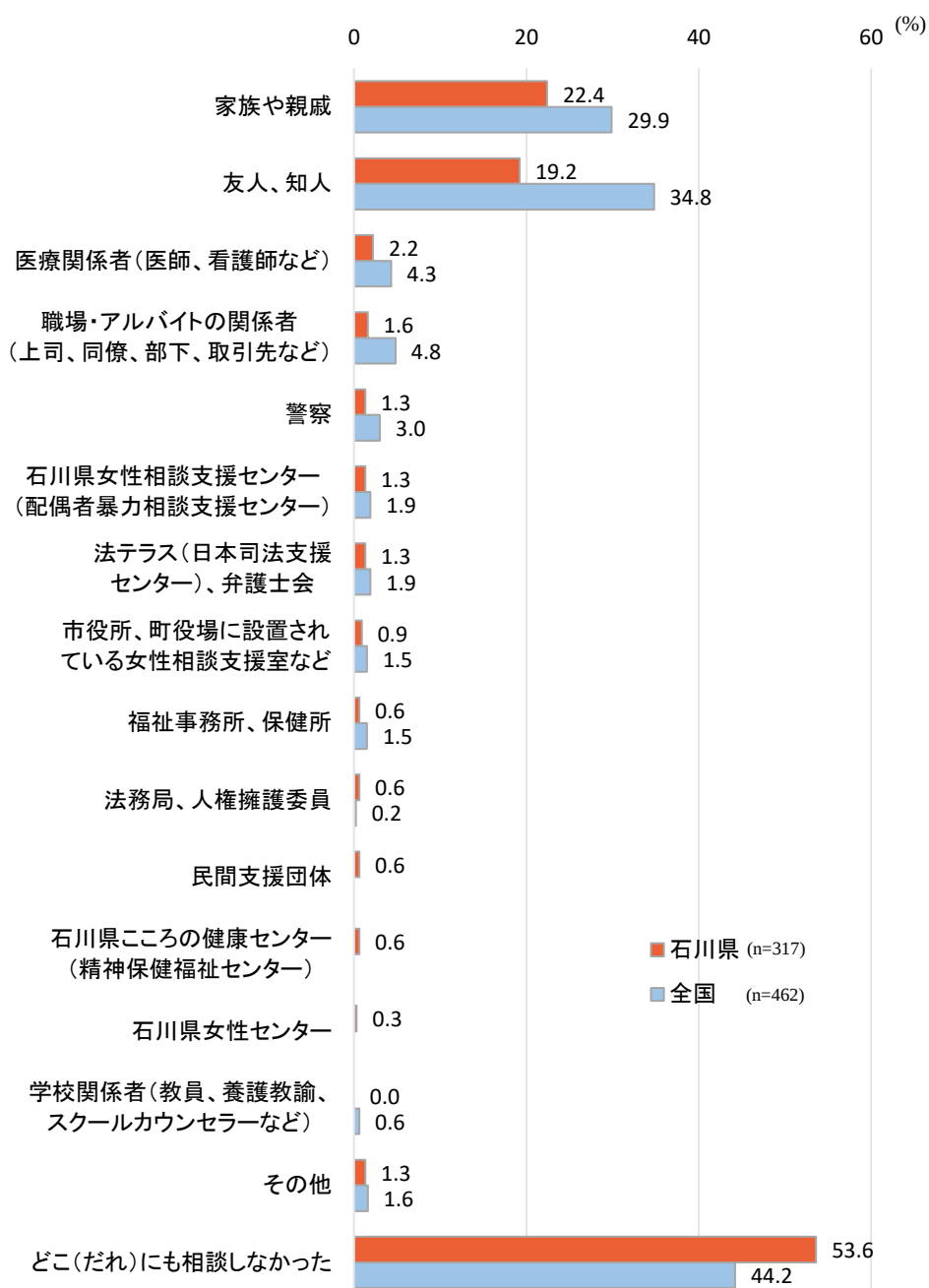
3 配偶者からの暴力についての相談経験の有無・相談先

【令和5年度内閣府調査との比較】

全般的に、相談している割合が低く、特に「友人、知人」（-15.6ポイント）、「家族や親戚」（-7.5ポイント）で、内閣府調査を大きく下回っている。

また、「どこ（だれ）にも相談しなかった」割合は、内閣府調査を9.4ポイント上回っている。

図17－1－5 配偶者からの暴力についての相談先 【令和5年度内閣府調査との比較】



4 配偶者からの暴力について相談しなかった理由

【問17-1で「16. どこ（だれ）にも相談しなかった」と答えた方にお聞きします。】

問17-2 どこ（だれ）にも相談しなかったのは、なぜですか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。（○はいくつでも）

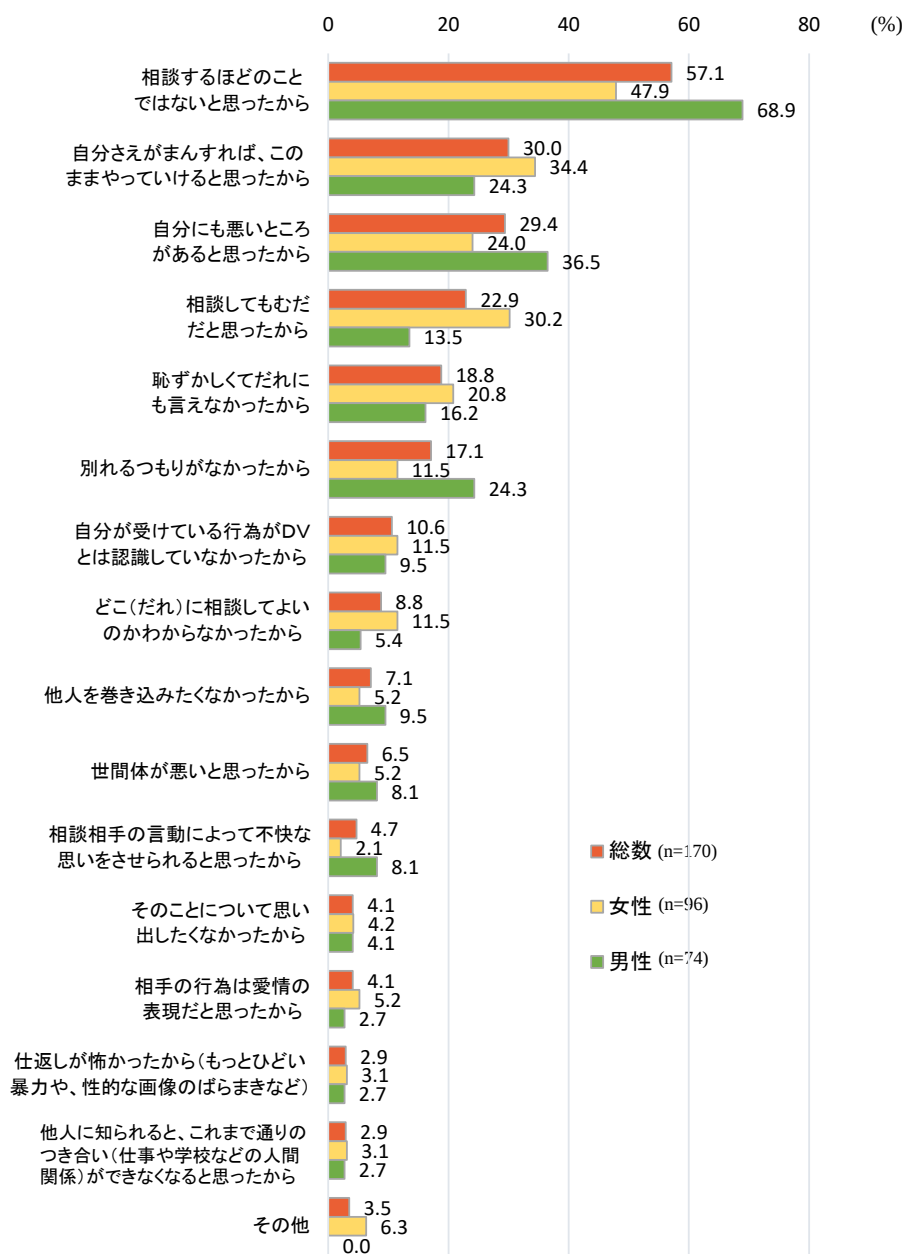
配偶者から被害を受けながら「相談しなかった」と答えた人に、その理由をたずねたところ、男女ともに最も多かったのが「相談するほどのことではないと思ったから」（女性47.9%、男性68.9%）であった。

次いで、女性では「自分さえがまんすれば、このままやっていけると思ったから」（34.4%）「相談してもむだだと思ったから」（30.2%）、「自分にも悪いところがあると思ったから」（24.0%）と続く。

男性では「自分にも悪いところがあると思ったから」（36.5%）、「自分さえがまんすれば、このままやっていけると思ったから」（24.3%）、「別れるつもりがなかったから」（24.3%）と続く。

男女の違いで特徴的なのは、「相談してもむだだと思ったから」では女性の方が16.7ポイント多くなっている。「相談するほどのことではないと思ったから」では男性の方が21.0ポイント多くなっている。

図17-2-1 配偶者からの暴力について相談しなかった理由 項目別一覧（性別）



5 交際相手からの被害経験の有無

【これまでに交際相手がいた方にお聞きします。】

問18 あなたは、交際相手から次のようなことをされたことがありますか。(a)～(d)のそれぞれについて、あてはまる番号に○をつけてください。(○はそれぞれいくつでも)

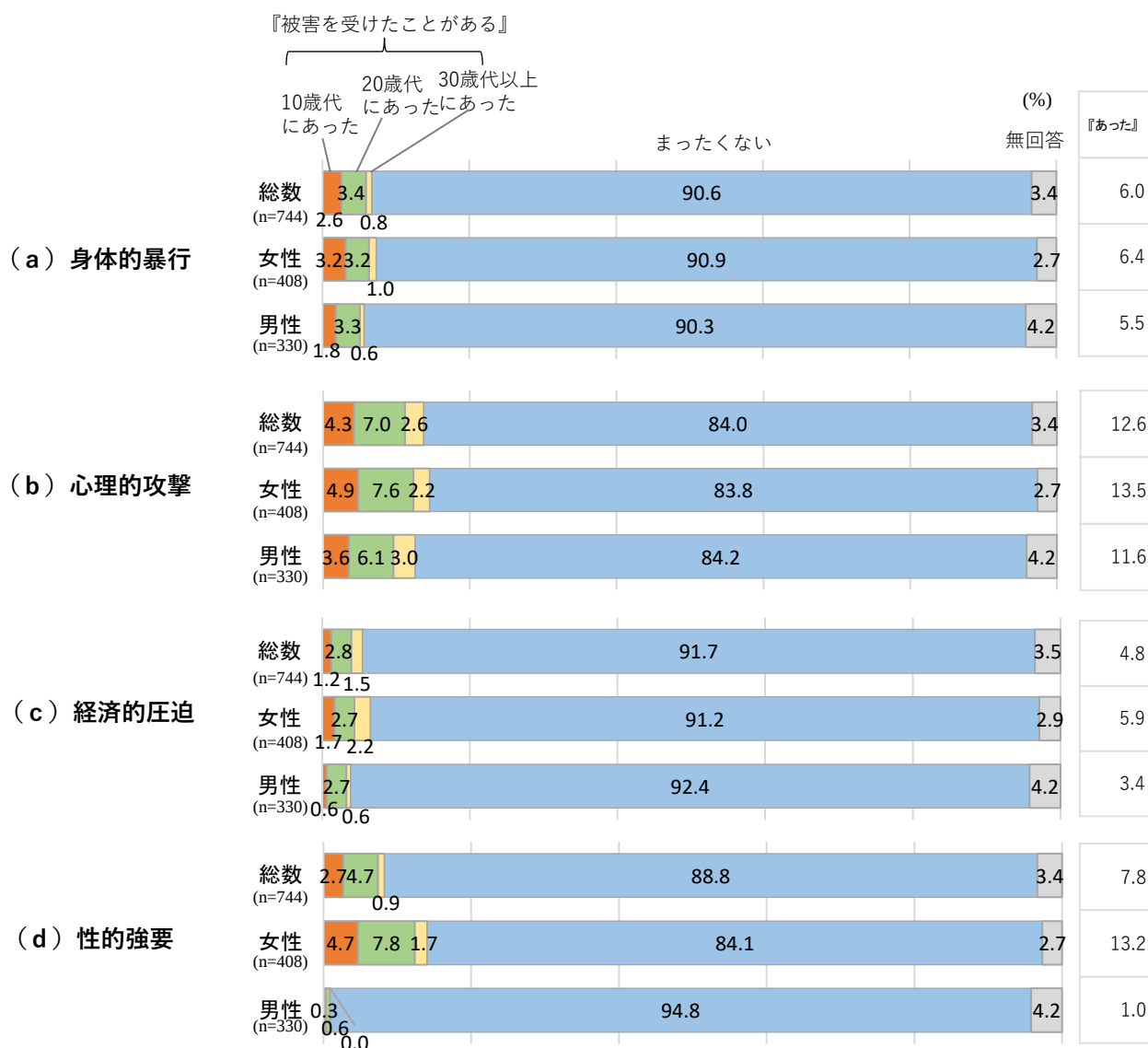
“（a）身体的暴行”は「10歳代にあった」が2.6%、「20歳代にあった」が3.4%、「30歳代以上にあった」が0.8%となっている。

“（b）心理的攻撃”は「10歳代にあった」が4.3%、「20歳代にあった」が7.0%、「30歳代以上にあった」が2.6%となっている。

“（c）経済的圧迫”は「10歳代にあった」が1.2%、「20歳代にあった」が2.8%、「30歳代以上にあった」が1.5%となっている。

“（d）性的強要”は「10歳代にあった」が2.7%、「20歳代にあった」が4.7%、「30歳代以上にあった」が0.9%となっている。

図18－1 交際相手からの被害経験の有無 項目別一覧（性別）



※複数の項目を選択している場合があるため、合計値が100%を超える場合がある。以降のページも同様。
コメント内の被害を受けたことが『あった』は、母数から「まったくない」と「無回答」を差し引き算出。

5 交際相手からの被害経験の有無

(a) 身体的暴行

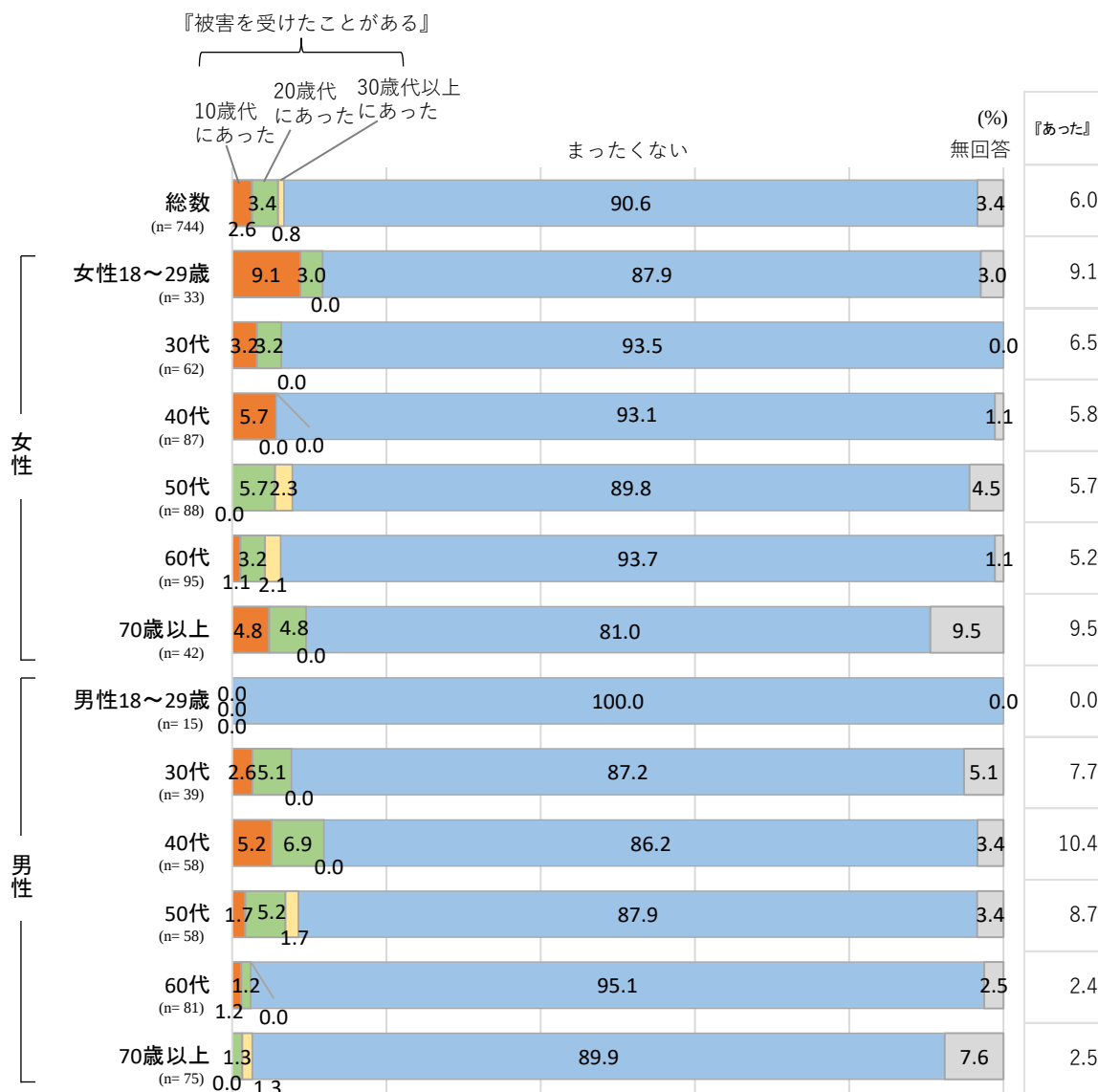
(例えば、なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなどの身体に対する暴行)

【性×年代別】

女性では、『あった』が最も多かったのは、70歳以上（9.5%）、次いで、18~29歳（9.1%）で、最も少なかったのが60代（5.2%）だった。

男性では、『あった』が最も多かったのは、40代（10.4%）、次いで、50代（8.7%）で、最も少なかったのが18~29歳（0%）だった。

図18-2 交際相手からの被害経験の有無 (a) 身体的暴行（年代別）



5 交際相手からの被害経験の有無

(b) 心理的攻撃

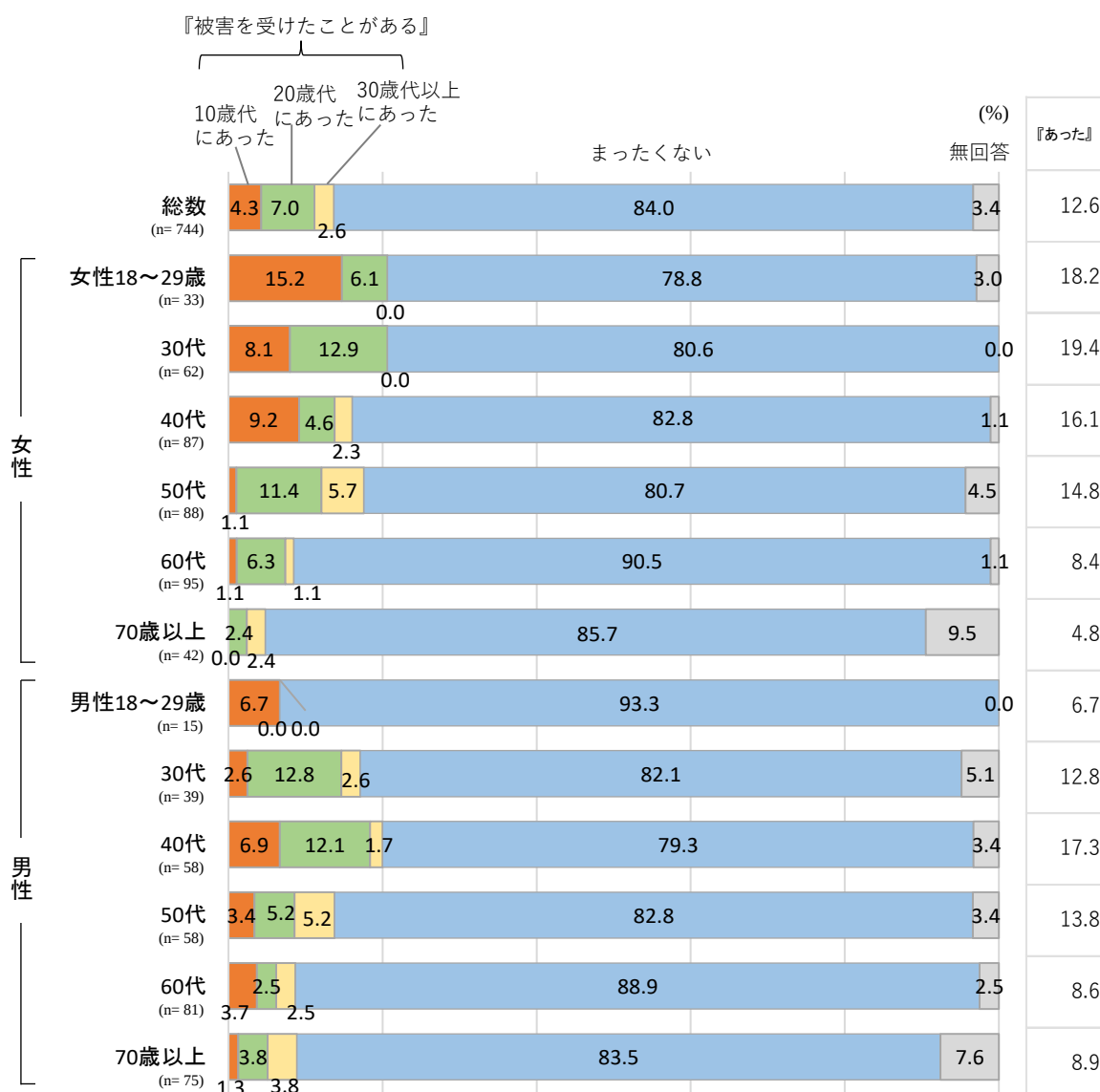
(例えば、人格を否定するような暴言、交友関係や行き先、電話・メールなどを細かく監視したり、長期間無視するなどの精神的な嫌がらせ、あるいは、自分もしくは自分の家族に危害が加えられるのではないかと恐怖を感じるような脅迫など)

【性×年代別】

女性では、『あった』が最も多かったのは、30代（19.4%）、次いで、18～29歳（18.2%）で、最も少なかったのが70歳以上（4.8%）だった。

男性では、『あった』が最も多かったのは、40代（17.3%）、次いで、50代（13.8%）で、最も少なかったのが18～29歳（6.7%）だった。

図18-3 交際相手からの被害経験の有無 (b) 心理的攻撃（年代別）



5 交際相手からの被害経験の有無

(c) 経済的圧迫

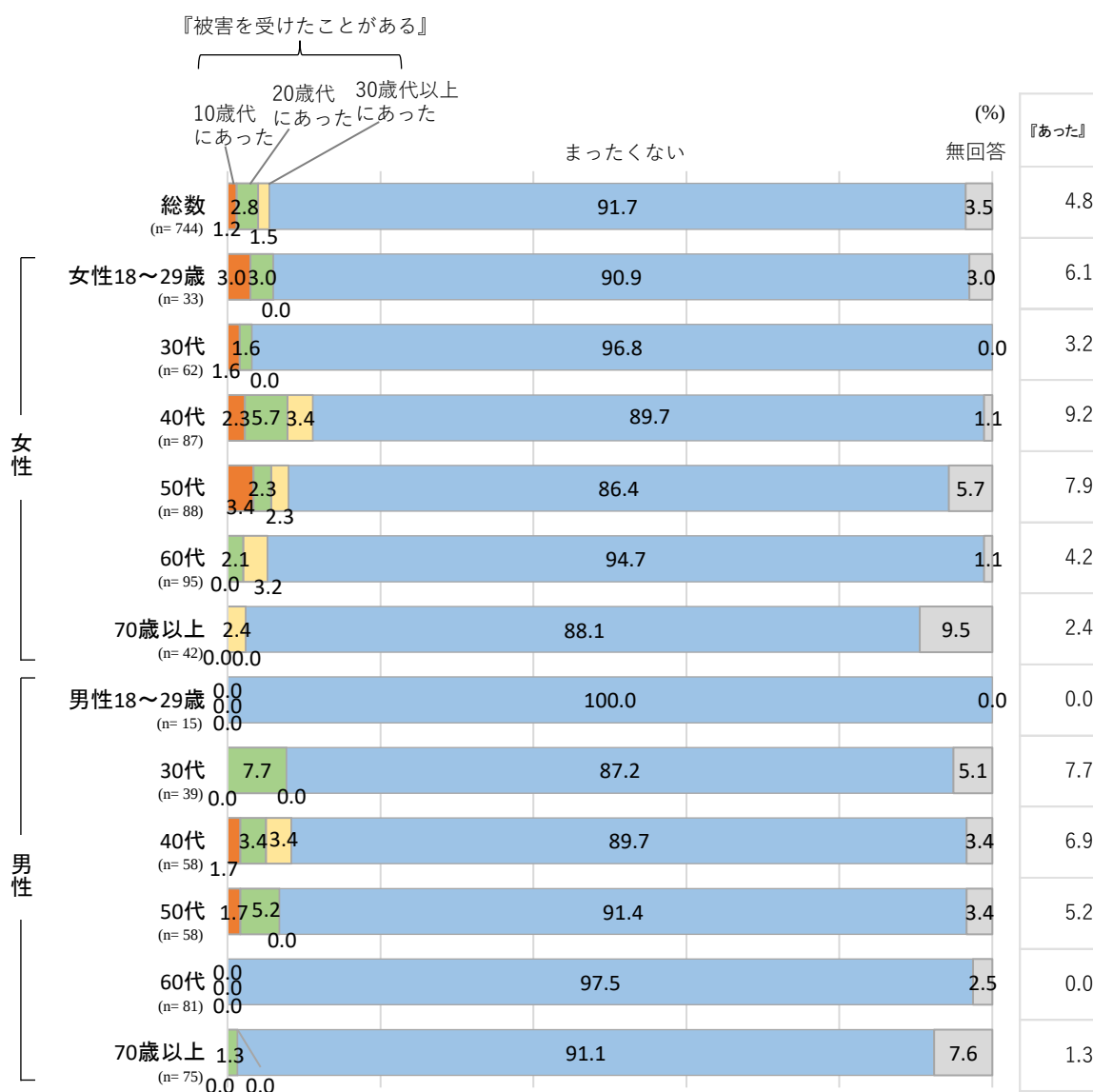
(例えば、生活費を渡さない、貯金を勝手に使われる、外で働くことを妨害されるなど)

【性×年代別】

女性では、『あった』が最も多かったのは、40代（9.2%）、次いで、50代（7.9%）で、最も少なかったのが70歳以上（2.4%）だった。

男性では、『あった』が最も多かったのは、30代（7.7%）、次いで、40代（6.9%）で、最も少なかったのが18～29歳と60代（0%）だった。

図18-4 交際相手からの被害経験の有無 (c) 経済的圧迫（年代別）



5 交際相手からの被害経験の有無

(d) 性的強要

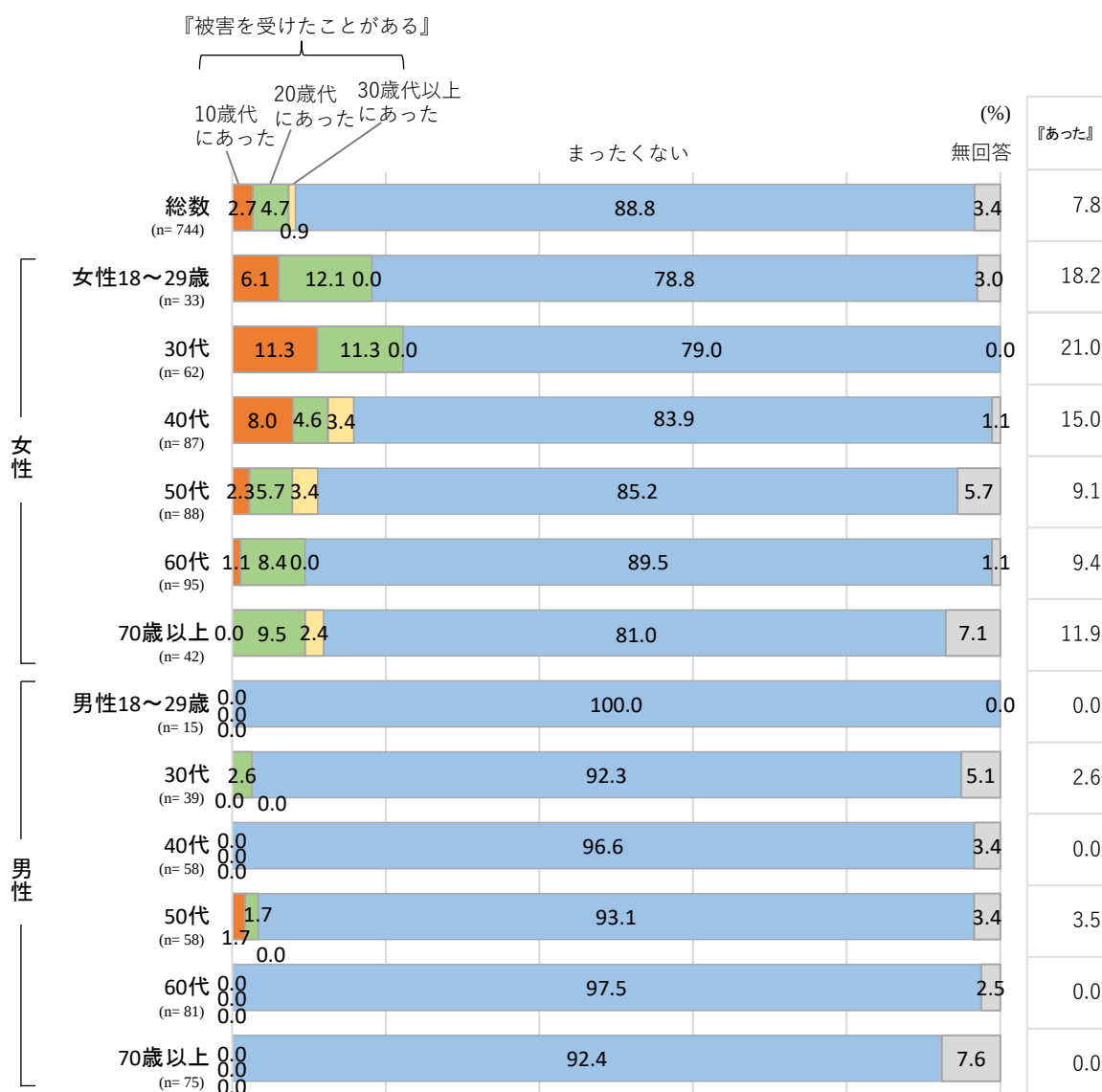
(例えば、嫌がっているのに性的な行為を強要される、見たくないポルノ映像等を見せられる、避妊に協力しないなど)

【性×年代別】

女性では、『あった』が最も多かったのは、30代（21.0%）、次いで、18～29歳（18.2%）で、最も少なかったのが50代（9.1%）だった。

男性では、『あった』が最も多かったのは、50代（3.5%）、次いで、30代（2.6%）で、最も少なかったのが18～29歳、40代、60代、70歳以上（0%）だった。

図18-5 交際相手からの被害経験の有無 (d) 性的強要（年代別）



5 交際相手からの被害経験の有無・まとめ

【令和2年度調査との比較】

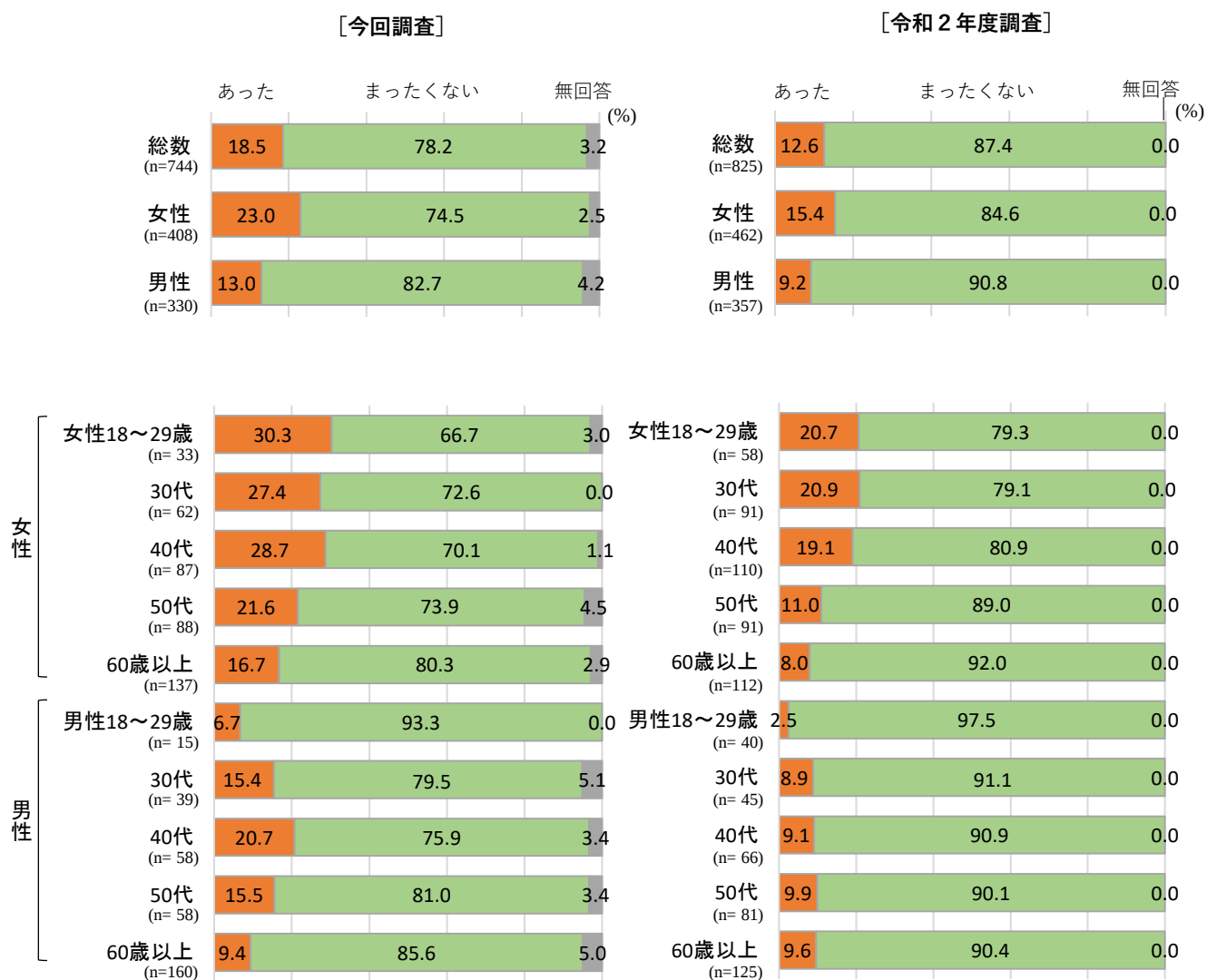
前回調査と比べ、『あった』割合は、総数で5.9ポイント、性別で見ると、女性で7.6ポイント、男性で3.8ポイント多くなっている。

【性×年代別】

女性では、『あった』はいずれの年代でも前回調査より多くなっている。

男性でも、『あった』は50代以下で、前回調査より多くなっている。

図18－6 交際相手からの被害経験の有無 【令和2年度調査との比較（性別、性×年代別）】



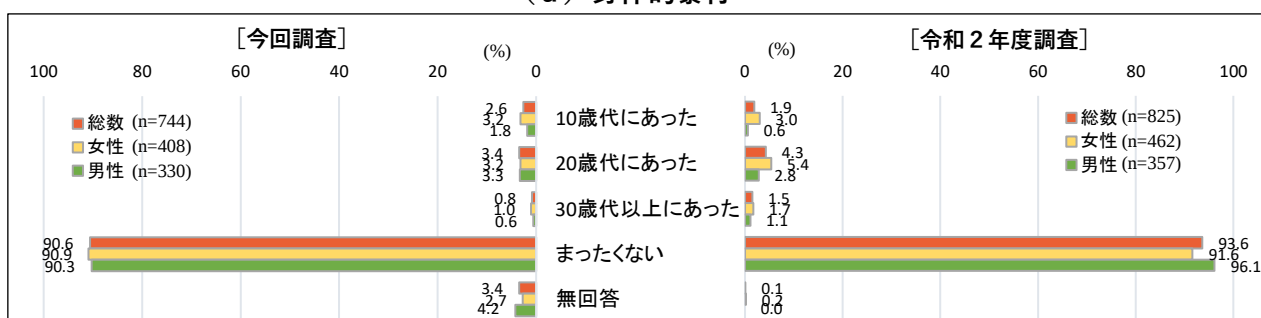
5 交際相手からの被害経験の有無・まとめ

【令和2年度調査との比較】

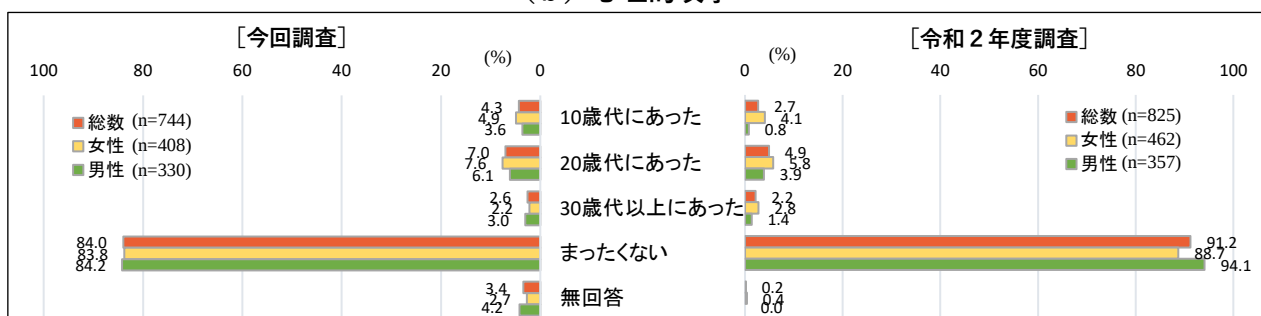
前回調査と比べ、「まったくない」の割合が、いずれの被害経験でも減少している。

図18－7 交際相手からの被害経験の有無 【令和2年度調査との比較（性別）】

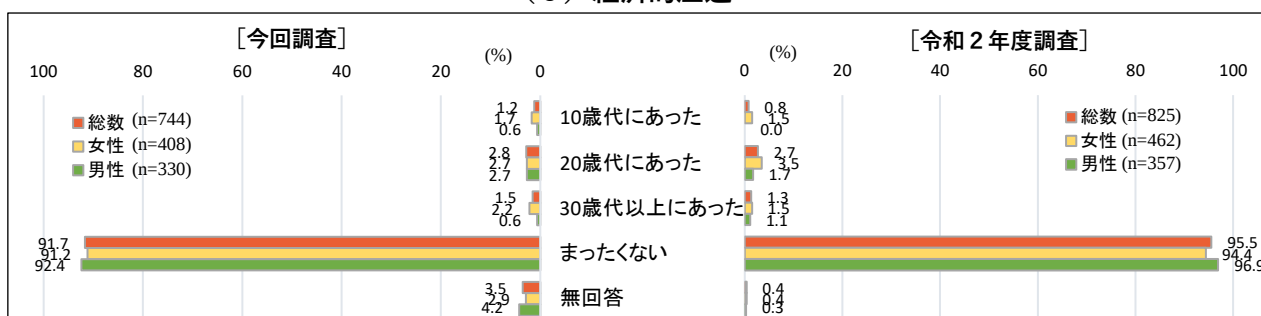
(a) 身体的暴行



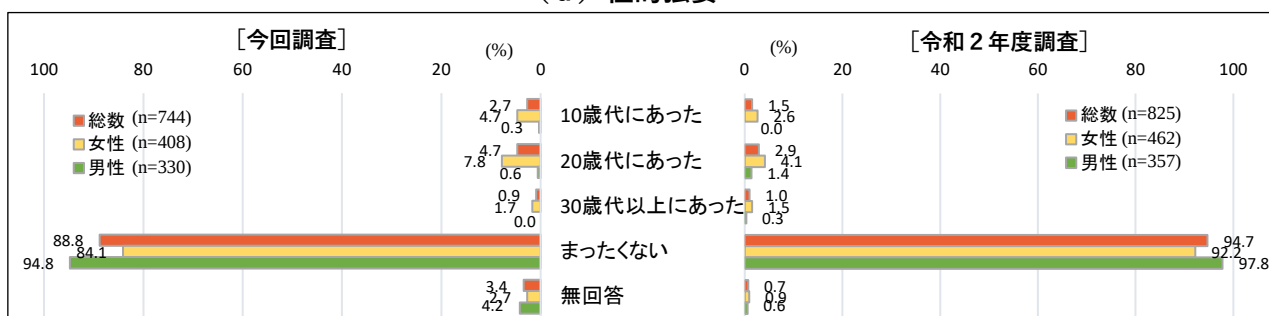
(b) 心理的攻撃



(c) 経済的圧迫



(d) 性的強要



5 交際相手からの被害経験の有無・まとめ

【令和5年度内閣府調査との比較】

総数、男女とも内閣府調査と差は見られない。

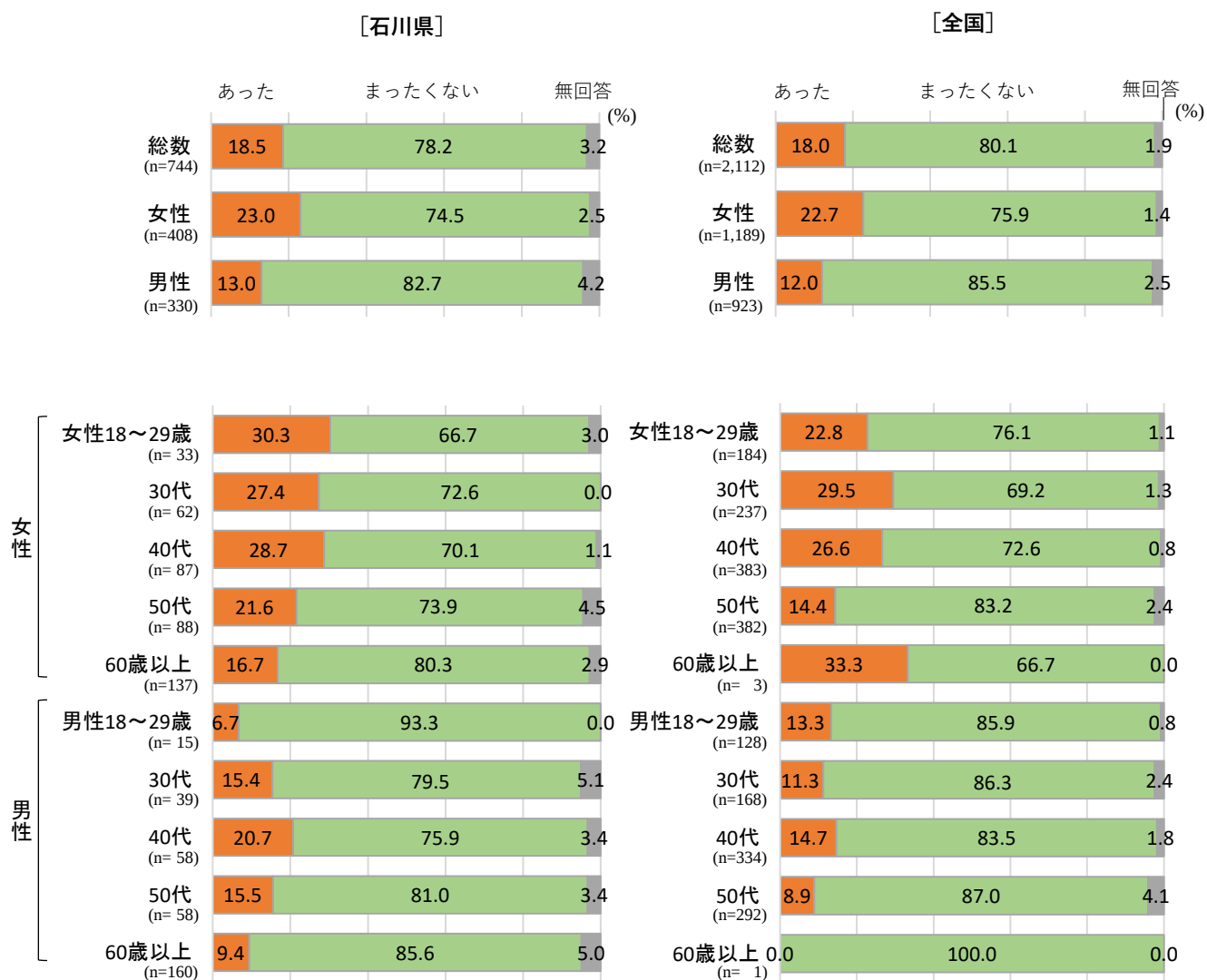
【性×年代別】

※男女とも全国の60歳以上については、サンプル数が少ないため、参考掲載とする。

女性では、『あった』が40代以下で多い傾向は変わらない。

男性では、『あった』は30代から50代で、内閣府調査より多くなっている。

図18－8 交際相手からの被害経験の有無 【令和5年度内閣府調査との比較（性別、性×年代別）】

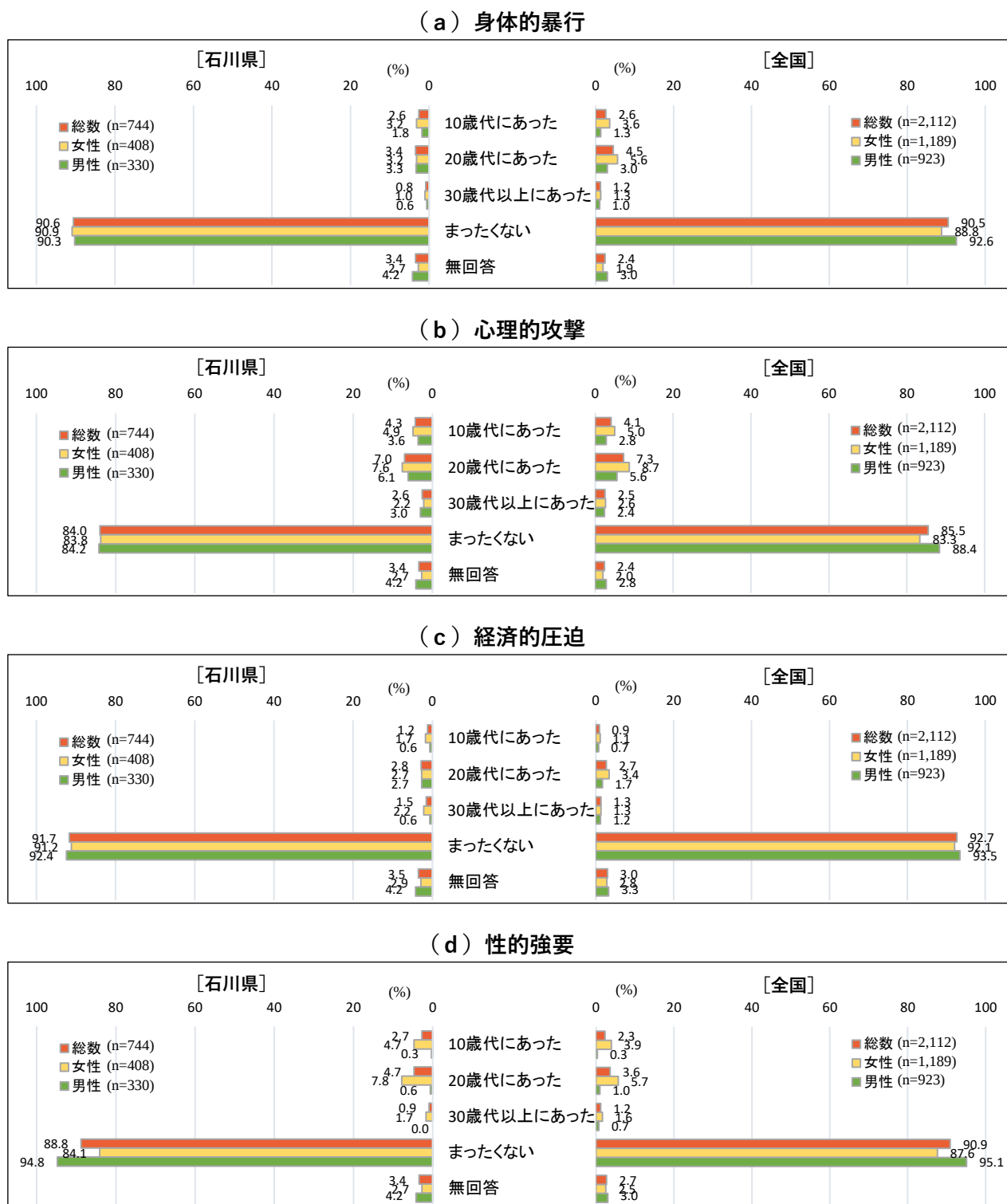


5 交際相手からの被害経験の有無・まとめ

【令和5年度内閣府調査との比較】

すべての項目で内閣府調査と大きな差異は見られない。

図18－9 交際相手からの被害経験の有無 【令和5年度内閣府調査との比較（性別）】



5 交際相手からの被害経験の有無 被害の内容

交際相手からの被害経験の有無について、被害の内容を見ると、女性では「性的強要のみ」（4.9%）、「心理的攻撃のみ」（3.9%）、「心理的攻撃と性的強要」（3.7%）などが多くなっている。

男性では、「心理的攻撃のみ」（6.4%）が最も多く、次いで「身体的暴行と心理的攻撃」（1.8%）となっている。

図18－10 交際相手からの被害経験の有無（性別）

	n	身体的暴行のみ	心理的攻撃のみ	経済的圧迫のみ	性的強要のみ	身体的暴行と心理的攻撃	身体的暴行と経済的圧迫	身体的暴行と性的強要	心理的攻撃と経済的圧迫	心理的攻撃と性的強要	経済的圧迫と性的強要	身体的暴行・経済的圧迫・心理的攻撃	身体的強要・心理的攻撃	身体的強要・経済的圧迫	性的強要・経済的圧迫	身体的強要・心理的攻撃・経済的圧迫	身体的暴行・性的強要・心理的攻撃	身体的暴行・経済的圧迫・心理的攻撃	まったくない	無回答
総数	744	1.3	5.0	0.9	2.7	1.6	0.3	0.4	0.9	2.0	0.3	0.7	0.7	-	0.7	1.1	78.2	3.2		
性別																				
女性	408	1.5	3.9	1.7	4.9	1.5	0.2	0.7	0.7	3.7	0.5	0.2	1.0	-	1.2	1.2	74.5	2.5		
男性	330	1.2	6.4	-	-	1.8	0.3	-	1.2	-	-	1.2	0.3	-	-	0.6	82.7	4.2		

6 交際相手からの暴力についての相談経験の有無・相談先

【問18で(a)～(d)のうち1つでも「2.10歳代にあった」、「3.20歳代にあった」、「4.30歳代以上にあった」と答えた方にお聞きます。】

問18-1 あなたは交際相手から受けたそのような行為について、どこ（だれ）かに打ち明けたり、相談したりしましたか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。（○はいくつでも）

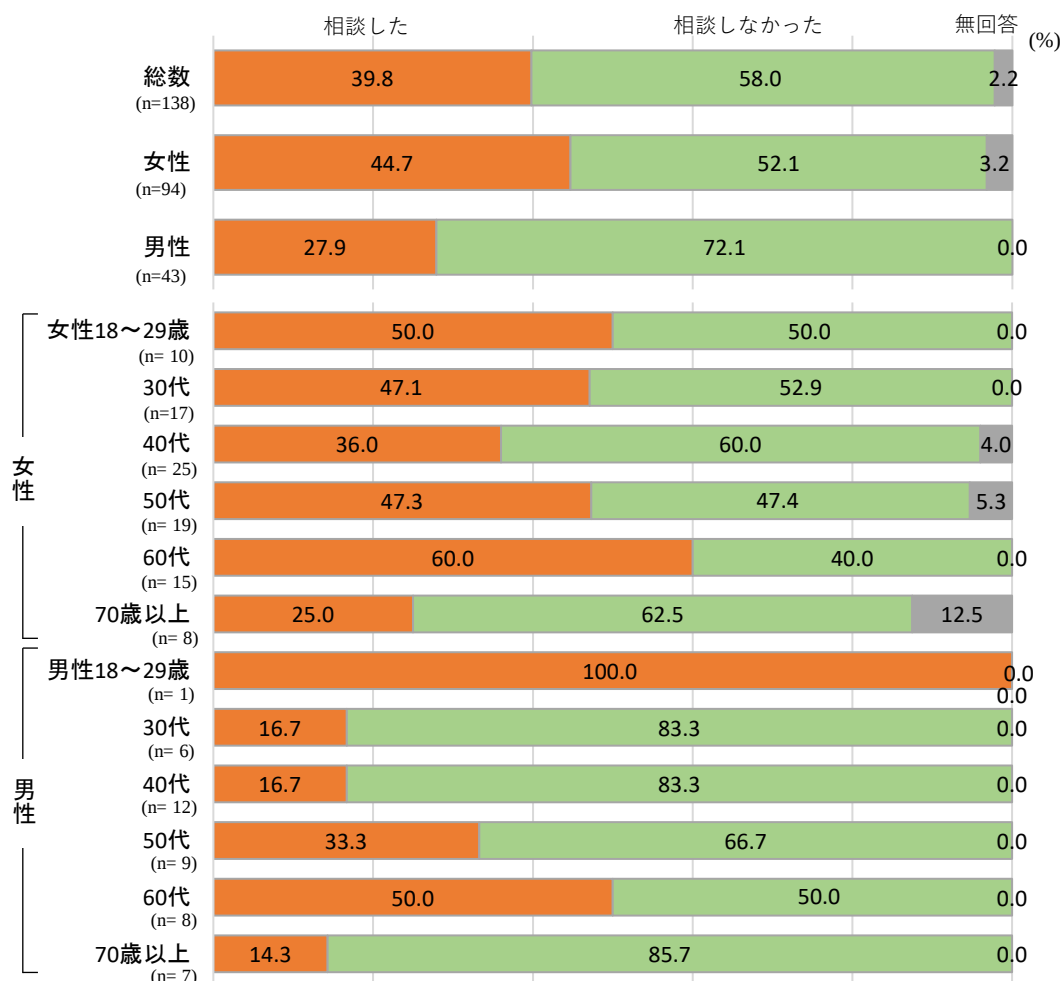
交際相手から被害を受けたことが「これまでにあった」と答えた人に、どこ（だれ）かに打ち明けたり、相談したことがあるかをたずねたところ、「相談した」と答えた人は39.8%、「相談しなかった」は58.0%で、「相談しなかった」方が18.2ポイント多かった。性別で見ると、「相談しなかった」は男性（72.1%）が女性（52.1%）より20.0ポイント多くなっている。

【性×年代別】

※女性の70歳以上および男性（40代を除く）についてはサンプル数が少ないため参考掲載とする。

女性では、「相談した」が70歳以上を除き、3割を超えている。

図18-1-1 交際相手からの暴力についての相談経験の有無 項目別一覧（性別、性×年代別）

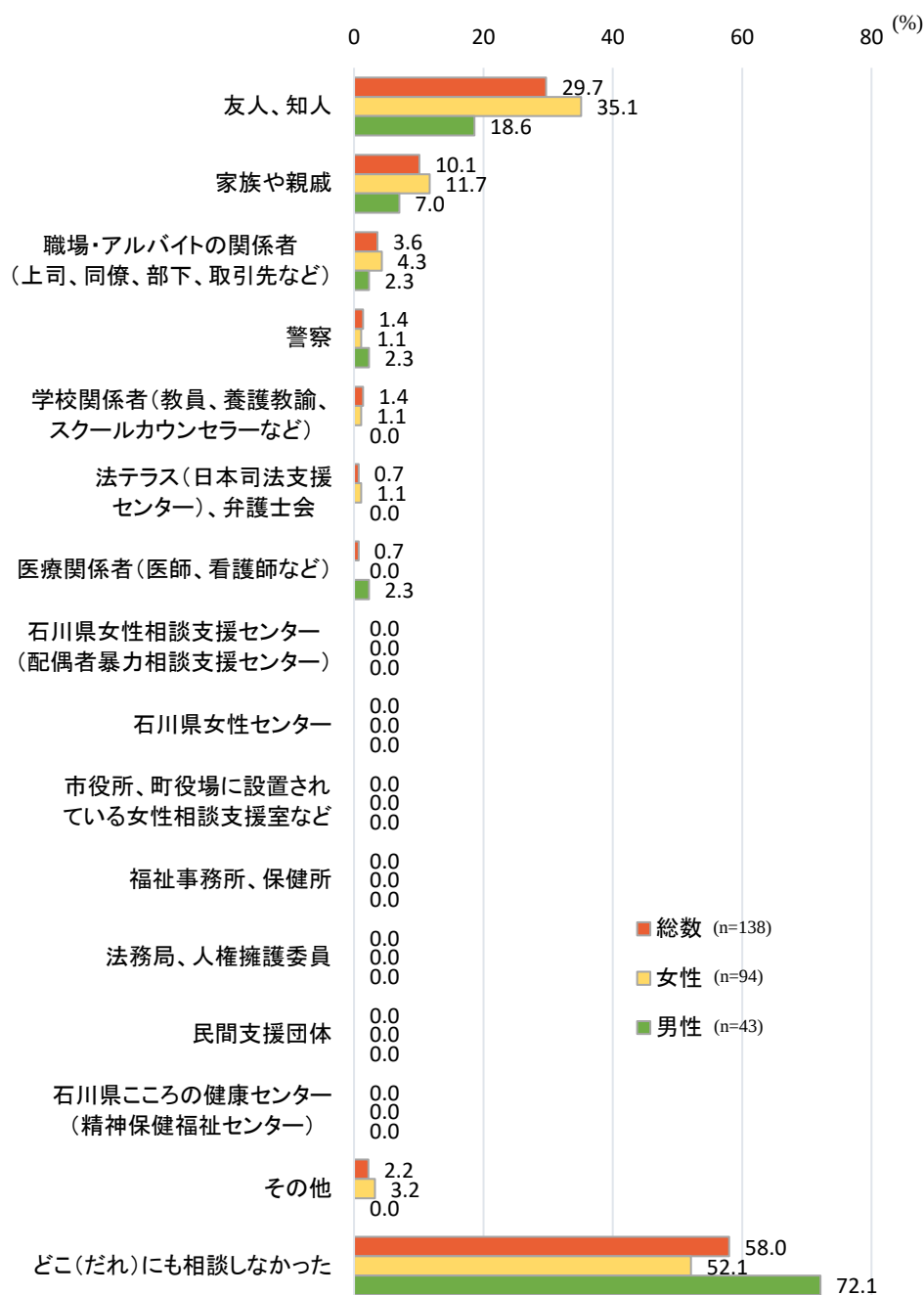


6 交際相手からの暴力についての相談経験の有無・相談先

相談した人のうち、どこ（だれ）に相談したかを見ると、女性では「友人、知人」（35.1%）、次いで、「家族や親戚」（11.7%）、「職場・アルバイトの関係者」（4.3%）の順で、それ以外は4%未満となっている。

男性では「友人、知人」（18.6%）、次いで、「家族や親戚」（7.0%）の順で、それ以外は3%未満となっている。

図18－１－２ 交際相手からの暴力についての相談先 項目別一覧（性別）



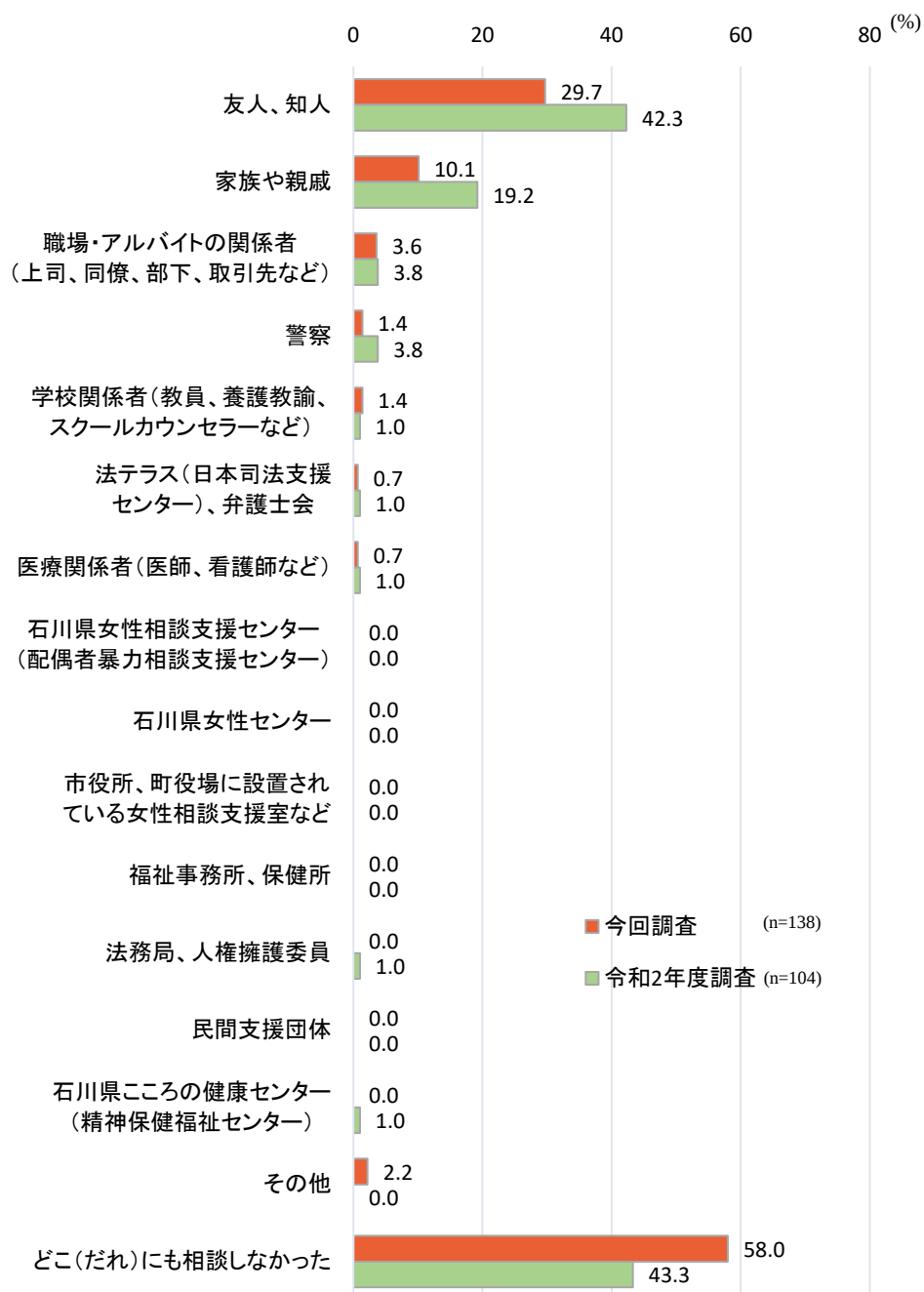
6 交際相手からの暴力についての相談経験の有無・相談先

【令和2年度調査との比較】

「友人、知人」（-12.6ポイント）と「家族や親戚」（-9.1ポイント）が、前回調査と比べ大きく減少している。

「どこ（だれ）にも相談しなかった」は14.7ポイント増加している。

図18－1－4 交際相手からの暴力についての相談先 【令和2年度調査との比較】



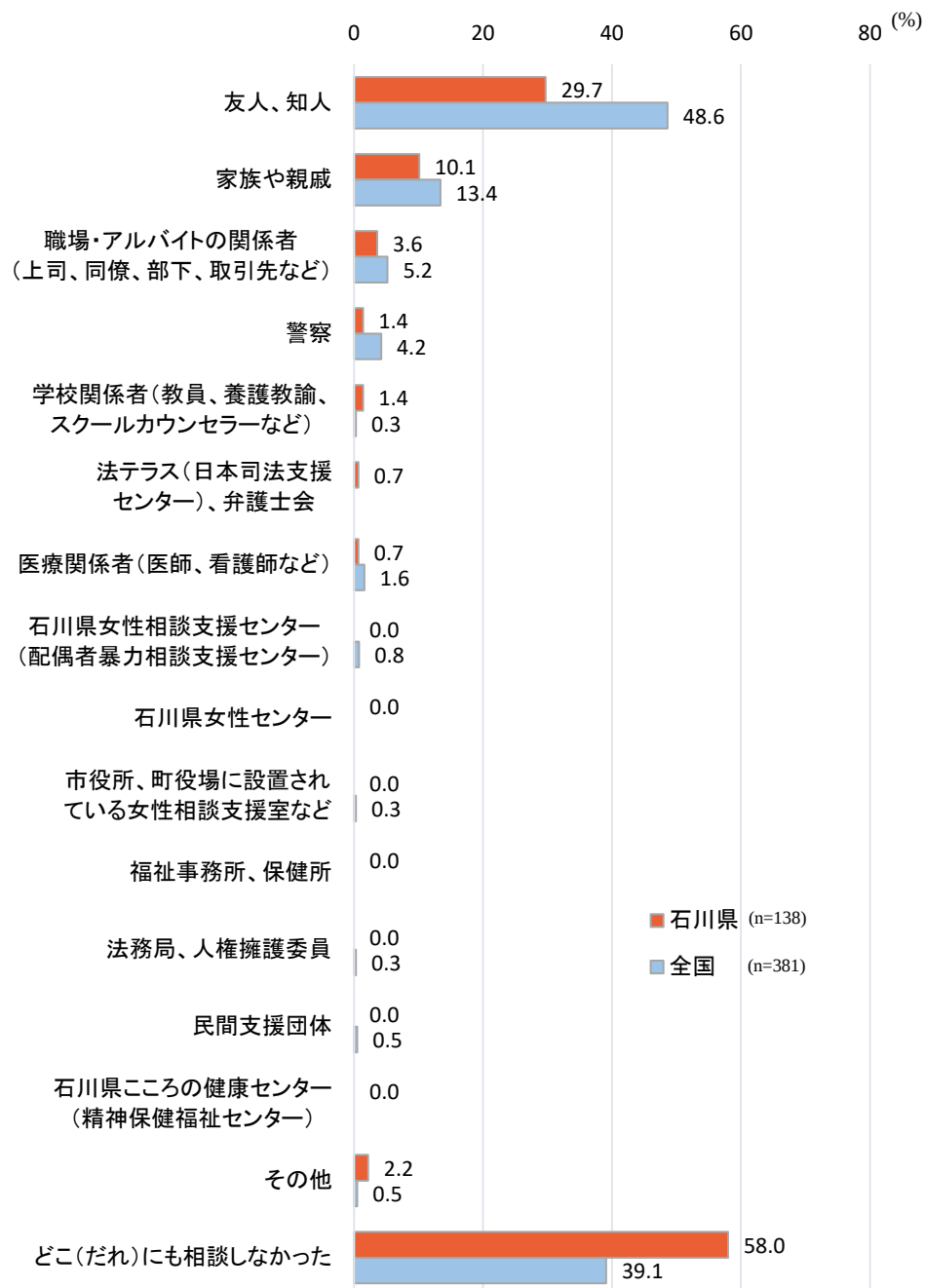
6 交際相手からの暴力についての相談経験の有無・相談先

【令和5年度内閣府調査との比較】

全般的に、相談している割合が低く、特に「友人、知人」(-18.9ポイント)で、内閣府調査を大きく下回っている。

また、「どこ（だれ）にも相談しなかった」割合は、内閣府調査を18.9ポイント上回っている。

図18－1－5 交際相手からの暴力についての相談先 【令和5年度内閣府調査との比較】



7 交際相手からの暴力について相談しなかった理由

【問18-1で「16. どこ（だれ）にも相談しなかった」と答えた方にお聞きます。】

問18-2 どこ（だれ）にも相談しなかったのは、なぜですか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。（○はいくつでも）

交際相手から被害を受けながら「相談しなかった」と答えた人に、その理由をたずねたところ、男女とも最も多かったのは「相談するほどのことではないと思ったから」（女性40.8%、男性58.1%）であった。

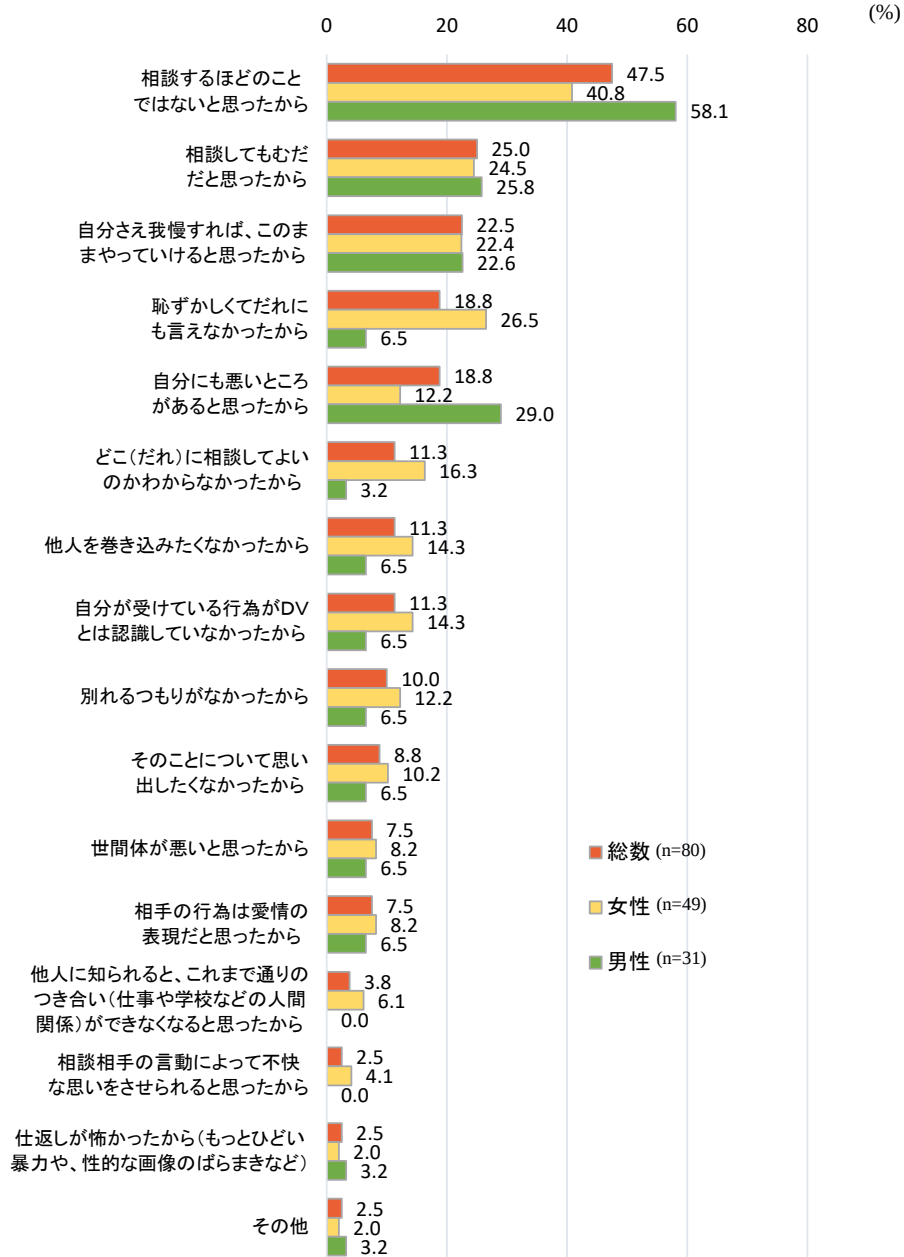
女性では、次いで「恥ずかしくて誰にも言えなかったから」（26.5%）、「相談してもむだだと思ったから」（24.5%）が続く。

男性では、次いで「自分にも悪いところがあると思ったから」（29.0%）、「相談してもむだだと思ったから」（25.8%）が続く。

女性の方が男性より多くなったのは、「恥ずかしくて誰にも言えなかったから」、「どこ（だれ）に相談してよいのかわからなかったから」、「他人を巻き込みたくなかったから」、「自分が受けている行為がDVとは認識していなかったから」などがある。

男性の方が女性より多くなったのは、「相談するほどのことではないと思ったから」、「自分にも悪いところがあると思ったから」などであった。

図18-2-1 交際相手からの暴力について相談しなかった理由 項目別一覧（性別）



8 性暴力被害に関するイメージ

問19 性暴力被害に関するイメージとして、次の(a)～(g)について、あなたの考えに近いものの番号に1つずつ○をつけてください。(○はそれぞれ1つ)

「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の合計が多かったのは、
女性では、

“ (c) 被害にあうのはたいてい暗い夜道やひと気の少ない場所である ” (52.0%)

“ (a) 性暴力にあうのは、若い女性である ” (50.1%)

“ (g) 性暴力は、加害者の性欲が強すぎて、コントロールできずに起こっている ” (41.6%)

男性では、

“ (g) 性暴力は、加害者の性欲が強すぎて、コントロールできずに起こっている ” (53.9%)

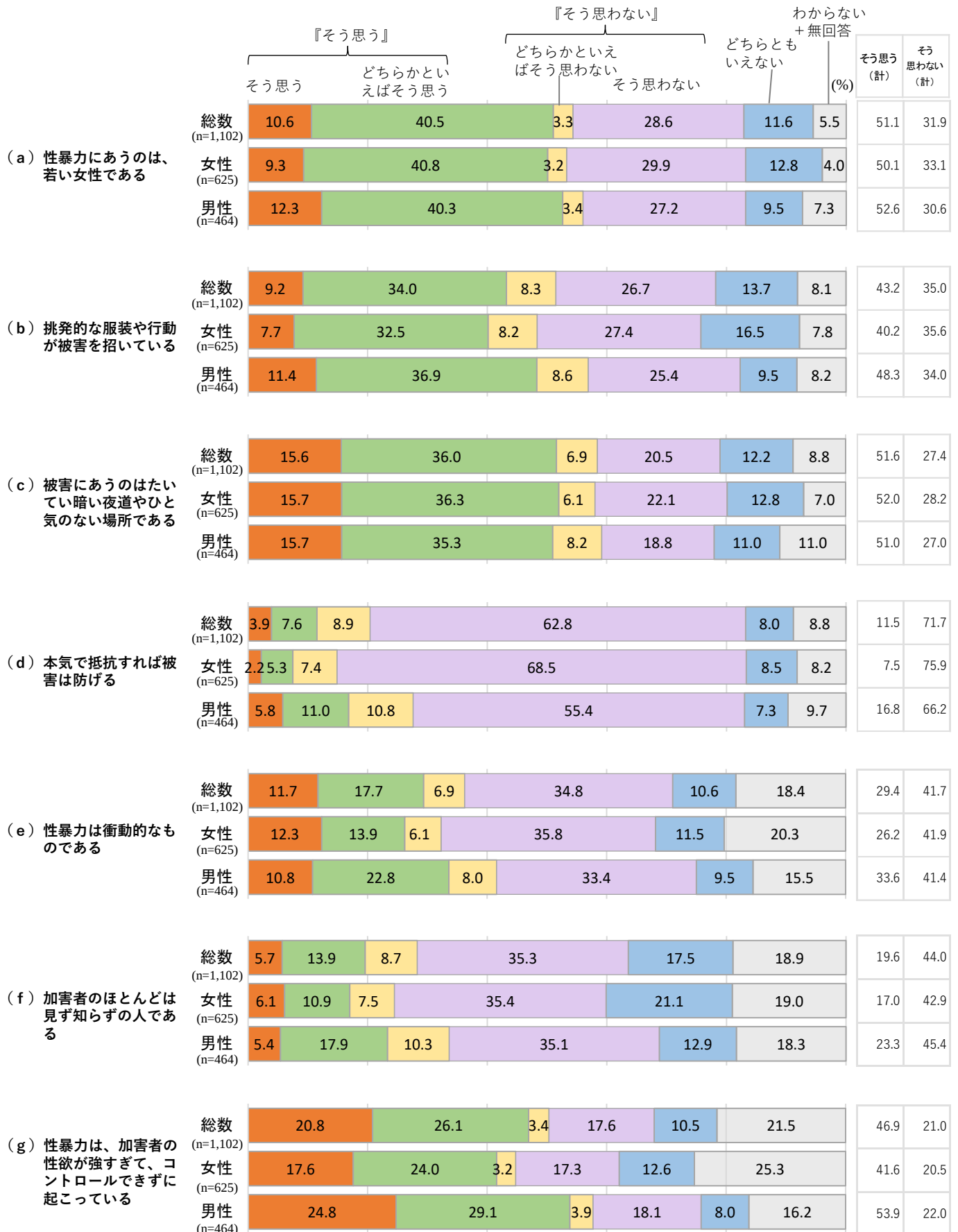
“ (a) 性暴力にあうのは、若い女性である ” (52.6%)

“ (c) 被害にあうのはたいてい暗い夜道やひと気の少ない場所である ” (51.0%)

男女とも「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」の合計が最も多かったのは、
“ (d) 本気で抵抗すれば被害は防げる ” (女性75.9%、男性66.2%) であった。

男女で「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の合計の差が大きいものとしては、
“ (g) 性暴力は、加害者の性欲が強すぎて、コントロールできずに起こっている ” (12.3ポイント差) と “ (d) 本気で抵抗すれば被害は防げる ” (9.3ポイント差) であり、ともに男性が上回っている。

図19-1 性暴力被害に関するイメージ 項目別一覧（総数）



9 相談機関・関係者の周知状況

問20 DVや性暴力を受けたとき、相談できる機関や関係者であなたが既に知っていたものすべてに○をつけてください。（○はいくつでも）

男女とも最も多かったのは「警察」（女性80.3%、男性83.6%）であった。
 次いで、女性では「石川県女性相談支援センター（配偶者暴力相談支援センター）」（23.5%）、「市役所、町役場に設置されている女性相談支援室など」（17.6%）の順となった。
 男性では「法テラス（日本司法支援センター）、弁護士会」（17.0%）、「市役所、町役場に設置されている女性相談支援室など」（15.7%）の順となった。

【性×年代別】
 男女ともすべての年代で「警察」が最も多い。女性では「石川県女性相談支援センター（配偶者暴力相談支援センター）」が60代（28.9%）で多くなっている。
 男性では「法テラス（日本司法支援センター）、弁護士会」が60代（29.7%）で多くなっている。

図20－1 相談機関・関係者の周知状況 項目別一覧（性別）

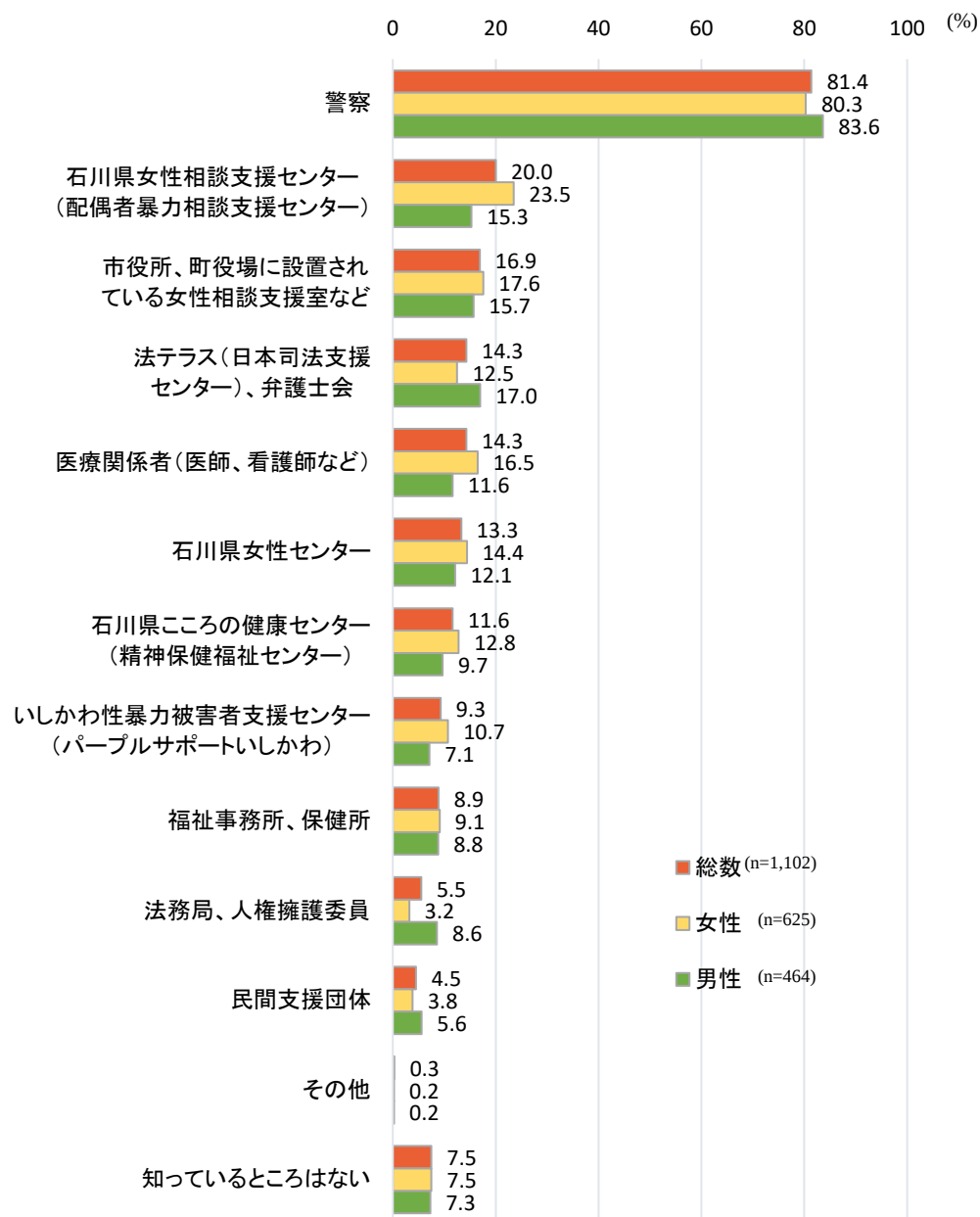
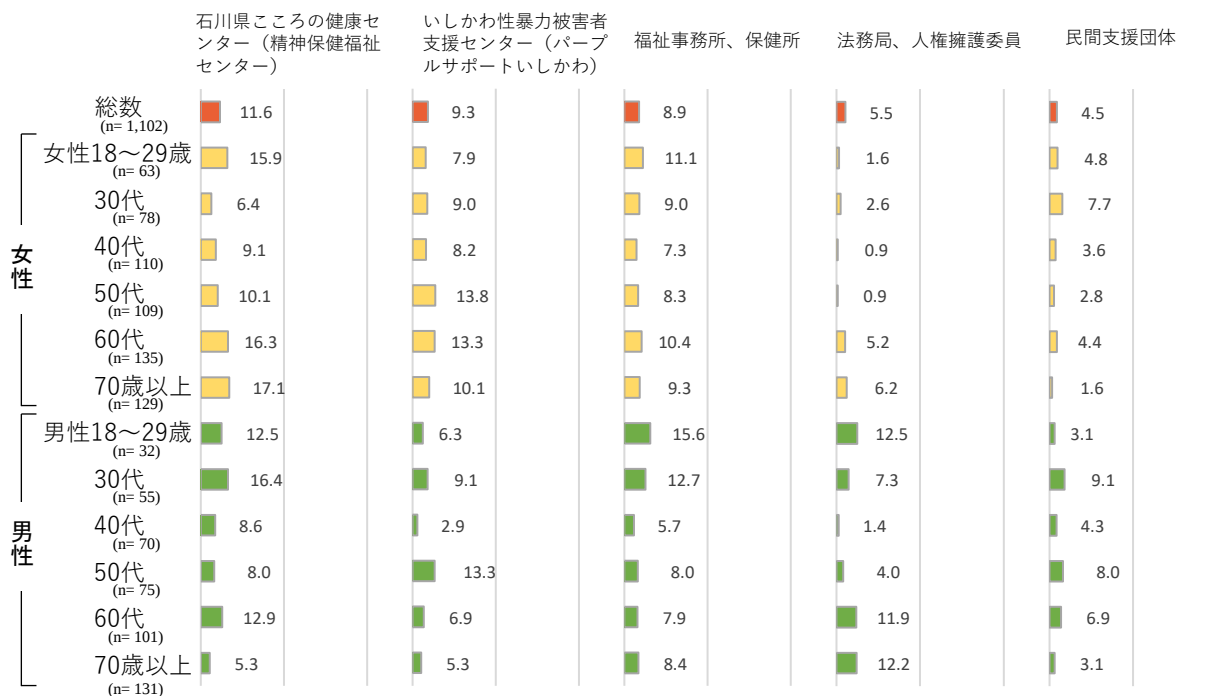
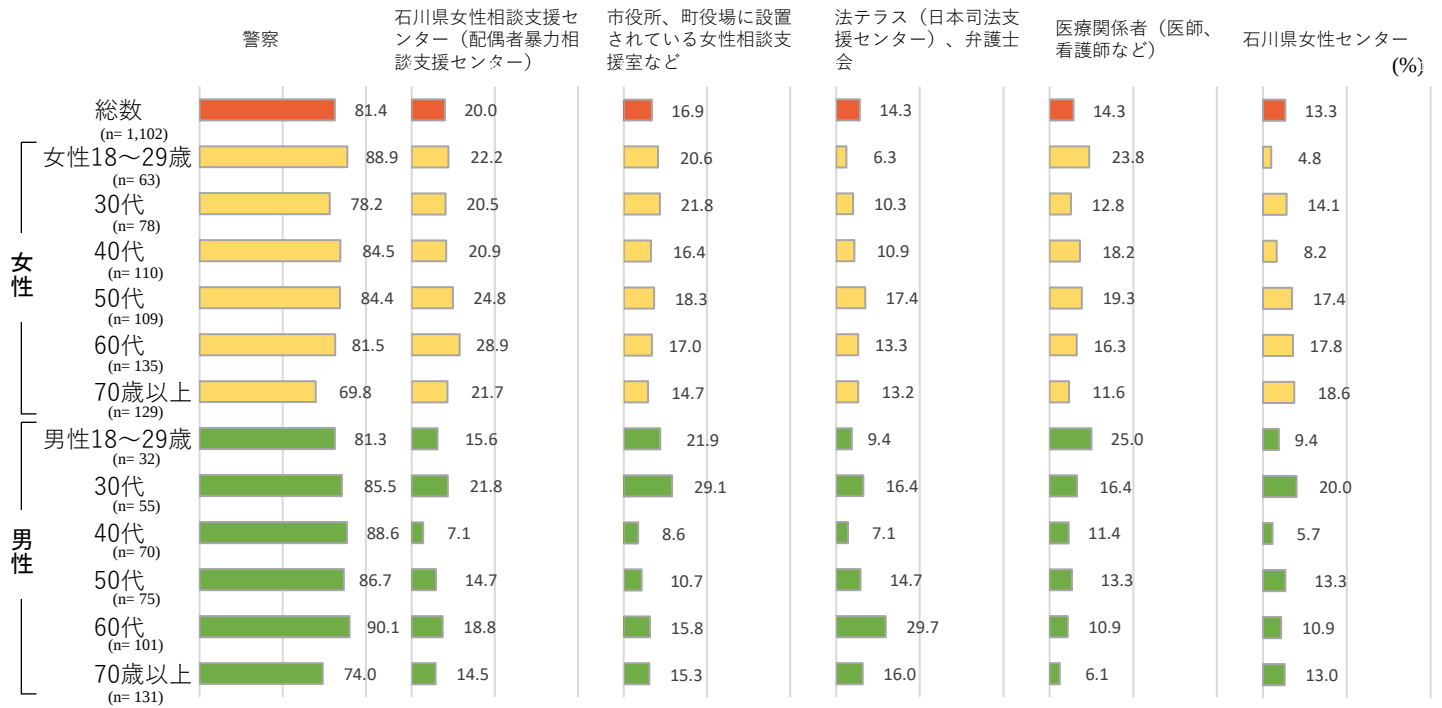


図20－2 相談機関・関係者の周知状況 項目別一覧（性×年代別）



10 DVや性暴力等の暴力を防止するために必要なこと

問21 DVや性暴力等の暴力を防止するためには、どのようなことが必要だと考えますか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。（○はいくつでも）

全体では、「被害者が早期に相談できるよう、相談窓口や保護施設を充実させる」（女性70.6%、男性66.2%、全体68.3%）が最も多く、次いで「学校または大学で、児童・生徒・学生に対し、暴力の被害者にも加害者にもならないよう教育を行う」（女性60.6%、男性60.1%、全体60.4%）、「加害者への罰則を強化する」（女性57.1%、男性58.8%、全体57.8%）の順となった。

男女の差が大きいものは、「暴力を振るったことのある者に対し、繰り返さないための教育を行う」（6.6ポイント差）と「暴力を助長するおそれのある情報（雑誌、インターネットなど）を取り締まる」（6.2ポイント差）で、どちらも女性のポイントが多くなっている。

【性×年代別】

女性では「被害者が早期に相談できるよう、相談窓口や保護施設を充実させる」が30代と70歳以上を除き最も多い。「加害者への罰則を強化する」が30代（71.8%）で最も多くなっている。

男性では50代以外で「被害者が早期に相談できるよう、相談窓口や保護施設を充実させる」が最も多くなっている。

図21-1 DVや性暴力等の暴力を防止するために必要なこと 項目別一覧（性別）

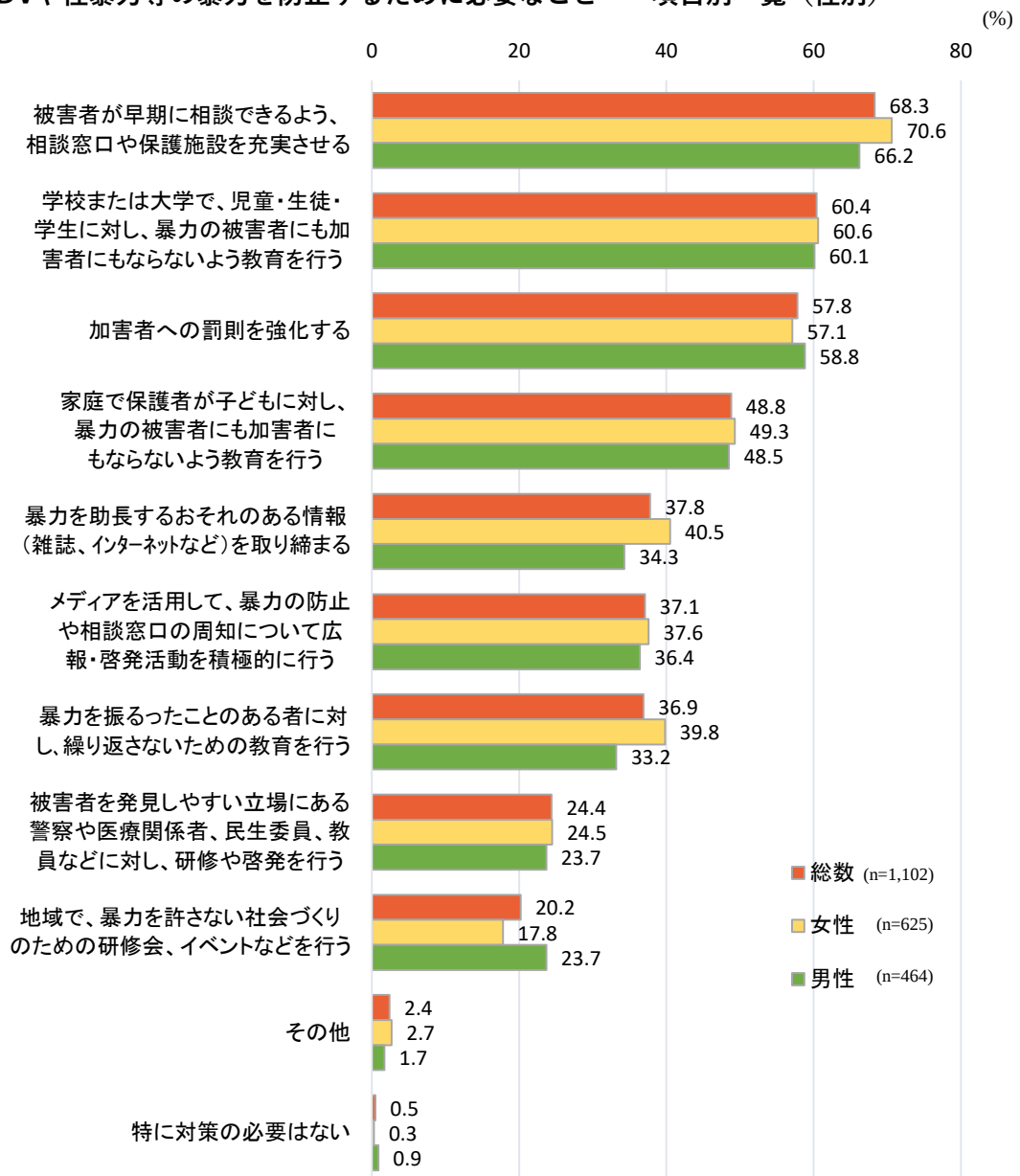
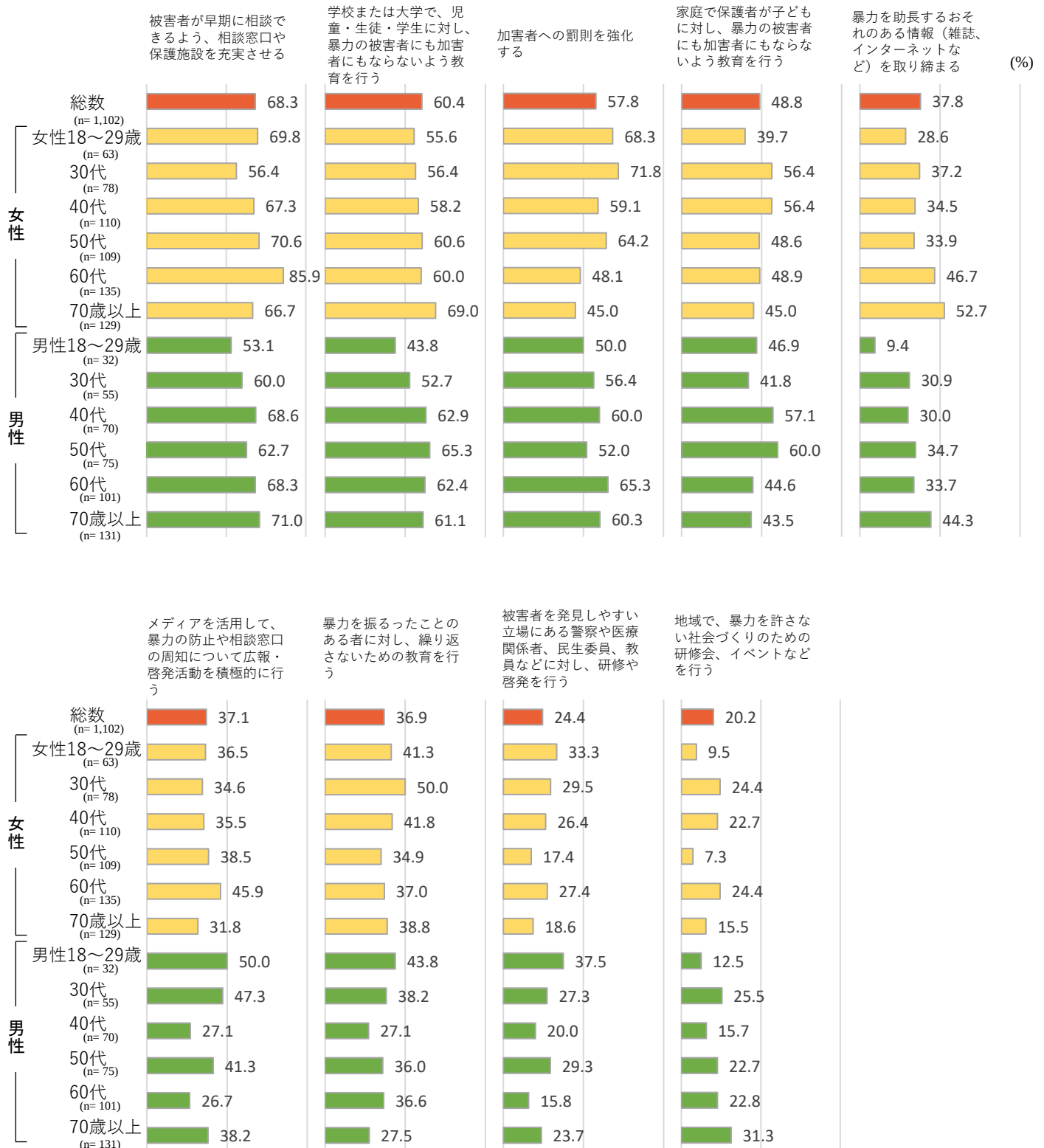


図21-2 DVや性暴力等の暴力を防止するために必要なこと

項目別一覧（年代別）



VI 男女共同参画社会の実現について

1 用語の周知度

問22 あなたは(a)～(n)のそれぞれの言葉についてどの程度ご存知ですか。該当する番号に1つずつ○をつけてください。(○はそれぞれ1つ)

全体で周知度が高い順に、

“(k) DV (配偶者や交際相手からの暴力)” (93.6%)

“(h) 男女雇用機会均等法” (88.2%)

“(m) マタニティ・ハラスメント” (87.5%)

“(f) ジェンダー (社会的・文化的につくられた性別)” (86.3%)

“(n) 性的少数者 (LGBTなど)” (81.3%)

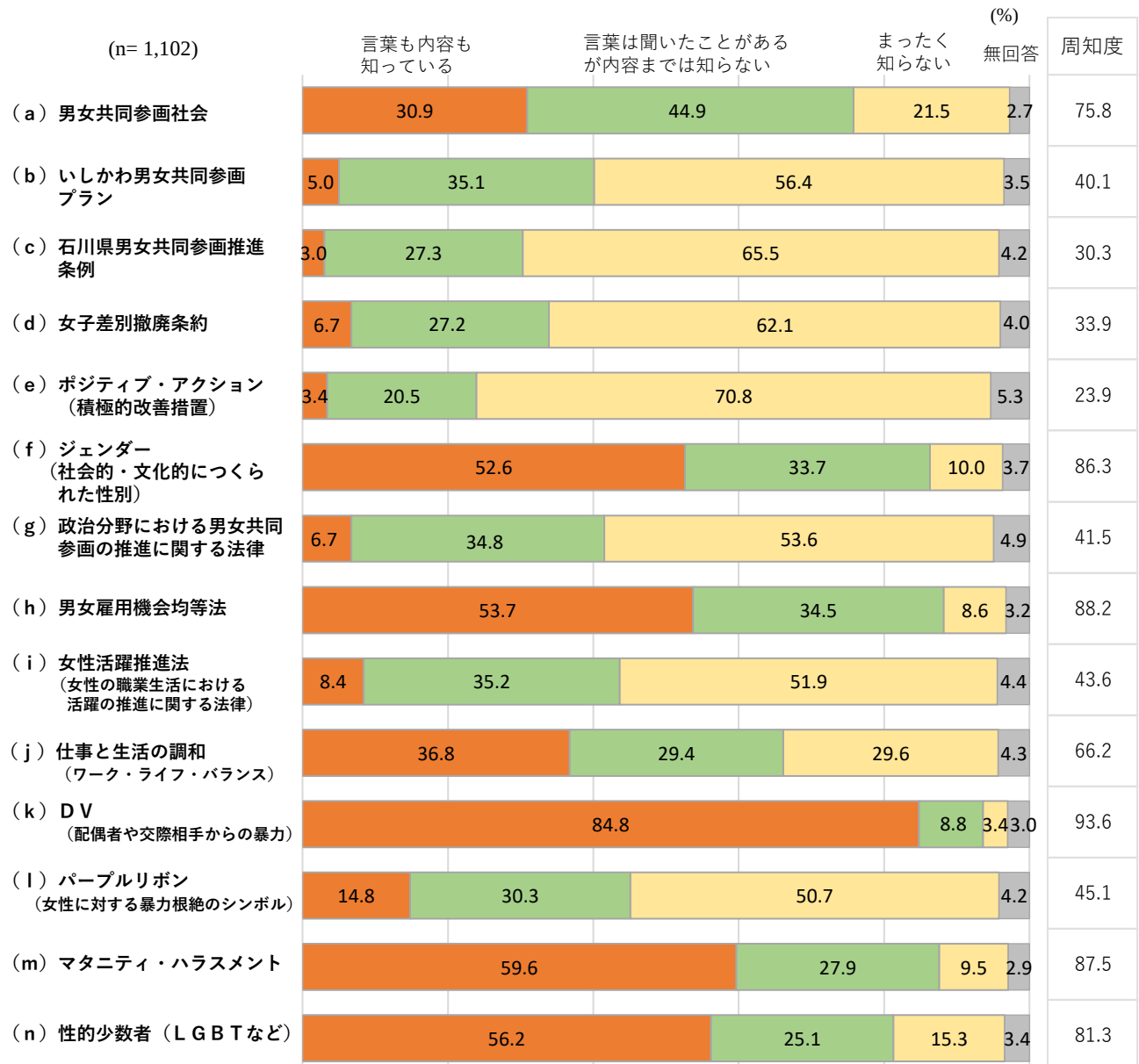
“(a) 男女共同参画社会” (75.8%)

“(j) 仕事と生活の調和 (ワーク・ライフ・バランス)” (66.2%)

上記用語で、周知度が6割を超えている。

※周知度：「言葉も内容も知っている」と「言葉は聞いたことがあるが内容までは知らない」の合計

図22-1 用語の周知度 項目別一覧



1 用語の周知度

【令和2年度調査との比較】

前回調査と比べ、すべての用語で周知度が上昇している。周知度が前回調査と比べ5ポイント以上上回った用語は、以下の通り。

- “（f）ジェンダー（社会的・文化的につくられた性別）”（23.2ポイント）
- “（n）性的少数者（LGBTなど）”（12.6ポイント）
- “（l）パープルリボン（女性に対する暴力根絶のシンボル）”（9.0ポイント）
- “（i）女性活躍推進法（女性の職業生活における活躍の推進に関する法律）”（6.4ポイント）
- “（a）男女共同参画社会”（5.4ポイント）
- “（j）仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）”（5.2ポイント）
- “（g）政治分野における男女共同参画の推進に関する法律”（5.1ポイント）
- “（d）女子差別撤廃条約”（5.0ポイント）

図22－2 用語の周知度 【令和2年度調査との比較】

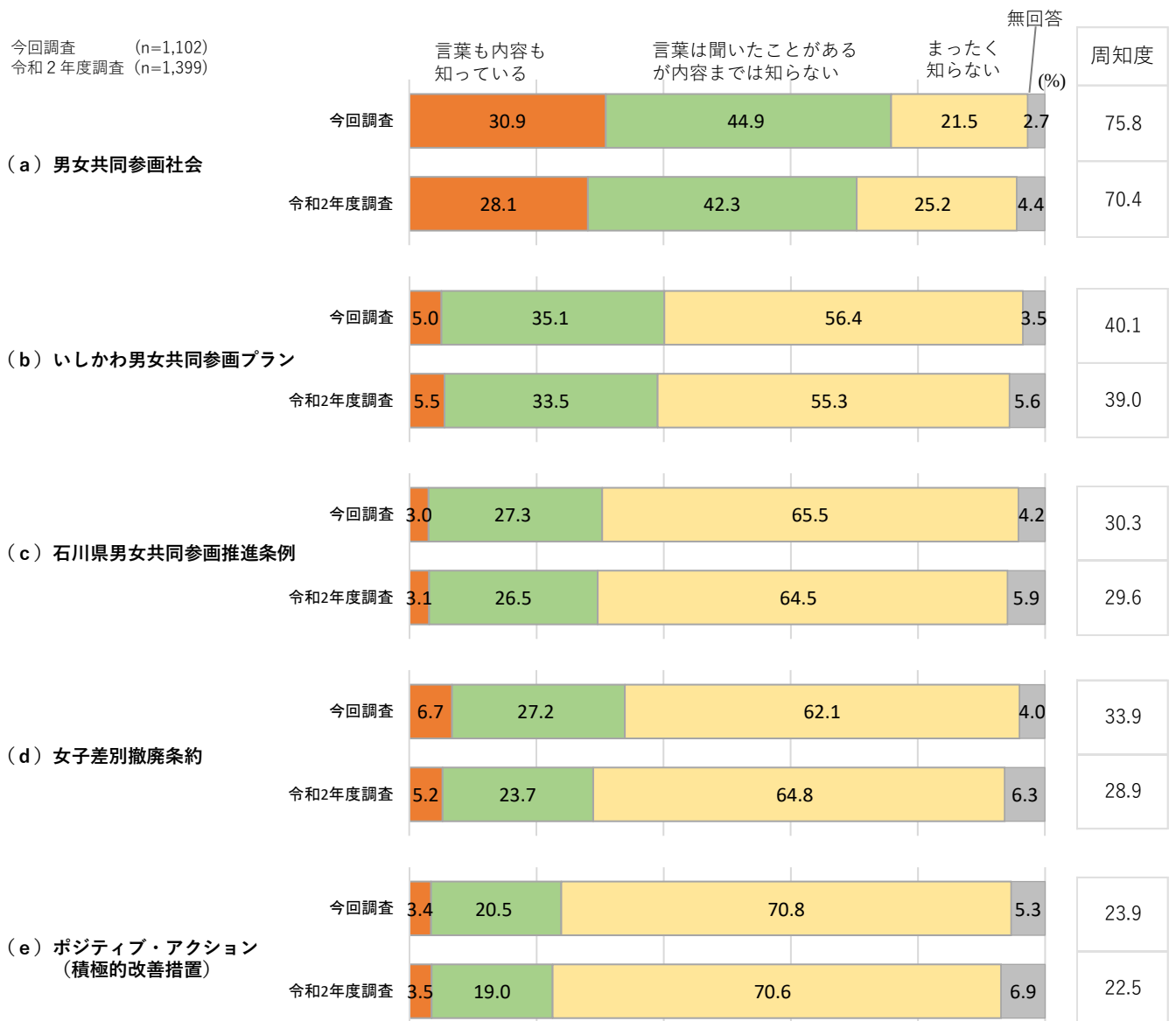
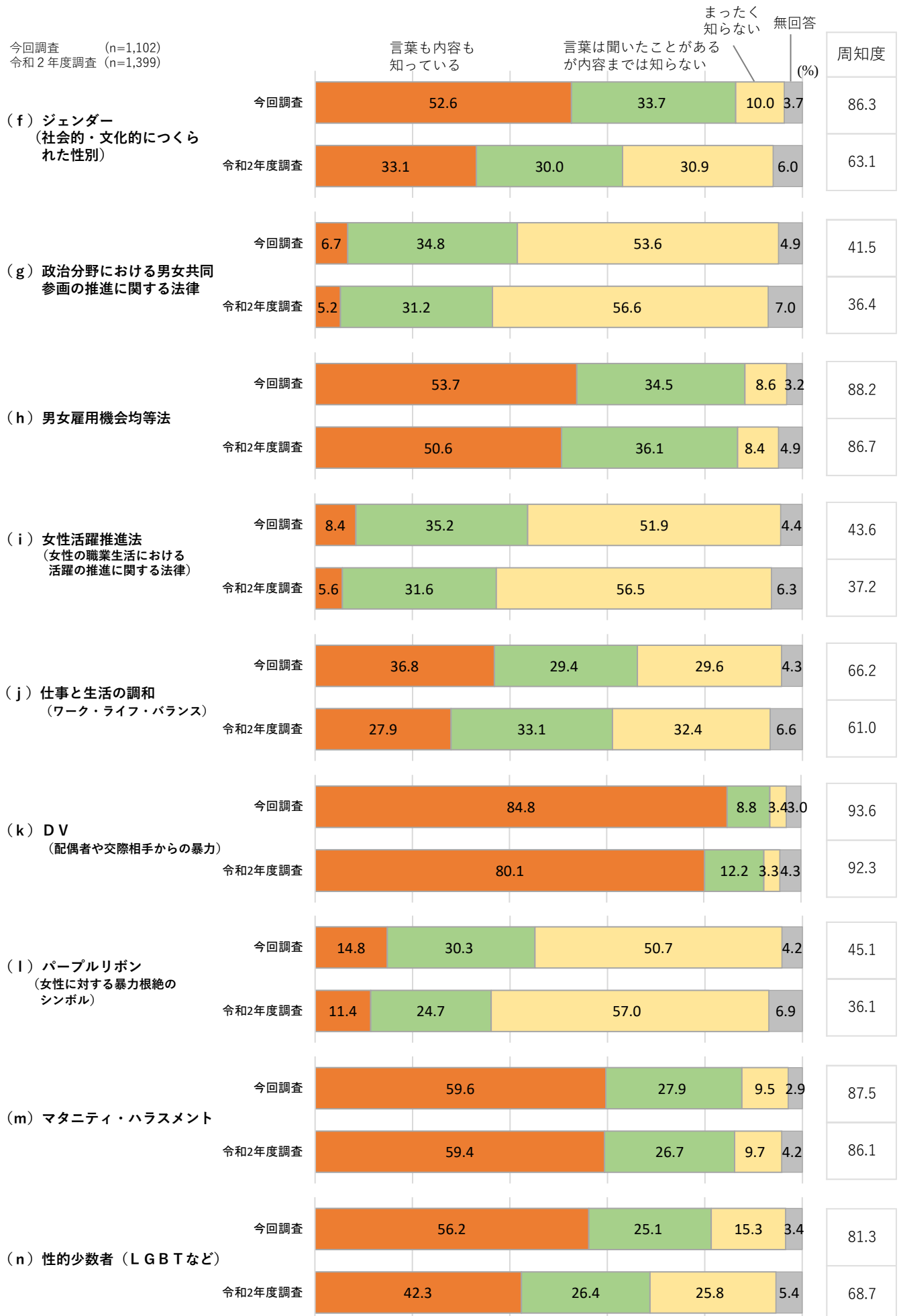


図22-2 用語の周知度 【令和2年度調査との比較】



2 性別による無意識の思い込み

問23 あなたは、次の(a)～(l)の考え方についてどう思いますか。あなたの気持ちに最も近いものの番号を1つずつ選んでください。

「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の合計が多かったのは、男女とも同様に、
 “(k) 女性には女性らしい感性があるものだ” (女性73.5%、男性81.2%)
 “(a) 男性は仕事をして家計を支えるべきだ” (女性70.7%、男性76.0%)

男女とも「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」の合計が最も多かったのは、
 “(j) 同程度の実力なら、まず男性から昇進させたり管理職に登用するものだ” (女性88.6%、男性83.2%) であった。

男女で「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の合計の差が大きいものとしては、
 “(c) 自治会や町内会の重要な役職は男性が担うべきだ” (13.7ポイント差) は女性が、
 “(d) デートや食事のお金は男性が負担すべきだ” (23.8ポイント差) と“(g) 男性は人前で泣くべきではない” (17.6ポイント差) は男性が上回っている。

図23-1 性別による無意識の思い込み 項目別一覧（性別）

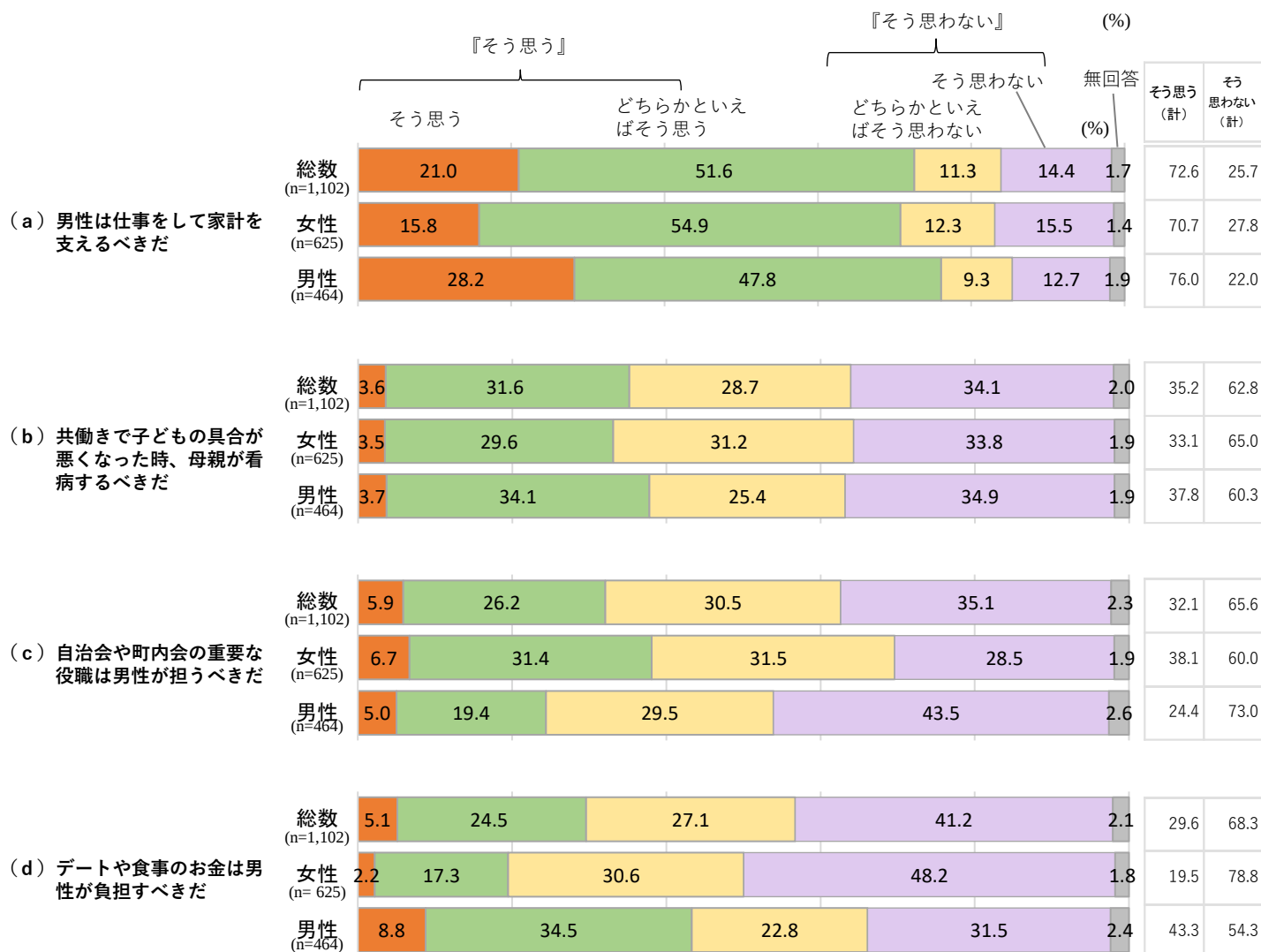
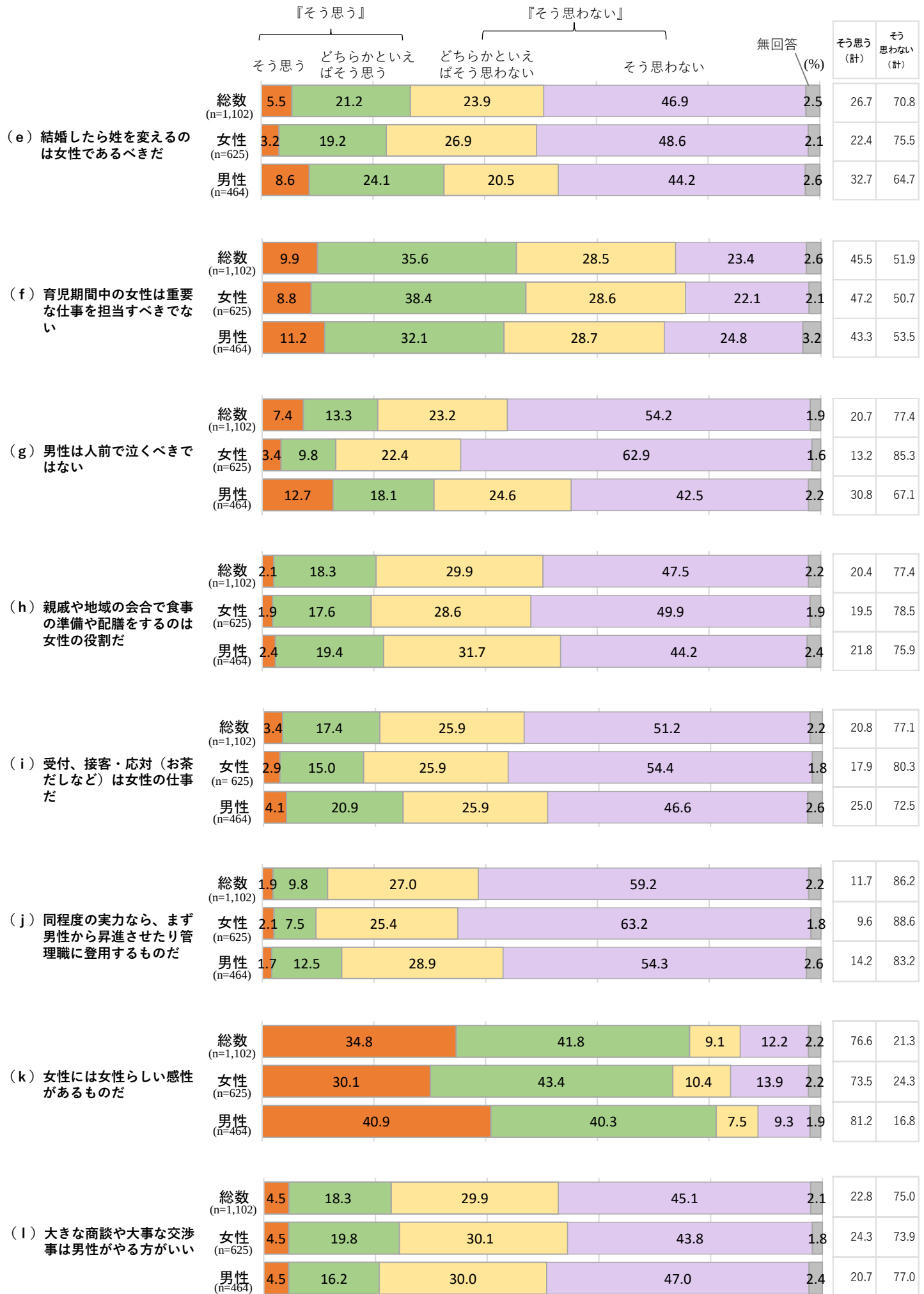


図23-1 性別による無意識の思い込み 項目別一覧（性別）



2 性別による無意識の思い込み

【令和4年度内閣府調査との比較】

『そう思う』（「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の合計）の割合で、内閣府調査と比べ、5ポイント以上上回った項目は、以下の通り。

- “（k）女性には女性らしい感性があるものだ”（32.3ポイント）
- “（a）男性は仕事をして家計を支えるべきだ”（25.9ポイント）
- “（b）共働きで子どもの具合が悪くなった時、母親が看病するべきだ（12.6ポイント）
- “（c）自治会や町内会の重要な役職は男性が担うべきだ”（12.6ポイント）
- “（f）育児期間中の女性は重要な仕事を担当すべきでない”（12.0ポイント）
- “（e）結婚したら姓を変えるのは女性であるべきだ（6.3ポイント）

図23-3 性別による無意識の思い込み 【令和4年度内閣府調査との比較】

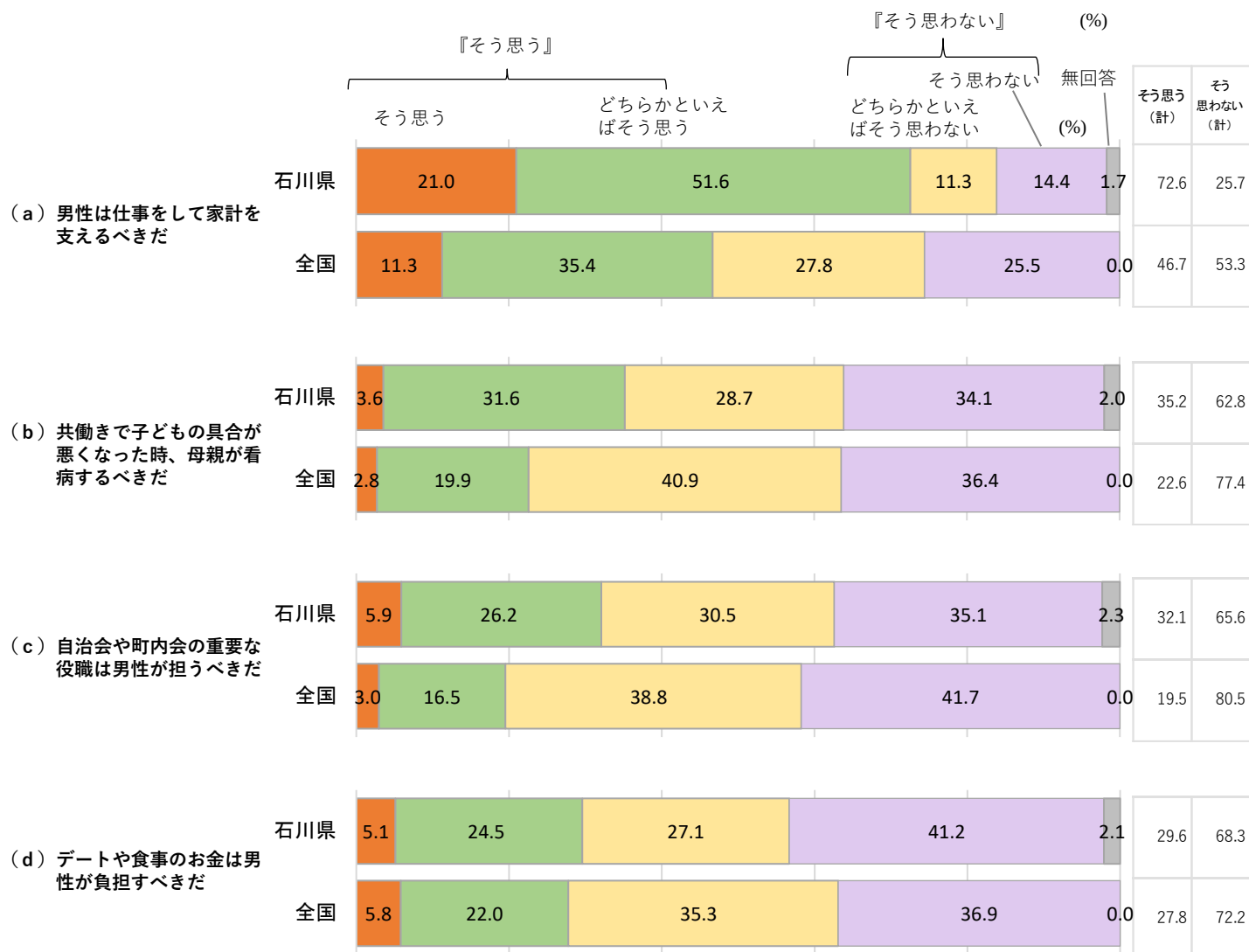
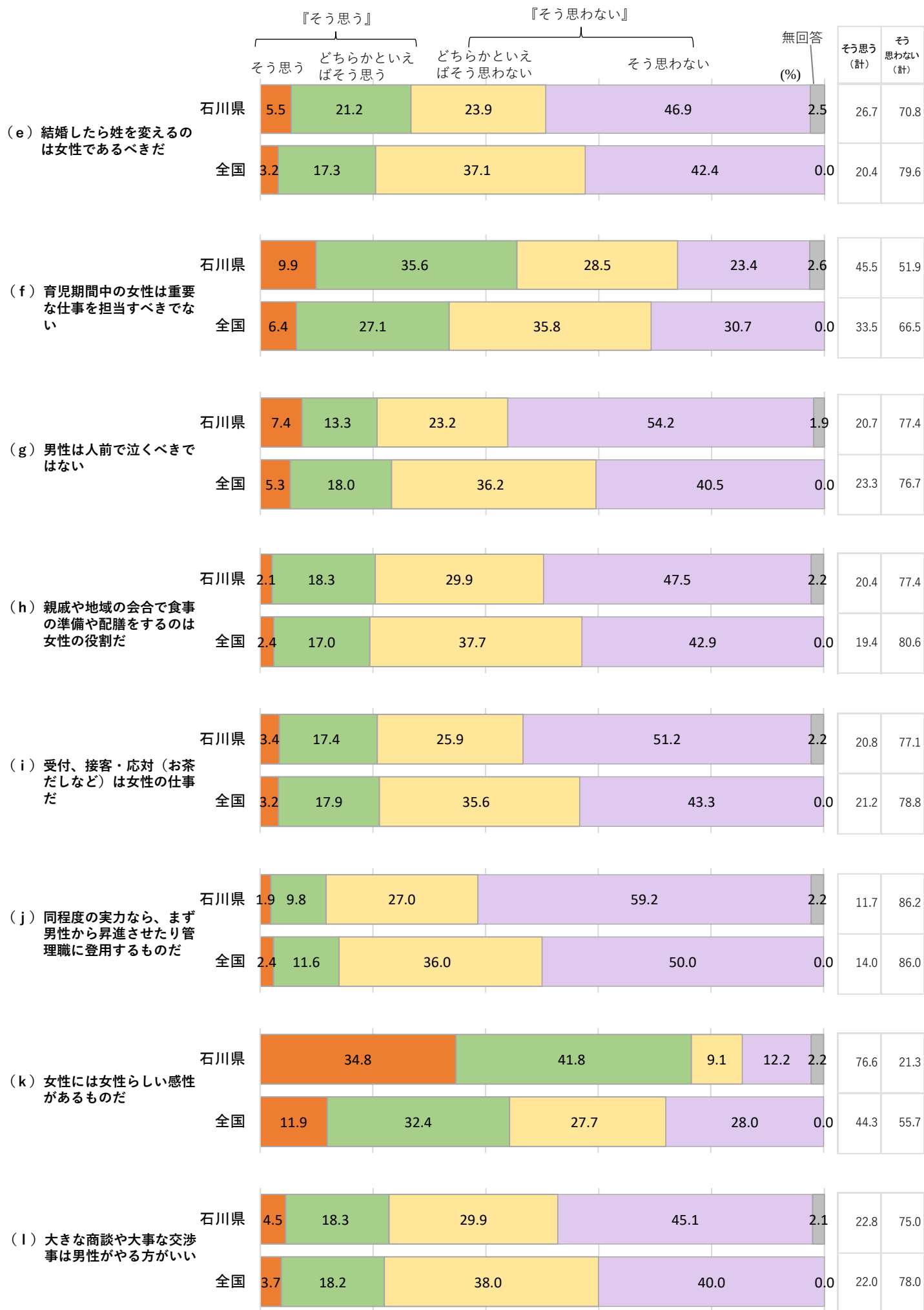


図23ー3 性別による無意識の思い込み 【令和4年度内閣府調査との比較】



3 男女共同参画社会の実現のために行政に対して望むこと

問24 男女共同参画社会の実現のために、行政に対して望むことはどのようなことですか。
(○は3つまで)

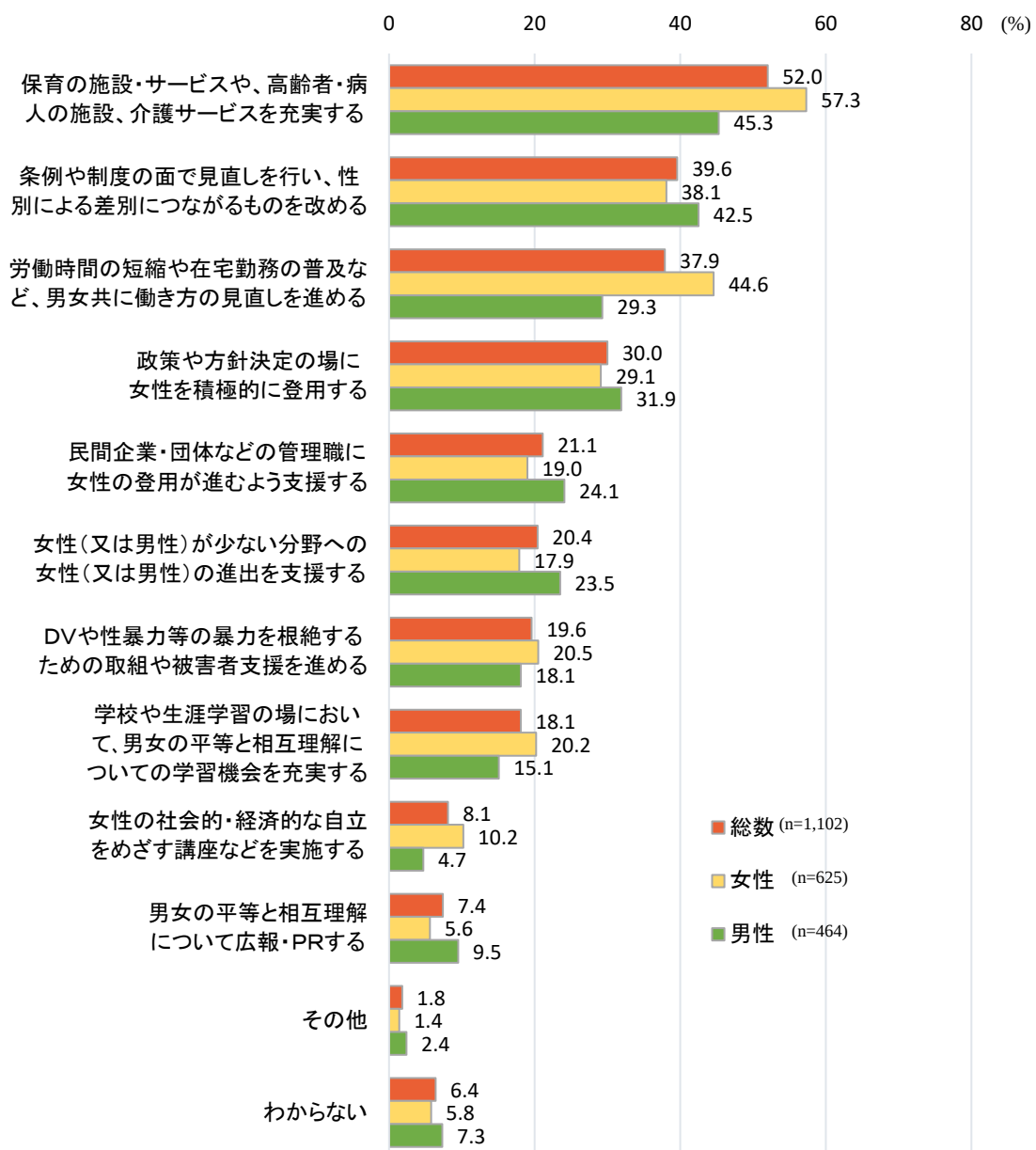
全体では「保育の施設・サービスや、高齢者・病人の施設、介護サービスを充実する」(52.0%)が最も多く、次いで「条例や制度の面で見直しを行い、性別による差別につながるものを改める」(39.6%)が続いている。

女性で最も多かったのは「保育の施設・サービスや、高齢者・病人の施設、介護サービスを充実する」(57.3%)、次いで「労働時間の短縮や在宅勤務の普及など、男女共に働き方の見直しを進める」(44.6%)となっている。

男性では「保育の施設・サービスや、高齢者・病人の施設、介護サービスを充実する」(45.3%)が最も多く、次いで「条例や制度の面で見直しを行い、性別による差別につながるものを改める」(42.5%)となっている。

男女の差があるものとしては、「労働時間の短縮や在宅勤務の普及など、男女共に働き方の見直しを進める」(15.3ポイント差)、「保育の施設・サービスや、高齢者・病人の施設、介護サービスを充実する」(12.0ポイント差)で女性が多くなっている。

図24-1 男女共同参画社会の実現のために行政に対して望むこと 項目別一覧(総数)



§ 4 調査票及び単純集計結果

男女共同参画に関する県民意識調査 調 査 票

皆様には、日ごろから県政の発展のため、ご協力いただきありがとうございます。
このたび、石川県では、無作為に選ばせていただいた県内にお住まいの18歳以上の方
2,500人を対象に、男女共同参画に関するアンケート調査を行うこととなりました。
この調査は、これまでの施策の現状を調査するとともに、今後の施策方針の参考と
させていただくため、県民の皆様のご意見をお聞きするものです。
調査の趣旨をご理解いただき、お忙しいところ恐縮ですが、ご協力をお願いいたします。

ご回答にあたってのお願い

- この調査は個人を対象にしていますので、お送りした封筒に書かれているあて名の方
ご自身がご記入ください。
- この調査は無記名でお願いします。また、この調査票に記入された内容は、統計的に
処理され、他の目的に個人情報を利用することはありません。
内容が外部にもれたりしてご迷惑をおかけすることは決してございません。
- ご回答は、次のいずれか1つの方法でお願いいたします。

方法1 本調査票へのご記入による回答

- ・回答を本調査票に直接ご記入いただき、同封の返信用封筒（切手不要）に
入れて、令和7年2月17日（月）までに、ご投函をお願いいたします。

方法2 「石川県電子申請システム」による回答

- ・以下にアクセスいただき、令和7年2月17日（月）までに、WEB上で
入力をお願いいたします。

〈回答手順〉

1. 右記二次元コードもしくは下記アドレスからアクセスし
回答を始めてください。
2. 回答入力後、「確認へ進む」をクリック
3. 入力内容を確認し、「申込む」をクリック

回答 URL : [https://apply.e-tumo.jp/pref-ishikawa-u/offer/
offerList_detail?tempSeq=3825](https://apply.e-tumo.jp/pref-ishikawa-u/offer/offerList_detail?tempSeq=3825)



お問い合わせ先

石川県 生活環境部 女性活躍・県民協働課
金沢市鞍月1丁目1番地
電話 076-225-1378

男女共同参画に関する県民意識調査 調査票

はじめに、お答えいただいた回答を統計的に分析するため、あなたとあなたのご家族についてお伺いします。該当する番号に○をつけてください。

A あなたの性別は。

56.7	女 性	42.1	男 性	0.7	どちらともいえない または 答えたくない	0.5	無回答
------	-----	------	-----	-----	----------------------	-----	-----

B あなたの年齢は。

1.6	20 歳未満	12.2	30～39 歳	16.7	50～59 歳	23.8	70 歳以上
7.3	20～29 歳	16.4	40～49 歳	21.6	60～69 歳	0.5	無回答

C あなたのお住まいはどちらですか。

4.8	能登北部（輪島市、珠洲市、穴水町、能登町）
11.3	能登中部（七尾市、羽咋市、志賀町、宝達志水町、中能登町）
63.9	石川中央（金沢市、かほく市、白山市、野々市市、津幡町、内灘町）
19.6	南加賀（小松市、加賀市、能美市、川北町）
0.5	無回答

D あなたは結婚をしていますか。（○は1つだけ）

71.5	結婚（入籍）していて、配偶者がいる	1.3	事実婚していたが、現在は離・死別
7.1	結婚（入籍）していたが、現在は離・死別	18.5	未婚（事実婚は除く）
1.0	事実婚している	0.1	その他（具体的に ）
0.5	無回答		
		既婚者	有配偶者
		(計)	(計)
		78.6	72.5
		離婚者	死別者
		(計)	(計)
		8.4	0.1

あなたの主たる職業は何ですか。（○は1つだけ）

E あなたの主たる職業は何ですか。（○は1つだけ）

42.5	会社、団体、官公庁などの常勤の勤め人	勤め人	家族従業	無職
16.5	パートタイマーやアルバイトの勤め人（学生のバイトを除く）			
2.0	農林漁業の自営業主または家族従業員			
5.3	商工業などの自営業主または家族従業員	勤め人	家族従業	無職
29.9	無職（主婦・主夫・学生を含む）			
3.2	その他（ ）			
0.6	無回答	(計)	(計)	(計)
		59.0	7.3	29.9

F 【Dで1または3に○をつけた方にお聞きします。】

あなたは共働きですか。

53.9	共働きである	30.2	共働きではない	15.9	無回答
------	--------	------	---------	------	-----

G あなたには、お子さんがいらっしゃいますか。

74.6	いる	22.4	いない	3.0	無回答
------	----	------	-----	-----	-----

H あなたの家族構成は次のどれですか。（○は1つだけ）

7.2	単身世帯（ひとり暮らし）	52.5	二世帯世帯（親と子）
25.1	一世帯世帯（夫婦だけ）	10.5	三世帯世帯（親と子と孫）
3.1	その他世帯（具体的に ）	1.6	無回答

I 男女の平等についておたずねします

問1 現在の日本の社会において、次にあげる分野で、男女の地位は平等になっていると思いますか。

(a)～(g)の各分野について、あなたの考えに近いものの番号に1つずつ○をつけてください。

(○はそれぞれ1つ)

	男性が 優遇されて いる	どちらかと いえば男性が 優遇されて いる	平等である	どちらかと いえば女性が 優遇されて いる	女性が 優遇されて いる	どちらとも いえない	わからない	無回答
(a) 家庭の中では	11.9	34.6	33.2	4.7	1.9	8.6	3.5	1.5
(b) 職場の中では	12.3	33.6	25.7	5.6	1.5	7.6	9.0	4.6
(c) 地域活動の中では	10.1	34.0	24.4	4.0	0.5	11.0	13.9	2.1
(d) 学校教育の場では	3.1	11.7	43.1	2.1	0.9	9.0	26.6	3.5
(e) 政治の場では	40.6	30.8	7.9	1.1	0.6	6.3	10.5	2.3
(f) 法律や制度の上では	15.2	28.7	22.8	4.7	1.6	11.4	13.4	2.1
(g) 社会全体では	18.1	46.1	10.8	4.1	1.6	10.9	6.5	1.9

II 家庭生活等についておたずねします

問2 「男は仕事、女は家庭」という考え方について、どう思いますか。(○は1つだけ)

「3. どちらともいえない」「6. わからない」と答えた方は、問3へ

2.4	賛成	}	「1. 賛成」「2. やや賛成」と答えた方は、問2-1へ
11.3	やや賛成		
28.0	どちらともいえない		
25.0	あまり賛成しない	}	「4. あまり賛成しない」「5. 賛成しない」と答えた方は、問2-2へ
29.9	賛成しない		
2.3	わからない		
1.0	無回答		

問2-1 【問2で「1. 賛成」「2. やや賛成」と答えた方にお聞きします。】

そう思うのはなぜですか。(○はいくつでも)

20.5	日本の伝統的な家族の在り方だから
9.3	自分の両親も役割分担をしていたから
39.7	男性（夫）が外で働いた方が、多くの収入を得られるから
54.3	女性（妻）が家庭を守った方が、子どもの成長などにとって良いから
52.3	家事・育児・介護と両立しながら、女性（妻）が働き続けることは大変だから
8.6	その他（具体的に
1.3	わからない

問2-2 【問2で「4. あまり賛成しない」「5. 賛成しない」と答えた方にお聞きします。】

そう思うのはなぜですか。(〇はいくつでも)

34.5	男女平等に反するから
21.1	自分の両親も共働きをしていたから
41.7	男性（夫）も女性（妻）も働いた方が、多くの収入を得られるから
30.2	女性（妻）が働いて能力を発揮した方が、個人や社会にとって良いから
15.0	家事・育児・介護と両立しながら、女性（妻）が働き続けることは可能だから
70.6	固定的な男性（夫）と女性（妻）の役割分担の意識を押しつけるべきではないから
6.1	その他（具体的に
0.5	わからない
1.7	無回答

問3 あなたは、男性が家事・育児を行うことについて、どのようなイメージをお持ちですか。
(〇はいくつでも)

65.5	男性も家事・育児を行うことは、当然である
25.0	家事・育児を行う男性は、時間の使い方が効率的で、仕事もできる
27.4	男性自身にとっても充実感が得られる
56.4	子どもに良い影響を与える
22.1	仕事と両立させることは、現実として難しい
14.7	家事・育児は、男性よりも女性の方が向いている
6.4	妻が家事・育児をしていないと誤解される
1.2	周囲から冷たい目で見られる
0.3	男性は、家事・育児を行うべきではない
4.0	その他（具体的に
2.7	特にない
1.5	わからない
1.4	無回答

問4 今後、男性が家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくためにはどのようなことが必要だと思いますか。(〇はいくつでも)

57.5	男性が家事・育児などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと
20.4	男性が家事・育児などに参加することに対する女性の抵抗感をなくすこと
59.7	夫婦や家族間で家事・育児などの分担について、十分に話し合うこと
45.6	年配者やまわりの人が、夫婦の役割分担などについての当事者の考え方を尊重すること
31.4	男性が家事・育児などを行うことについて、社会的に高く評価すること
63.2	育児・介護のための休暇を取得しやすい職場環境が整備されること
38.4	労働時間の短縮や休暇制度、テレワークなどのICTを利用した多様な働き方を普及することで、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること
18.3	男性の家事・育児などについて、啓発や情報提供、相談窓口の設置、技能の研修を行うこと
18.1	男性が家事・育児などを行うための、仲間（ネットワーク）づくりをすすめること
3.5	その他（具体的に
1.4	特に必要なことはない
3.0	わからない
1.6	無回答

問 5 あなたは、親が介護を要する状態となった場合、あなたと配偶者でどのように分担したい（したかった）と思いますか。訪問介護など外部サービスの利用も含め、自分の親の介護、配偶者の親の介護、それぞれについて、あなたの考えに最も近いものの番号に1つずつ○をつけてください。なお、配偶者のいない方も、配偶者がいることを想定してお答えください。（○はそれぞれ1つ）

	親の 自分の 介護 (a)	親の 配偶者の 介護 (b)
外部サービスを利用しながら、自分と配偶者で半分ずつ分担	26.8	33.4
外部サービスを利用しながら、自分の方が配偶者より多く分担	37.1	7.8
外部サービスを利用しながら、配偶者の方が自分より多く分担	2.3	26.9
外部サービスを利用しながら、実子だけで介護する	13.2	6.9
自分と配偶者で半分ずつ分担（外部サービスを利用しない）	0.5	0.5
自分の方が配偶者より多く分担（外部サービスを利用しない）	0.6	0.4
配偶者の方が自分より多く分担（外部サービスを利用しない）	0.1	0.4
実子だけで介護する（外部サービスを利用しない）	0.5	0.3
わからない	7.9	10.4
無回答	11.1	13.2

Ⅲ 職業についておたずねします

現在、仕事（収入を得る仕事）をしている方にお聞きします。（該当されない場合は、問 10 へ）

問 6 あなたの職場では、次にあげる(a)～(f)それぞれの面で男女平等になっていると思いますか。あなたの考えに近いものの番号に1つずつ○をつけてください。（○はそれぞれ1つ）

	男性が 優遇されて いる	どちらか といえ ば男性が 優遇されて いる	平等 である	どちらか といえ ば女性 が優遇 されて いる	女性 が優遇 されて いる	どちら ともい えない	わ か ら な い	無 回 答
(a) 募集や採用の条件では	7.4	14.2	49.5	3.8	2.1	8.5	10.3	4.2
(b) 昇進・昇格は	12.2	22.7	36.6	1.9	1.6	7.5	13.3	4.1
(c) 人事配置は	9.9	19.7	37.0	4.0	2.5	11.0	11.8	4.2
(d) 教育や研修制度は	4.0	9.3	58.9	0.5	1.2	7.7	14.1	4.2
(e) 賃金は	11.1	18.5	41.9	0.4	1.1	7.3	15.5	4.2
(f) 仕事の内容は	6.7	15.2	40.8	8.4	4.1	12.7	7.7	4.4

問 7 女性が管理職に昇進することについて、どう思いますか。（○は1つだけ）

64.9	賛成	2.6	あまり賛成しない
14.4	やや賛成	0.4	賛成しない
12.5	どちらともいえない	2.1	その他（具体的に）
3.2	無回答		

問 8 あなたは、次の(a)～(c)の役職について就任を打診された場合、引き受けますか。

		自ら望む	依頼されたら受ける	断る	わからない	無回答	問 8-1 断る理由	当てはまる番号を記入してください
(a)	職場の管理職や役員	4.7	41.5	32.6	17.4	3.8		
(b)	自治会長、町内会長	0.1	18.8	62.5	14.5	4.1		
(c)	議員や自治体の首長	0.3	10.5	73.0	11.9	4.2		

「3. 断る」を選択した方は、問 8-1 へ

問 8-1 【問 8 の(a)～(c)のいずれかで「3. 断る」と答えた方にお尋ねします】

断る理由は何ですか。(a)～(c)について当てはまる項目の番号を記入してください。

(それぞれ3つまで)

「10. その他」を選んだ場合は、以下の選択肢内に具体的に記入してください。

(a) 職場の管理職や役員

47.5	責任が重いから	15.5	家事・育児・介護との両立が困難になるから
38.7	知識や能力の面で不安があるから	3.4	性別によって不利・不当な扱いを受けそうだから
16.0	時間的な余裕がないから	16.8	興味がないから
4.2	経済的な余裕がないから	5.0	その他（具体的に ）
21.8	人間関係がわずらわしいから	28.2	無回答
2.5	家族の理解・協力が得られないから		

(b) 自治会長、町内会長

38.8	責任が重いから	11.0	家事・育児・介護との両立が困難になるから
33.8	知識や能力の面で不安があるから	3.9	性別によって不利・不当な扱いを受けそうだから
35.5	時間的な余裕がないから	19.3	興味がないから
5.3	経済的な余裕がないから	2.9	その他（具体的に ）
31.6	人間関係がわずらわしいから	22.4	無回答
3.5	家族の理解・協力が得られないから		

(c) 議員や自治体の首長

43.9	責任が重いから	10.5	家事・育児・介護との両立が困難になるから
39.8	知識や能力の面で不安があるから	5.3	性別によって不利・不当な扱いを受けそうだから
27.8	時間的な余裕がないから	24.8	興味がないから
6.2	経済的な余裕がないから	2.1	その他（具体的に ）
21.6	人間関係がわずらわしいから	21.6	無回答
7.3	家族の理解・協力が得られないから		

問 9 あなたは、就業分野で女性のリーダーを増やすときに障害となるものは何だと思いますか。

(○はいくつでも)

38.2	企業などにおいては、管理職になると転勤などの広域異動が増えること
42.9	長時間労働の改善が十分ではないこと
22.2	上司・同僚・部下や顧客が女性リーダーを希望しない（又は、受け入れない）こと
53.4	家事・育児・介護などにおける家庭内の相互の協力が十分ではないこと
34.1	保育・介護の支援などの公的サービスが十分ではないこと
13.0	現時点では、必要な知識や経験などを持つ女性が少ないこと
14.1	女性自身がリーダーとなることを希望しないこと
3.0	その他（具体的
4.4	特にない
5.8	わからない
3.6	無回答

全員の方にお聞きします。

問 10 女性が職業を続けていく上では、どんな障害があると思いますか。(○は3つまで)

33.8	結婚や出産の際、退職しなければならない慣行が今でも残っていること
65.1	家事・育児・介護などにおける家庭内の相互の協力が十分ではないこと
13.9	働き続けることについて家族の理解が得られないこと
32.7	給与、昇進・昇格の機会で男女間格差があること
22.1	女性の能力が正当に評価されないこと
9.9	中高年の女性に退職を促すような周りの圧力があること
4.8	その他（具体的に ）
5.9	特に障害はない
8.0	わからない
1.1	無回答

問 11 出産や育児、介護などで仕事から遠ざかっていた女性が再就職しやすくするには、どのようなことが必要だと思いますか。(〇は3つまで)

64.3	家事・育児・介護などにおける家庭内の相互の協力
67.2	保育・介護サービスの充実(施設の充実、時間の延長など)
17.7	相談、情報提供機関の充実
17.4	再就職のための自己啓発セミナーや技術、技能の習得機会の充実
36.7	退職者の再雇用制度の普及
42.7	在宅勤務やフレックスタイム制度の導入
1.8	その他(具体的に)
4.8	わからない
1.3	無回答

問 12 男性も女性も共に仕事と家庭の両立をしていくためには、どのようなことが必要だと思いますか。(〇は3つまで)

54.9	労働時間の短縮や休暇制度の充実
62.3	育児休業・介護休業制度を利用しやすい職場環境づくり
23.0	育児や介護等による退職者の再雇用制度の導入
28.5	在宅勤務やフレックスタイム制度の導入
39.7	保育・介護サービスの充実(施設の充実、時間の延長など)
17.2	給与や昇進・昇格の機会等の男女間格差の解消
6.0	職業上必要な知識・技術等の職業訓練の充実
21.1	女性が働くことについての家族や周囲の理解と協力
26.6	男性が家事・育児などを行うことについての職場や周囲の理解と協力
2.2	その他(具体的に)
3.3	わからない
1.5	無回答

Ⅳ 女性の社会参画についておたずねします

問 13 あなたは、社会の各分野で、女性の参加が進み、女性のリーダーが増えるとどのような影響があると思いますか。(〇はいくつでも)

60.0	多様な視点が加わることにより、新たな価値や商品・サービスが創造される
38.3	人材・労働力の確保につながり、社会全体に活力を与えることができる
60.2	女性が持つ意見や発想が反映される
16.4	国際社会から好評価を得ることができる
67.8	男女問わず優秀な人材が活躍できるようになる
39.4	男女問わず仕事と家庭の両方を優先しやすい社会になる
23.9	労働時間の短縮など働き方の見直しが進む
26.2	男性の家事・育児などへの参加が増える
4.6	今より仕事以外のことが優先され、業務に支障を来すことが多くなる
5.3	男性の役職のポストが減る
11.2	保育・介護などの公的サービスの必要性が増大し、家計負担及び公的負担が増大する
2.1	その他（具体的に)
1.4	特にない
4.1	わからない
1.4	無回答

問 14 あなたは、自治会や PTA などの地域活動において、女性が方針決定の場に参画するためには、どのようなことが必要だと思いますか。(〇はいくつでも)

44.0	地域活動のリーダーは男性が務めるという性別による役割分担意識を改めること
27.9	女性が地域活動でリーダーを務めることについて、社会的に高く評価すること
12.8	女性自身の参画意識を高めるため、リーダーを養成する研修を行うこと
28.1	男女が交代でリーダーを務める、役員の男女比を設定するなど、女性がリーダーとなる仕組みを普及させること
51.8	さまざまな立場の人が参加しやすいよう活動時間帯を工夫すること
2.5	その他（具体的に)
4.1	特にない
12.4	わからない
1.5	無回答

問 15 あなたは、性別に配慮した防災・災害対応・復興対策のためには、どのようなことが必要だと思いますか。(〇は3つまで)

25.4	消防団や自主防災組織の女性メンバーを増やす、女性の参画を促進する
28.0	平常時から性別に配慮した防災訓練を行う
29.3	災害時に対応できるよう、平常時から自治会・町内会の役員に女性を入れる、増やす
13.1	災害発生直後から、市町等の女性職員が現場で対応する
54.1	避難所の設置・運営について、物事を決める際には男女を交えた話し合いをする
57.9	更衣室やプライバシーの確保など、性別に配慮した避難所運営を行う
33.2	避難所でのリーダーや炊き出しなどの役割を、性別で固定せずに分担する
24.6	防災や復興の政策・方針を決める過程に女性が参画する
1.3	その他（具体的に
1.3	特になし
6.4	わからない
1.1	無回答

V ドメスティック・バイオレンス（DV）等についておたずねします

「DV」とは、配偶者や交際相手など、親密な関係にある者からの暴力のことをいいます。また、「性暴力」とは、望まない・同意のない性的な行為のことをいい、性犯罪・性的虐待を含むものです。DVや性暴力についておたずねします。

問 16 次の(a)～(l)のようなことが配偶者や交際相手など、親密な関係にある者の間で行われた場合、それを暴力だと思いますか。(〇はそれぞれ1つつ)

	暴力にあたる	暴力にあたる場合もある	暴力にあたると思わない	無回答
(a) なぐるふりをしておどす	73.6	22.3	2.1	2.0
(b) 大声でどなる	67.9	27.5	2.5	2.2
(c) 馬鹿にしたり、見下したような言動をする	66.6	26.6	4.2	2.6
(d) 他の異性や親しい人との会話を許さない	55.5	30.3	10.8	3.4
(e) 家族や友人との関わりを持たせない	71.0	18.8	7.4	2.9
(f) 交友関係や行き先、電話・メールなどを細かく監視する	68.1	24.0	5.3	2.7
(g) 職場に行くことを妨害したり、外出先を制限する	81.2	14.2	1.8	2.8
(h) 何を言っても長期間無視し続ける	73.3	21.1	2.8	2.8
(i) 「誰のおかげで生活できるんだ」や「甲斐性なし」などと言う	84.3	12.4	0.9	2.4
(j) 家計に必要な生活費を渡さない	82.2	13.4	1.7	2.6
(k) 嫌がっているのに、性的な行為を強要する	93.6	3.7	0.1	2.5
(l) 避妊に協力しない	83.7	11.8	1.6	2.9

これまでに結婚したことがある人にお聞きます。

【ここでの「結婚」には、事実婚や別居中の夫婦を含みます。】

(該当されない場合は、問 18 へ)

問 17 あなたは、これまでにあなたの配偶者から次のようなことをされたことがありますか。

【ここでの「配偶者」には、事実婚や別居中の夫婦、元配偶者を含みます。】

(a)～(d) のそれぞれについて、あてはまる番号に○をつけてください。

(○はそれぞれ1つずつ)

	まったく ない	1、 2 度あ った	何 度 も あ っ た	無 回 答
(a) 身体的暴行 ・ ながる、ける ・ 物を投げつける ・ 突き飛ばす など	76.3	17.1	4.3	2.4
(b) 心理的攻撃 ・ 人格を否定するような暴言 ・ 交友関係や行き先、電話・メールなどを細かく監視する、 長期間無視するなどの精神的な嫌がらせ ・ 自分もしくは自分の家族に危害が加えられるのではないかと 恐怖を感じるような脅迫 など	73.6	15.4	8.4	2.6
(c) 経済的圧迫 ・ 生活費を渡さない ・ 給料や貯金を勝手に使われる ・ 外で働くことを妨害される など	89.0	4.7	3.7	2.6
(d) 性的強要 ・ 嫌がっているのに性的な行為を強要される ・ 見たくないポルノ映像等を見せられる ・ 避妊に協力しない など	86.0	8.4	3.0	2.6

(a)～(d) のうち1つでも「2. 1、2度あった」、「3. 何度もあった」と答えた方は、
問 17-1 へ

(a)～(d) のすべてで「1. まったくない」と答えた方は、問 18 へ

問 17-1 【問 17 で(a)～(d) のうち1つでも「2. 1、2度あった」「3. 何度もあった」と答えた方にお聞きします。】

あなたはこれまでに、あなたの配偶者から受けたそのような行為について、どこ（だれ）かに打ち明けたり、相談したりしましたか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

（○はいくつでも）

1.3	警察	0.6	石川県こころの健康センター （精神保健福祉センター）
1.3	石川県女性相談支援センター （配偶者暴力相談支援センター）	2.2	医療関係者（医師、看護師など）
0.3	石川県女性センター	0.0	学校関係者（教員、養護教諭、スクールカウンセラーなど）
0.9	市役所、町役場に設置されている 女性相談支援室など	1.6	職場・アルバイトの関係者 （上司、同僚、部下、取引先など）
0.6	福祉事務所、保健所	22.4	家族や親戚
0.6	法務局、人権擁護委員	19.2	知人、友人
1.3	法テラス（日本司法支援センター）、 弁護士会	1.3	その他 （具体的に
0.6	民間支援団体	53.6	<u>どこ（だれ）にも相談しなかった</u>
9.5	無回答		

「16. どこ（だれ）にも相談しなかった」と答えた方は、問 17-2 へ

問 17-2 【問 17-1 で「16. どこ（だれ）にも相談しなかった」と答えた方にお聞きします。】

どこ（だれ）にも相談しなかったのは、なぜですか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。（○はいくつでも）

8.8	どこ（だれ）に相談してよいのかわからなかったから
18.8	恥ずかしくてだれにも言えなかったから
22.9	相談してもむだだと思ったから
57.1	相談するほどのことではないと思ったから
4.7	相談相手の言動によって不快な思いをさせられると思ったから
30.0	自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけると思ったから
29.4	自分にも悪いところがあると思ったから
4.1	そのことについて思い出したくなかったから
2.9	仕返しが怖かったから（もっとひどい暴力や、性的な画像のばらまきなど）
6.5	世間体が悪いと思ったから
7.1	他人を巻き込みたくなかったから
2.9	他人に知られると、これまで通りの付き合い（仕事や学校などの人間関係）が できなくなると思ったから
10.6	自分が受けている行為がDVとは認識していなかったから
4.1	相手の行為は愛情の表現だと思ったから
17.1	別れるつもりがなかったから
3.5	その他（具体的に

問 18 あなたには、これまでに交際相手がい了吗。当てはまる番号 1 つに○をつけてください。

現在、結婚している方については結婚前にさかのぼってお答えください。(○は 1 つ)

【ここでいう「交際相手」には、事実婚は含みません。】

『2. 交際相手がいなかった (いない)』を選択した場合は、問 19 へ

67.5	交際相手がいいた (いる)	→ 問 19 へ
22.3	交際相手はいなかった (いない)	
10.2	無回答	

これまでに交際相手がいいたことのある方にお聞きます。

複数の交際相手がいいたことのある方については、経験の 1 つについてお答えください。

あなたは、交際相手から次のようなことをされたことがありますか。

(a)~(d) のそれぞれについて、あてはまる番号に○をつけてください。

(○はそれぞれいくつでも)

	まったく ない	10 歳代に あつた	20 歳代に あつた	30 歳代以 上にあ つた	無回 答
(a) 身体的暴行 ・ ながる、ける ・ 物を投げつける ・ 突き飛ばす など	90.6	2.6	3.4	0.8	3.4
(b) 心理的攻撃 ・ 人格を否定するような暴言 ・ 交友関係や行き先、電話・メールなどを細かく監視する、 長期間無視するなどの精神的な嫌がらせ ・ 自分もしくは自分の家族に危害が加えられるのではないかと 恐怖を感じるような脅迫 など	84.0	4.3	7.0	2.6	3.4
(c) 経済的圧迫 ・ 給料や貯金を勝手に使われる ・ デート代や生活費を無理やり払わされる など	91.7	1.2	2.8	1.5	3.5
(d) 性的強要 ・ 嫌がっているのに性的な行為を強要される ・ 見たくないポルノ映像等を見せられる ・ 避妊に協力しない など	88.8	2.7	4.7	0.9	3.4

(a)~(d) のうち 1 つでも「2. 10 歳代にあつた」、「3. 20 歳代にあつた」、
「4. 30 歳代以上にあつた」と答えた方は、問 18-1 へ

(a)~(d) のすべてで「1. まったくない」と答えた方は、問 19 へ

問 18-1 【問 18 で(a)～(d) のうち1つでも「2. 10 歳代にあった」、「3. 20 歳代にあった」、「4. 30 歳代以上にあった」と答えた方にお聞きします。】

あなたは交際相手から受けたそのような行為について、どこ（だれ）かに打ち明けたり、相談したりしましたか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。（○はいくつでも）

1.4	警察	0.0	石川県こころの健康センター (精神保健福祉センター)
0.0	石川県女性相談支援センター (配偶者暴力相談支援センター)	0.7	医療関係者（医師、看護師など）
0.0	石川県女性センター	1.4	学校関係者（教員、養護教諭、スクールカウンセラーなど）
0.0	市役所、町役場に設置されている 女性相談支援室など	3.6	職場・アルバイトの関係者 (上司、同僚、部下、取引先など)
0.0	福祉事務所、保健所	10.1	家族や親戚
0.0	法務局、人権擁護委員	29.7	知人、友人
0.7	法テラス（日本司法支援センター）、 弁護士会	2.2	その他 (具体的に)
0.0	民間支援団体	58.0	<u>どこ（だれ）にも相談しなかった</u>
2.2	無回答	↓	

「16. どこ（だれ）にも相談しなかった」と答えた方は、問 18-2 へ

問 18-2 【問 18-1 で「16. どこ（だれ）にも相談しなかった」と答えた方にお聞きします。】

どこ（だれ）にも相談しなかったのは、なぜですか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。（○はいくつでも）

11.3	どこ（だれ）に相談してよいのかわからなかったから
18.8	恥ずかしくてだれにも言えなかったから
25.0	相談してもむだだと思ったから
47.5	相談するほどのことではないと思ったから
2.5	相談相手の言動によって不快な思いをさせられると思ったから
22.5	自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけると思ったから
18.8	自分にも悪いところがあると思ったから
8.8	そのことについて思い出したくなかったから
2.5	仕返しが怖かったから（もっとひどい暴力や、性的な画像のばらまきなど）
7.5	世間体が悪いと思ったから
11.3	他人を巻き込みたくなかったから
3.8	他人に知られると、これまで通りの付き合い（仕事や学校などの人間関係）ができなくなると思ったから
11.3	自分が受けている行為がDVとは認識していなかったから
7.5	相手の行為は愛情の表現だと思ったから
10.0	別れるつもりがなかったから
2.5	その他（具体的に)

全員の方にお聞きします。

問 19 性暴力被害に関するイメージとして、次の (a)～(g) について、あなたの考えに近いものの番号に1つずつ○をつけてください。(○はそれぞれ1つ)

	そう 思う	どちら かとい え ば	どちら かとい え ば	そう 思わ ない	い え な い	ど ち ら と も	わ か ら な い	無 回 答
(a) 性暴力にあうのは、若い女性である	10.6	40.5	3.3	28.6	11.6	3.2	2.3	
(b) 挑発的な服装や行動が被害をまねている	9.2	34.0	8.3	26.7	13.7	5.2	2.9	
(c) 被害にあうのはたいてい暗い夜道やひと気のない場所である	15.6	36.0	6.9	20.5	12.2	6.3	2.5	
(d) 本気で抵抗すれば被害は防げる	3.9	7.6	8.9	62.8	8.0	6.0	2.8	
(e) 性暴力は衝動的なものである	11.7	17.7	6.9	34.8	10.6	15.0	3.4	
(f) 加害者のほとんどは見ず知らずの人である	5.7	13.9	8.7	35.3	17.5	15.6	3.3	
(g) 性暴力は、加害者の性欲が強すぎて、コントロールできずに起こっている	20.8	26.1	3.4	17.6	10.5	18.7	2.8	

問 20 DV や性暴力を受けたとき、相談できる機関や関係者であなたが既に知っていたものすべてに○をつけてください。(○はいくつでも)

81.4	警察	14.3	法テラス（日本司法支援センター）、弁護士会
20.0	石川県女性相談支援センター（配偶者暴力相談支援センター）	4.5	民間支援団体
9.3	いしかわ性暴力被害者支援センター（パープルサポートいしかわ）	11.6	石川県こころの健康センター（精神保健福祉センター）
13.3	石川県女性センター	14.3	医療関係者（医師、看護師など）
16.9	市役所、町役場に設置されている女性相談支援室など	0.3	その他（具体的に）
8.9	福祉事務所、保健所	7.5	知っているところはない
5.5	法務局、人権擁護委員	5.4	無回答

問 21 DV や性暴力等の暴力を防止するためには、どのようなことが必要だと考えますか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。(○はいくつでも)

68.3	被害者が早期に相談できるよう、相談窓口や保護施設を充実させる
48.8	家庭で保護者が子どもに対し、暴力の被害者にも加害者にもならないよう教育を行う
60.4	学校または大学で、児童・生徒・学生に対し、暴力の被害者にも加害者にもならないよう教育を行う
20.2	地域で、暴力を許さない社会づくりのための研修会、イベントなどを行う
37.1	メディアを活用して、暴力の防止や相談窓口の周知について広報・啓発活動を積極的に行う
24.4	被害者を発見しやすい立場にある警察や医療関係者、民生委員、教員などに対し、研修や啓発を行う
36.9	暴力を振るったことのある者に対し、繰り返さないための教育を行う
57.8	加害者への罰則を強化する
37.8	暴力を助長するおそれのある情報（雑誌、インターネットなど）を取り締まる
2.4	その他（具体的に）
0.5	特に対策の必要はない
3.0	無回答

Ⅵ 男女共同参画社会の実現についておたずねします

問 22 あなたは (a)～(n) のそれぞれの言葉についてどの程度ご存知ですか。該当する番号に 1 つずつ○をつけてください。(○はそれぞれ1つ)

	言葉も内容も 知っている	言葉は聞いたこと はあるが内容まで は知らない	まったく知らない	無回答
(a) 男女共同参画社会	30.9	44.9	21.5	2.7
(b) いしかわ男女共同参画プラン	5.0	35.1	56.4	3.5
(c) 石川県男女共同参画推進条例	3.0	27.3	65.5	4.2
(d) 女子差別撤廃条約	6.7	27.2	62.1	4.0
(e) ポジティブ・アクション（積極的改善措置）	3.4	20.5	70.8	5.3
(f) ジェンダー（社会的・文化的につくられた性別）	52.6	33.7	10.0	3.7
(g) 政治分野における男女共同参画の推進に関する法律	6.7	34.8	53.6	4.9
(h) 男女雇用機会均等法	53.7	34.5	8.6	3.2
(i) 女性活躍推進法 （女性の職業生活における活躍の推進に関する法律）	8.4	35.2	51.9	4.4
(j) 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）	36.8	29.4	29.6	4.3
(k) DV（配偶者や交際相手からの暴力）	84.8	8.8	3.4	3.0
(l) パープルリボン（女性に対する暴力根絶のシンボル）	14.8	30.3	50.7	4.2
(m) マタニティ・ハラスメント	59.6	27.9	9.5	2.9
(n) 性的少数者（L G B T など）	56.2	25.1	15.3	3.4

問 23 あなたは、次の(a)～(l)の考え方についてどう思いますか。あなたの気持ちに最も近いものの番号を1つずつ選んでください。

	そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらかといえば そう思わない	そう思わない	無回答
(a) 男性は仕事をして家計を支えるべきだ	21.0	51.6	11.3	14.4	1.7
(b) 共働きで子どもの具合が悪くなった時、母親が看病するべきだ	3.6	31.6	28.7	34.1	2.0
(c) 自治会や町内会の重要な役職は男性が担うべきだ	5.9	26.2	30.5	35.1	2.3
(d) デートや食事のお金は男性が負担すべきだ	5.1	24.5	27.1	41.2	2.1
(e) 結婚したら姓を変えるのは女性であるべきだ	5.5	21.2	23.9	46.9	2.5
(f) 育児期間中の女性は重要な仕事を担当すべきでない	9.9	35.6	28.5	23.4	2.6
(g) 男性は人前で泣くべきではない	7.4	13.3	23.2	54.2	1.9
(h) 親戚や地域の会合で食事の準備や配膳をするのは女性の役割だ	2.1	18.3	29.9	47.5	2.2
(i) 受付、接客・応対（お茶だしなど）は女性の仕事だ	3.4	17.4	25.9	51.2	2.2
(j) 同程度の實力なら、まず男性から昇進させたり管理職に登用するものだ	1.9	9.8	27.0	59.2	2.2
(k) 女性には女性らしい感性があるものだ	34.8	41.8	9.1	12.2	2.2
(l) 大きな商談や大事な交渉事は男性がやる方がいい	4.5	18.3	29.9	45.1	2.1

問 24 男女共同参画社会の実現のために、行政に対して望むことはどのようなことですか。
(○は3つまで)

39.6	条例や制度の面で見直しを行い、性別による差別につながるものを改める
30.0	政策や方針決定の場に女性を積極的に登用する
21.1	民間企業・団体などの管理職に女性の登用が進むよう支援する
20.4	女性（又は男性）が少ない分野への女性（又は男性）の進出を支援する
8.1	女性の社会的・経済的な自立をめざす講座などを実施する
52.0	保育の施設・サービスや、高齢者・病人の施設、介護サービスを充実する
37.9	労働時間の短縮や在宅勤務の普及など、男女共に働き方の見直しを進める
18.1	学校や生涯学習の場において、男女の平等と相互理解についての学習機会を充実する
7.4	男女の平等と相互理解について広報・PRする
19.6	DVや性暴力等の暴力を根絶するための取組や被害者支援を進める
1.8	その他（具体的に
6.4	わからない
2.7	無回答

○ご意見欄 その他ご意見がありましたらお聞かせください。

ご協力、誠にありがとうございました。

ご記入いただきました調査票は、無記名のまま

同封の返信用封筒に入れて、

令和7年2月17日（月）までにご投函ください。

令和 6 年度

男女共同参画に関する県民意識調査

石川県生活環境部女性活躍・県民協働課

〒920-8580 金沢市鞍月 1 丁目 1 番地

TEL 076-225-1378